

終活意識調査

2025年1月

武蔵野大学大学院法学研究科ビジネス法務専攻
博士後期課程 2 年 尾川 宏豪

目次

Executive Summary	…p1
1. 背景と目的	…p2
(1) 背景	
(2) 先行研究と独自調査の意義	
(3) 目的	
2. 調査概要	…p3
(1) 調査方針	
(2) 調査の対象と方法	
(3) 調査項目	
(4) 回収結果	
3. 調査結果	…p8
(1) 介護の知識・経験	…p8
問1：回答者の介護サービス利用	
問2：家族等の看病や介護経験	
(2) 子どもとのコミュニケーション	…p12
問3：子どもとの日常会話の有無と頻度	
問4：子どもとの終活の話題の有無と頻度	
(3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識	…p23
問5：迷惑とは何か	
問6：迷惑だと思う理由	
問7：迷惑だと思わない理由	
問8：「子どもが親の面倒を見る」という考え方	
(4) 終活の取組み等	…p80
問9：具体的な取組みの内容	
問10：取組みが進まない理由	
(5) 終活に対する気持ちや考え	…p117
4. 調査結果のまとめ	…p138
5. 調査票等	…p139

■ 迷惑意識の具体的な内容は、炊事洗濯等の支援と経済的援助の負担

- 「子どもにとって迷惑と思われる頼みごと」は、①時間や金銭的な負担、②炊事・洗濯や生活費・医療介護費の経済的な援助を指すものと結論づける。
- 上記①②は、家族関係の良し悪しや扶養義務意識の有無を問わず確認される。
- 迷惑意識の中には、自分のことは自分でやりたいという自立意識も垣間見える。

■ 「子どもが親の面倒を見る」考え方に反対する人は多数を占める

- 親子間の扶養義務に反対する人が4分の3に達する。時代の変化や核家族化に加え、支援の限界を指摘する人が多い。

■ 老後生活安心プランの利用者は、様々な終活行動を起こしている

- 老後生活安心プランを利用している人は、未利用者に比べて様々な終活行動を行っていた。任意後見契約締結に向けて段階的なアプローチを踏む必要があるという私見の主張はおおむね検証されたと言ってよいと考えられる。

■ 終活に関する意識から行動へのハードルを下げる段階的アプローチ

- 子どもや他人に迷惑をかけたくないという発言は、①自己体験による気遣いの他、②支援をす・受けるという人間関係に関する不安や恐れ、気疲れ等の内面の発露と考えられる。一方、できることはして欲しい、いざと言う時は頼りたいという内心の葛藤があるものと考えられる。
- いつまでも元気でいたい、先のことは考えたくないといった先延ばし・回避型の言動は、この発言の裏返しと考えることが出来る。
- 将来の老後生活に向けた自己決定においては、頼る＝ネガティブな依存から、任せる＝ポジティブな依存への考え方・意識への転換が必要である。そのためには、学びと実践という2つの段階的アプローチが有効である。
- 特に実践においては、他者の支援経験によって支援を受けるメリットがあることへの気づきを得ることであり、活動のプロセスそのものが終活の本質と言える。
- 終活の開始時期に正解はないが、人生100年時代の折り返し地点となる50代から意識を持つことが望ましい。アドバンスケアプランニングになぞらえたアドバンスライフプランニングの実践が有効な道筋となろう。

1. 背景と目的

1. 背景と目的

(1) 背景

任意後見は、将来判断能力が低下した場合の老後生活に備える制度である。任意後見を含む老後生活安心プランの準備の重要性を説いても、多くの高齢者は様々な理由をつけて先送りしようとする。もっとも近時、高齢者の間では終活が一種のブームになっており、終活意識がまったく見られないわけではない。ではどうすれば具体的な終活行動に移るのか、何が具体的な行動を妨げているのか。任意後見は契約であるから契約を結ぼうという意思（自律意識）が必要であるが、この自律意識に影響を与える、又は妨げるものとして迷惑意識と扶養義務意識を調査する必要がある。

多くの高齢者は、老後は「子どもに迷惑をかけたくない」と口にするが、迷惑をかけないために老後の準備をしているのか。していないとすれば、その理由や原因はどこにあるのか。そもそも本当に「迷惑」をかけたくないと考えているのか。この言葉を手掛かりに、本人の隠された真意を探究し、終活に関する高齢者の意識と行動の乖離を探究が必要であると考えられる（迷惑意識の調査）。

核家族化の進展や社会状況の変化などから、高齢者も「子どもが親の面倒を見る」という考え方も当たり前とは言えなくなっている。子どもに経済的な余裕がない場合には、そもそも「子どもに頼れない」ことから、結果的に「子どもに迷惑をかけたくない」という発言につながっているとも考えられる。迷惑意識だけでなく扶養義務意識も考慮する必要がある（扶養義務意識の調査）。

(2) 先行研究と独自調査の意義

終活意識調査や迷惑意識調査に関する先行研究においては、いずれも迷惑という言葉が共通のキーワードになっていた。迷惑意識を取り扱うという点で本研究との共通項が見られ、先行調査の結果から得られる知見は本研究に大いに有意義であったが、本研究では意識と行動の乖離に着目し、終活の行動に移る過程に重点を置く。迷惑意識を構造化し終活の行動に向けたステップとして、段階的アプローチを検討する必要がある。ここに本調査の意義・独自性を求める。

(3) 目的

本調査では、多くの高齢者が口にする「子どもに迷惑をかけたくない」という発言の真意の解明を糸口に、終活に関する意識と行動の乖離の背景や要因を探り、制度利用に向けた行動変容の方法手段を探究することを目的とする。

具体的には、任意後見を始めとする老後生活安心プランをまだ利用していない人は、どのような属性を持ち、何を考え、どのようなアプローチをすれば、具体的な行動を開始し、契約締結に至るのか仮説を立てることにある。

2. 調査概要

2. 調査概要

(1) 調査方針

終活調査では、ニーズ調査とは異なり、広く一般市民を対象に調査を行うこととした。

前述の調査目的に沿って、老後生活安心プランの利用に向けた意識と行動の乖離の分析を念頭に、「子どもに迷惑をかけたくない」の真意（迷惑意識）、「子どもが親の面倒を見る」考え方（扶養義務意識）、具体的な「終活の取組状況」の3つの質問を柱にアンケート形式で調査を行った。

(2) 調査の対象と方法

調査対象は、終活について関心を持つ中高年世代以上の一般市民、将来の老後に関心を寄せる高齢者とする。当初は40代・50代の中高年世代や高齢者を対象とする予定であったが、はからずも20代・30代の若い世代の回答も得られた。これによって世代間の結果の違いを分析することが可能となった。

調査の実施に当たっては、前述の調査の目的や意義に理解をいただいた知人や地域包括支援センター、社会福祉協議会等の協力を得て、以下の7か所で調査を実施した。

- 調査対象①：全国マイケアプラン・ネットワーク会員。実施時期：2023年6月～9月。
- 調査対象②：全国マイケアプラン・ネットワーク会員等（関西地区）。実施時期：2023年9月～10月。
- 調査対象③：埼玉県白岡市地域包括支援センター主任ケアマネジャー海老澤陽子氏（当時）の協力による近隣地域住民。実施時期：2023年9月10月。
- 調査対象④：一般財団法人ウェルネスサポートLab職員、一般社団法人ゆずりは代表吉武ゆかり氏の協力による知人等（福岡県福岡市）。実施時期：2023年10月。
- 調査対象⑤：埼玉県ふじみ野市社会福祉協議会成年後見センター長茅田和枝氏（当時）の協力による近隣地域住民。実施時期：2023年9月～10月。
- 調査対象⑥：静岡県三島市三島北地区地域包括支援センター職員野田恵氏の協力による近隣地域住民や知人等。実施時期：2023年9月～10月。
- 調査対象⑦：茨城県東海村社会福祉協議会職員古市こずえ氏の協力による近隣地域住民。実施時期：2023年9月～10月。

調査方法は、アンケート形式の調査である。本調査の調査票を協力者に配布し、回答者に回答を求め、協力者を通じて調査票を回収したため、対面での聞き取り等は実施していない。

(3) 調査項目

調査項目は、回答者の属性情報3問、本調査11問（アンケート全体に対する自由記入回答含む）の構成である。調査項目は以下の通りであるが、本調査の質問（意図を含む）と選択肢は、後述の調査結果において示す。

2. 調査概要

回答者の属性

- ①年齢
- ②性別
- ③子どもの有無と人数
- ④子どもの構成

本調査

- (1) 介護の知識・経験
 - 問1：回答者の介護サービス利用の有無
 - 問2：家族等の看病や介護経験の有無
- (2) 子どもとのコミュニケーション
 - 問3：子どもとの日常会話の有無と頻度
 - 問4：子どもとの終活の話題の有無と頻度
- (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識
 - 問5：迷惑とは何か
 - 問6：迷惑だと思う理由
 - 問7：迷惑だと思わない理由
 - 問8：「子どもが親の面倒を見る」という考え方
- (4) 終活の取組み
 - 問9：具体的な取組みの内容
 - 問10：取組みが進まない理由
- (5) さいごに
 - 終活に対する気持ちや考え

問3以下では、子どもの有無・人数に応じて、どの子ども等を想定して回答すればよいか回答者が迷う可能性があることから、以下のような考え方を示して回答を求めた。

ここからは、お子さんとの関係について伺います。お子さんの人数に応じて、以下のよう
に想定してお答えください。

☐ **お子さんが1人の場合**

そのお子さんを想定してお答えください。

☐ **お子さんが2人以上の場合**

お子さん全体を想定したお答えでも構いませんし、特定のお子さんを想定したお答えでも構いません。

☐ **お子さんがいない場合**

子どものように頼れる人を一人想定してお答えください。

2. 調査概要

(4) 回収結果

■ 回収状況

調査対象先7先から合計で179件の回答を得た。内訳は以下の通りである。

- ①全国マイケアプラン・ネットワーク会員：10件
- ②全国マイケアプラン・ネットワーク会員（関西地区）：8件
- ③埼玉県白岡市近隣住民：25件
- ④福岡県福岡市近隣住民：10件
- ⑤埼玉県ふじみ野市近隣住民：110件
- ⑥静岡県三島市近隣住民：7件
- ⑦茨城県東海村近隣住民：9件

回答者の属性について概観したうえで、本調査の結果と考察を示す。質問の意図を明らかにし、集計結果を確認したうえでクロス集計分析や考察を行った。

■ 回答者の属性

年齢

- 平均値72歳、中央値68歳、最小値29歳、最大値96歳

年代別（図表0-1参照）

- 40代以下16件（9%）、50代31件（17%）、60代46件（26%）、70代59件（33%）、80代25件（14%）、90代1件（1%）

性別（図表0-2参照）

- 男性48件（27%）、女性130件（73%）

子どもの有無と人数（図表0-3参照）

- 0人32件（18%）、1人27件（15%）、2人82件（46%）、3人32件（18%）、4人5件（3%）

子どもの構成（図表0-4参照）

- ①息子も娘もいる64件（36%）、②息子はいないが娘はいる47件（27%）、③息子はいるが娘はいない33件（19%）、④息子も娘もいない32件（18%）

性別は、女性の割合が多くなっているが、調査の実施にあたって、協力者の人的な関係などに負うところが多くやむを得ないものと思料する。

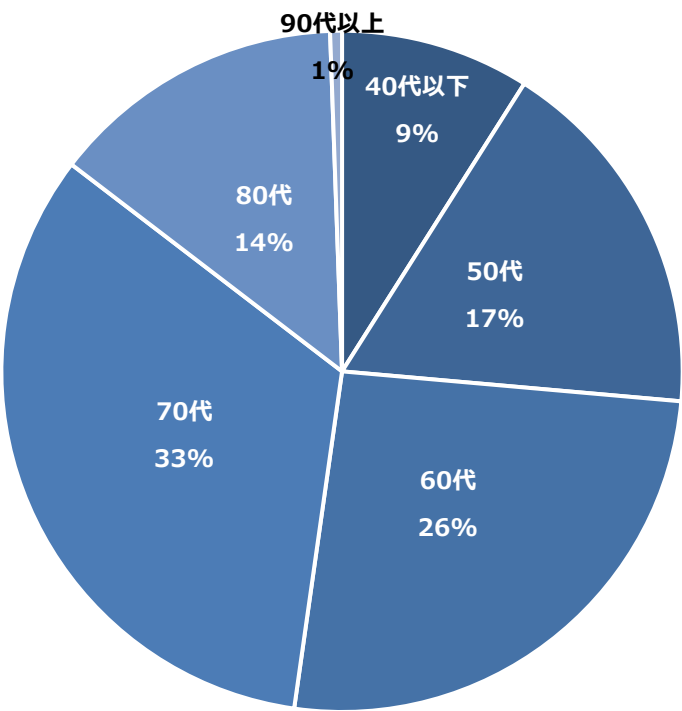
子どもの有無・人数別では、子どもがいない場合、晩年を家族に頼ることができないことから、特に終活への意識が違ってくることが考えられる。子どもの数が複数になると、1人の場合と異なり、潜在的に将来の相続問題を抱えていることから、特に終活への意識や行動に差異が生じることが考えられる。

子どもの構成別では、特に娘がいるかどうかによって、終活への意識や行動に差異が生じることが考えられる（息子しかいない場合、実際の援助は嫁に依存する可能性が高い一方、娘には何でも頼みやすいといったことが考えられる）。

2. 調査概要

図表0-1：年代別

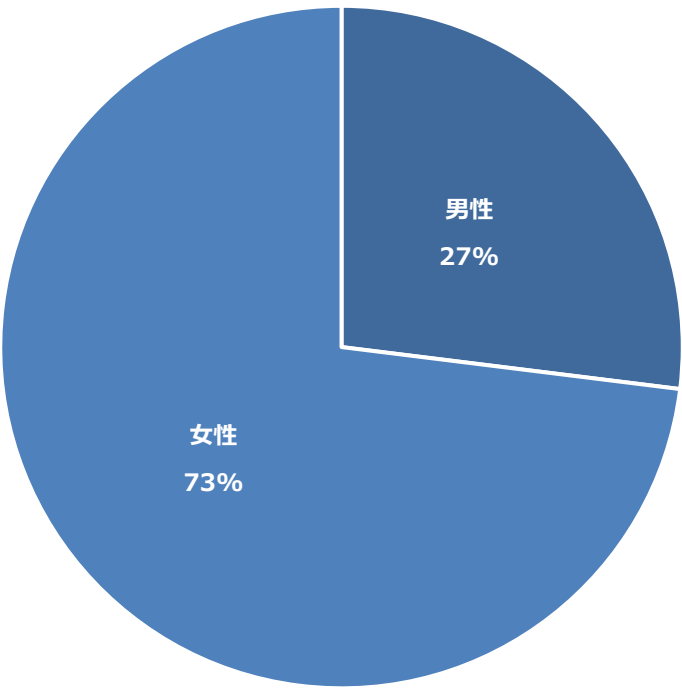
n=178



単一記入回答

図表0-2：性別

n=178

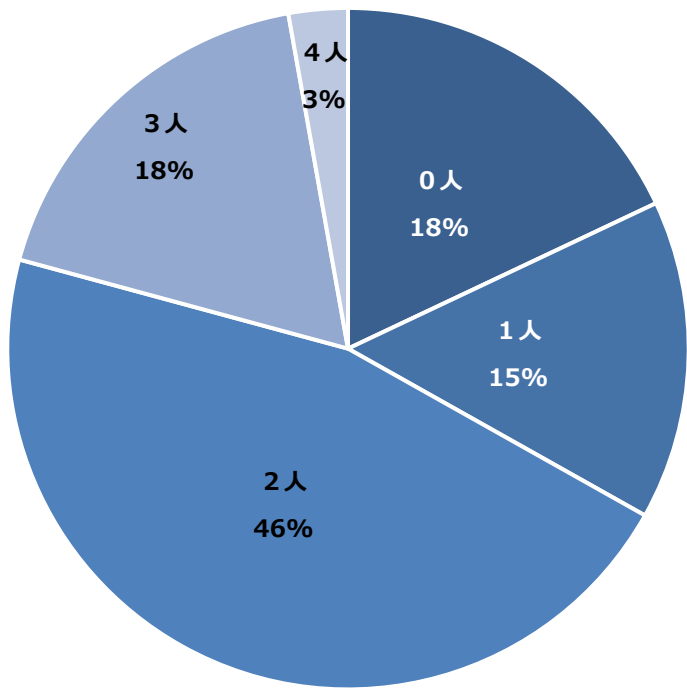


単一選択回答

2. 調査概要

図表0-3：子どもの有無と人数

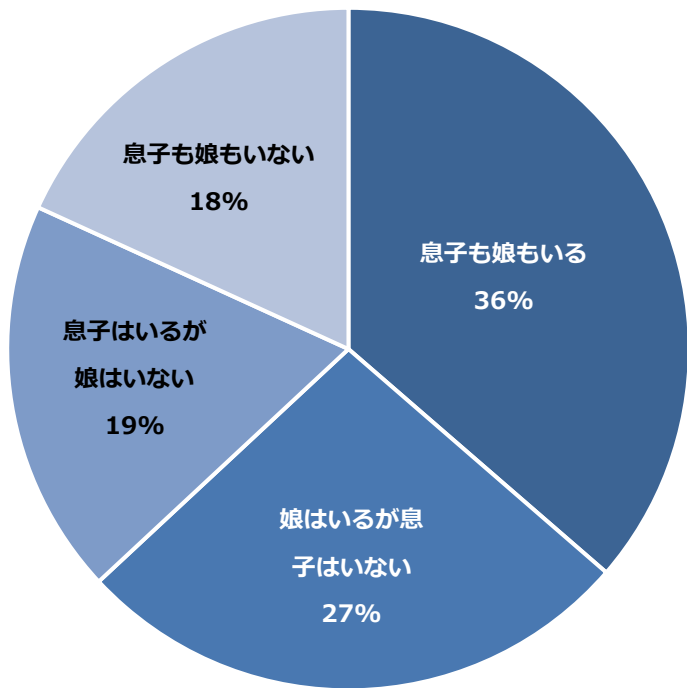
n=178



単一記入回答

図表0-4：子どもの構成

n=176



単一記入回答

3. 調査結果 (1) 介護の経験・経験

3. 調査結果

(1) 介護の知識・経験

介護の知識・経験に関する質問は、問1：回答者の介護サービス利用の有無、問2：家族等の看病や介護経験の有無の2問である。いずれの質問も終活意識や行動の分析のための属性情報としての位置づけである。

問1：回答者の介護サービス利用

■ 質問と選択肢

あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。どちらかに○をしてください。

※ 「介護保険サービス」の種類は問いません。

- ① 利用している
- ② 利用していない

■ 質問の意図

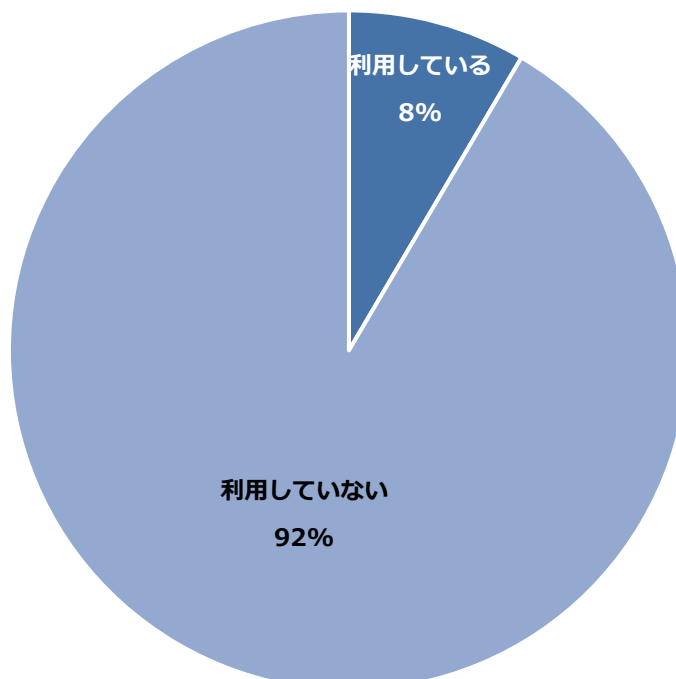
本問は、終活に関する知識や経験の有無を把握する手段の一つとして、回答者自身の介護サービスの利用の有無を問うものである（単一選択回答）。

■ 回答結果（図表1参照）

結果は、「②利用していない」が92%となった。

図表1：回答者の介護サービス利用

n=177



単一選択回答

3. 調査結果 （1）介護の知識・経験

■ 考察

任意後見など老後生活安心プランの利用に取組む契機として、終活は重要な機能を果たすと考えられる。終活への意識が高く、実際に終活への行動を起こす人は、終活に必要なと思われる知識や経験があると考えられる。特に自分自身で介護サービスを利用している人は、一般的な人よりは、終活に関する知識や経験があり、理解が深まっていると考えられる。

3. 調査結果 （1）介護の知識・経験

問2：家族等の看病や介護経験

■ 質問と選択肢

あなたは、家族等の看病や介護をした経験がありますか。どちらかに○をしてください。

※ 「家族等」とは、配偶者、祖父母や両親など親戚のことを言います（義理の関係も含みます）。

※ 「介護経験」には、身体介助や病院等への通院同行などの直接的な関わりだけでなく、金融機関や行政機関における諸手続、ケアマネとの相談などの間接的な関わりも含みます。

- ① あり
- ② なし

■ 質問の意図

本問は、終活に関する知識や経験の有無を把握する手段の一つとして、家族等の看病や介護経験を問うものである（単一選択回答）。

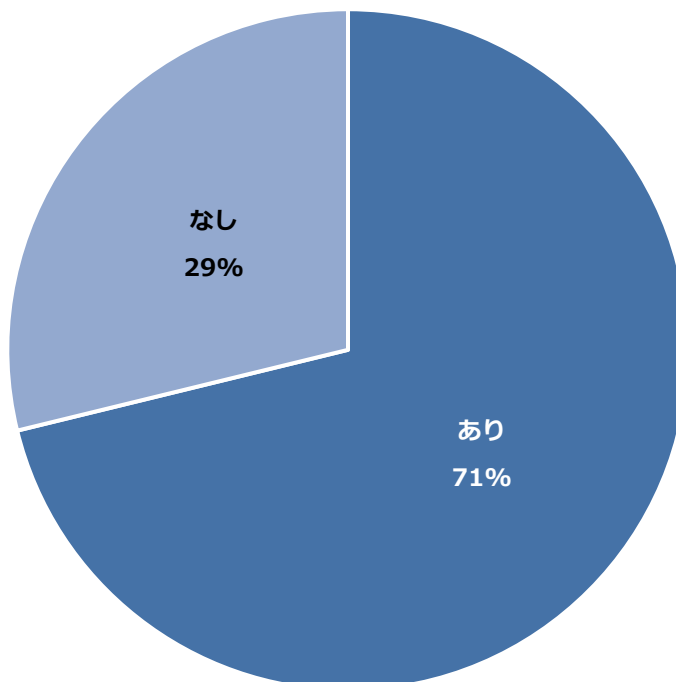
■ 回答結果（図表2参照）

結果は、「①あり」が71%となった。

回答者本人のサービス利用あり（問1）又は家族等の看病や介護経験あり（問2）のいずれかに該当する者は全体の71%となった。

図表2：家族の看病・介護経験

n=177



単一選択回答

3. 調査結果 （1）介護の知識・経験

■ 考察

終活が果たす機能の重要性や、終活に必要と思われる知識や経験の有無は問1と同じである。家族等の看病や介護経験のある人は、一般的な人よりは、終活に関する知識や経験があり、理解が深まっていると考えられる。

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

（2）子どもとのコミュニケーション

子どもとのコミュニケーションに関する質問は、問3：子どもとの日常会話の有無と頻度、問4：子どもとの終活の話題の有無と頻度の2問である。いずれの質問も終活意識や行動の分析のための属性情報としての位置づけである。

問3：子どもとの日常会話の有無・頻度

■ 質問と選択肢

あなたは、お子さんとどの程度「日常会話」をしていますか。当てはまるものいずれかに○をしてください（ひとつだけ）。

※ 「日常会話」とは、時候の挨拶などとりとめのない世間話のことです。対面や電話・メールなど方法は問いません。

- ① 毎日のように～最低でも週に1回
- ② 一月に1回～二三か月に1回くらい
- ③ 半年か一年に1回くらい（お盆・正月）
- ④ ほとんど話をしない・（ほぼ）音信不通

■ 質問の意図

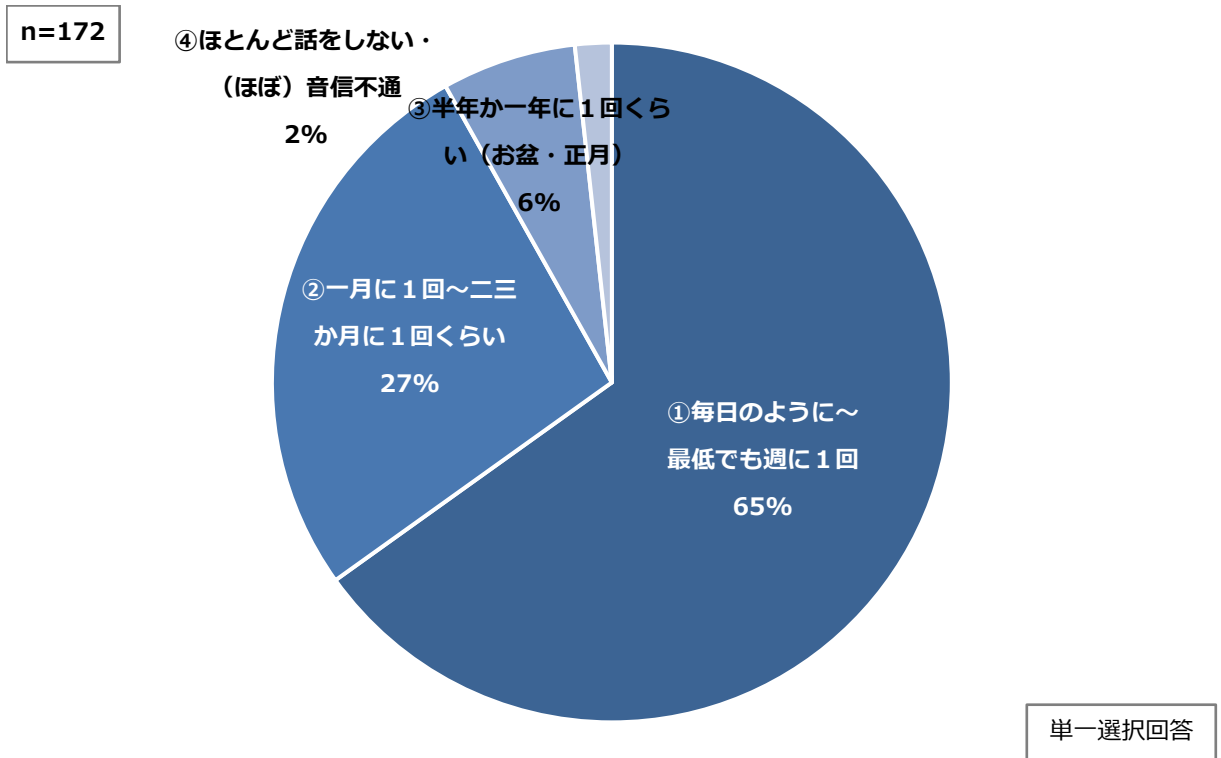
本問は、子どもとの間での日常会話の有無・頻度を問うものである（単一選択回答）。

■ 回答結果（図表3-1参照）

結果は、「①毎日のように～最低でも週に1回」の回答が65%で最多となった。「②一月に1回～二三か月に1回くらい」の回答を合わせると82%に上る。「③半年か一年に1回くらい（お盆・正月）」は6%、「④ほとんど話をしない・（ほぼ）音信不通」は2%となった。

3. 調査結果 (2) 子どもとのコミュニケーション

図表3-1：子どもとの日常会話の有無・頻度



■ 考察

子どもとの間で日常会話があると認められるのは選択肢①と②レベルである。選択肢③と④では日常会話があるとは言えないだろう。

平成30年版版高齢社会白書によれば、全国55歳以上男女への質問で、健康状態が良くない人を除けば、家族や友人との選択肢①レベルの会話の頻度は90%を超えていた。本調査は対象が子どもに限定されていることから、白書の統計結果よりも頻度が下がる傾向が見て取れる。

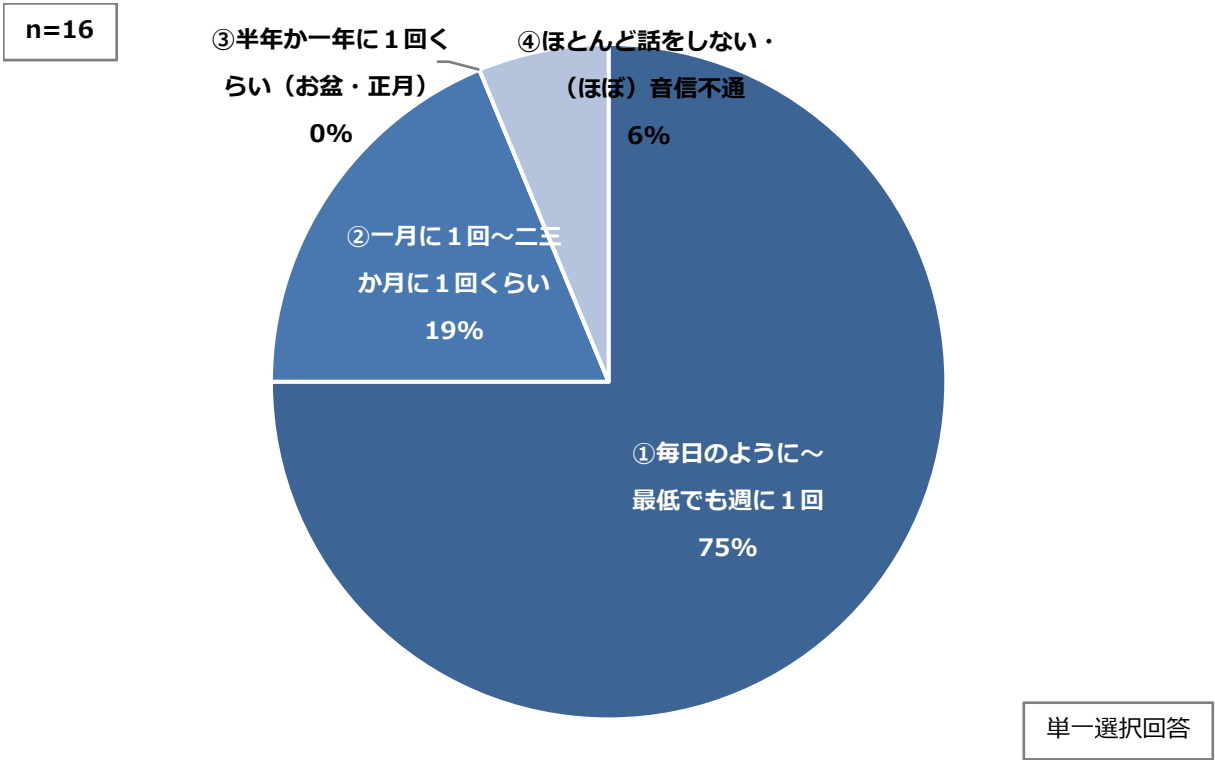
■ 年代別分析（図表3-2-1～3-2-5参照）

子どもとの日常会話の有無や頻度が、年代別で異なるか分析を行ったところ、年代別で差異がみられた。

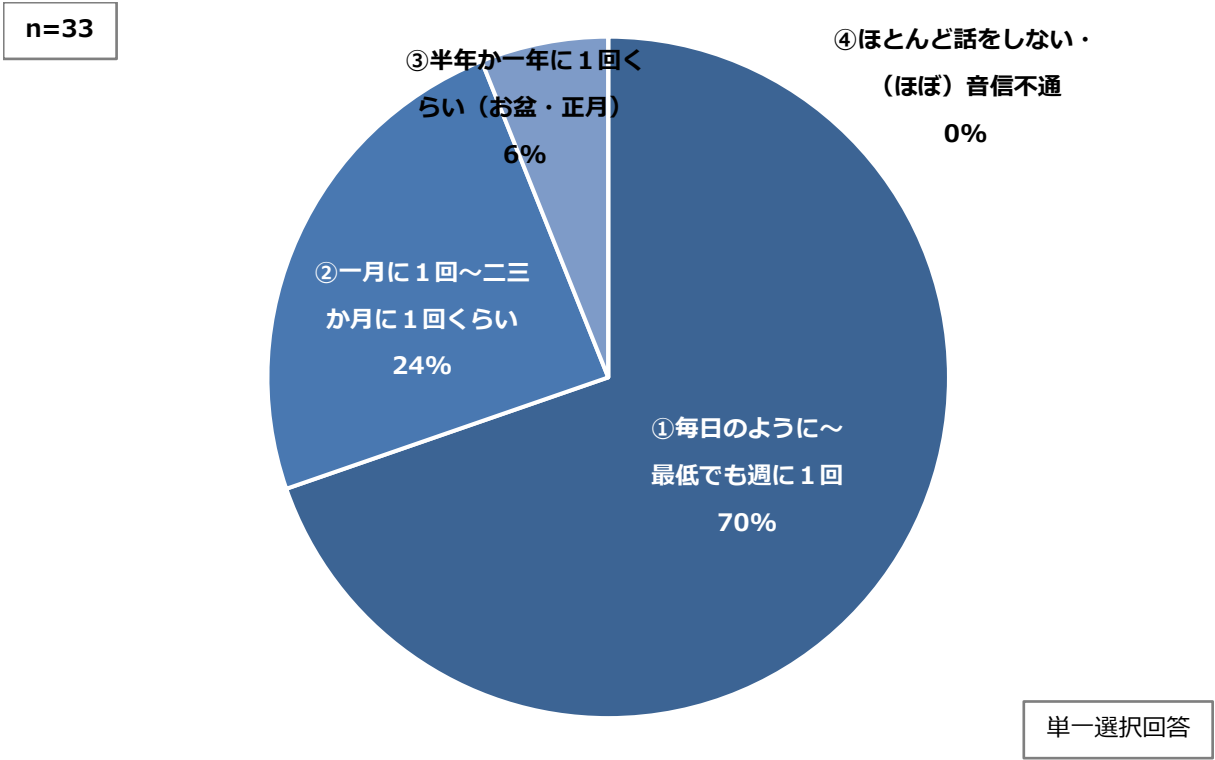
40代以下と80代以上は、50代、60代、70代に比べて、日常会話の頻度が高い選択肢①の回答割合が多くなった。40代以下は、子どもが未成年と考えられることから、親子のやりとりは高いと考えられる。50代から70代にかけては、子どもは自分の家族とのやり取りが増えるためと考えられる。80代以上になると、子どもも高年層となり、再び親子のやりとりが増えると考えられる。

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表3-2-1：子どもとの日常会話の有無と頻度（40代以下）

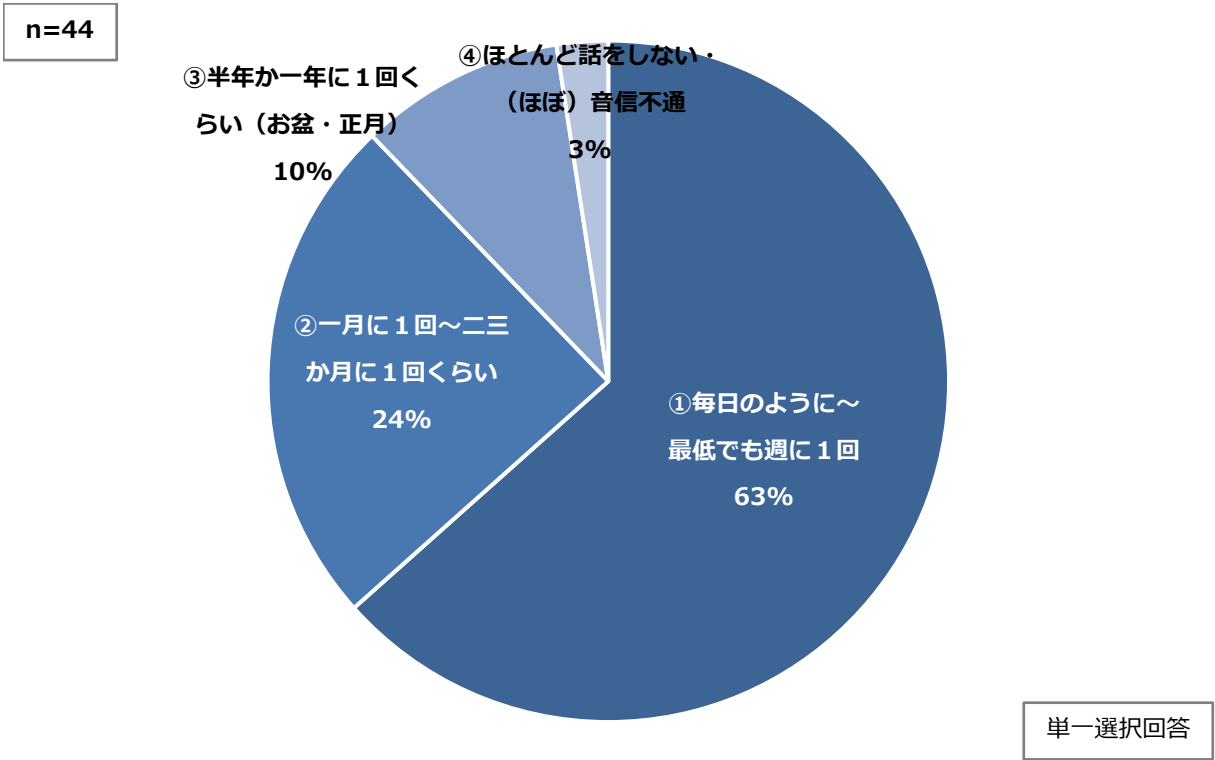


図表3-2-2：子どもとの日常会話の有無と頻度（50代）

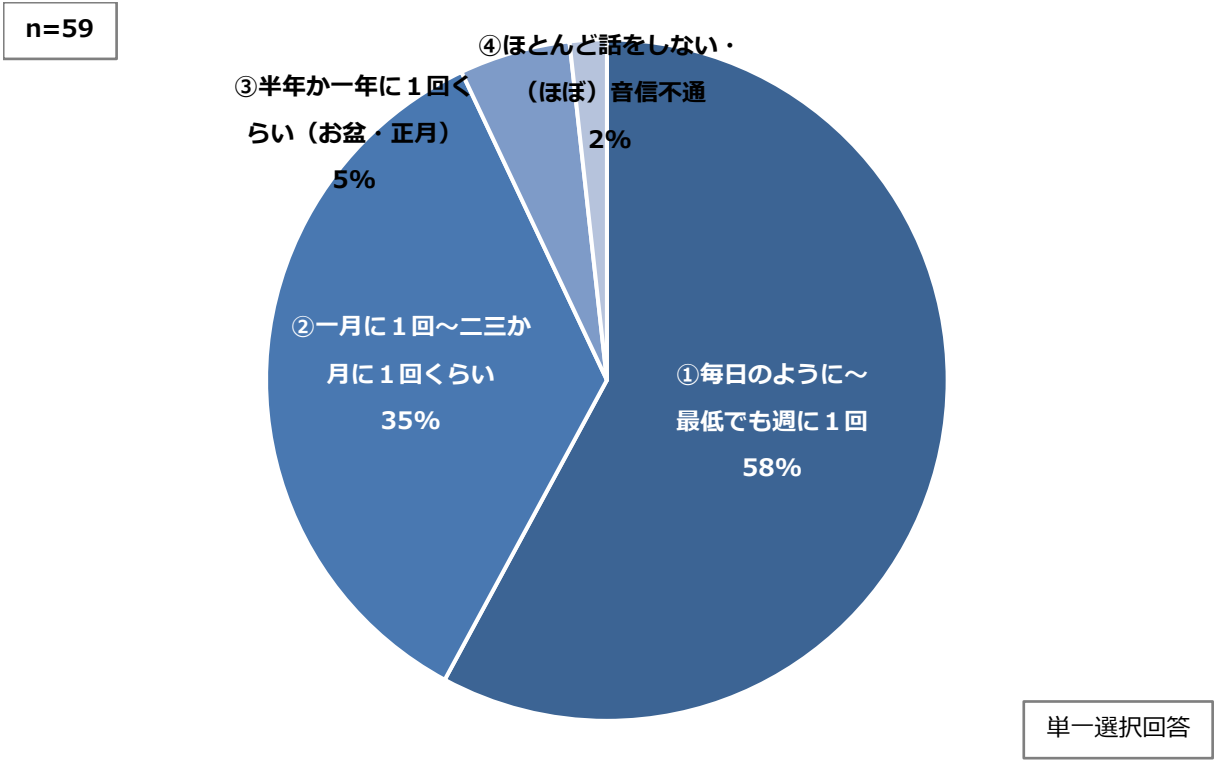


3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表3-2-3：子どもとの日常会話の有無と頻度（60代）



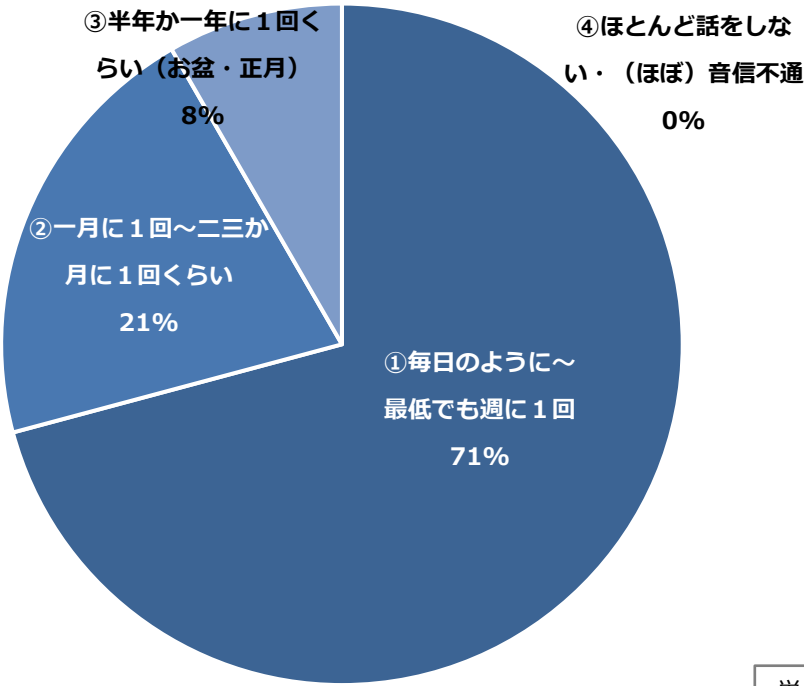
図表3-2-4：子どもとの日常会話の有無と頻度（70代）



3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表3-2-5：子どもとの日常会話の有無と頻度（80代以上）

n=26



単一選択回答

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

問4：子どもとの終活の話題の有無・頻度

■ 質問と選択肢

あなたとお子さんとの間では、どの程度、「終活」に関することが話題になりますか。当
てはまるものいずれかに○をしてください（ひとつだけ）。

※ 終活とは、自分の健康や医療介護のこと、家計の収支や重要な財産に関すること・相続に関することを
言います。対面や電話・メールなど方法は問いません。

- ① 定期的に話題になっており、（自分が要介護になった場合の対応など）家族内の役割分
担などについて具体的な話をしている
- ② 定期的に話題にはなるが、具体的な話はしたことがない
- ③ 話題になることはあるという程度
- ④ 話題になったことはまったくない

■ 質問の意図

本問は、子どもとの間での終活に関する話題の有無・頻度を問うものである（単一選択回
答）。

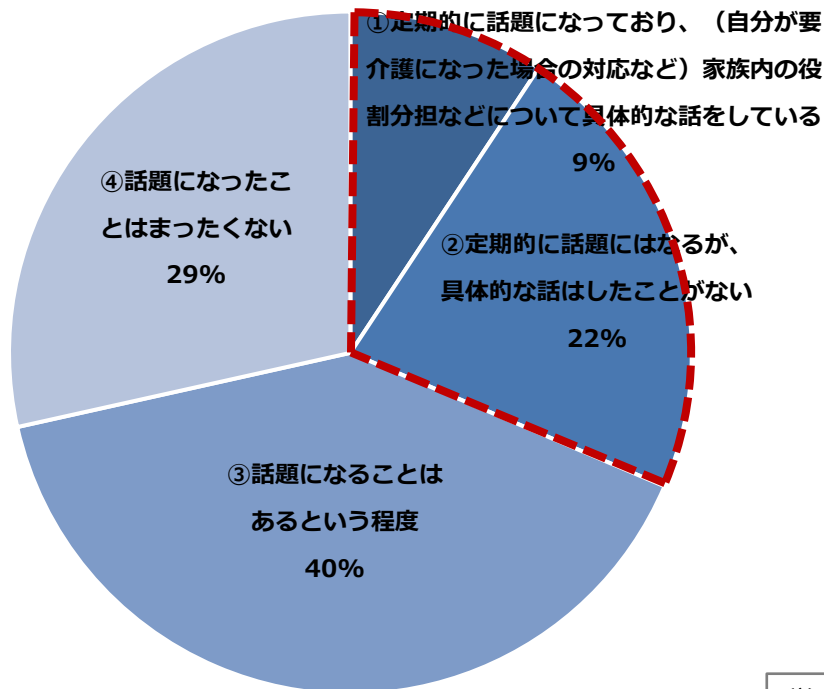
■ 回答結果（図表4-1参照）

結果は、「③話題になることはあるという程度」が40%で最多となった。「①定期的に話
題になっており、家族内の役割分担などについて具体的な話をしている」は9%に留まる一方、
「④話題になったことはまったくない」は29%に達した。

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表4-1：子どもとの終活の話題の有無・頻度

n=172



単一選択回答

■ 考察

子どもとの間で終活に関する話題があると認められるのは①と②レベルである。③と④レベルでは終活に関する話題があるとは言えないと考えられる。

日常会話レベルでは、毎日・週に一度はやりとりがあっても、終活に関する具体的な会話が進んでいる割合はかなり少ないことがわかる。

■ 年代別分析（図表4-2-1～4-2-5参照）

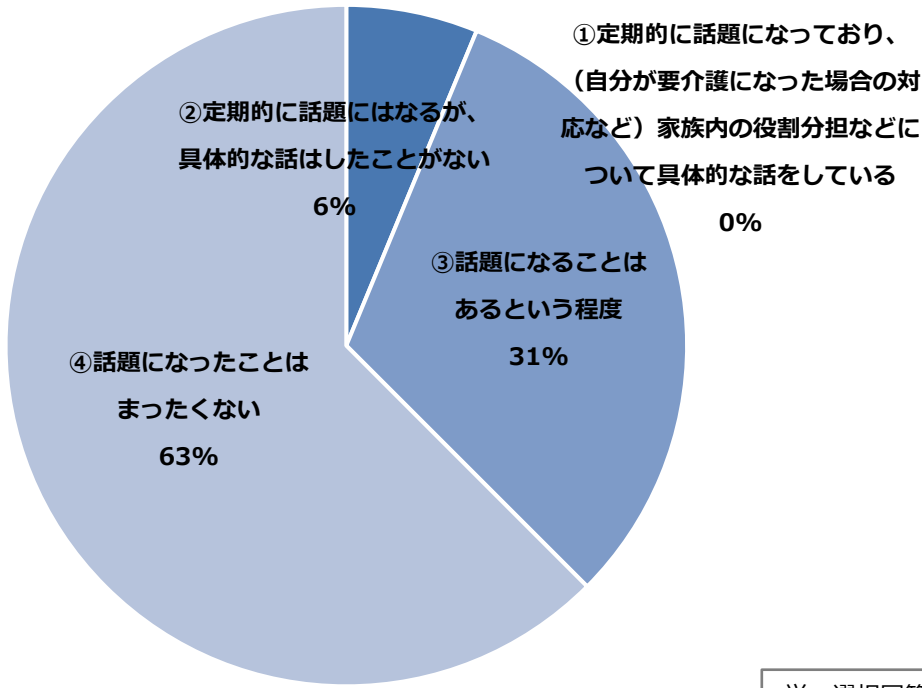
子どもとの終活に関する話題の有無や頻度が、年代別で異なるか分析を行ったところ、日常会話の場合よりも顕著に年代別で差異がみられた。

40代以下は、子どもが未成年と考えられることから、選択肢④の回答が多数を占める。50代から終活の話題の頻度は上昇し、定期的に終活が話題になる選択肢①の割合は、60代・70代が最多となった。80代以上になると、選択肢①の割合は減少するものの、選択肢①②を合わせた割合は全世代の中で最多となった。定期的な話題の頻度が上昇する50代は、結婚・出産が早かった場合には孫が生まれる人もおり、終活の意識醸成を開始する年代として適切であると考えられる。

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表4-2-1：子どもとの終活の話題の有無・頻度（40代以下）

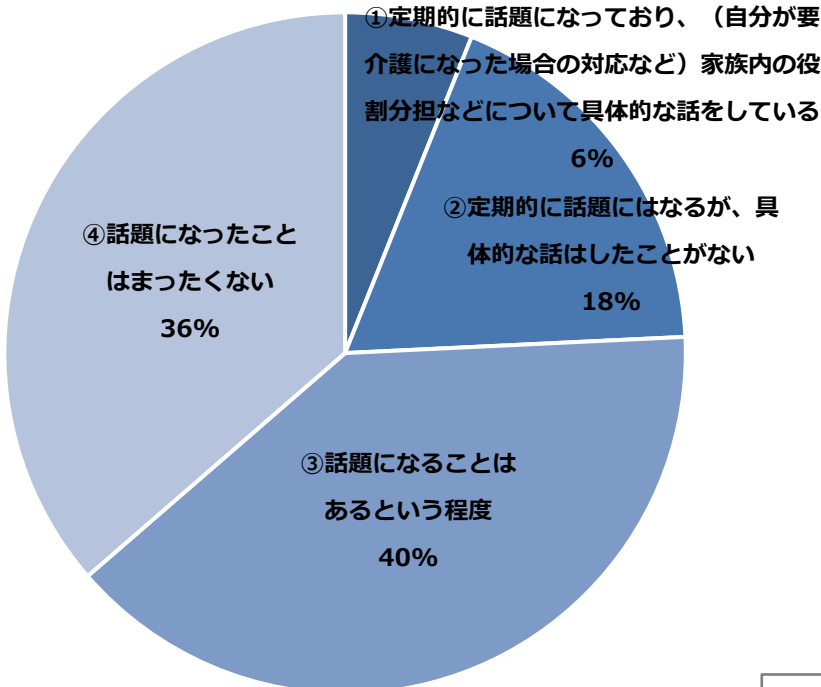
n=16



単一選択回答

図表4-2-2：子どもとの終活の話題の有無・頻度（50代）

n=33

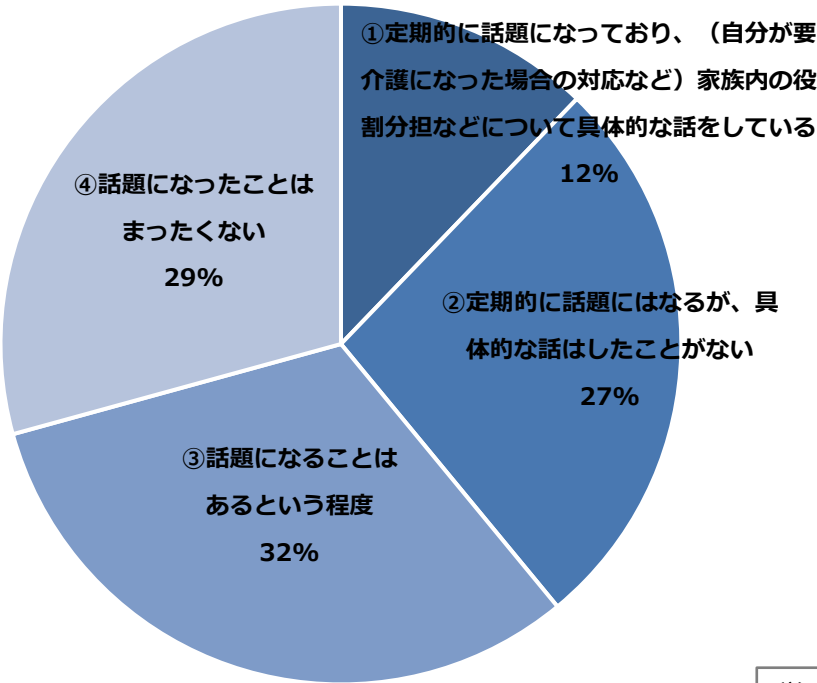


単一選択回答

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表4-2-3：子どもとの終活の話題の有無・頻度（60代）

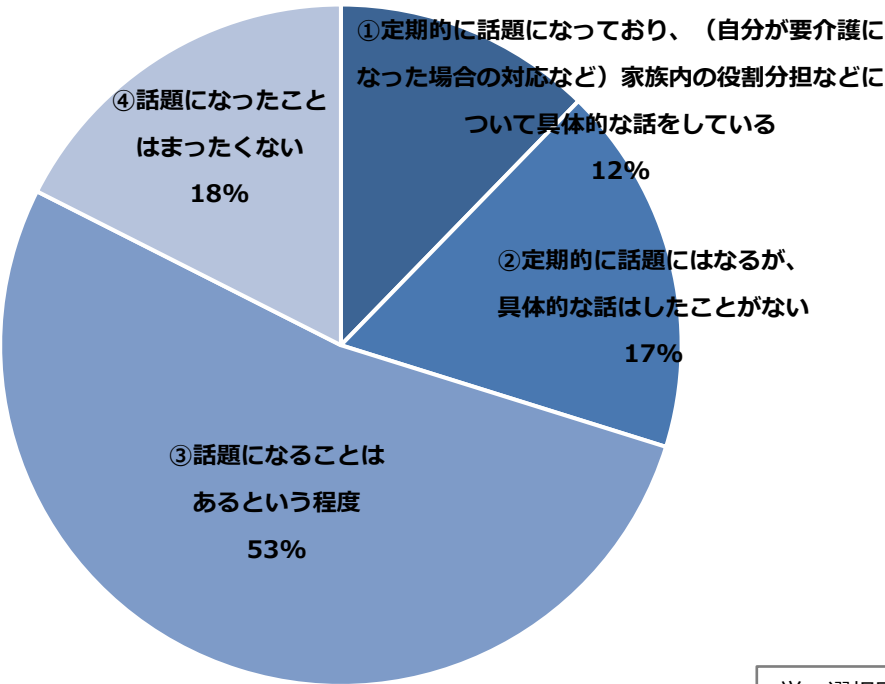
n=44



単一選択回答

図表4-2-4：子どもとの終活の話題の有無・頻度（70代）

n=59

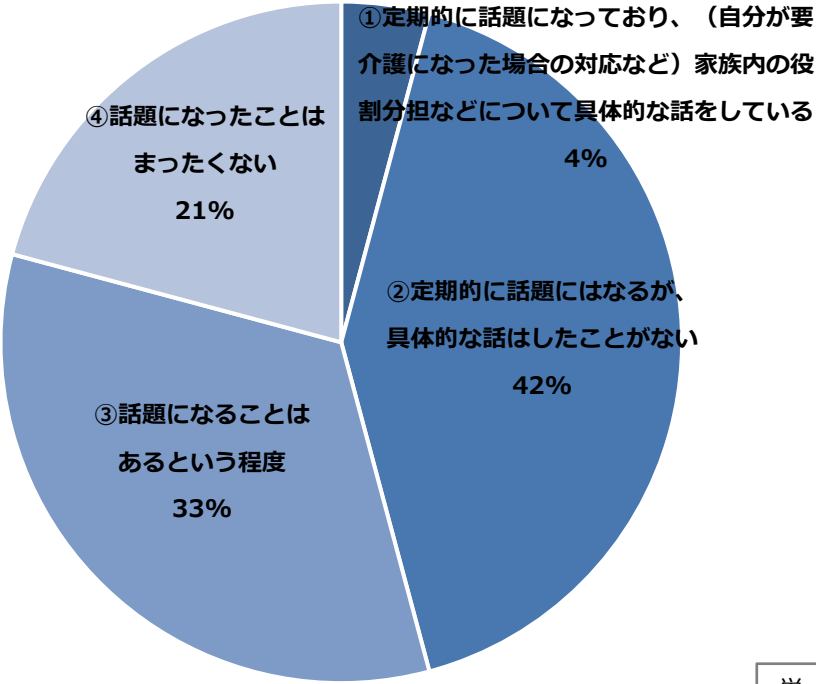


単一選択回答

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

図表4-2-5：子どもとの終活の話題の有無・頻度（80代以上）

n=26



単一選択回答

3. 調査結果 （2）子どもとのコミュニケーション

■ 子どもとの日常会話（問3）と終活の話題（問4）の関係（図表4-3参照）

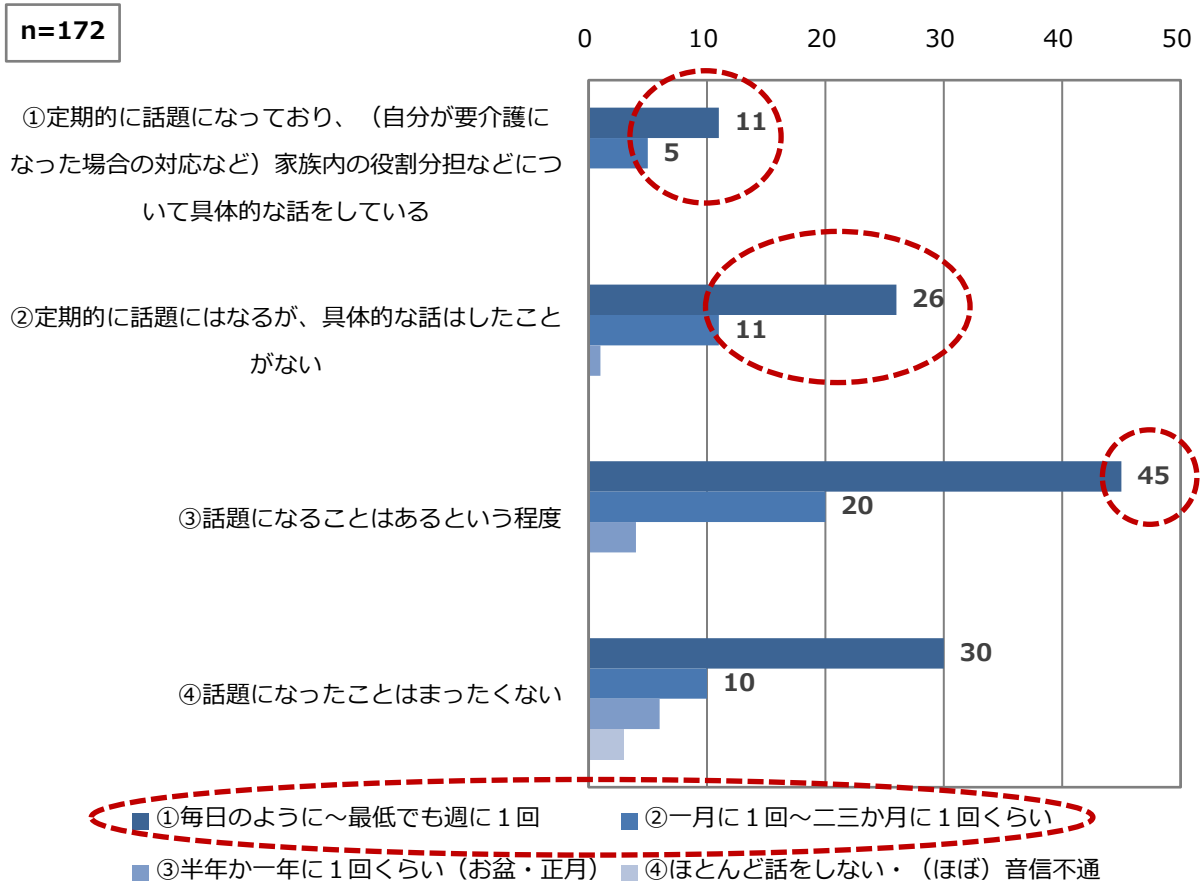
日常会話の有無・頻度と終活に関する話題の有無・頻度がどのような関係にあるか分析を行った。

終活の話題に関して「①定期的に話題になっており、家族内の役割分担などについて具体的な話をしている」回答者や「②定期的に話題にはなるが、具体的な話はしたことがない」回答者も、日常会話があると認められる①②のいずれかとなった。終活の話題をするためには、家族間の日常的なコミュニケーションが重要であることが見て取れる。

しかし、日常会話の頻度が高い①の回答者のうち、④終活が話題になったことがない人は約27%もいた。終活の話題を促進するためには、日常会話の頻度を上げる以外の工夫が必要なのではないかと考えられる。

図表4-3：子どもの終活に関する話題と日常会話の頻度

単位：件



3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

(3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

「子どもに迷惑をかけたくない」意識に関する質問は、問5：迷惑とは何か、問6：迷惑だと思ふ理由、問7：迷惑だと思わない理由、問8：「子どもが親の面倒を見る」という考え方の4問である。

問5：迷惑とは何か

■ 質問と選択肢

あなたが要介護や認知症になった場合、以下のことを子どもに頼むことは「子どもにとって迷惑」だと思いますか。①～⑩それぞれの質問に対して、どちらかに○をつけてください。

※ 頼みごとの「頻度」はあまり深く考えずにお答えください（継続的に発生することは、月に1回程度頼む場合のこととお考え下さい）。

- | | |
|---------------------|---------------|
| ① 定期的な電話や訪問・会話・相談 | (思う ・ 思わない) |
| ② 買い物や簡単な頼み事・外出の同行 | (思う ・ 思わない) |
| ③ 現金の払出し・振込手続等 | (思う ・ 思わない) |
| ④ 通院の同行・医師との面談の付添い | (思う ・ 思わない) |
| ⑤ ご飯の支度や洗濯 | (思う ・ 思わない) |
| ⑥ 介護サービスの内容の決定 | (思う ・ 思わない) |
| ⑦ 不動産等重要な資産の管理や売却等 | (思う ・ 思わない) |
| ⑧ 入院・入所時の身元保証・身元引受 | (思う ・ 思わない) |
| ⑨ 生活費や医療介護費用等の経済的援助 | (思う ・ 思わない) |
| ⑩ その他 () | (思う ・ 思わない) |

■ 質問の意図

本問は、子どもにとって迷惑にあたるのではないかと思う頼みごとは何かを問うものである（単一選択回答）。仮に子どもに迷惑をかけたくないか質問しても、迷惑をかけたくないという回答がほぼすべてになってしまう可能性が高い。そこで、頼みごと一つ一つに対して、それが子どもにとって迷惑と思うかどうかという方法で質問することによって、迷惑の中身を具体的に明らかにすることとした。

■ 回答結果（図表5-1参照）

結果は、「⑨生活費や医療介護費用等の経済的援助」の回答が127件（73%）で最多となった。「⑤ご飯の支度や洗濯」の回答が124件（72%）と僅差で続く。「①定期的な電話や訪問・会話・相談」の回答も57件（33%）と一定数見られた。

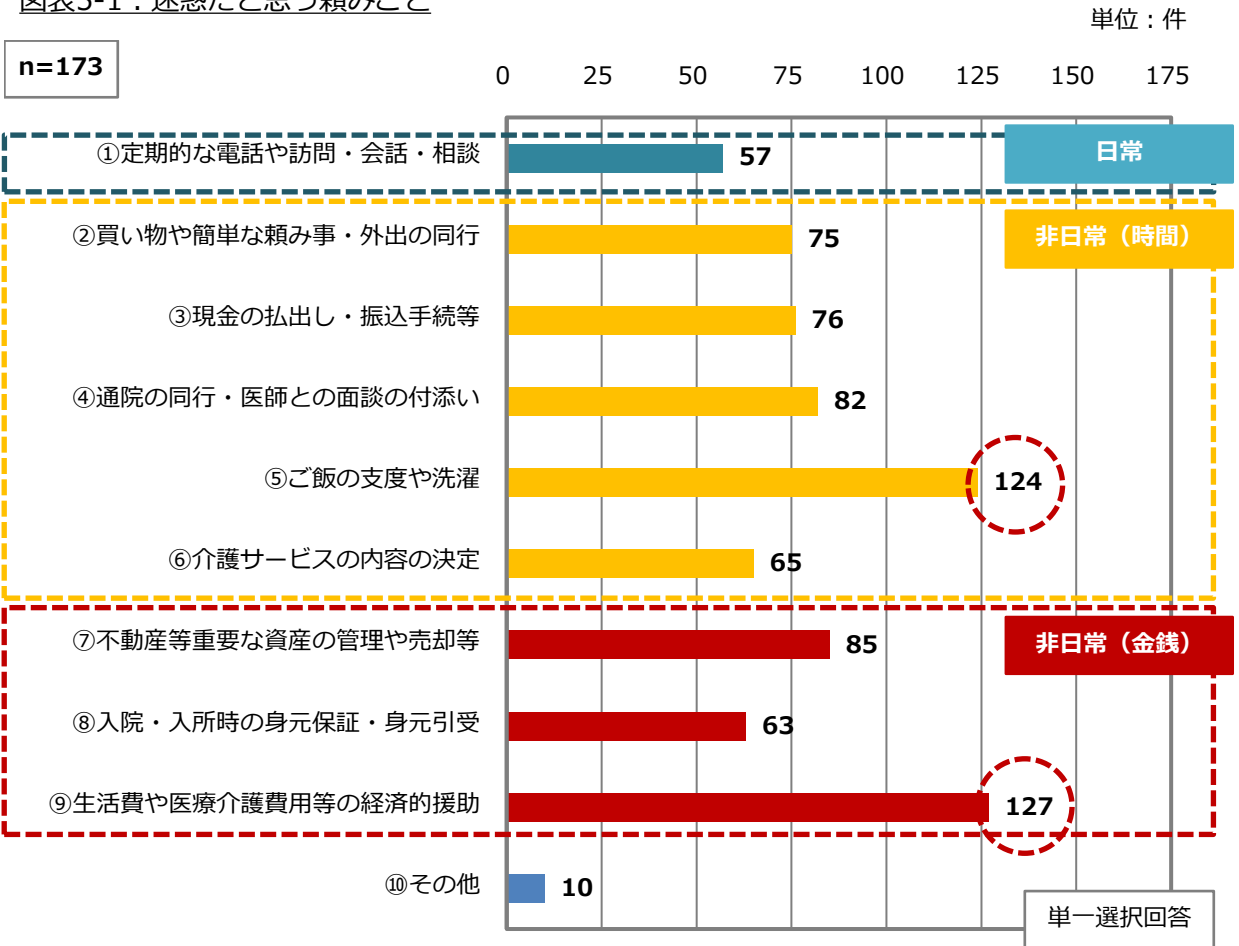
3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 「⑩その他」回答（文字が不明等の場合や固有名詞の場合は□で伏字とした）

⑩その他の回答内容は、以下の通りとなった。

- ①と同等視しうるもの…日常会話による安否確認、親子の精神的なつながり
- ④に類似しうるもの…身体的介助、介護
- ⑦に含まれうるもの…鍵の預かり
- ⑩その他…お墓の管理、遠方の場合は上記すべて

図表5-1：迷惑だと思う頼みごと



■ 考察

調査結果から、「子どもに迷惑をかけたくない」すなわち「迷惑意識」は全回答の7割に達し、①時間や金銭的な負担、②炊事・洗濯や生活費・医療介護費の経済的な援助の2つを指すものと結論づけることができる。

なお、定期的な電話や訪問といった日常的なやりとりですら子どもにとって迷惑と思う回答が約3割に達したことは驚きである。

さらに、ア. 迷惑と思う頼みごとの回答数の分布状況の確認や、イ. 回答者の属性によって結果がどのように変化するのかクロス集計分析を行った。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

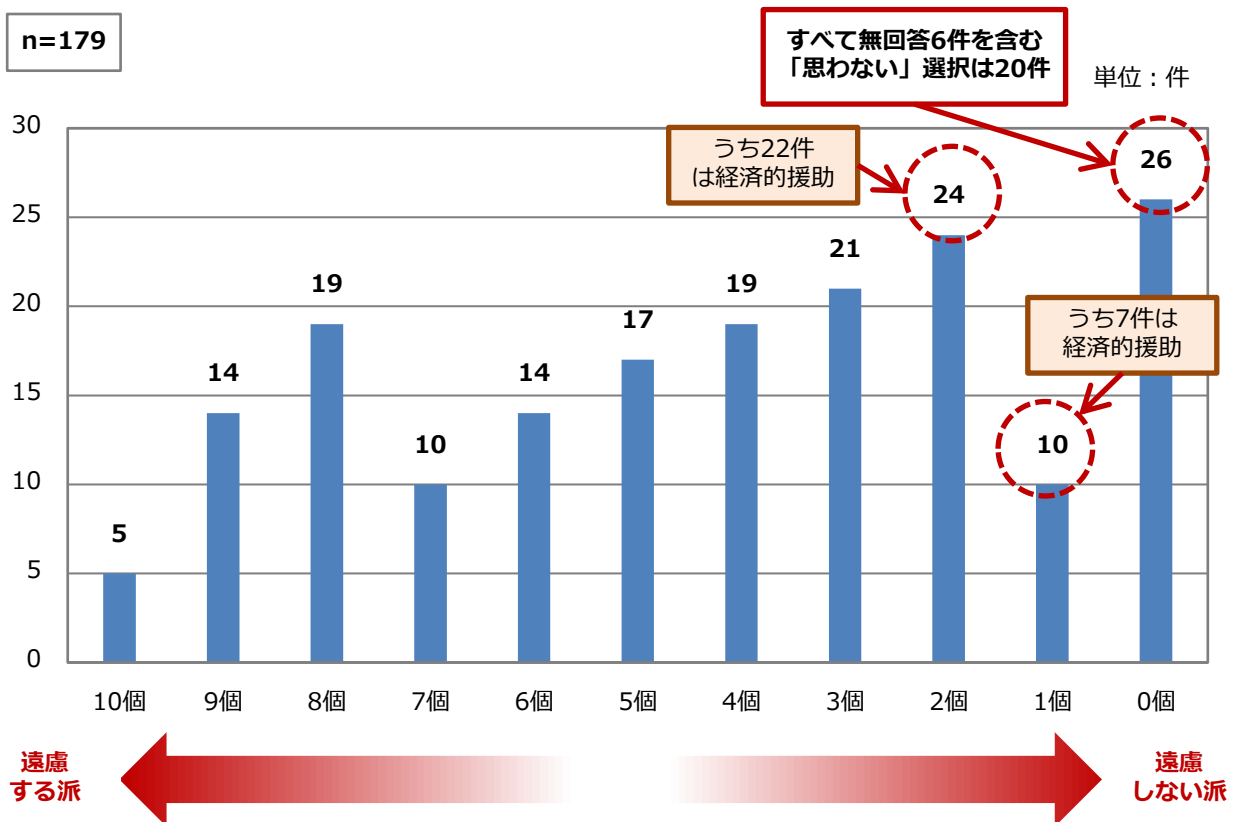
ア. 迷惑だと思う頼みごとの回答数の分布

■ 結果と考察（図表5-2参照）

10個の頼みごと（その他含む）について、迷惑だと「思う」を選択した数がどのように分布しているか分析した。

結果は、0個から10個まですべてに分布しており、平均値は4.3個、0個が26件で最多となった。回答数0個26件のうち、すべて「思わない」を選択回答したのは20件、すべて無回答が6件あった。後者の中には、本問の選択肢を見て、“今まで頼んできたことが、子どもにとって迷惑になるのだろうか”という深刻な気持ちになってしまった可能性が考えられる。

図表5-2：迷惑だと思う頼みごと（回答数）



3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 回答結果の類型化

回答数の結果から、子どもに対する迷惑意識について類型化を試みた。「思う」の回答数が多いほど遠慮がちな人、少ないほど遠慮しない人と考えerことは妥当と思われる。そこで本調査では、すべての質問に対して「思わない」を選択した26件（無回答を含む）を「遠慮しない派」、それ以外の回答群を「遠慮する派」と類型化することとした。

「遠慮する派」と「遠慮しない派」の類型化の妥当性の検証は必要と考えられるが、迷惑意識だと結論付けた選択肢⑨または⑤のいずれも選択しなかったことから、この26件を「遠慮しない派」と分類したことに一定の合理性はあると考える。

■ 遠慮しない派のプロフィール

「遠慮しない派」26件のプロフィールを見ると、以下のようになった。特に特徴づけられる要素はなかった。

- 年代：80代以上(6)、70代(13)、60代(6)、30代(1)
- 性別：男性(7)、女性(19)
- 子どもの人数：いない(12)、1人(2)、2人(7)、3人(5)
- 子どもの構成：息子・娘いる(4)、息子いない娘いる(9)、娘いない息子いる(1)
- 介護サービス利用：している(4)、していない(22)
- 家族介護経験：あり(20)、なし(6)
- 日常会話：ほぼ毎日(14)、1月～2・3月に1回(5)、盆暮れ(1)、音信不通(1)、NA(5)
- 終活の話題：具体的(6)、定期的な話題(2)、話題にはなる(8)、話題なし(5)、NA(5)
- 「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前：はい(6)、いいえ(14)、NA(6)
- 終活の行動：尊厳死宣言の作成・終末期医療に関する事前指示の希望の記録(1)、法的根拠のある代理人等との契約(2)、遺言の作成(2)

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

イ. 回答者の属性による分析結果と考察

■ 年代別（図表5-3-1～5-3-5参照）

迷惑意識の結果について、年代によって差異がみられるか分析を行った。

40代以下から60代までの回答者群は、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなった。70代・80代以上の回答者群は項目間で大差はなかった。70代・80代になると、心身の状態変化等により、子どもに負担をかけざるを得ず、選択肢⑤や⑨について迷惑意識を持つ余裕がないのではないかと考えられる。

■ 性別（図表5-4-1,5-4-2参照）

迷惑意識の結果について、性別によって差異がみられるか分析を行った。

女性は、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなった。男性は項目間で大差はなかった。女性は、炊事洗濯などの役割をこなしていることが多い分、特に選択肢⑤については迷惑意識が高まったものと思われる。

■ 子どもの有無・人数（図表5-5-1～5-5-5参照）

迷惑意識の結果について、子どもの有無・人数によって差異がみられるか分析を行った。

回答群の数に違いがあることから明確には判断できないものの、子どもがいる回答者群の方が、子どもがいない回答者群よりも頼みごとの割合が全体的に多くなった。

さらに、子どもが1人の回答者群を除き、他の回答者群では、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなった。

■ 子どもの構成（図表5-6-1～5-6-4参照）

迷惑意識の結果について、子どもの構成によって差異がみられるか分析を行った。

迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなったのは、いずれの回答者群でも確認され、顕著な差異は見られなかった。

息子しかいない場合は、息子の配偶者である嫁に頼ることになる可能性が高くなることから、娘がいない人の方が迷惑意識が大きいのではないかと考えていたが、そのような結果は得られなかった。ただし、息子しかいない回答者群は全体的に頼みごとの割合が多くなった。

■ 介護の知識・経験（図表5-7-1,5-7-2、図表5-8-1,5-8-2参照）

迷惑意識の結果について、介護サービス利用の有無・家族の介護経験の有無によって差異がみられるか分析を行った。

サービス利用の有無については、回答群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、介護サービス利用なしの方が、頼みごとの割合が全般的に多くなったうえ、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなった。

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

家族の介護経験の有無については、家族の介護経験ありの回答者群が、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなった。性別の場合と同様、介護経験ありの方が様々な生活支援の経験を経ている分、選択肢⑤と⑨の頼みごとについて迷惑意識が高まったものと思われる。

■ 日常会話の有無・頻度（図表5-9-1～5-9-4参照）

迷惑意識の結果について、日常会話の有無・頻度によって差異がみられるか分析を行った。

回答者群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多くなったのは、日常会話があるとした2つの回答者群である。常時やりとりを行っている分、選択肢⑤と⑨の頼みごとについて迷惑意識が高まったものと思われる。

一方、日常的に会話をしない2つの回答者群は、頼みごとの割合が全般的に多くなった。日常的に会話がないと頼みづらくなるという可能性が高い。

■ 終活の話題の有無・頻度（図表5-10-1～5-10-4参照）

迷惑意識の結果について、終活の話題の有無・頻度によって差異がみられるか分析を行った。

回答者群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、回答者群によって顕著な差異は見られなかった。当初は、終活の話題の有無・頻度によって、迷惑意識に違いが生じると想定していたが、異なる結果となった。

■ 分析結果のまとめ

上記の結果から、各属性の中で、迷惑意識と結論付けた選択肢⑤と⑨の頼みごとが他の項目に比べて明らかに多いと言える回答者群は、以下の通りである。

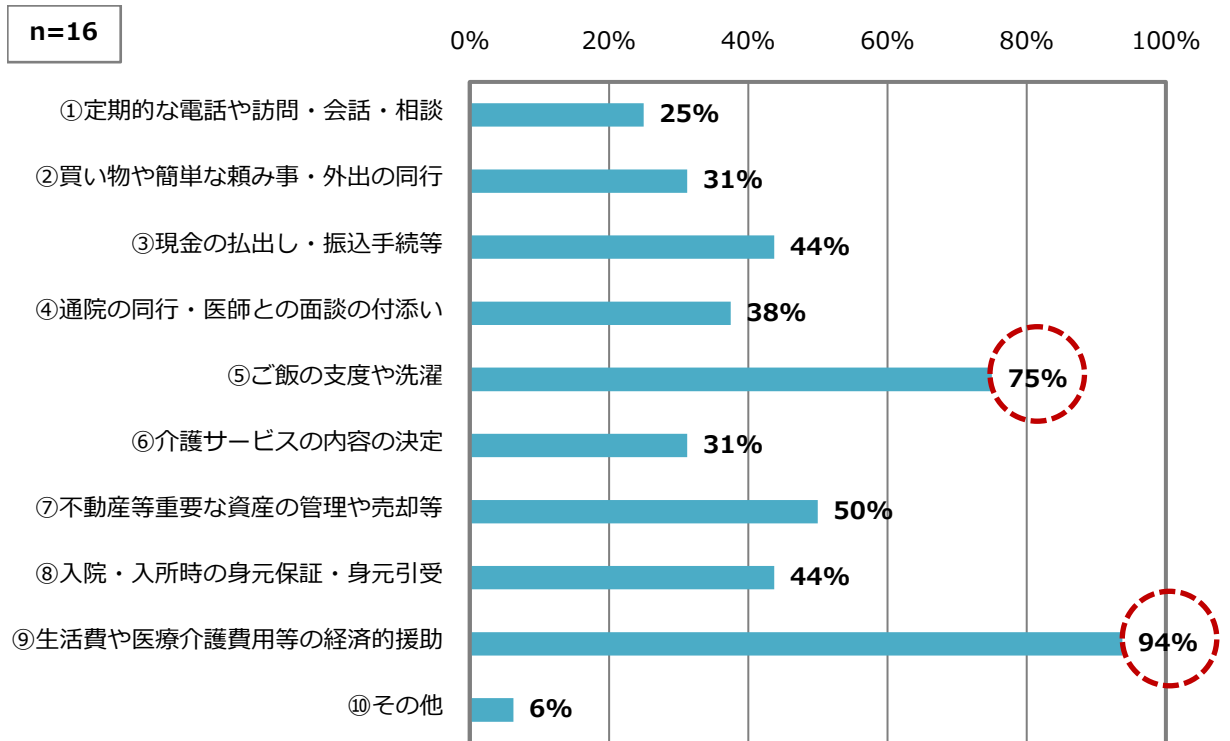
- 60代以下。
- 女性。
- 子どもがいない又は子どもが2人以上いる（一人っ子以外）。
- 介護サービスの利用がない。
- 家族の介護経験がある。
- 子どもと日常会話がある（音信不通ではない）。

子どもの構成、終活の話題の有無・頻度については、回答の結果に目立った差異は見られなかった。

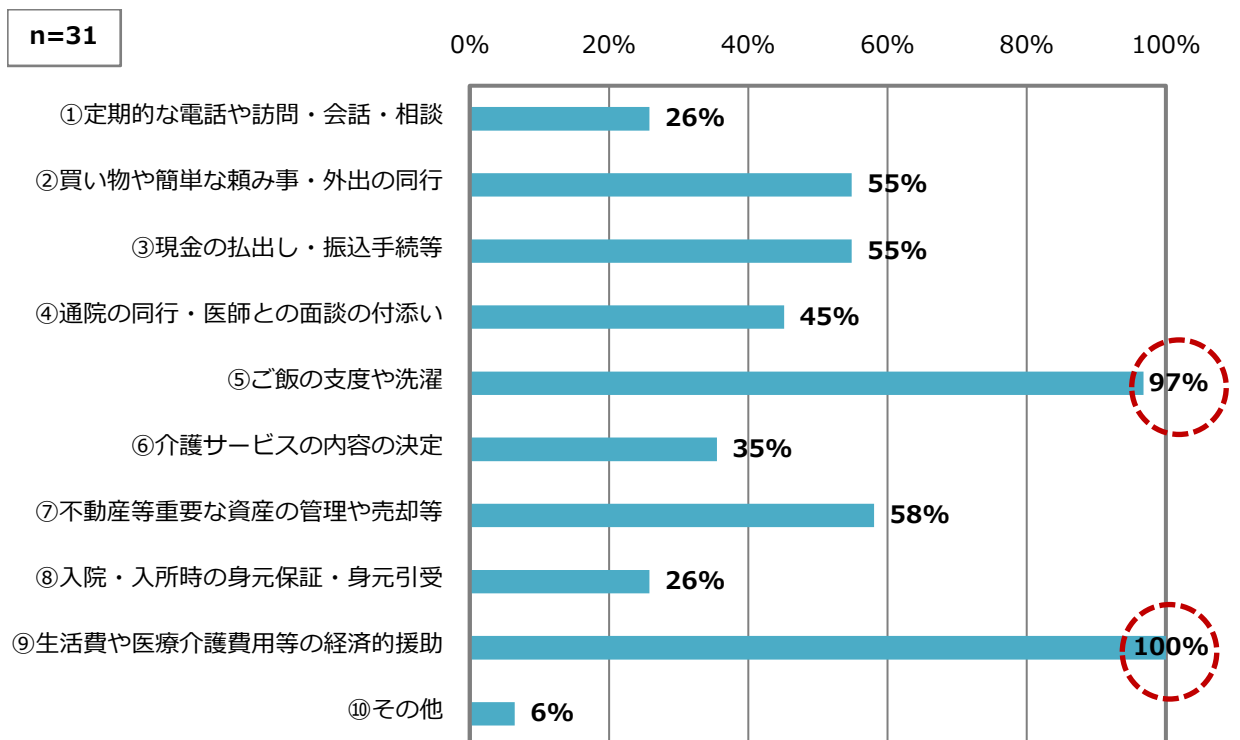
女性や介護経験者など、自らの経験に基づき、同じ苦労はさせたくないという気持ちの表れが見られる点が特徴である。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-3-1：迷惑だと思う頼みごと（年代別：40代以下）

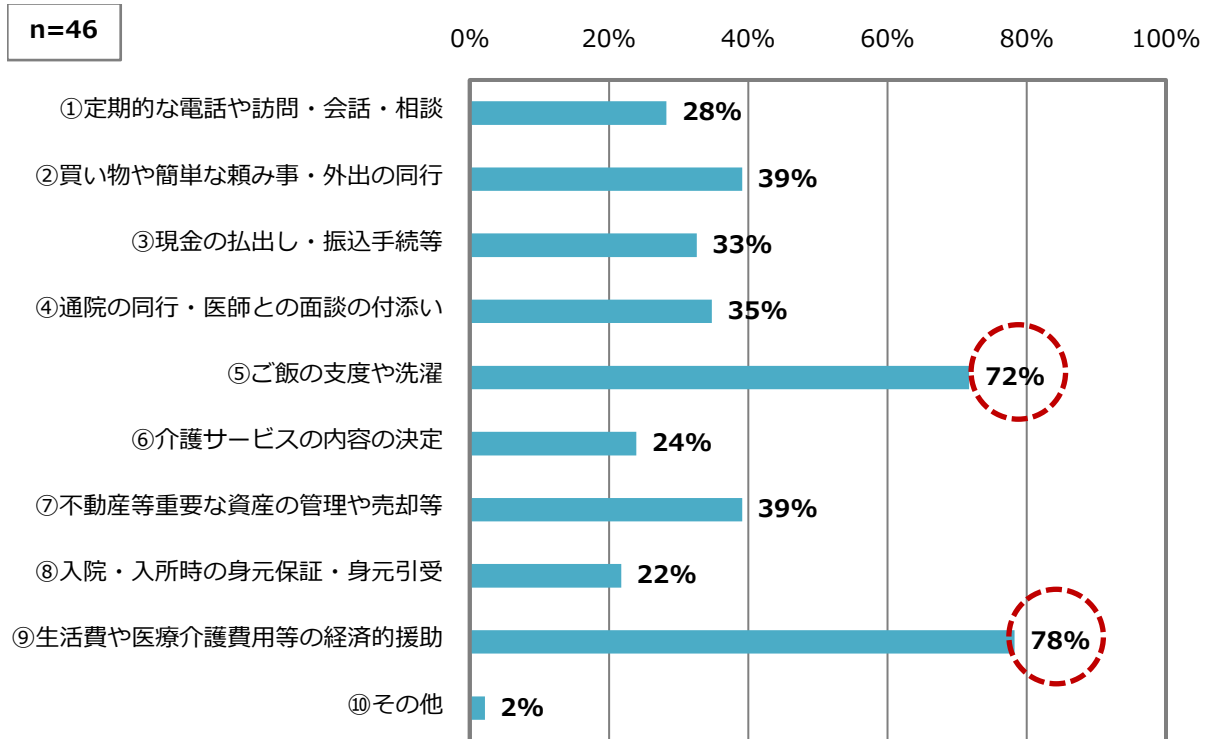


図表5-3-2：迷惑だと思う頼みごと（年代別：50代）

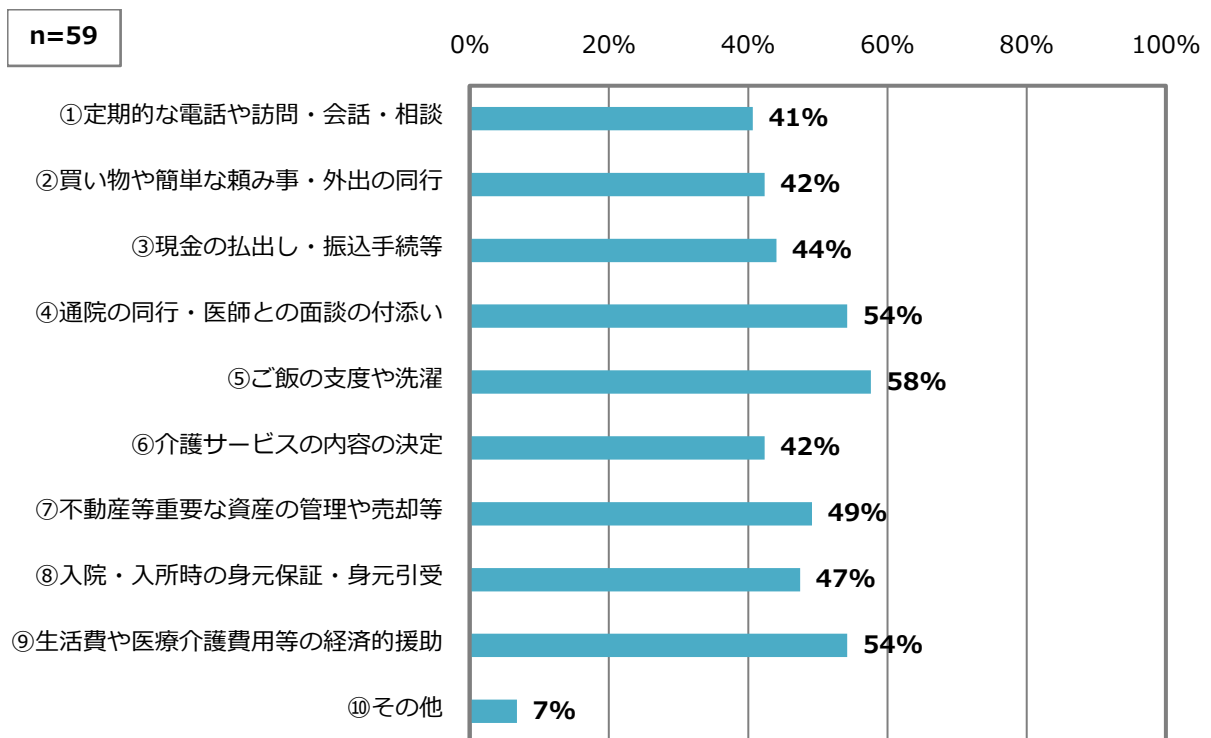


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-3-3：迷惑だと思う頼みごと（年代別：60代）

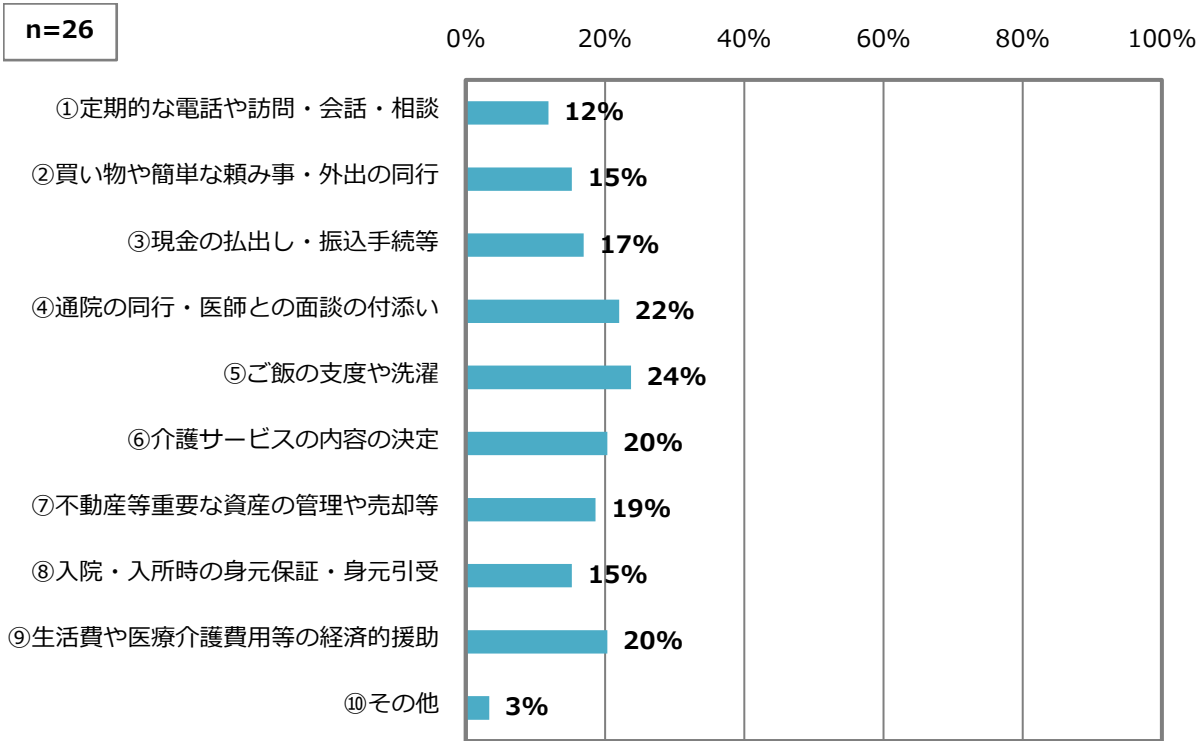


図表5-3-4：迷惑だと思う頼みごと（年代別：70代）



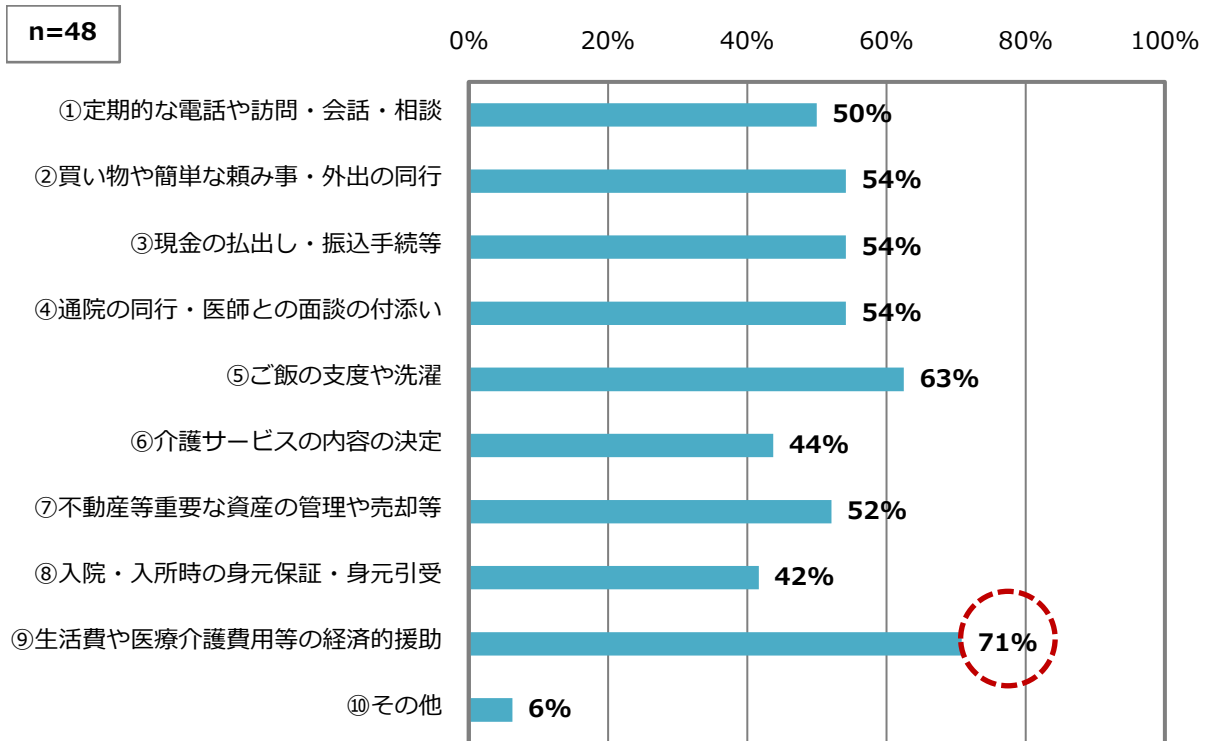
3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-3-5：迷惑だと思う頼みごと（年代別：80代以上）

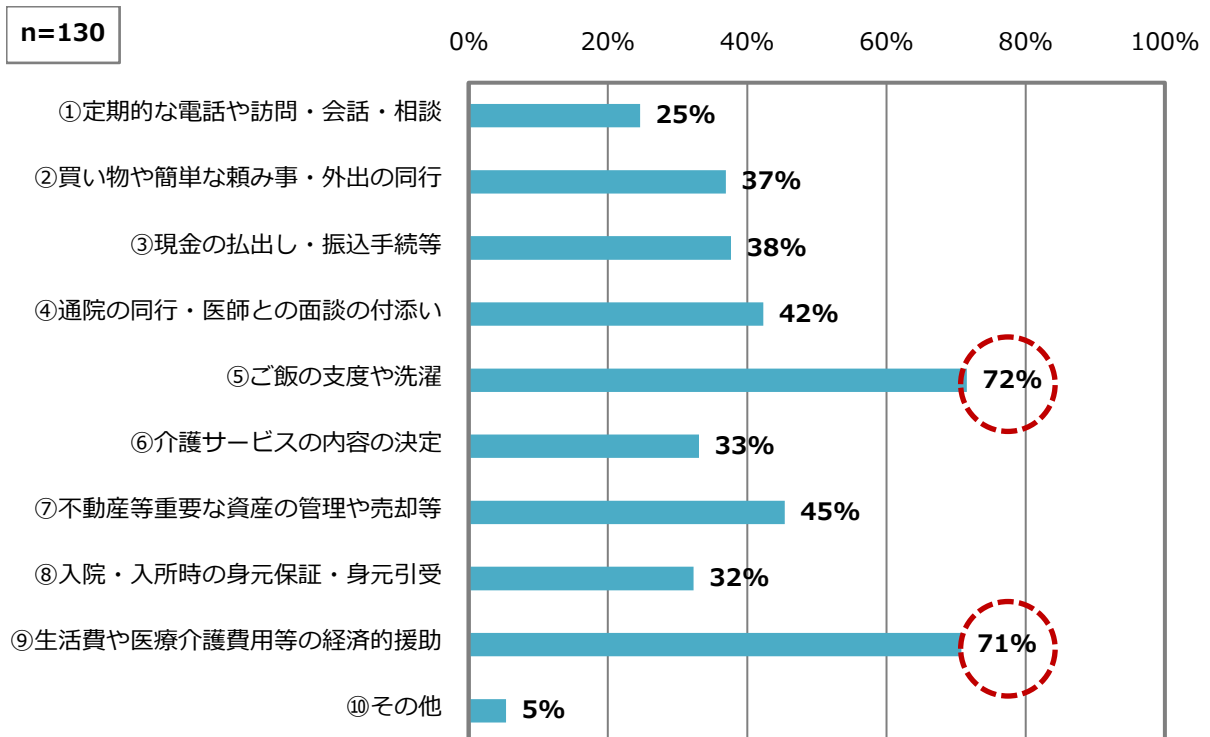


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-4-1：迷惑だと思う頼みごと（性別：男性）

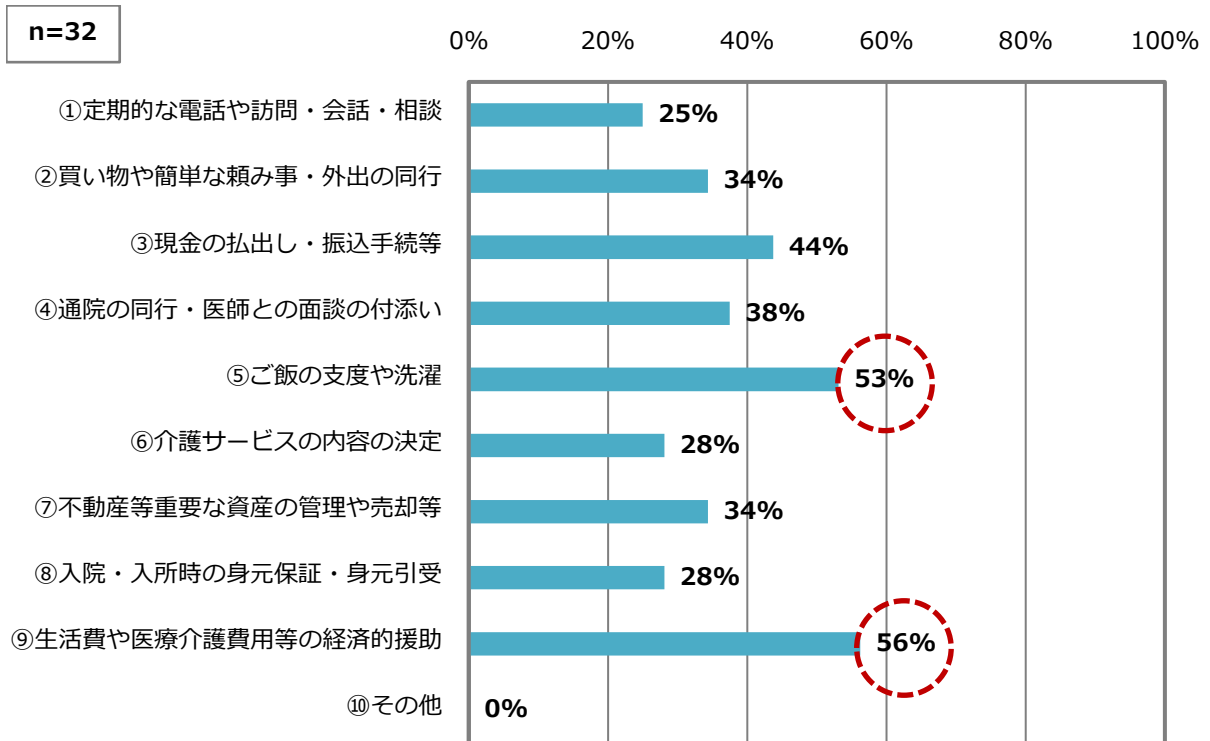


図表5-4-2：迷惑だと思う頼みごと（性別：女性）

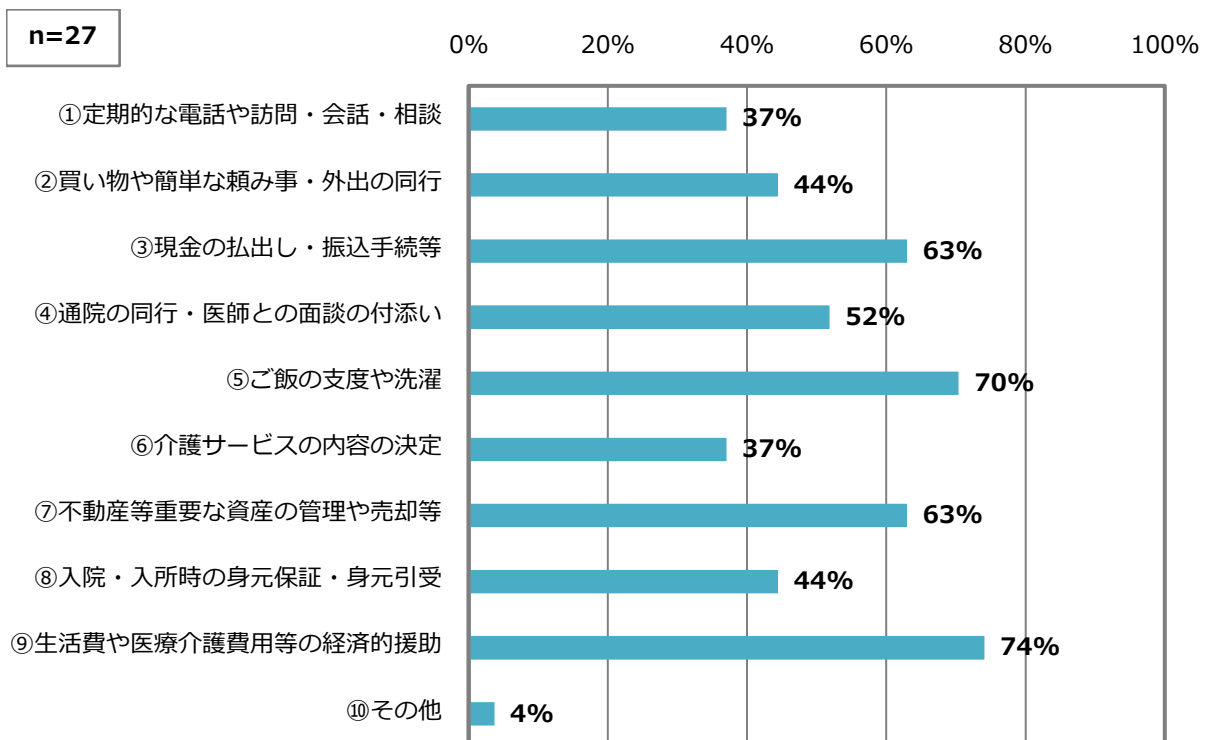


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-5-1：迷惑だと思う頼みごと（子どもの有無・人数：子どもなし）

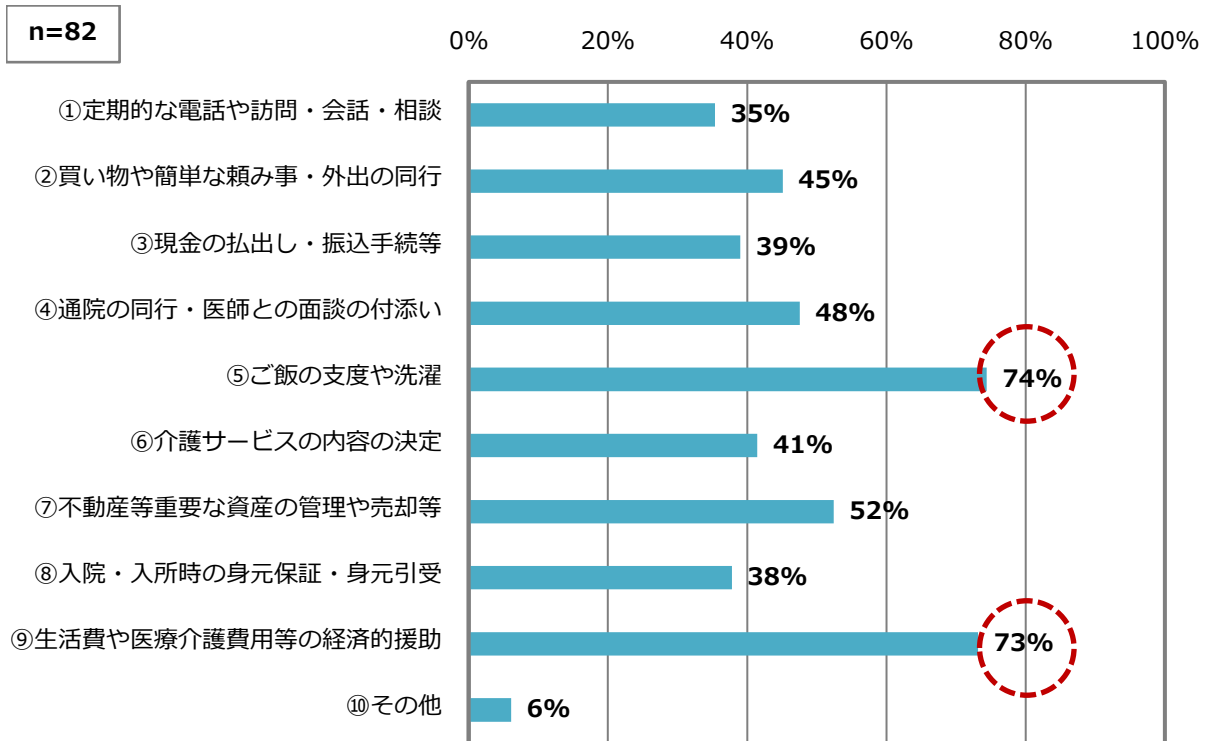


図表5-5-2：迷惑だと思う頼みごと（子どもの有無・人数：子ども1人）

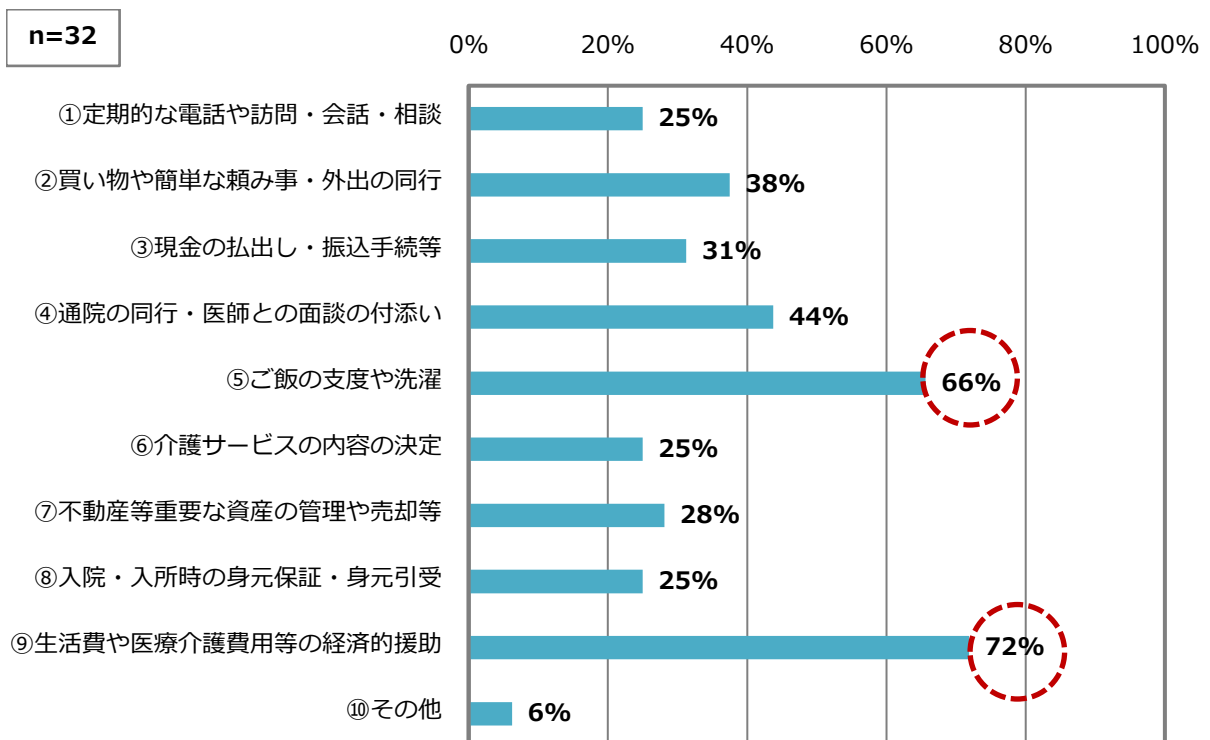


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-5-3：迷惑だと思う頼みごと（子どもの有無・人数：子ども2人）

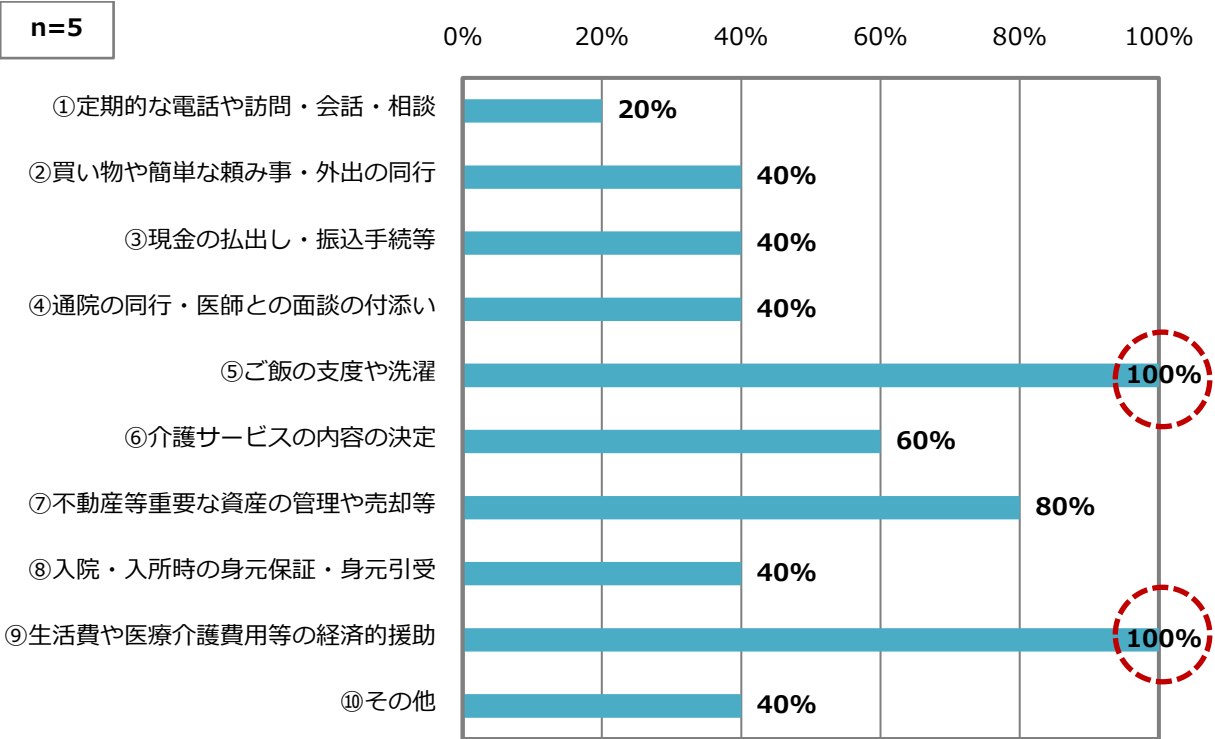


図表5-5-4：迷惑だと思う頼みごと（子どもの有無・人数：子ども3人）



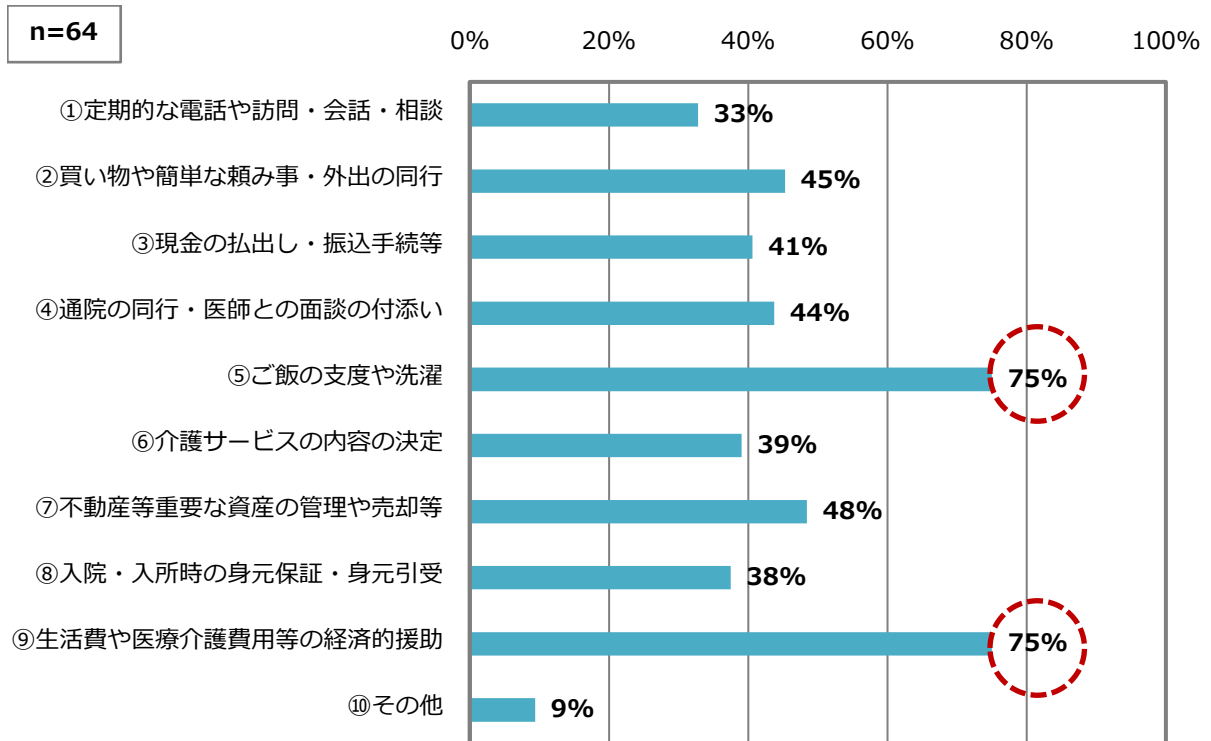
3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-5-5：迷惑だと思う頼みごと（子どもの有無・人数：子ども4人）

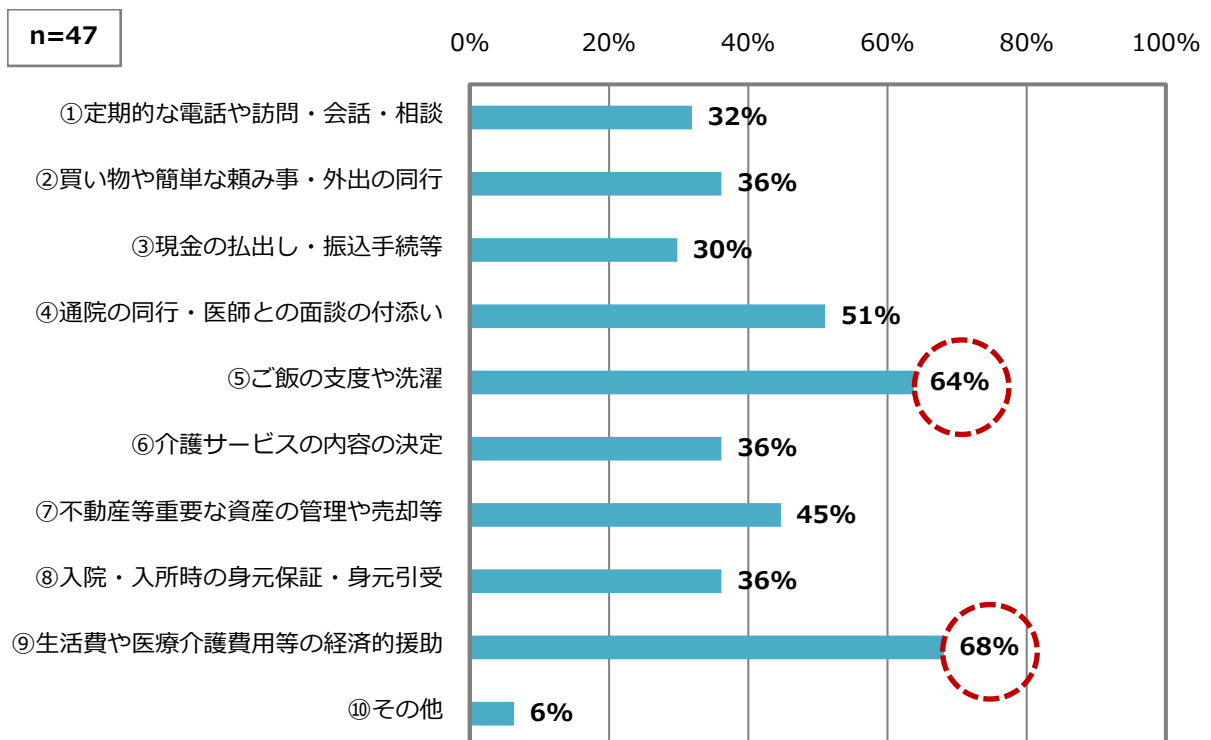


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-6-1：迷惑だと思う頼みごと（子どもの構成：息子も娘もいる）

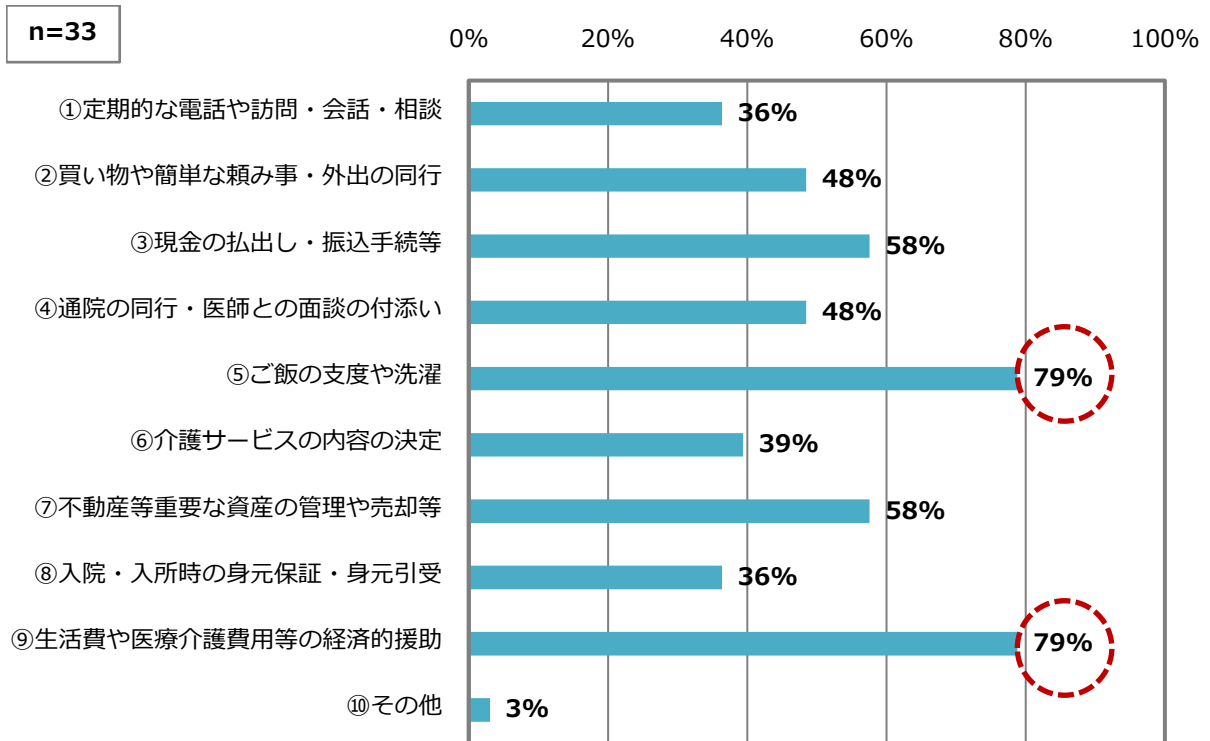


図表5-6-2：迷惑だと思う頼みごと（子どもの構成：息子はいないが娘はいる）

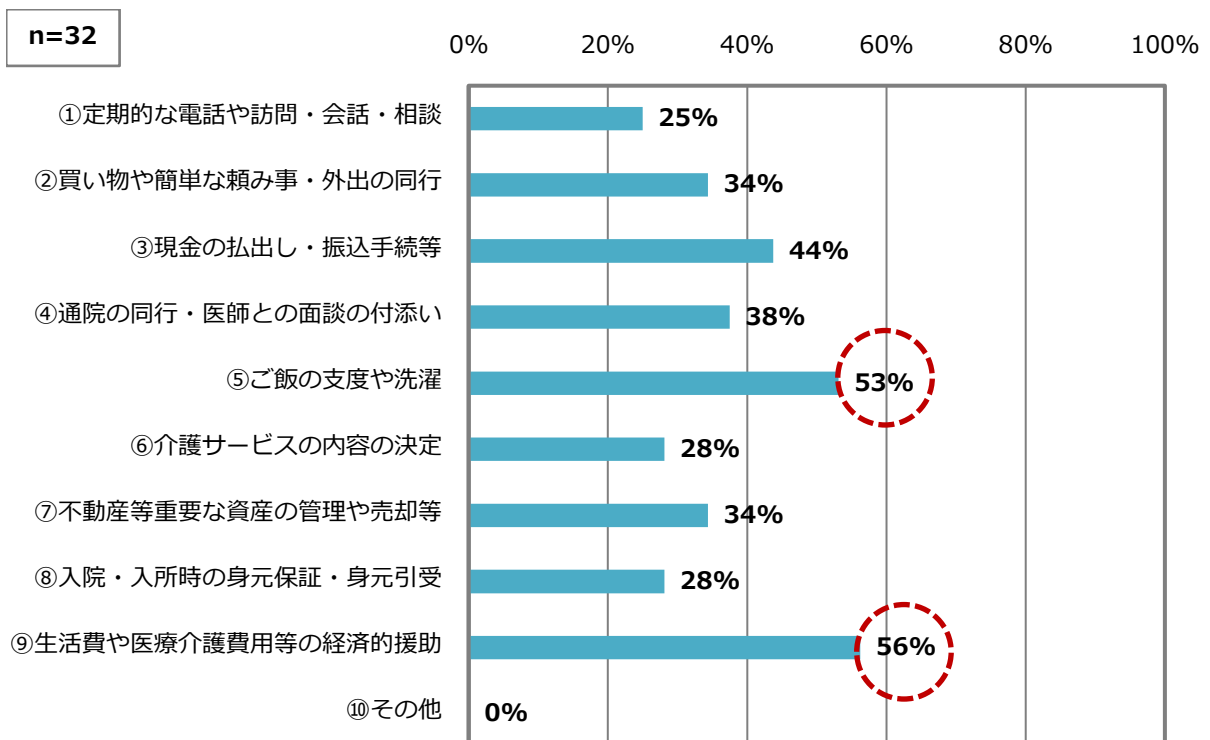


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-6-3：迷惑だと思う頼みごと（子どもの構成：息子はいるが娘はいない）

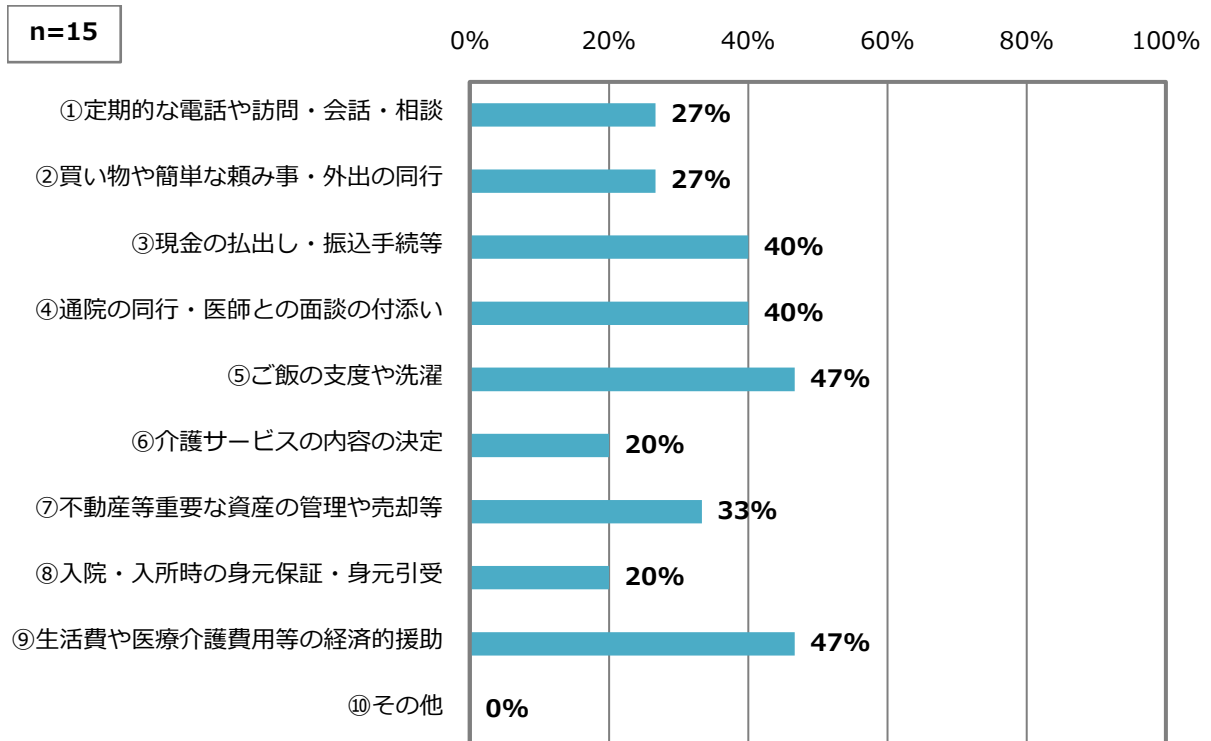


図表5-6-4：迷惑だと思う頼みごと（子どもの構成：息子も娘もいない）

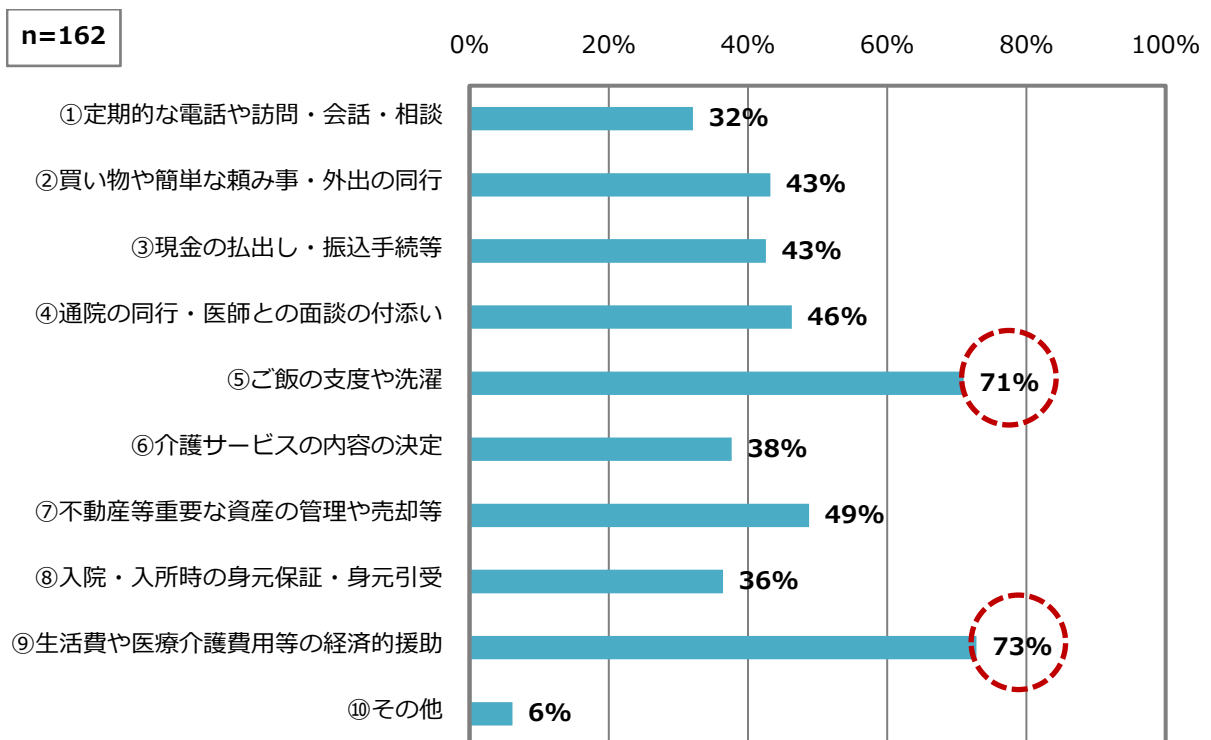


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-7-1：迷惑だと思う頼みごと（介護サービス利用の有無：あり）

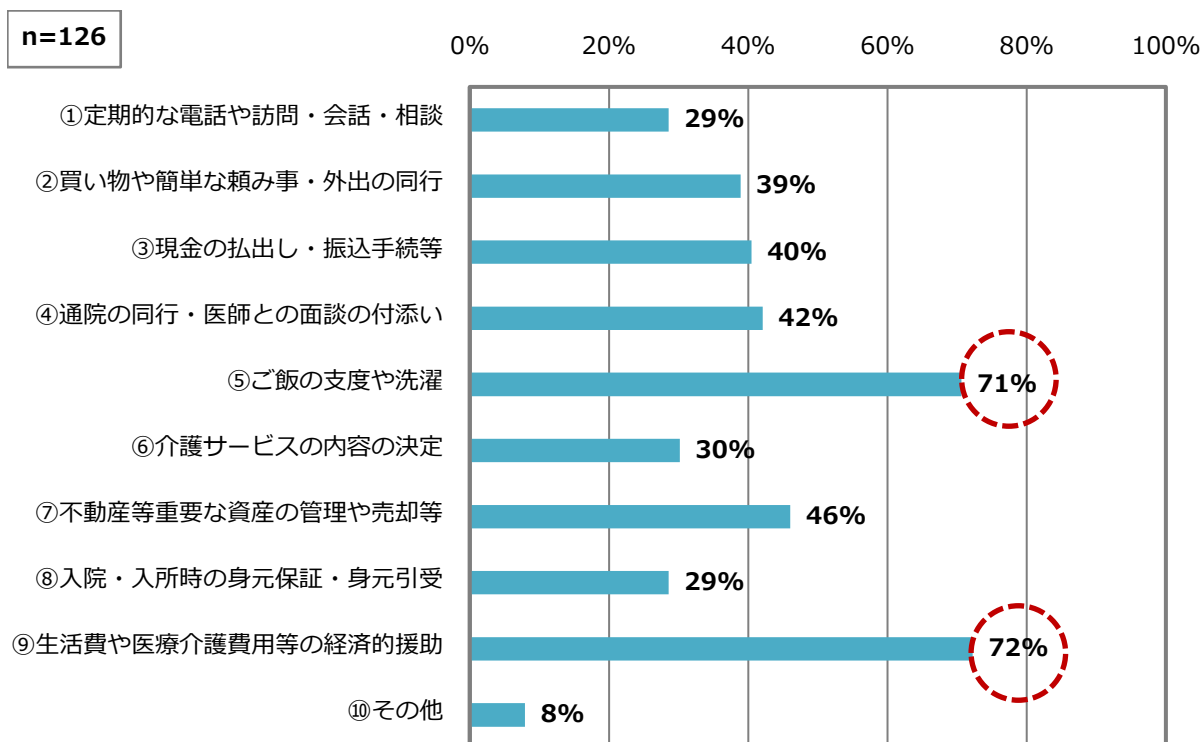


図表5-7-2：迷惑だと思う頼みごと（介護サービス利用の有無：なし）

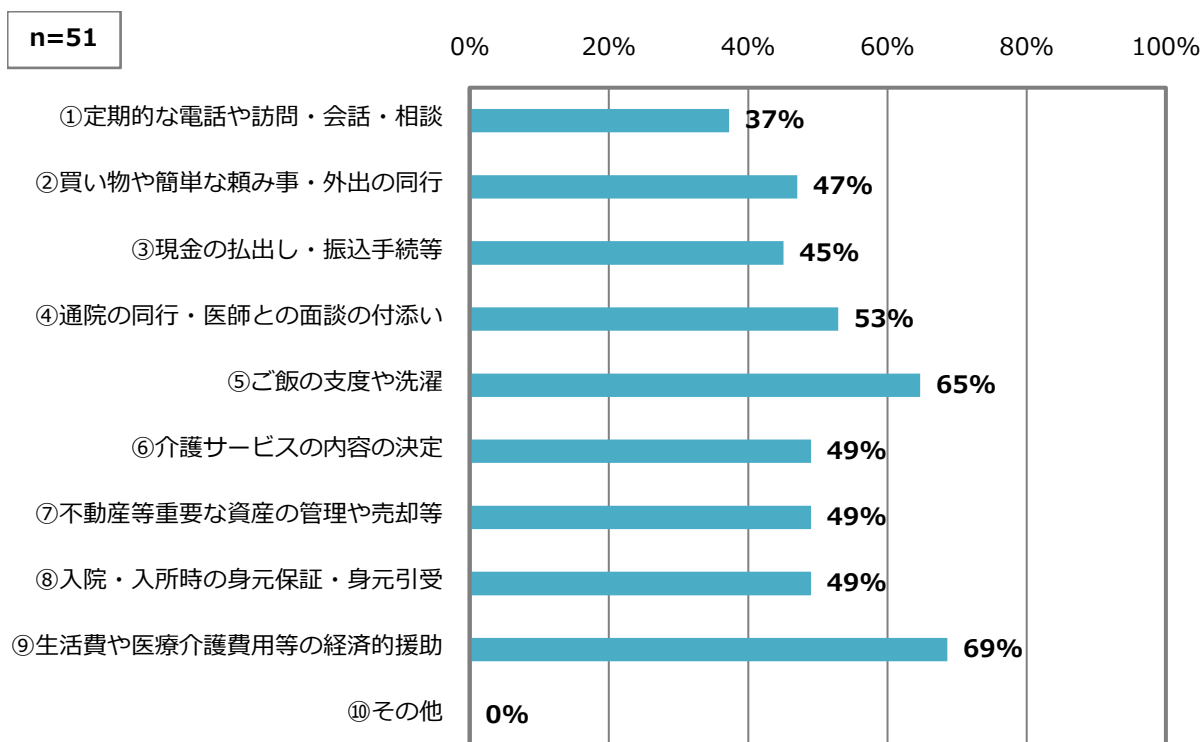


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-8-1：迷惑だと思う頼みごと（家族の介護経験の有無：あり）

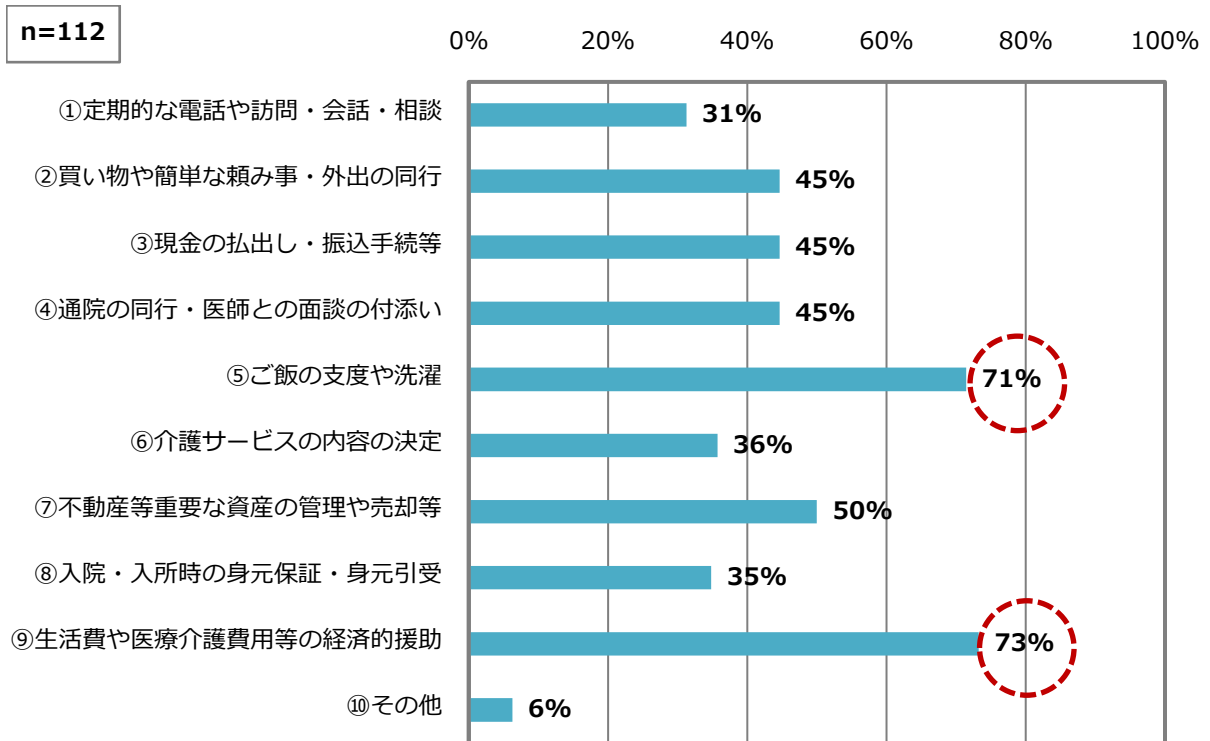


図表5-8-2：迷惑だと思う頼みごと（家族の介護経験の有無：なし）

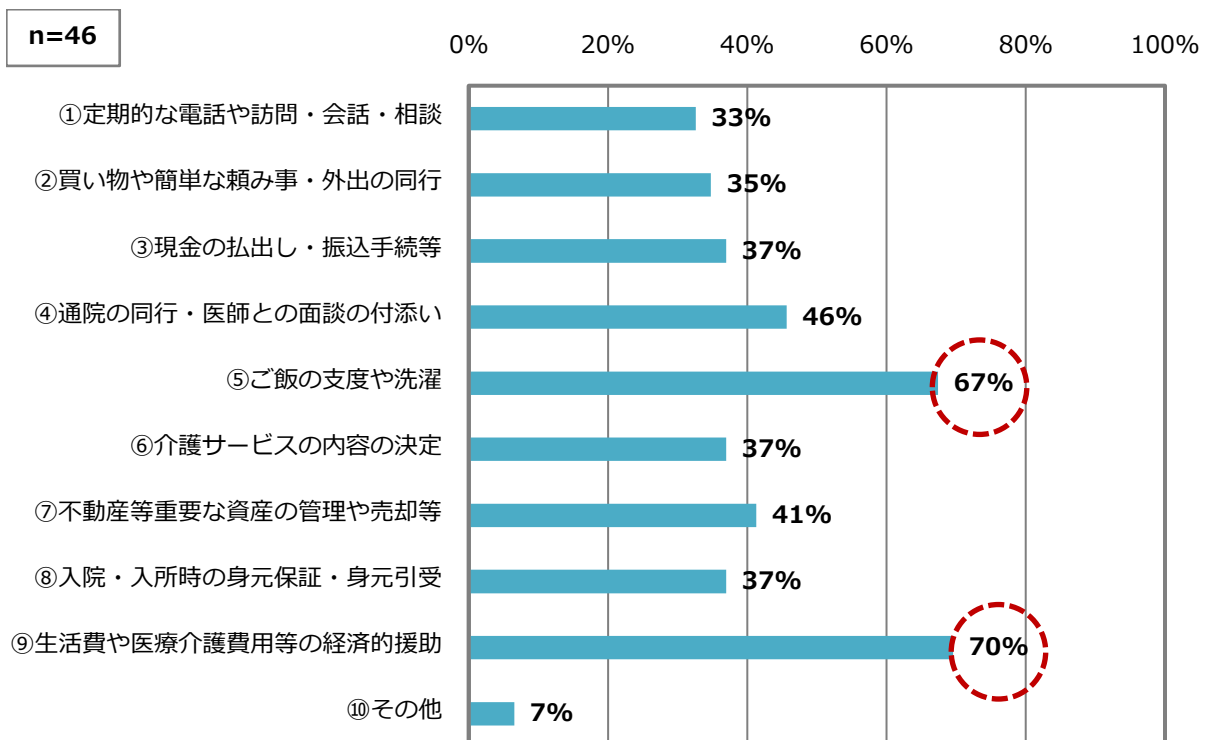


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-9-1：迷惑だと思う頼みごと（日常会話の有無・頻度：毎日～週に1回）

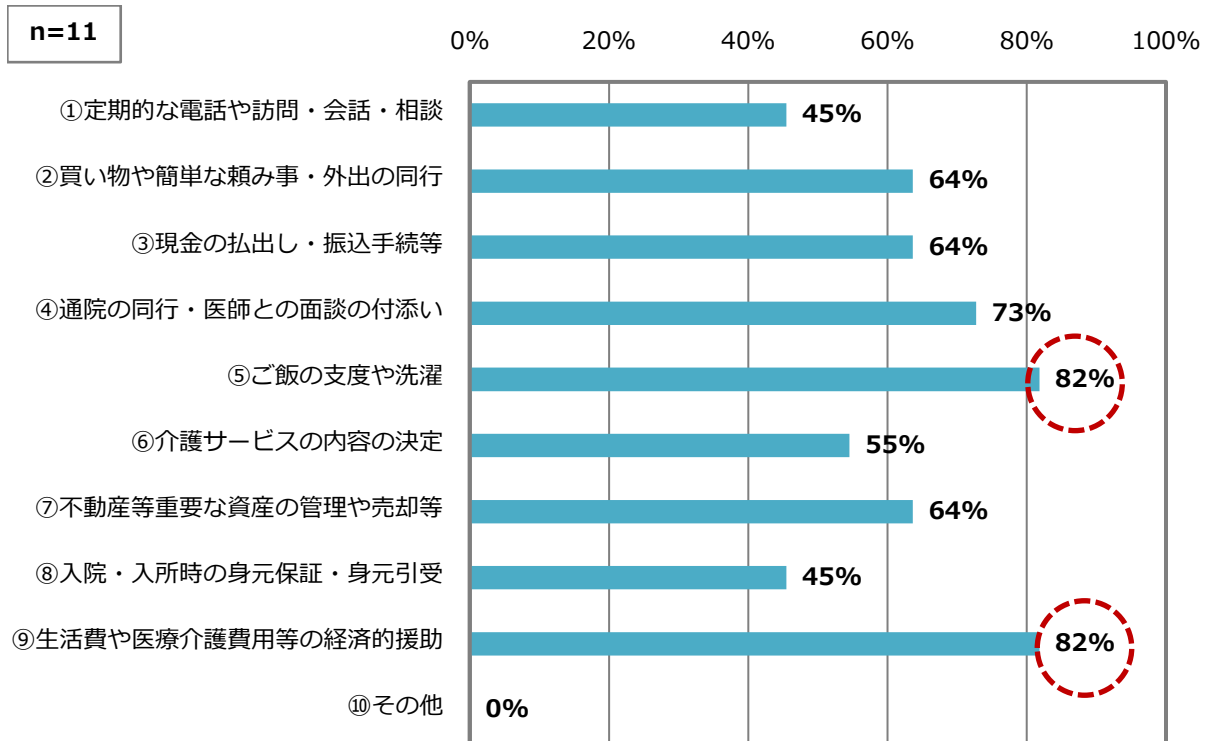


図表5-9-2：迷惑だと思う頼みごと（日常会話の有無・頻度：一月～二三月に1回）

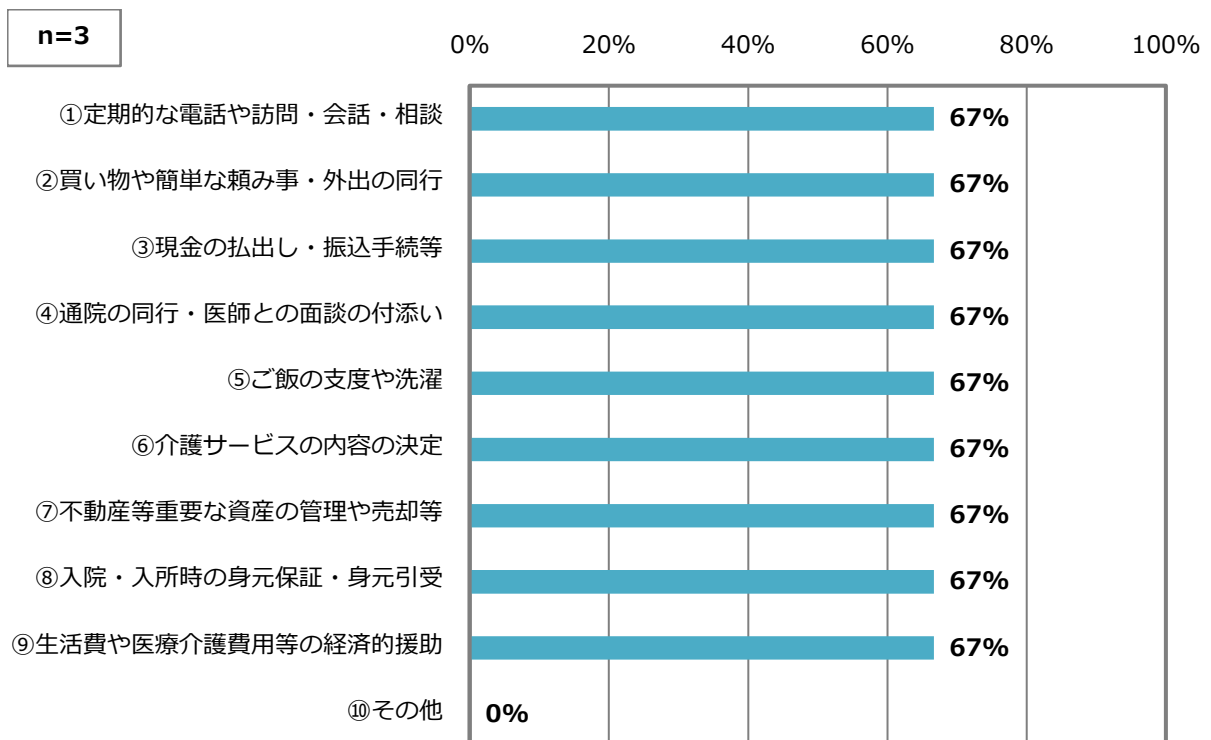


3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-9-3：迷惑だと思う頼みごと（日常会話の有無・頻度：半年～年に1回）

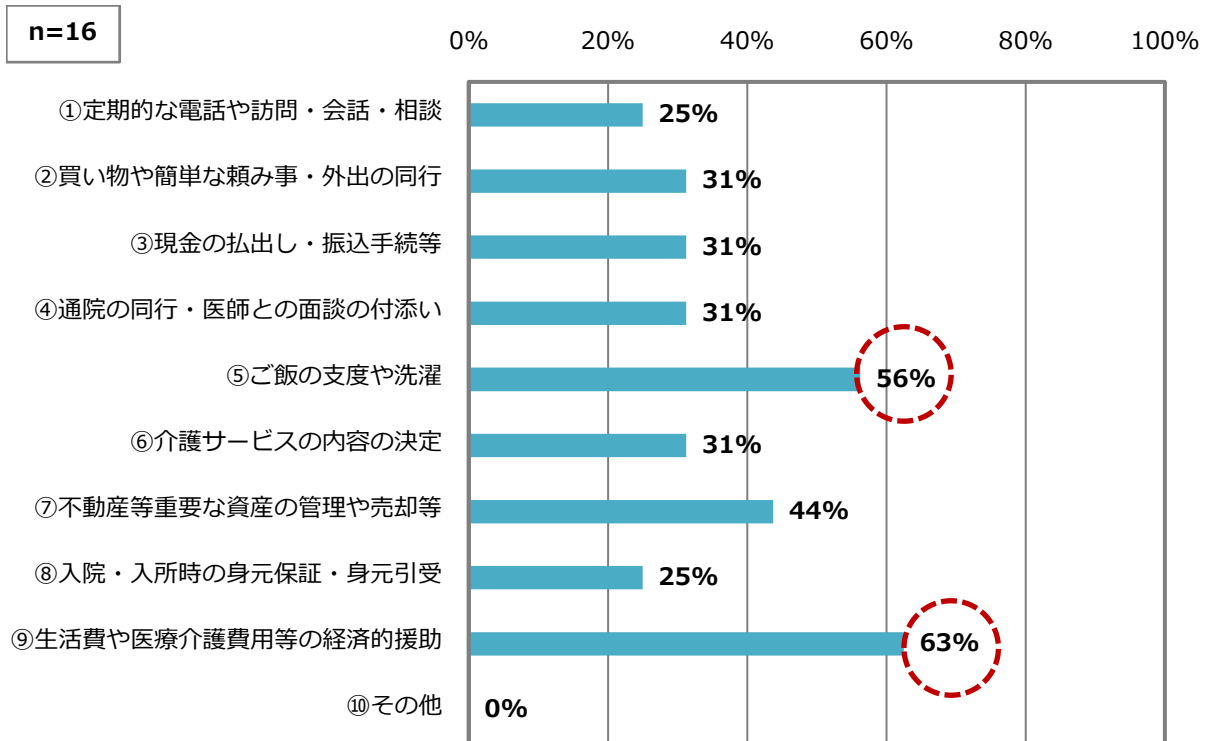


図表5-9-4：迷惑だと思う頼みごと（日常会話の有無・頻度：話をしない・音信不通）

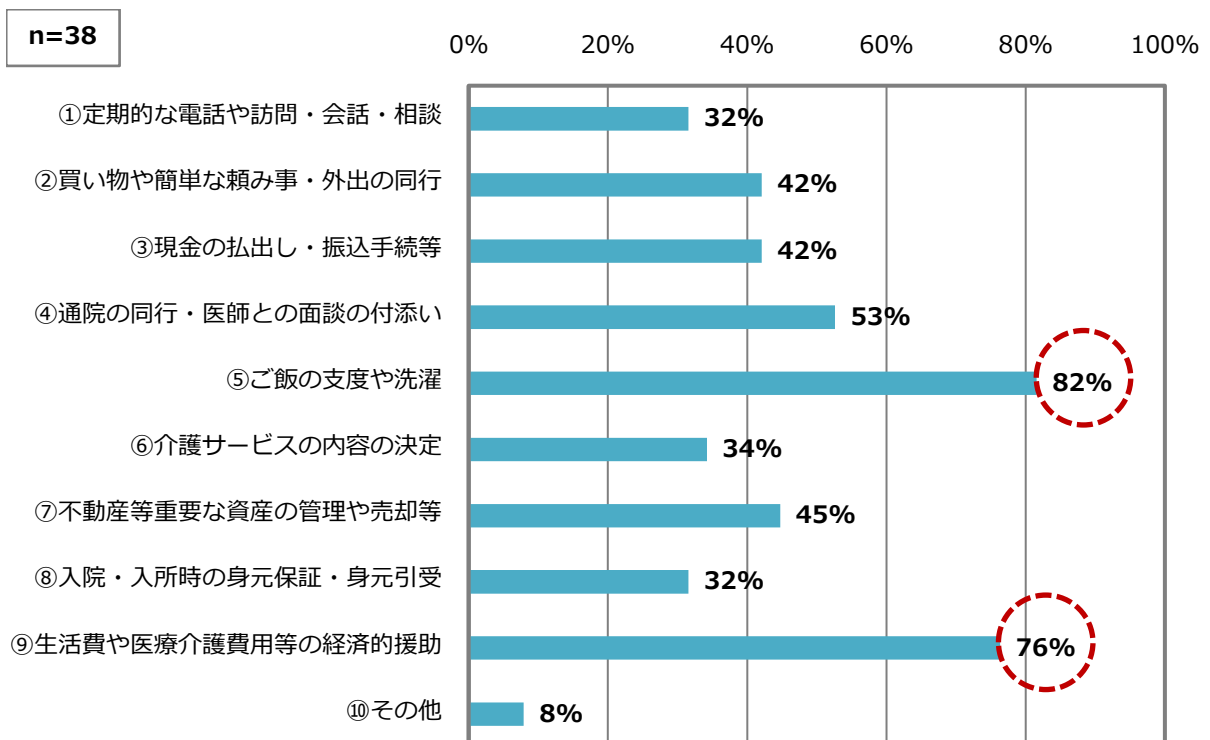


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-10-1：迷惑だと思う頼みごと（終活の話題の有無・頻度：定期的に具体的な話）

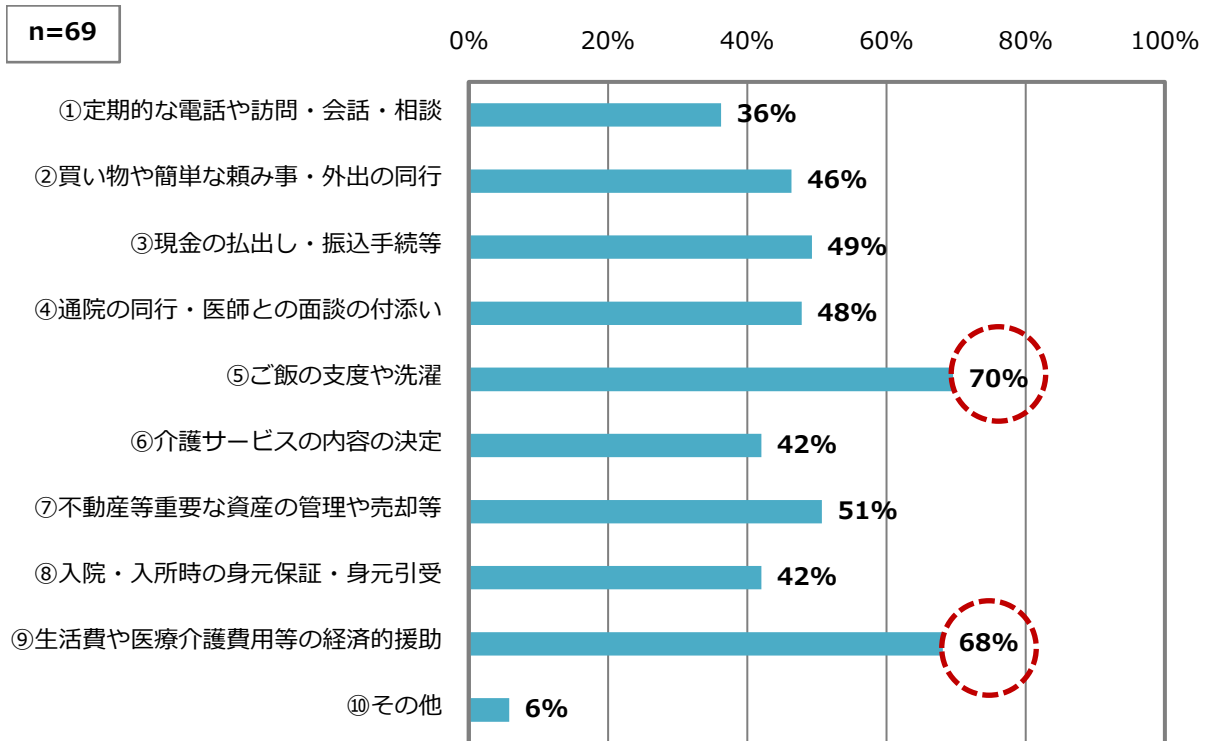


図表5-10-2：迷惑だと思う頼みごと（終活の話題の有無・頻度：定期的な話題のみ）

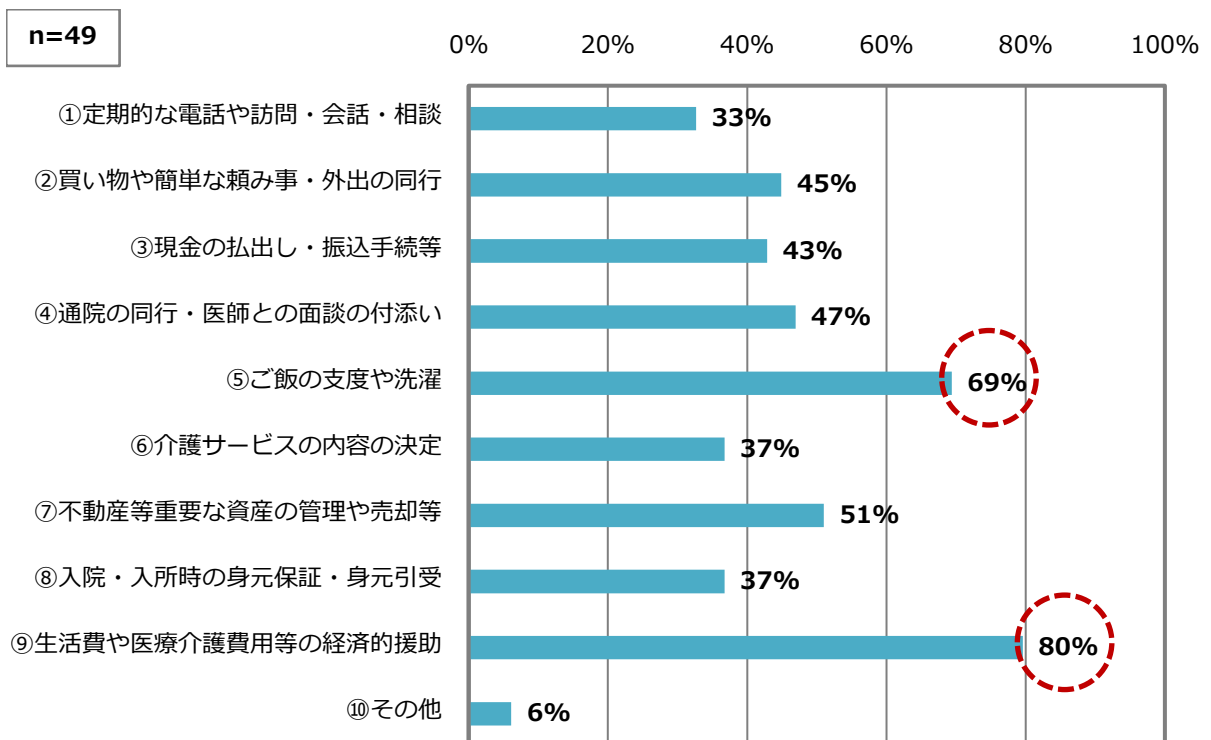


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表5-10-3：迷惑だと思う頼みごと（終活の話題の有無・頻度：話題にはなる）



図表5-10-4：迷惑だと思う頼みごと（終活の話題の有無・頻度：話題にならない）



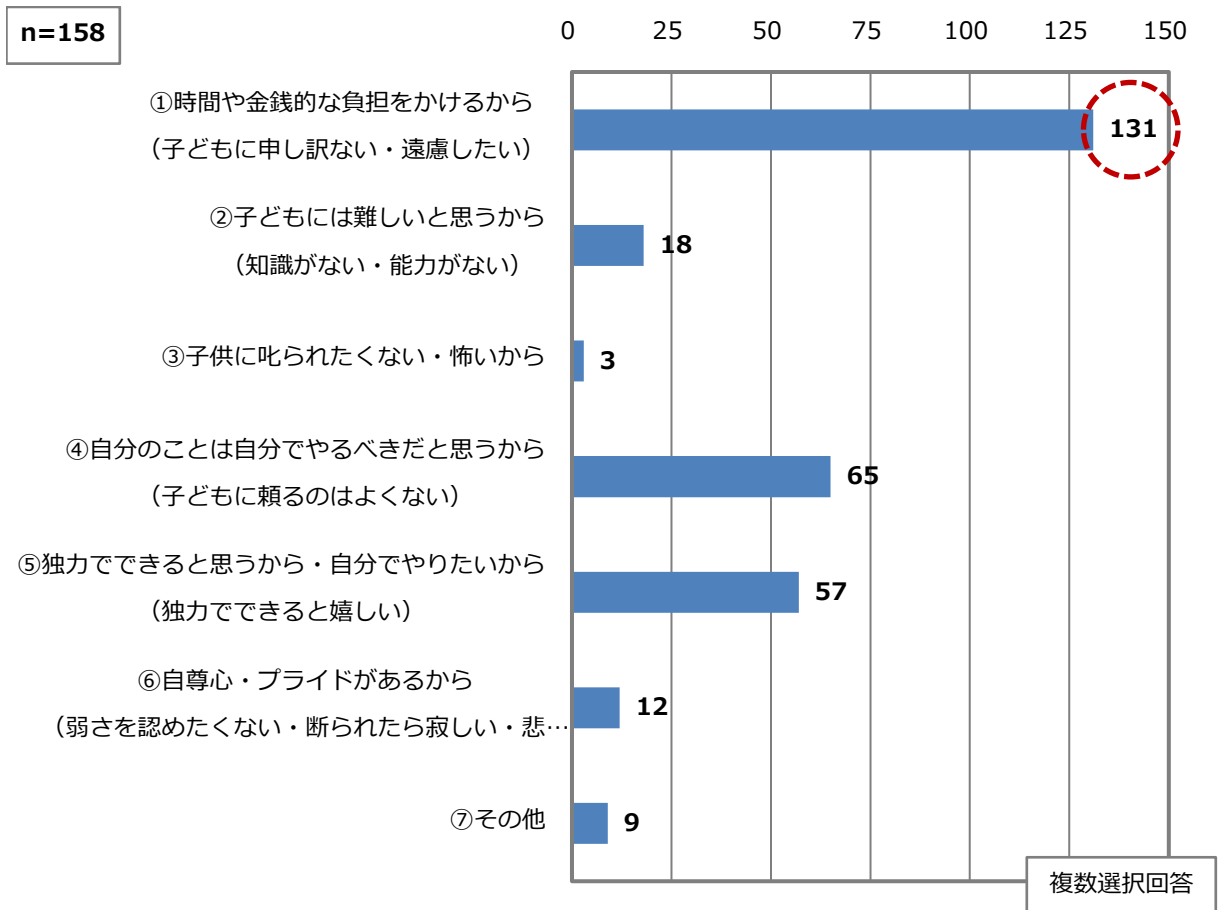
3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

⑦を選択せず、①～⑥を選択した回答者の記入内容は、以下の通りである。

- 現在は夫婦でいてお互いに助け合えていると思っているので、このような答えになりました（①選択）
- 認知症になったら家族に頼るのは仕方のないこと（①選択）
- 時々事は頼みたいが、毎日におよぶ事などは負担になると思う（①⑤選択）

図表6：迷惑だと思ふ理由

単位：件



■ 考察

核家族化の進展の影響と思われるが、①の回答が圧倒的な理由となった。親子・家族であっても、時間や金銭的な負担をかけることに対して、遠慮する気持ちが見てとれる。特に回答者が50代以上の場合には、子どもも社会人となっていることから、子どもと対等の立場で相手に配慮する気持ちが働くと思われる。

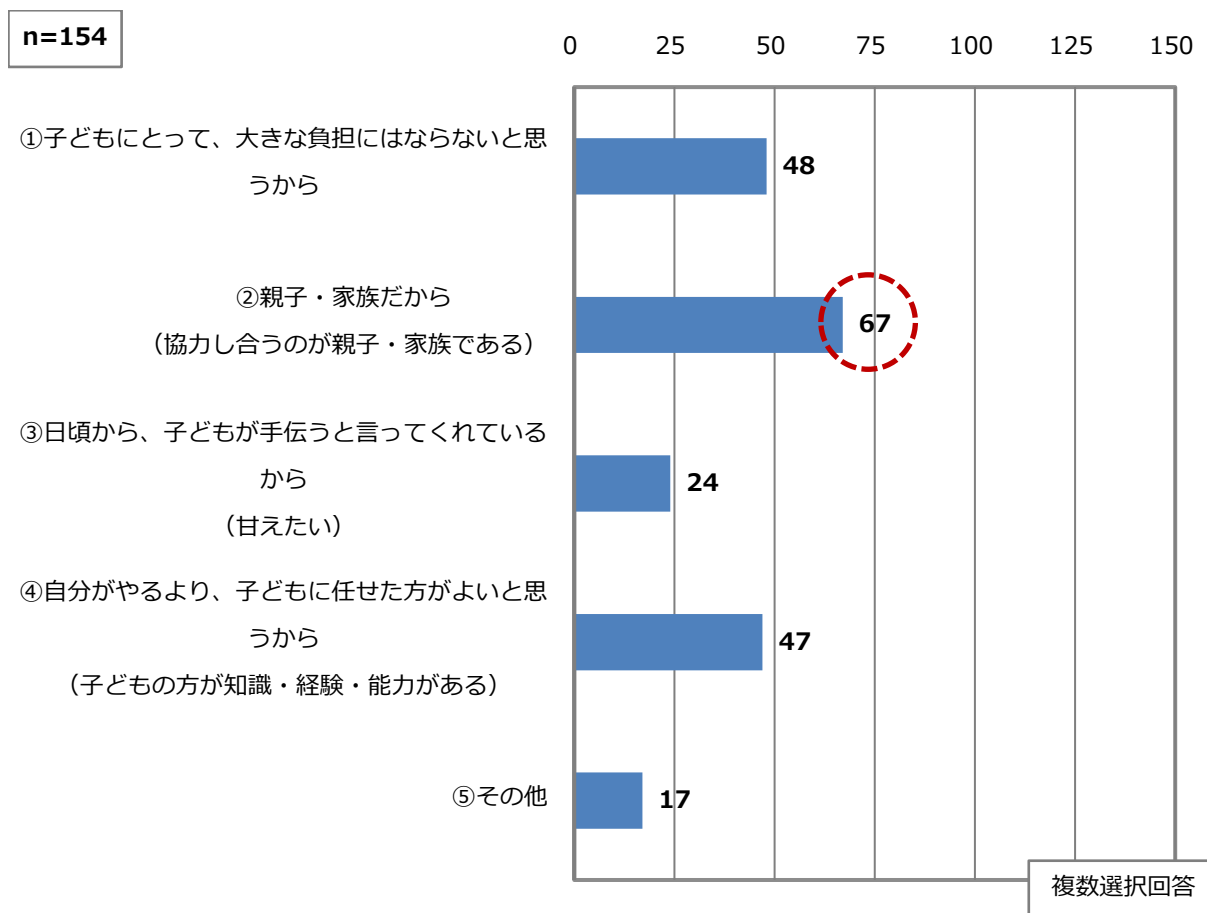
注目すべきは、選択肢④と⑤の回答数もかなり見られたことである。どちらの選択肢も自立意欲の表れと認められる回答であり、迷惑意識と自立意識が同居していた。迷惑という言葉の重層性を裏付ける結果と言える。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- ある程度の負担は子供の気持ちでやりたいと思うのではないかと思います。但し、決定などの負担はやらせないように努力したい。
- 視力がないため、手伝ってもらっている。考えたことはない。

図表7：迷惑だと思わない理由

単位：件



■ 考察

選択肢②が最多となったが、親子・家族だからという回答の背景には、日常的に頼みごとをしている、日常的なやりとりや行き来があり、気兼ねなく頼めるという心理的な要因が大きいと考えられる。実際に迷惑と思うかどうかは、頼まれる子どもの側の受け止め方にもよるため、親が勝手に忖度しているだけだということも言える。頼みごとが子どもにとって日常的なものか非日常的なものかが、「迷惑」をかけていると思うかどうかの判断基準となっていると考えられる。

選択肢④の子どもの能力を信じて任せるという考え方は、単に頼んでいるというより、自ら自己決定しているという自立意識を垣間見ることができ、他人への依存のあり方として望ましい考え方と言える。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

問 8：「子どもが親の面倒を見る」という考え方

■ 質問と選択肢

「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前だと思いますか。どちらかに○をしてください。
また、その理由は何ですか。（ ）内に自由にご記入ください。

① はい

② いいえ

理由（ ）

■ 質問の意図

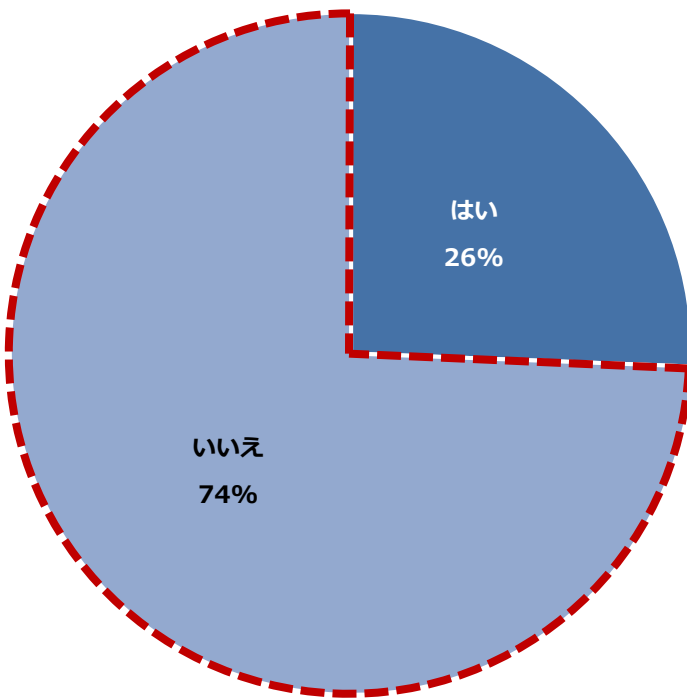
本問は、「子どもが親の面倒を見る」という考え方について賛否を問うものである（単一選択回答）。

■ 回答結果（図表8-1参照）

結果は、「②いいえ」反対の回答が74%と多数を占めた。

図表8-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か

n=164



単一選択回答

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 選択理由 (図表8-2参照)

「子どもが親の面倒を見る」の質問に対して回答を選択した理由について記入回答を求めたところ、144件 (80%) から記入回答を得た (回答結果は後述)。

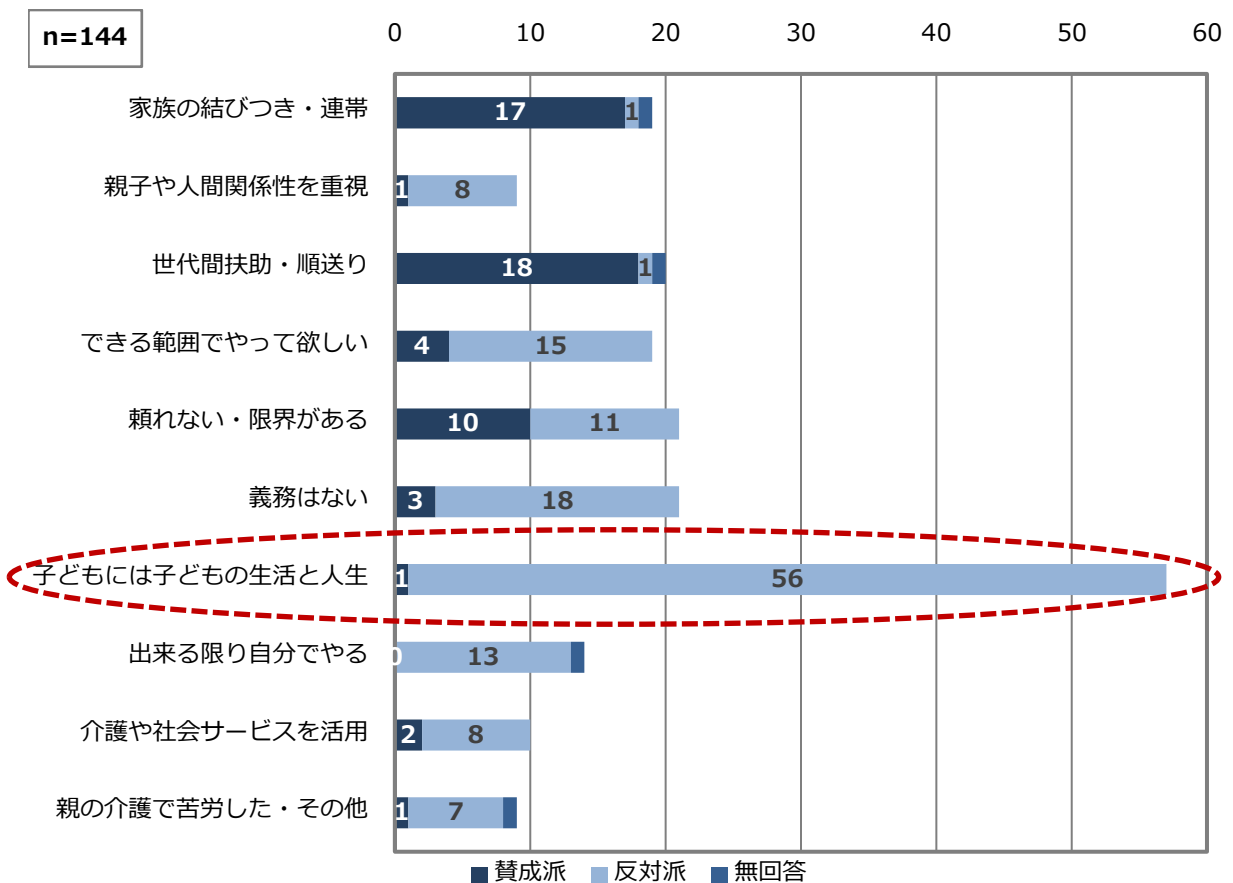
賛成派・反対派の回答を集計分析したところ、それぞれ、以下のような特徴が見られた。

- 賛成派：家族愛重視や世代間扶助を理由に挙げる。
- 反対派：核家族化に起因する気遣いと時代の変化、自助努力重視などを理由に挙げる。

「できる範囲のことはして欲しい」という回答や「子どもに頼れない、限界がある」という回答は、賛否を問わず見られた。核家族化等の影響や社会保障への不安が窺える。

図表8-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か (理由)

単位：件



3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 選択理由（記入回答：文字が不明等の場合や固有名詞の場合は□で伏字とした）

選択理由を分類すると、以下の通りとなった。

なお、問5の迷惑意識について、▲遠慮しない派、●法制度利用者の場合に印をつけた。

家族の結びつき・連帯

A：賛成の回答者

- 「面倒を見る」範囲にもよると思いますが、関わり続けるのが家族だと思うので。プロ・専門家の手を借りて、精神的・身体的・経済的負担を軽くしながら関わり続けられるのが良いと思います（70代女性）。NO.5
- 「面倒を見る」範囲に人間としての精神的なつながりは必要（70代男性）。NO.6 ●
- 面倒を見るのは当然と思うが、それが儒教的にはそうであって、現実はいけません。大きな悩み事で問題であります（80代女性）。NO.11 ●
- あたりまえ。望ましい。けれども子どもの生活を尊重したいので、できるだけ邪魔したくない。しない方がよい（80代女性）。NO.17
- 家族だから（70代女性）。NO.24
- 当たり前だとは思わないが、他人より子供には頼みやすいし話しやすい為、面倒を見てほしい（60代女性）。NO.38
- 面倒を見るというのが、身の回りの世話だけを指していないから。存在として後ろ盾になるだけで充分面倒を見ていると思う（60代女性）。NO.51
- 常に親子関係が密になっている場合、必然的に見ることは当然だと思う（60代女性）。NO.52 ▲ ●
- 当たり前のことだから。理屈抜きで。ただし限界があるのは間違いないでしょう（60代男性）。NO.53
- 娘夫婦が居るから（80代男性）。NO.85
- 子供が無理のない範囲で見るのは、仕方がないと思う。それは、やはり家族だから。お互い助け合ってきたから（60代女性）。NO.126
- 大好きだから（50代女性）。NO.127
- 家族という深いつながりがあるから。ただ過多となり、子供の生活（人生）を変えてしまうほどの面倒は別と考える（50代女性）。NO.134
- 当たり前とは思わないが。そうあって欲しい思いがあります（60代女性）。NO.145
- 育ててもらった恩があるし、家族だから（20代女性）。NO.154
- 子どもが親に対して自主的に思ってくれている。そのような思いを子ども持ってくれることに疑問はない（80代女性）。NO.164 ▲
- 親子だから（70代女性）。NO.170

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

B：反対の回答者

- 育て方だと思う。見る事が義務になると負担だが、心配でもあるし、何よりやってあげたい。やらないと悔いが残るという気持ちの範囲で面倒をかけるのは必要だと思う（自分がそうだったので）（60代女性）。NO.155

C：無回答者

- 家族であるので、「親の面倒を見る」のは当たり前とも思いますが、なるべく自分で行うようにしたい（40代男性）。NO.131

親子や人間関係性を重視

A：賛成の回答者

- 「親子」にかかわらず困っていれば助け合うことは当たり前と思う（70代女性）。NO.163

B：反対の回答者

- 「子どもだから」とは考えないです。それぞれの生き方や暮らしがある。「人」としてどうするか、という問題だと思います。ただ私としては、これまでの私を知っていて価値観とかも知っている彼らが、相談相手としては一番だと思っています（60代女性）。NO.1
- 当たり前とは思いません。そういう心情は持っている方が豊かな人生と思うので、困っているなら助けたいという愛情が育つ関係性でありたいと思います（60代女性）。NO.2
- 親への介護義務はないと思う。あくまでそれまでの関係性だと思う（50代女性）。NO.8
- 当たり前とは言い切れないと感じている。お互いに感謝する気持ちがあつてこそ、成り立ちえるように感じている（50代女性）。NO.10
- 当たり前と思ったら、子供により影響を与えない。自発的にやってもらえたらうれしい（50代男性）。NO.60
- 親子の関係にもよる（50代男性）。NO.87
- 双方の信頼関係がどこまでできているかによると思う（50代女性）。NO.149
- 育て方だと思う。見る事が義務になると負担だが、心配でもあるし、何よりやってあげたい。やらないと悔いが残るという気持ちの範囲で面倒をかけるのは必要だと思う（自分がそうだったので）（60代女性）。NO.155

世代間扶助・順送り

A：賛成の回答者

- 母と私で祖父母をみて、現在母と私で、私の子供をみている。順番。うまくいくと思う（30代女性）。NO.18 ▲
- 私もそうしてきました（70代女性）。NO.25

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 順番だから(70代女性)。NO.34 ▲
- 順番だから(70代女性)。NO.36 ▲
- 親には親の責任、子には子の責任があると思うから(50代男性)。NO.96
- その程度、頻度の差はあったとしても、「家族」は助け合うものだと思うから。負担になりすぎないように、制度やサービスを活用しながら、その家、家族らしい生活が送れば良いと思う(40代女性)。NO.104
- 過剰な負担にならない範囲で、家族で協力し合うことはあたりまえのことだと思うから(50代女性)。NO.105
- 昔から子どもが親の面倒を見るのがあたりまえだと思うから(60代男性)。NO.112
- 子どもに出来るだけ迷惑掛けないように生きていきますが、やはり終活は、協力してもらうのが人生なのかと考えているが(年代性別不明)。NO.121 ●
- 面倒を見るのが当たり前と思うわけではないが、その時が来たらお願いすると思う(60代女性)。NO.124
- 子供が無理のない範囲で見るのは、仕方がないと思う。それは、やはり家族だから。お互い助け合ってきたから(60代女性)。NO.126
- 自分も親の面倒を見てきたし、当然だと思う(60代女性)。NO.140
- 親が子どもを「育てた」という、又は子どもが親に「育てられた」という実感があれば、恩返しとして程度はともかく、何かしら面倒を見ることは自然な事だと思います(50代女性)。NO.148
- 育ててもらった恩があるし、家族だから(20代女性)。NO.154
- 自分が子どもの立場で考えてみると、「1人前に育ててくれた」「愛情を持って育ててくれた」ので、親ができないことが増えた時は、お互い助け合い協力する、親にしてもらったことをお返しするのは当然だと思うので、できることはしていきたいと思うから(40代女性)。NO.157
- いつも面倒を見ると言っている(80代女性)。NO.159
- 「親子」にかかわらず困っていれば助け合うことは当たり前と思う(70代女性)。NO.163
- 産んで育ててくれたので(60代男性)。NO.176

B : 反対の回答者

- ある程度は面倒をみるのは当然と思うが、子どもが「負担」を感じてしまう事柄については公的サービスなどを利用すべきと思う(「負担」の感じ方人それぞれなので、一律には決められないと思うし、決める必要はないが)。その子どもが負担と感知することがあれば、包括、行政、社協などに相談すれば良いと思う(50代男性)。NO.97

C : 無回答者

- 自分は親に育ててもらったので、面倒を見る。子も私が育てたので、子の子(孫)を産めば分かってくれると思う(40代女性)。NO.114

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

できる範囲でやって欲しい

A：賛成の回答者

- 当たり前だとは思わないが、他人より子供には頼みやすいし話しやすい為、面倒を見てほしい（60代女性）。NO.38
- 他人には頼めないから（60代女性）。NO.56
- いずれ我が身（70代女性）。NO.66
- 基本的には思うが、子どもに過度な負担がかかる場合は、サービスを利用したり、他の人に頼ることもありだと思ふ（40代女性）。NO.88

B：反対の回答者

- できる範囲でしてほしい（70代男性）。NO.69
- 当たり前ではない。子供も自分達の生活があるので、そう思わせたくない。最終的に出来ない事は頼むが、日頃から相談して助言してもらおうと思っています（60代女性）。NO.70
- 助けてもらう事には感謝するが、当たり前だとは思わない（70代女性）。NO.72 ●
- その時々で事情があるから。当たり前とは思わないが、頼めれば頼みたいし、無理なら別の方法を探す（60代女性）。NO.75
- 全ての面倒は無理だと思ふ。できる事をやってもらいたい（60代女性）。NO.78
- お互い独立した人として考える。ただし協力あえるときはできる関係と思っている（60代女性）。NO.89
- 当たり前だとは思わない。それぞれの家庭や生活がある。ただし少しでも手伝ってくれたらうれしいと思ふ（50代女性）。NO.91
- それぞれの生活がある。ただし、配偶者はすでに亡くなっているので、最後は頼ることになる（60代男性）。NO.93
- 面倒をみてくれたら嬉しいが、義務とは思わない。今は、子どもの他にサービスや介護を受けられるので（40代女性）。NO.94
- 家族といっても、できる事とできない事があると思ふ。できる事は行えば良いし、無理なときは手伝ってほしいと声を上げる事も大切で、それによって親が自立できるようにした方がよい（50代女性）。NO.99
- 出来る部分、入院の手續等は子どもにお願いしたい（60代女性）。NO.136
- 子供の人生、個人の考え方、みてくれるのもあればありがたいが、自分からは言わない（50代女性）。NO.137
- 面倒を見て欲しいと思っていますが、子供には子供の生活があり、難しいのではとも思っています（70代女性）。NO.141
- 妻がいるから（70代男性）。NO.167
- 当たり前だと思う気持ちはもっていませんが、やはり娘たちには相談事や何かあった時には頼る事が多々あると思ふ（60代女性）。NO.177

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

頼れない・限界がある

A：賛成の回答者

- 面倒を見るのは当然と思うが、それが儒教的にはそうであって、現実はいけません。大きな悩み事で問題であります(80代女性)。NO.11 ●
- 当たり前のことだから。理屈抜きで。ただし限界があるのは間違いないでしょう(60代男性)。NO.53
- 最初から施設へというのではなく、どこまで子どもたちが見られるかも考慮すべきだと思う(60代女性)。NO.61 ▲
- 昭和の末期までは、子どもが親の面倒をみることは当たり前の風潮であったが、平成、令和になると、子どもに頼ることができない。特に経済的問題が重要である。子どもそれぞれ家庭、家計があり、生活も難しい時となった。そのため、子ども、親それぞれ独立した考えとなったため、子どもに頼ることはむずかしい(80代男性)。NO.82
- 基本的には思うが、子どもに過度な負担がかかる場合は、サービスを利用したり、他の人に頼ることもありだと思う(40代女性)。NO.88
- 全てではないが、最終的にはお世話にならざるを得ない。最小限にとどめたいと思う(40代女性)。NO.102
- 過剰な負担にならない範囲で、家族で協力し合うことはあたりまえのことだと思うから(50代女性)。NO.105
- 子どもに出来るだけ迷惑掛けないよう生きていきますが、やはり終活は、協力してもらうのが人生なのかと考えているが(年代性別不明)。NO.121 ●
- 子供が無理のない範囲で見るのは、仕方がないと思う。それは、やはり家族だから。お互い助け合ってきたから(60代女性)。NO.126
- 家族という深いつながりがあるから。ただ過多となり、子供の生活(人生)を変えてしまうほどの面倒は別と考える(50代女性)。NO.134

B：反対の回答者

- 私自身は両親の面倒を最後まで見ましたが、子どもには家庭もあるので、全面的には無理かな(70代女性)。NO.77
- 全ての面倒は無理だと思う。できる事をやってもらいたい(60代女性)。NO.78
- 家族といっても、できる事とできない事があると思う。できる事は行えば良いし、無理なときは手伝ってほしいと声を上げる事も大切で、それによって親が自立できるようにした方がよい(50代女性)。NO.99
- それぞれの生活がある中で、限界はある。出来る事はやればいいが、出来ないことは制度・サービスに頼ればいいのかと思っているから(30代男性)。NO.100
- 核家族化、出産する子の減少、平均寿命の伸び、都市部への人口の過度な集中等、昔と比べて社会状況が大きく変容してしまった現在、子どもが親の面倒を見ることは、より困難な状況にある。福祉サービスの利用抜きには考えにくい(60代男性)。NO.107

●

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 以前ならば面倒を見るのが当たり前の世の中だが、認知症になる方などの世話は大変だし、負担が大きすぎる(50代女性)。NO.118
- 子どもが親の面倒を見るのが理想だと思っても、現代は核家族が多く、子どもが親の面倒を見るのが困難になっています。日中、家族が働いていて、高齢者がひとり留守番になったり、元気ならいいが、認知症など病気になり、一人でいることが困難になった時、家族だけでは担いきれないと思います(60代女性)。NO.138
- 当たり前とは思いません。高齢化が進み、体力、金銭面共に子供にかかる負担が多くなるため(50代女性)。NO.139
- 面倒を見て欲しいと思っていますが、子供には子供の生活があり、難しいのではとも思っています(70代女性)。NO.141
- かつての扶養義務よりも、その内容が拡大、深化しており、かつての時代とは、その負担は比較にならない程、重くなっているため(60代男性)。NO.146
- 近年は、若い人の生活も大変になってきているから(60代男性)。NO.171

義務はない

A：賛成の回答者

- 当たり前だとは思わないが、他人より子供には頼みやすいし話しやすい為、面倒を見てほしい(60代女性)。NO.38
- 面倒を見るのが当たり前と思うわけではないが、その時が来たらお願いすると思う(60代女性)。NO.124
- 当たり前とは思わないが。そうあって欲しい思いがあります(60代女性)。NO.145

B：反対の回答者

- 当たり前とは思いません。そういう心情は持っている方が豊かな人生と思うので、困っているなら助けたいという愛情が育つ関係性でありたいと思います(60代女性)。NO.2
- 親への介護義務はないと思う。あくまでそれまでの関係性だと思う(50代女性)。NO.8
- サポートしたいと思ってくれるとすばらしいが、当たり前とは思わない。素人よりプロに任せるほうが良い領域もあるので、やってもらって迷惑に感じることも多いと思う(60代女性)。NO.9
- 当たり前とは言い切れないと感じている。お互いに感謝する気持ちがあつてこそ、成り立ちえるように感じている(50代女性)。NO.10
- 私自身、義父に「子供が親の面倒をみるのは当たり前」と言われてカチンときたことがあります。子供の方から「気にしなくていいのよ。親の面倒を子供がみるのは当たり前だから」と言うのは親の気持ちを楽にするために言う言葉です。親が自ら「子供が親の面倒をみるのは当たり前」と要求するのは傲慢だと思います。それだけの金でも渡すならまだしも、無償で労力を期待するのは時代錯誤としかいいようがありません(60代女性)。NO.57

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 当たり前ではない。子供も自分達の生活があるので、そう思わせたくない。最終的に出来ない事は頼むが、日頃から相談して助言してもらおうと思っています(60代女性)。NO.70
- 当たり前だとは思いません。夫婦二人で助け合って過ごそうと現在は話し合っています。その時は分かりませんが、現在の気持ちです(70代女性)。NO.71 ●
- 助けてもらう事には感謝するが、当たり前だとは思わない(70代女性)。NO.72 ●
- その時々で事情があるから。当たり前とは思わないが、頼めれば頼みたいし、無理なら別の方法を探す(60代女性)。NO.75
- 当たり前だとは思わない。それぞれの家庭や生活がある。ただし少しでも手伝ってくれたらうれしいと思う(50代女性)。NO.91
- 面倒をみてくれたら嬉しいが、義務とは思わない。今は、子どもの他にサービスや介護を受けられるので(40代女性)。NO.94
- 子供にも自分達の生活があるので、当たり前だとは思わない。自分でできることはなるべく自分でしたい(70代女性)。NO.116
- 当たり前とは思いません。高齢化が進み、体力、金銭面共に子供にかかる負担が多くなるため(50代女性)。NO.139
- 自分の親は面倒を見たいが、それを子供達に強制はしたくない。経済的な事はもちろんの事、身体的な事はそろそろ考えなければと思っています(70代女性)。NO.144
- 義務ではないと思います。義務だから面倒を見てもらうのはさみしいし辛いです(50代女性)。NO.152
- 育て方だと思う。見る事が義務になると負担だが、心配でもあるし、何よりやってあげたい。やらないと悔いが残るという気持ちの範囲で面倒をかけるのは必要だと思う(自分がそうだったので)(60代女性)。NO.155
- 時代ではないと思います(70代男性)。NO.169
- その考え方は日本的(60代女性)。NO.178

子どもには子どもの生活と人生

A：賛成の回答者

- あたりまえ。望ましい。けれども子どもの生活を尊重したいので、できるだけ邪魔したくない。しない方がよい(80代女性)。NO.17

B：反対の回答者

- 子どもには子どもの生活があるから(70代女性)。NO.12 ▲
- それぞれ独立した家庭を持っているのだから、迷惑をかけたくない。特に息子は東京ですから(80代男性)。NO.16
- 子どもの家庭があるので面倒な？負担をかけたくない!!(70代女性)。NO.19 ●
- 子供には子供の生活があるから(80代女性)。NO.21

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 子供の生活をみだしたくない(70代女性)。NO.22 ●
- たいへんだから(80代女性)。NO.23
- それぞれの生活があるから(60代女性)。NO.26 ▲
- 苦労を掛けたくない。自分が親の面倒をみて苦労したから(70代女性)。NO.28
- 子供達にもそれぞれ生活があるから(80代女性)。NO.29
- 自分達の生活があるから(80代女性)。NO.30
- 子供達もそれぞれの生活があるから(70代女性)。NO.31
- 子供は子供の生活があるから(80代女性)。NO.40
- 子供が仕事で朝早い、帰りがおそいので(80代女性)。NO.41
- 子供達も家族があるのでむずかしいです(70代女性)。NO.42
- 人それぞれの考え方、感じ方を尊重(80代女性)。NO.47 ●
- 18年の母親の介護があまりにも大変だったから。もう両親を見送ってほっとしている。自分の時間を大切にすべき(60代女性)。NO.48 ▲
- 子どもは自由であってほしい(60代男性)。NO.49 ▲ ●
- 当たり前とは思わない。家族であるものの、個々の人生があるため、尊重して生きるべきと思うため(40代女性)。NO.55
- 昔は親子の意識でも「親を大切にしないと自分の代で大切に、子供から世話してもらえない」等々と言い聞かせられた時代でした。今回、親も子も自立して生きていく仲で幸せを掴んで生きていく世の中と考えるから(70代男性)。NO.59 ▲
- 子どもには、自分の生活を優先にしてほしいから(60代女性)。NO.62
- 今の時代は“個”の時代となったと思います。子だからと云う事も現代は困難と思える(60代男性)。NO.67 ●
- 当たり前ではない。子供も自分達の生活があるので、そう思わせたくない。最終的に出来ない事は頼むが、日頃から相談して助言してもらおうと思っています(60代女性)。NO.70
- それぞれの家庭の親子関係の経過、事情、受け止め方の違いがあるから(70代男性)。NO.73 ▲
- 子どもにはそれぞれ家庭があり、家計のために働いているので、出来るだけ心配をかけたくない。むしろ見守ってあげたい。そのため、日々健康のためにいろいろな努力をしている(70代女性)。NO.74
- その時々で事情があるから。当たり前とは思わないが、頼めれば頼みたいし、無理なら別の方法を探す(60代女性)。NO.75
- 私自身は両親の面倒を最後まで見ましたが、子どもには家庭もあるので、全面的には無理かな(70代女性)。NO.77
- 子は自分の生活がある(70代男性)。NO.83
- 別人格だから。それぞれの人生がある(50代女性)。NO.86 ●

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- お互い独立した人として考える。ただし協力あえるときはできる関係と思っている (60代女性)。NO.89
- 親子であっても人格は別であるから (50代男性)。NO.90
- 当たり前だとは思わない。それぞれの家庭や生活がある。ただし少しでも手伝ってくれたらうれしいと思う (50代女性)。NO.91
- 子どもには子どもの生活があるため面倒はかけたくない (30代男性)。NO.92
- それぞれの生活がある。ただし、配偶者はすでに亡くなっているので、最後は頼ることになる (60代男性)。NO.93
- 子どもは、この先自分達が生きていく行くことに苦労すると思う。なるべく親の事で負担をかけたくない (50代女性)。NO.106
- 子と親の人生は別なので (40代女性)。NO.110 ●
- 親子であっても独立した個人であるから (60代女性)。NO.111
- 子どもにも生活があり、全てを当たり前とは思わない (30代女性)。NO.113
- 自分の立場だと親の面倒を見るのは、子供として当たり前だと思うところはあるのですが、実際、自分が子供達に老後を見てもらう必要はないと思っています。負担をかけたくない、子供達には、子供達の生活があるから (60代女性)。NO.115
- 私自身、両親の介護をし、仕事を退職せざるを得なかった。思い、仕事との両立の難しさ、神経をすり減らす日々でした。娘には、そんな思いをさせたくないと思います (70代女性)。NO.117
- 子供には子供の生活があり、負担をかけたくない (30代男性)。NO.120
- そう考える親も少なからず居ると思います。大人になるまで育てたのだからと。でも親は子供を一人前にして社会に出す事が使命で、親のモノではないと考えるからです (50代女性)。NO.122
- 子供には子供の人生がある。子供達の家族がある (50代女性)。NO.123
- 子供の生活スタイルを変えたくない。ストレスになる負担はかけたくないし、かけられたくもない (50代女性)。NO.125
- 子供達には、それぞれ家庭があり、子育てがあり、生活も大変だと思うから (50代女性)。NO.128
- 子供達は独立したのだから、自分達の生活を重点的に将来に備えて欲しい (70代男性)。NO.132
- それぞれの生活があるから (50代女性)。NO.133
- 今はそういう時代ではない (70代女性)。NO.135
- 子供の人生、個人の考え方、みてるのもあればありがたいが、自分からは言わない (50代女性)。NO.137
- 面倒を見て欲しいと思っていますが、子供には子供の生活があり、難しいのではとも思っています (70代女性)。NO.141
- 子供にも家庭があるから (70代女性)。NO.147

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 子供には子供の事情があり、一概に頼むことは難しいため(60代女性)。NO.150
- 子どもの生活もあるので当たり前と思わない(60代女性)。NO.153
- 問6に同じ(50代女性)。NO.156
- 思わない。子供は子供の人生だから(80代女性)。NO.165 ▲
- 別々に生活しているので、出来るだけ負担をかけたくない(60代女性)。NO.168
- 子供に迷惑をかけたくない。子供は近くに住んでいない。NO.175/80代男性

出来る限り自分でやる

B：反対の回答者

- できれば最後まで自分でやりたい(70代女性)。NO.27
- できるだけ自分でやろうと思っている(70代女性)。NO.33
- 出来るだけ自分でやる。どうしても時は頼むと思う(70代女性)。NO.35
- 自立期に終活しておいてほしい。全て子どもにおまかせでは困る(遺言や終末期医療等の意思表示)(70代女性)。NO.44 ▲
- 問題をすべて丸投げされるのはこまる(70代女性)。NO.45 ▲
- それは昔の話。今日では、自立した生き方を目指す方が多い(70代男性)。NO.65
-
- 子どもにはそれぞれ家庭があり、家計のために働いているので、出来るだけ心配をかけたくない。むしろ見守ってあげたい。そのため、日々健康のためにいろいろな努力をしている(70代女性)。NO.74
- 家族といっても、できる事とできない事があると思う。できる事は行えば良いし、無理なときは手伝ってほしいと声を上げる事も大切で、それによって親が自立できるようにした方がよい(50代女性)。NO.99
- 自分の立場だと親の面倒を見るのは、子供として当たり前だと思うところはあるのですが、実際、自分が子供達に老後を見てもらう必要はないと思っています。負担をかけたくない、子供達には、子供達の生活があるから(60代女性)。NO.115
- 子供にも自分達の生活があるので、当たり前だとは思わない。自分でできることはなるべく自分でしたい(70代女性)。NO.116
- 実際世話になるような時が来たらどうか分からないが、死ぬまで自分のことは自分でやりたい。その方が自由だから。どうしても世話になると委縮してしまうので。自分の意志が通らないと思うので(70代女性)。NO.142
- できるだけ自己責任でやるべし(80代女性)。NO.158
- できる間は自分で(70代女性)。NO.173

C：無回答者

- 家族であるので、「親の面倒を見る」のは当たり前とも思いますが、なるべく自分でやるようにしたい(40代男性)。NO.131

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

介護や社会サービスを利用

A：賛成の回答者

- 「面倒を見る」範囲にもよると思いますが、関わり続けるのが家族だと思うので。プロ・専門家の手を借りて、精神的・身体的・経済的負担を軽くしながら関わり続けられるのが良いと思います（70代女性）。NO.5
- その程度、頻度の差はあったとしても、「家族」は助け合うものだと思うから。負担になりすぎないように、制度やサービスを活用しながら、その家、家族らしい生活が送れば良いと思う（40代女性）。NO.104

B：反対の回答者

- 介護保険の趣旨ともなっている、介護の社会化を図ることが重要だと思います（70代女性）。NO.3
- 社会的なサービスを出来るだけ使って対応してゆきたいと考えている（60代女性）。NO.4
- 子どもが全てを担う必要はないと思うから（50代男性）。NO.54
- その時々で事情があるから。当たり前とは思わないが、頼めれば頼みたいし、無理なら別の方法を探す（60代女性）。NO.75
- 面倒をみてくれたら嬉しいが、義務とは思わない。今は、子どもの他にサービスや介護を受けられるので（40代女性）。NO.94
- ある程度は面倒をみるのは当然と思うが、子どもが「負担」を感じてしまう事柄については公的サービスなどを利用すべきと思う（「負担」の感じ方人それぞれなので、一律には決められないと思うし、決める必要はないが）。その子どもが負担と覚えることがあれば、包括、行政、社協などに相談すれば良いと思う（50代男性）。NO.97
- それぞれの生活がある中で、限界はある。出来る事はやればいいが、出来ないことは制度・サービスに頼れば良いと思っているから（30代男性）。NO.100
- 核家族化、出産する子の減少、平均寿命の伸び、都市部への人口の過度な集中等、昔と比べて社会状況が大きく変容してしまった現在、子どもが親の面倒を見ることは、より困難な状況にある。福祉サービスの利用抜きには考えにくい（60代男性）。NO.107
-

親の介護で苦労した・その他

A：賛成の回答者

- 子供は子供の人生があるので（60代女性）。NO.172

B：反対の回答者

- サポートしたいと思ってくれるとすればうれしいが、当たり前とは思わない。素人よりプロに任せるほうが良い領域もあるので、やってもらって迷惑に感じることも多いと思う（60代女性）。NO.9
- 苦労を掛けたくない。自分が親の面倒をみて苦労したから（70代女性）。NO.28

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

- 人それぞれの考え方、感じ方を尊重（80代女性）。NO.47 ●
- 18年の母親の介護があまりにも大変だったから。もう両親を見送ってほっとしている。自分の時間を大切にすべき（60代女性）。NO.48 ▲
- 私自身は両親の面倒を最後まで見ましたが、子どもには家庭もあるので、全面的には無理かな（70代女性）。NO.77
- 私自身、両親の介護をし、仕事を退職せざるを得なかった。思い、仕事との両立の難しさ、神経をすり減らす日々でした。娘には、そんな思いをさせたくないと思います（70代女性）。NO.117
- まだわからない（70代男性）。NO.119

C：無回答者

- 「子どもの生活状況」と「親の面倒」の多様性と個々の具体的な生活状況を考えると「面倒」であるか否かの判断も異なるので、このような質問には端的には答えられない（80代女性）。NO.7

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 考察

「子どもが親の面倒を見る」という考え方に反対する者が多くなった。扶養義務意識の低下の表れと見ることができよう。民法は、直系血族及び兄弟姉妹は相互に扶養義務があると定める。扶養義務とは金銭による支援が想定されており、同居による身上監護までを求めるものではないと考えられてきた。しかし現代の長寿社会においては、高齢者に金融資産の偏在が見られる一方、経済格差は進展し、さらには8050問題に象徴されるように、むしろ親世代の方が子世代を支援する状態になっている。

回答結果を見る限り、扶養義務に反対する回答が多数派を占められている中、本問の扶養義務意識を確認しておく意義と必要性がある。戦後、家族法が改正されて家制度も廃止となったうえ、平均寿命の延伸によって認知症や要介護者が増える中で、「子どもが親の面倒を見る」ことができる家族がどれほどいるのか、民法877条の存在意義も問われるべきと思われる。

さらに考察を深めるため、回答者の属性によって結果がどのように変化するのか分析を行った。

3. 調査結果 (3) 「子どもに迷惑をかけたくない」意識

回答者の属性による分析結果と考察

■ 年代別（図表8-3-1以下参照）

扶養義務意識について、年代によって差異がみられるか分析を行った。

すべての年代で反対が過半数を占めたが、年代によって賛否の割合には差異が見られた。賛成の全体平均（26%）よりも多い年代は、40代、60代、80代以上となった。賛成の割合が最も多かったのは40代以下であるが、回答者が子どもの気持ちに立って回答しているのではないかと考えられる。逆に反対の全体平均（74%）よりも多い年代が、50代、70代となった。

この結果からだけでは、年代によって賛否の傾向を結論付けることは難しい。一般的に子どもが親の面倒を見るべきという考え方は、高齢層に多いのではないかと考えていたところ、ほぼ戦前派に属する「80代以上」は、賛成の割合が多かったものの、4割弱と過半数には届かなかった。

■ 性別（図表8-4-1以下参照）

扶養義務意識について、性別によって差異がみられるか分析を行った。

男性の方が賛成の割合が少なかったが、性別によって顕著な差異は見られなかった。女性は配偶者に先立たれることが多く、子どもたちに面倒を見てもらう可能性が高くなる分、男性よりも賛成回答が多くなっているのではないかと考えられる。

■ 子どもの有無・人数（図表8-5-1以下参照）

扶養義務意識について、子どもの有無・人数によって差異が見られるか分析を行った。

子どもがいない回答者群の方が、子どもがいる回答者群よりも賛成の割合が多くなったが、顕著な差異があるとまでは言えなかった。子どもがいる人の方が、子どもがいない人に比べて扶養義務意識に賛成する方が多いと想定していたが、むしろ逆の結果となった。

子どもの人数については、賛否の割合はほぼ同じだった。扶養義務意識について子どもの人数は関係がないと考えられる。

■ 子どもの構成（図表8-6-1以下参照）

扶養義務意識について、子どもの構成によって差異が見られるか分析を行った。

息子も娘もない（子どもがいない）回答者群が賛成する割合が多くなったのは、子どもの有無別と同様の結果である。子どもがいる回答者群の中では、娘だけがいる回答者群が賛成する割合が最も多くなった。

息子だけがいる場合と娘だけがいる場合では、賛否の割合に差異が生じるとの想定通り、娘だけがいる回答者群の方が賛成の割合が多くなった。但し顕著な差異とまでは言えなかった。子どもが息子の場合、娘に比べて両親との会話が少ないと思われることや、娘には頼みごとをしやすいといったことが考えられる。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

■ 介護の知識・経験（図表8-7-1以下、8-8-1以下参照）

扶養義務意識について、介護サービスの利用の有無や家族の介護経験の有無によって差異が見られるか分析を行った。

介護サービス利用の有無では、回答者群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、サービス利用なしの回答者群の方が、賛成する割合が多くなった。

家族の介護経験の有無では、家族の介護経験ありの回答者群の方が、賛成する割合が多くなった。家族の介護を経験すると、親子間の結びつきが重視されるようになるといったことが考えられる。

■ 日常会話の有無・頻度（図表8-9-1参照）

扶養義務意識について、日常会話の有無や頻度によって差異が見られるか分析を行った。

「④ほとんど話をしない・音信不通」の回答者群以外、日常会話の頻度による差異はほとんど見られなかった。選択肢④の回答者群は、賛成の回答が見られなかった。

頻度はともかく、日常会話の有無は賛否に影響すると考えられる。

■ 終活の話題の有無・頻度（図表8-10-1以下参照）

扶養義務意識について、終活の話題の有無や頻度によって差異が見られるか分析を行った。

扶養義務意識に対する賛否の割合はほとんど同じだった。終活の話題の有無は関係がないと考えられる。

■ 分析結果のまとめ

上記の結果から、各属性の中で、扶養義務意識について賛成の割合が明らかに多いと言える回答者群は、以下の通りである。

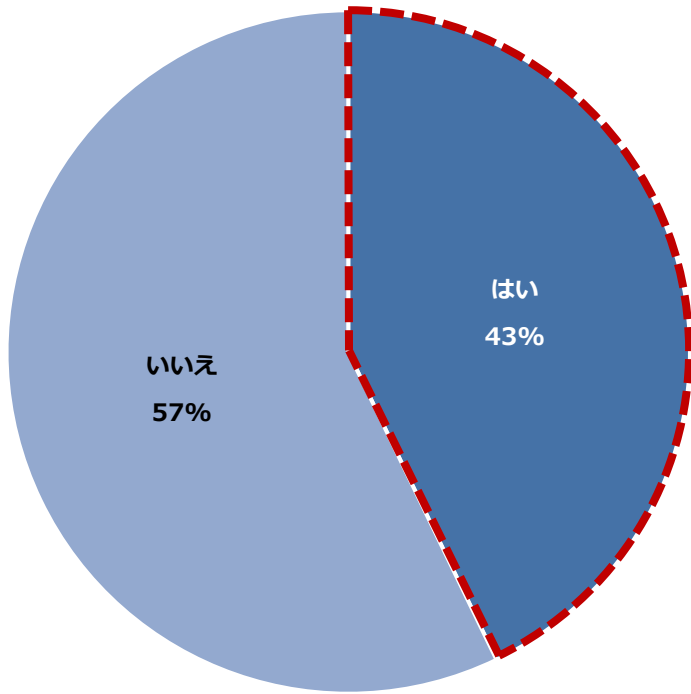
- 40代、60代、80代。
- 子どもがいない。
- 娘だけがいる。
- 日常会話がある（音信不通ではない）。
- 家族の介護経験がある。

性別、日常会話の有無・頻度、終活の話題の有無・頻度については、賛否の結果に目立った差異は見られなかった。

3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

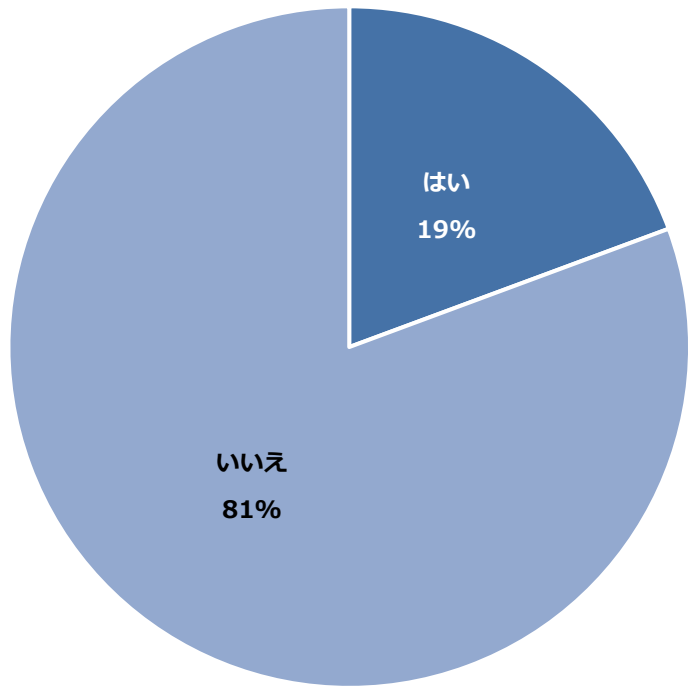
図表8-3-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（年代別：40代以下）

n=14



図表8-3-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（年代別：50代）

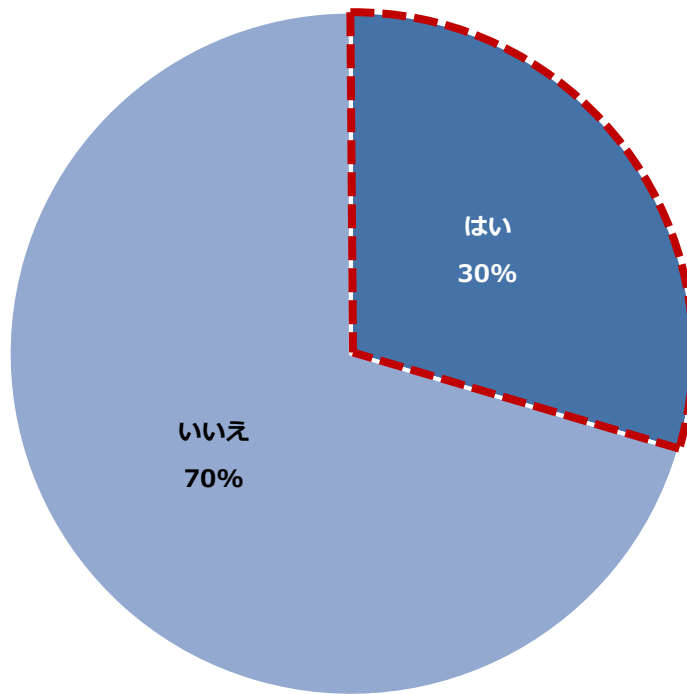
n=31



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

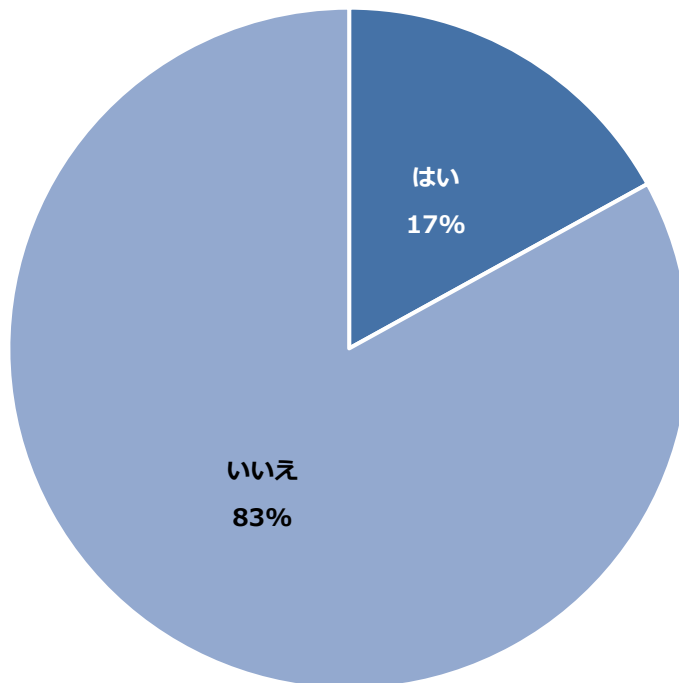
図表8-3-3：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（年代別：60代）

n=44



図表8-3-4：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（年代別：70代）

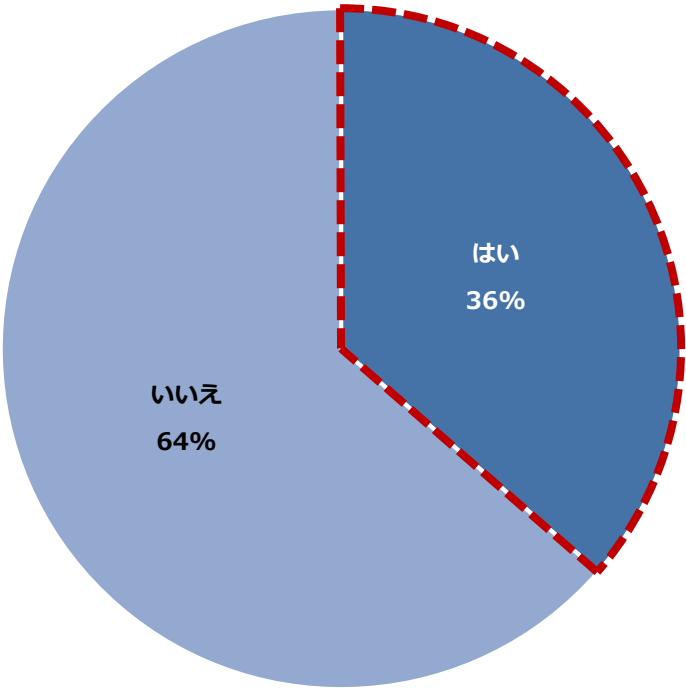
n=53



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表8-3-5：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（年代別：80代以上）

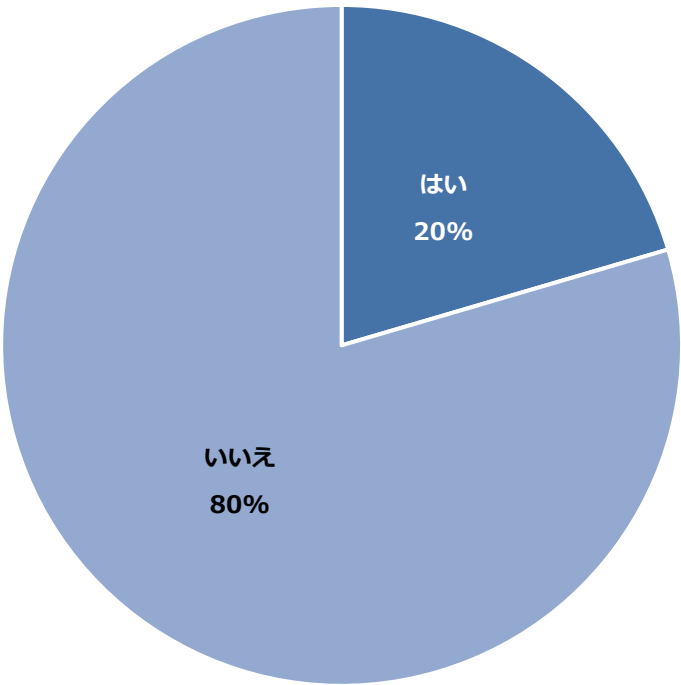
n=22



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

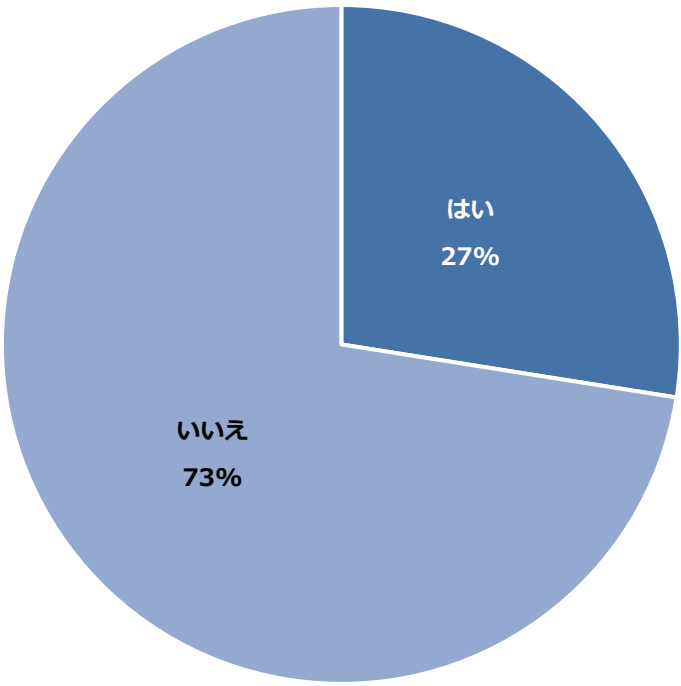
図表8-4-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（性別：男性）

n=44



図表8-4-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（性別：女性）

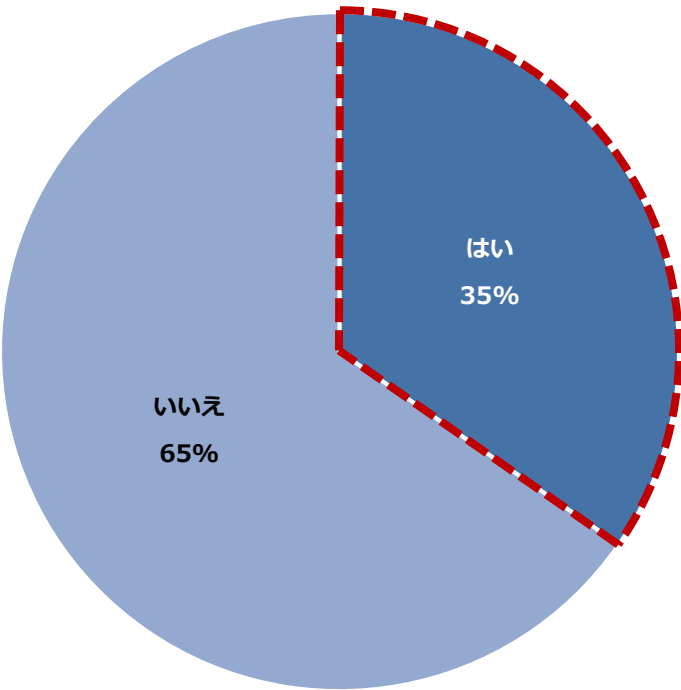
n=120



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

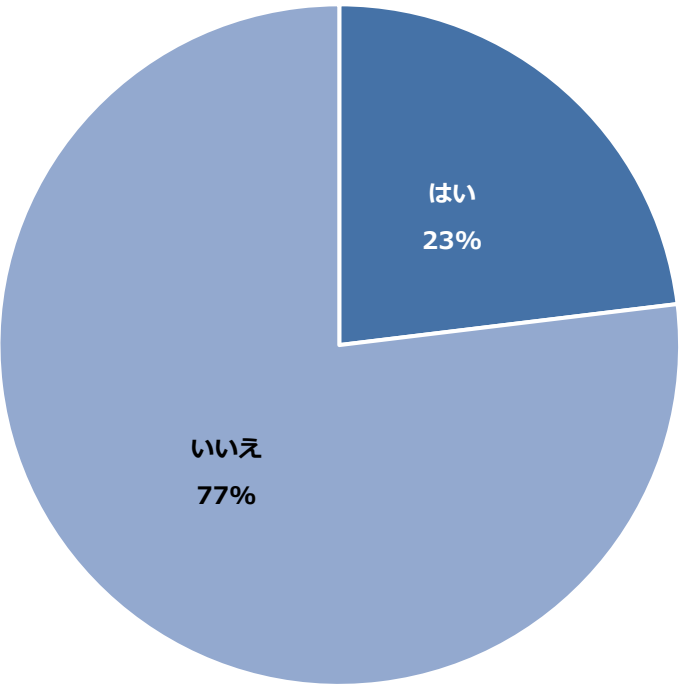
図表8-5-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの有無・人数：子どもなし）

n=26



図表8-5-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの有無・人数：1人）

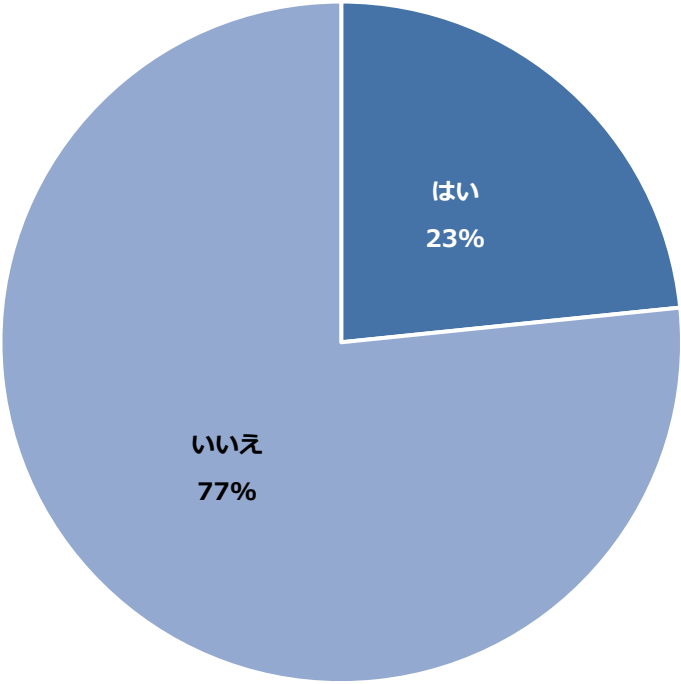
n=26



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

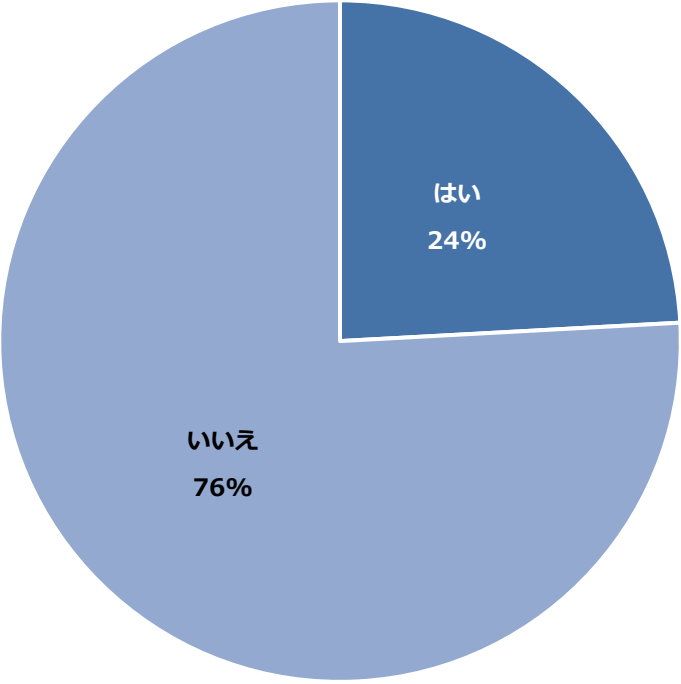
図表8-5-3：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの有無・人数：2人）

n=77



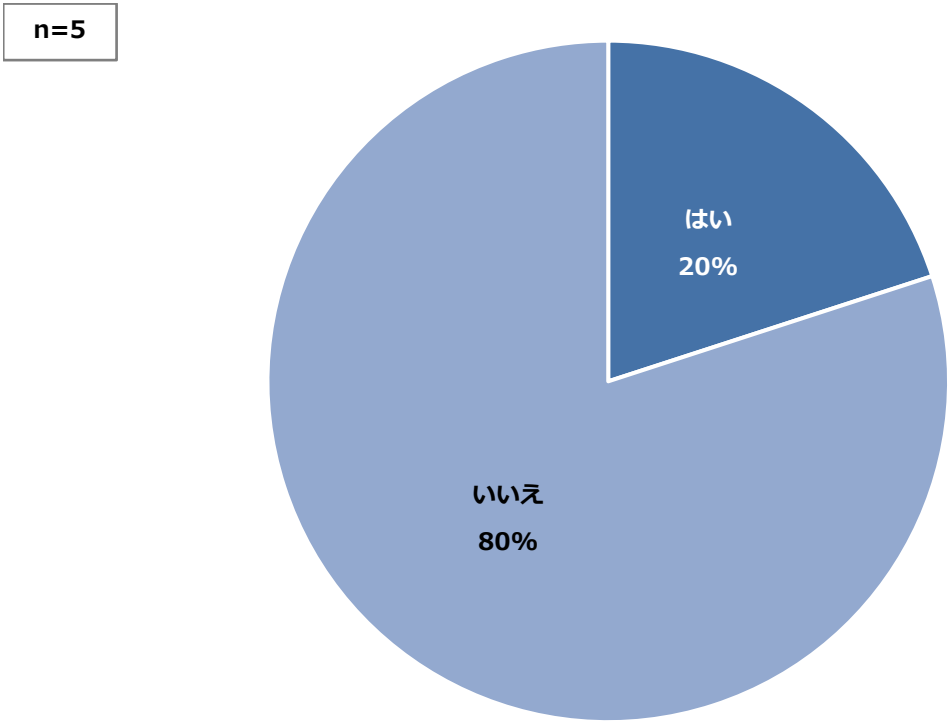
図表8-5-4：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの有無・人数：3人）

n=29



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

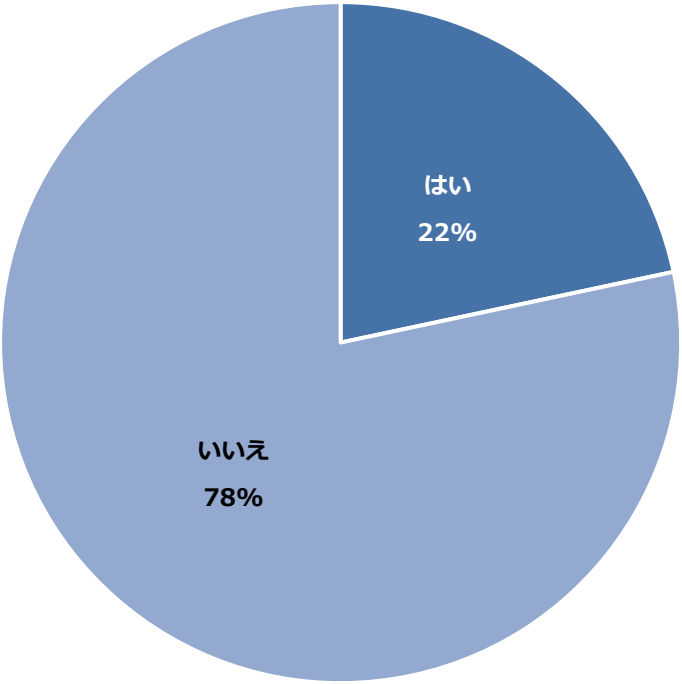
図表8-5-5：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの有無・人数：4人）



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

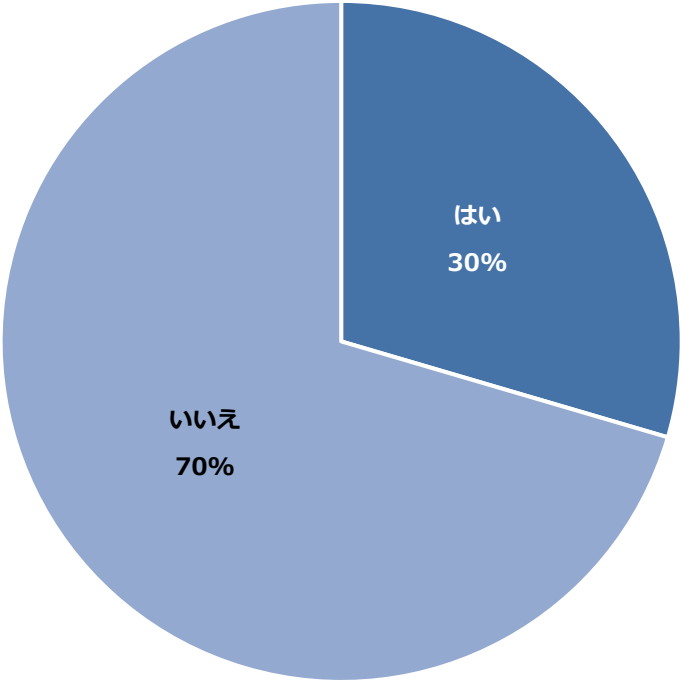
図表8-6-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの構成：息子も娘もいる）

n=60



図表8-6-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの構成：息子はいるが娘はいる）

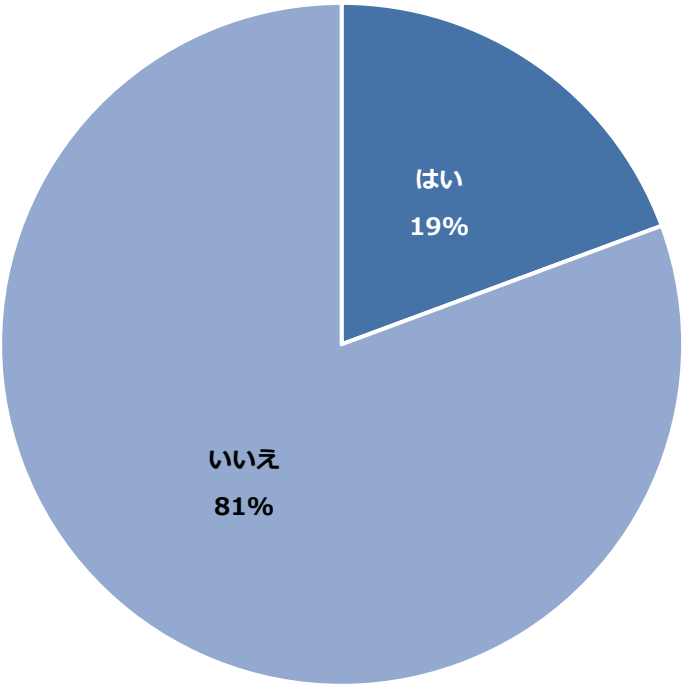
n=44



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

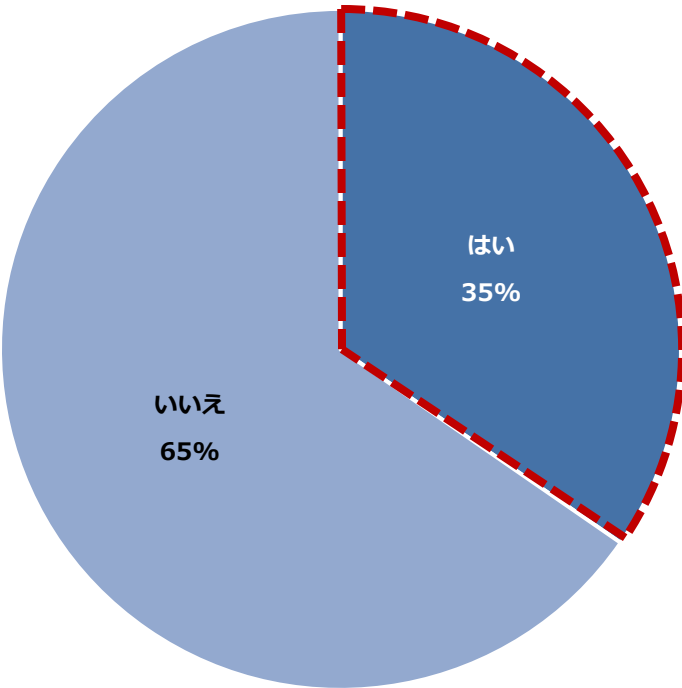
図表8-6-3：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの構成：息子はいるが娘はいない）

n=31



図表8-6-4：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（子どもの構成：息子も娘もいない）

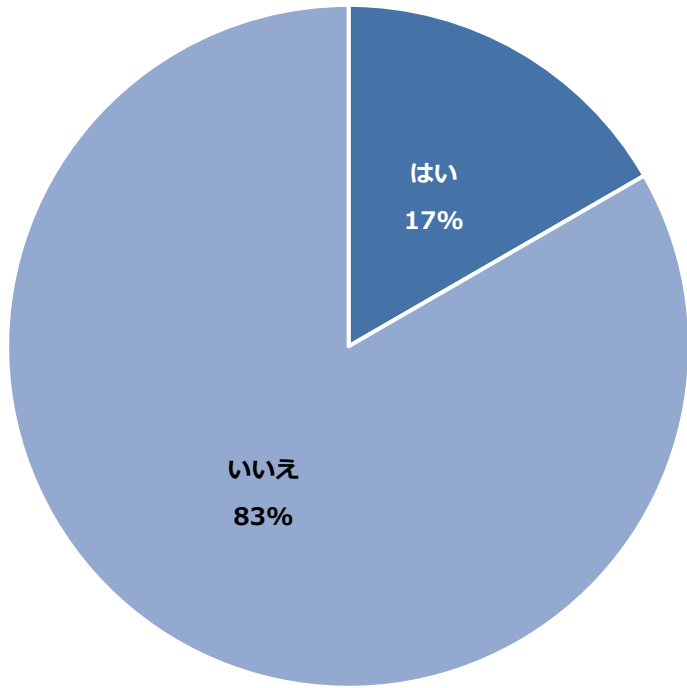
n=26



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

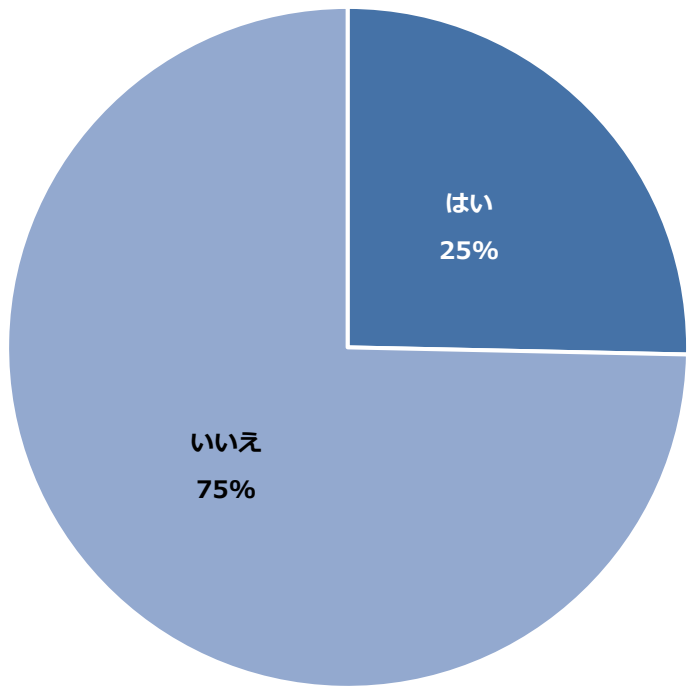
図表8-7-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（介護サービス利用：あり）

n=12



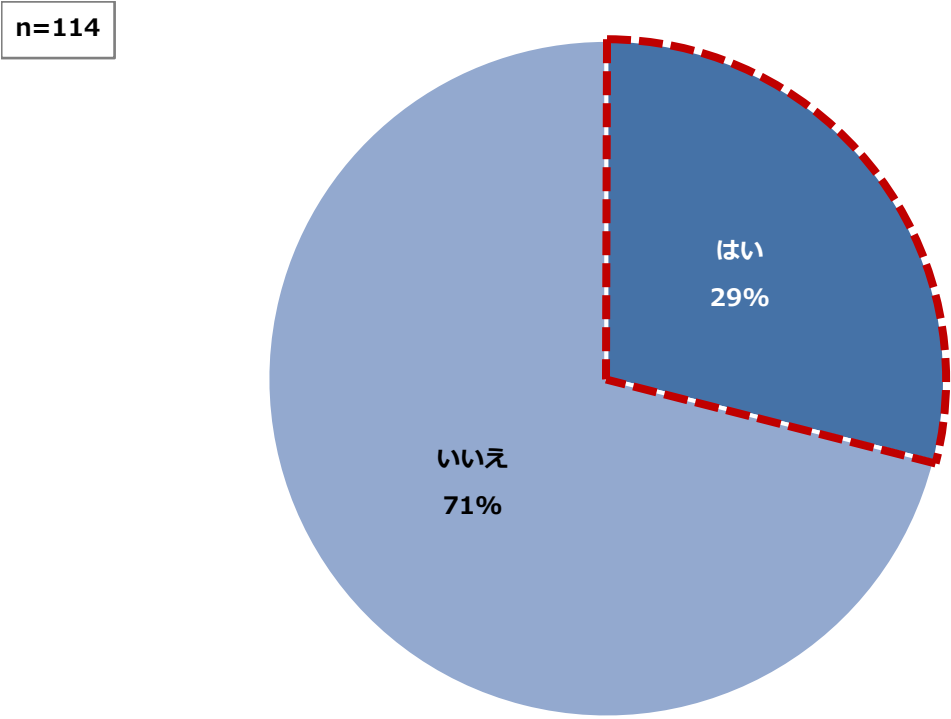
図表8-7-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（介護サービス利用：なし）

n=150

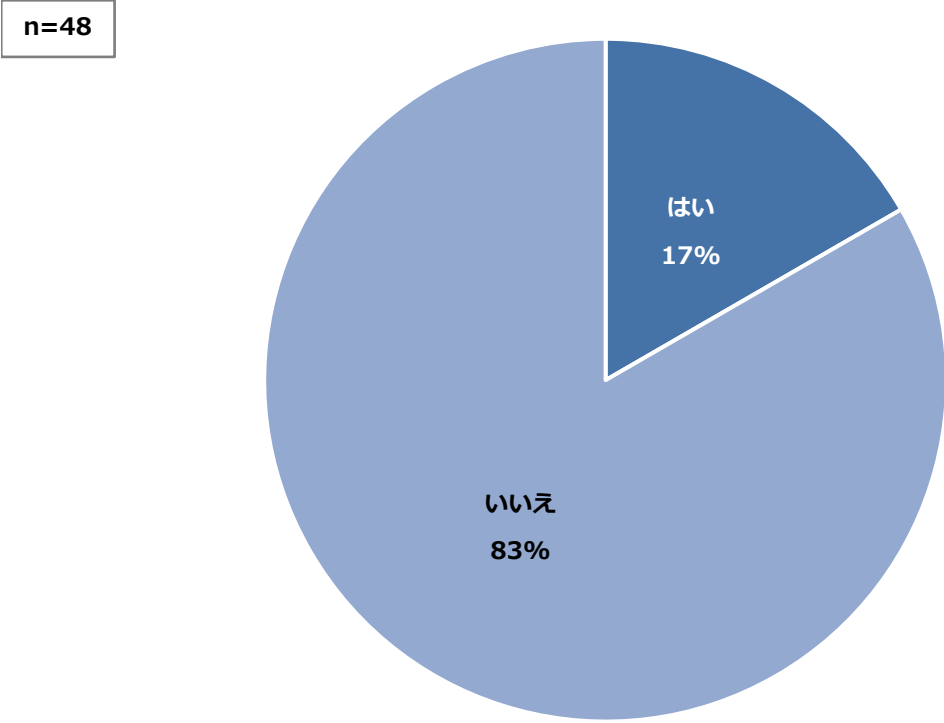


3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

図表8-8-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（家族の介護経験：あり）



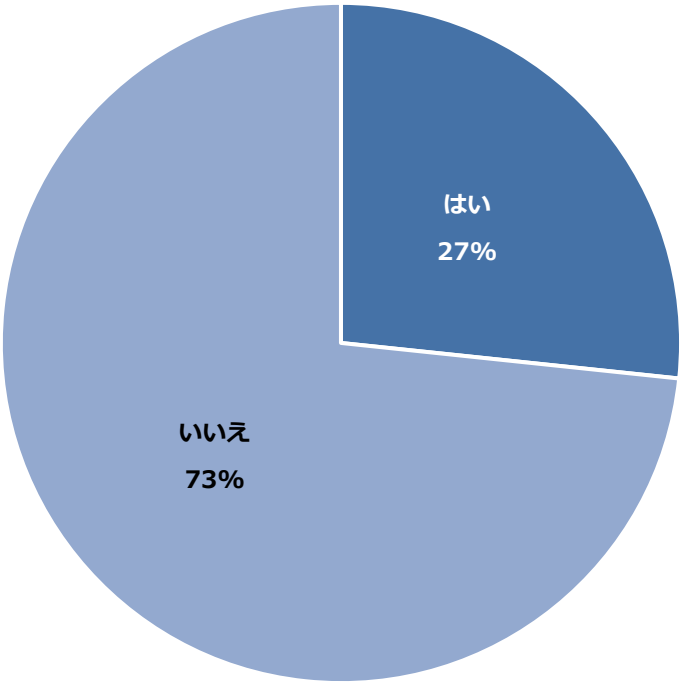
図表8-8-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（家族の介護経験：なし）



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

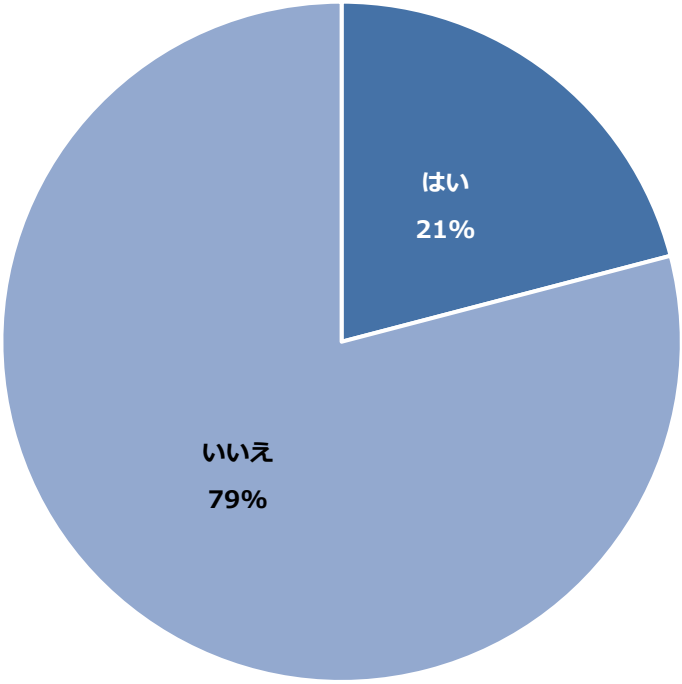
図表8-9-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（日常会話の有無・頻度：毎日～週に1回）

n=14



図表8-9-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（日常会話の有無・頻度：一月～二三月に1回）

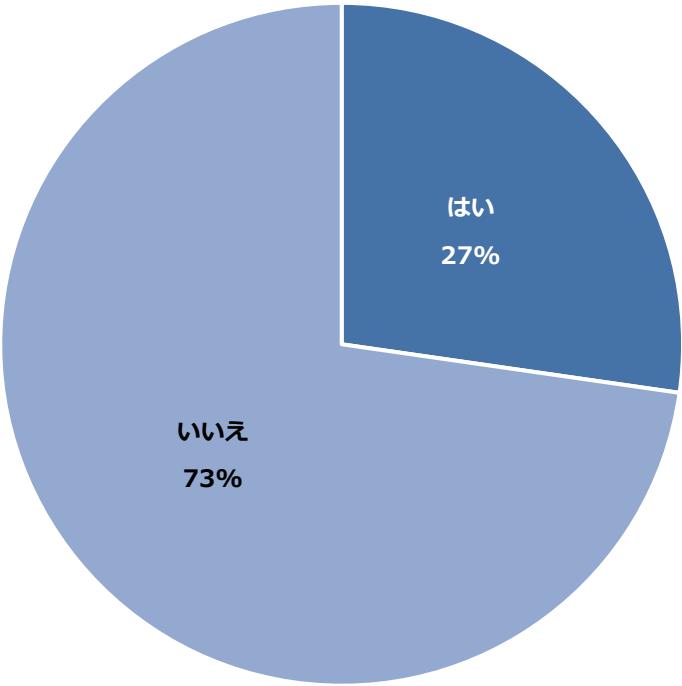
n=14



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

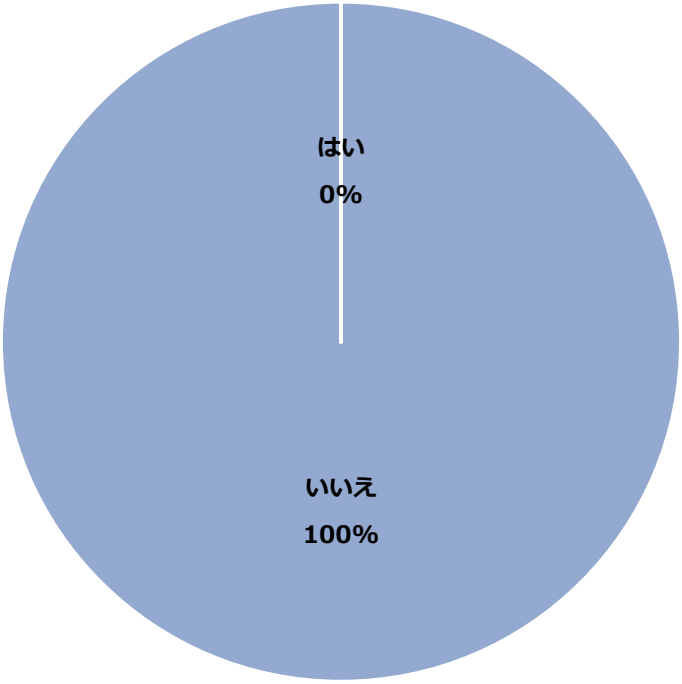
図表8-9-3：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（日常会話の有無・頻度：半年～年に1回）

n=11



図表8-9-4：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（日常会話の有無・頻度：話をしない・音信不通）

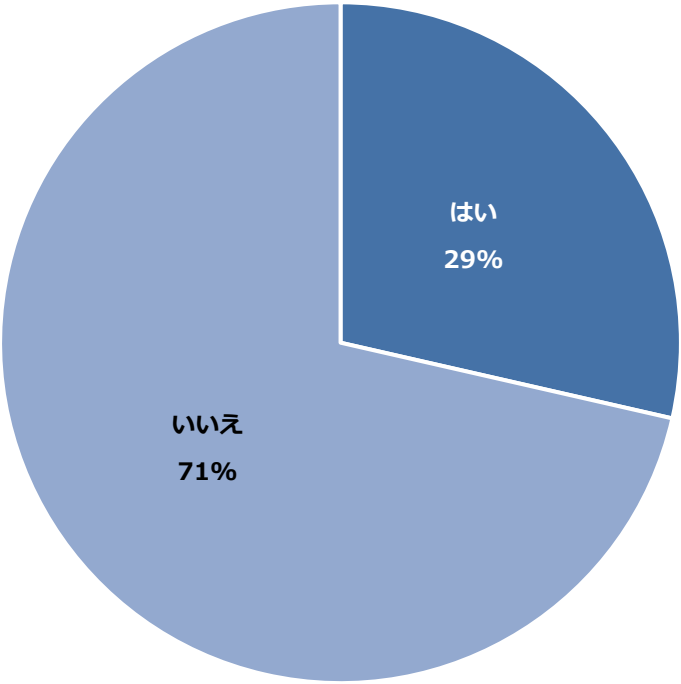
n=3



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

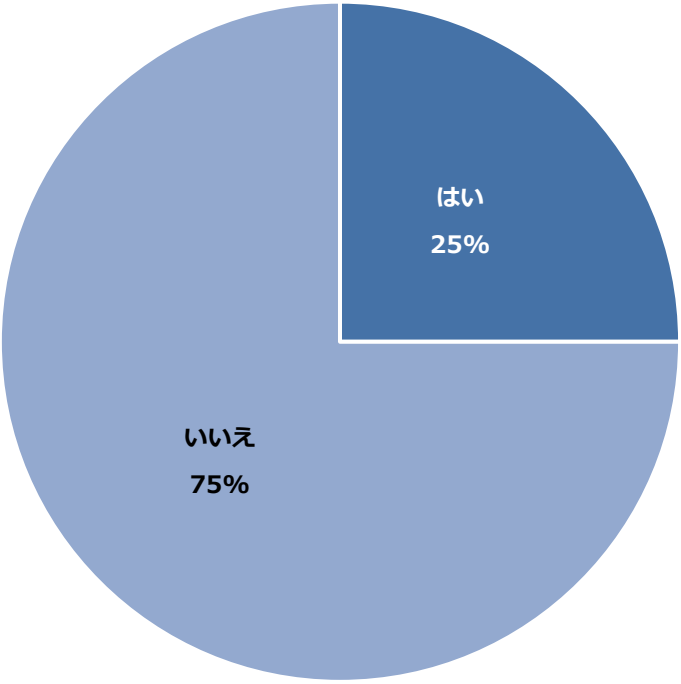
図表8-10-1：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（終活の話題の有無・頻度：定期的に具体的な話題）

n=14



図表8-10-2：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（終活の話題の有無・頻度：定期的に話題）

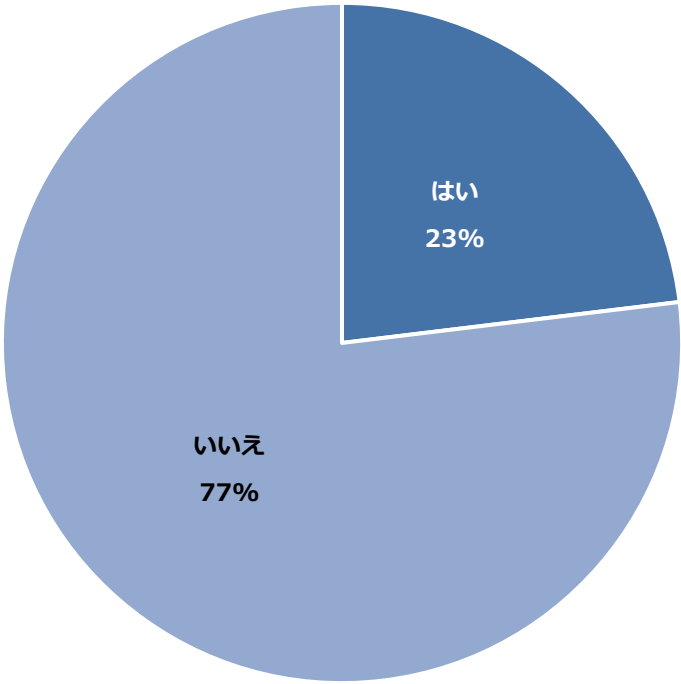
n=36



3. 調査結果 （3）「子どもに迷惑をかけたくない」意識

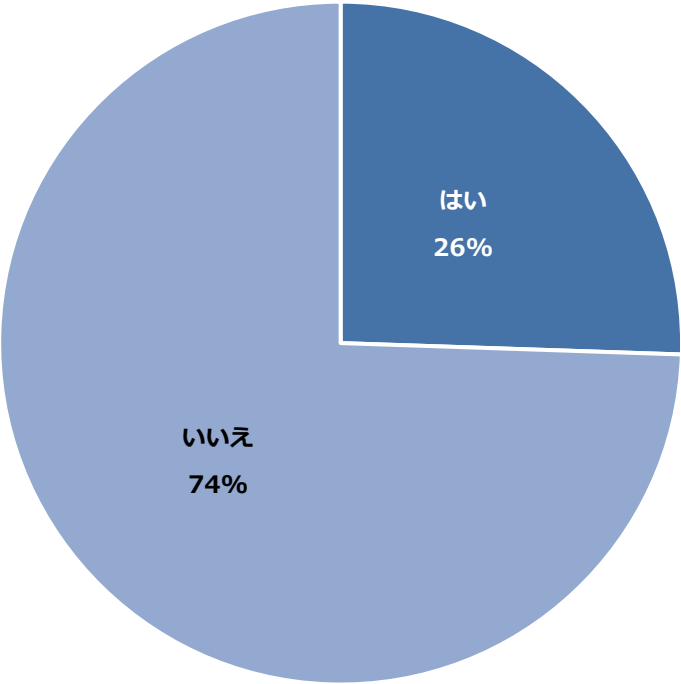
図表8-10-3：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（終活の話題の有無・頻度：話題にはなる）

n=65



図表8-10-4：「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前か（終活の話題の有無・頻度：話題にならない）

n=47



3. 調査結果 （4）終活の取組み

■ 回答結果（図表9-1参照）

結果は、「③大事な書類等のありか・保管場所の記録」の回答が最多となった（総件数の40%）。「①老後の暮らしや死後のことに関する家族との話し合い」の回答が次に続く（総件数の32%）。

「⑪尊厳死宣言の作成・終末期医療に関する事前指示の希望の記録」「⑫法的根拠のある代理人等との契約の締結」「⑬遺言の作成」のいずれかを選択した回答者（老後生活安心プランの利用者）の人数は19件（延べ人数で23件）となった（⑪⑫の重複1件、⑫⑬の重複1件、⑪⑬の重複1件、⑪⑫⑬の重複1件）（回答者総数の11%）。⑫身元保証や任意後見等の契約締結者の割合は2%に留まった。

■ 「⑭その他」回答（文字が不明等の場合や固有名詞の場合は□で伏字とした）

⑭その他の回答内容は、以下の通りである。

- 60歳になったら本格的に始めたい
- 取引金融機関と年金手帳等のファイル作成
- 胃ろう・延命措置は望まないことは伝えてある
- エンディングノートの記入を始めている
- まだ、子どもに伝えて理解できる年齢ではない
- 断捨離
- 特にしていない
- これから始めるところだから

⑭その他を選択していないが記入があったもの

- 記録にしていないが理解している
- 贈与を行っている（暦年贈与）
- 今はまだ何もしていない
- 何もしていない
- 何もしていない
- 何もしていない
- まだやってない

■ 考察

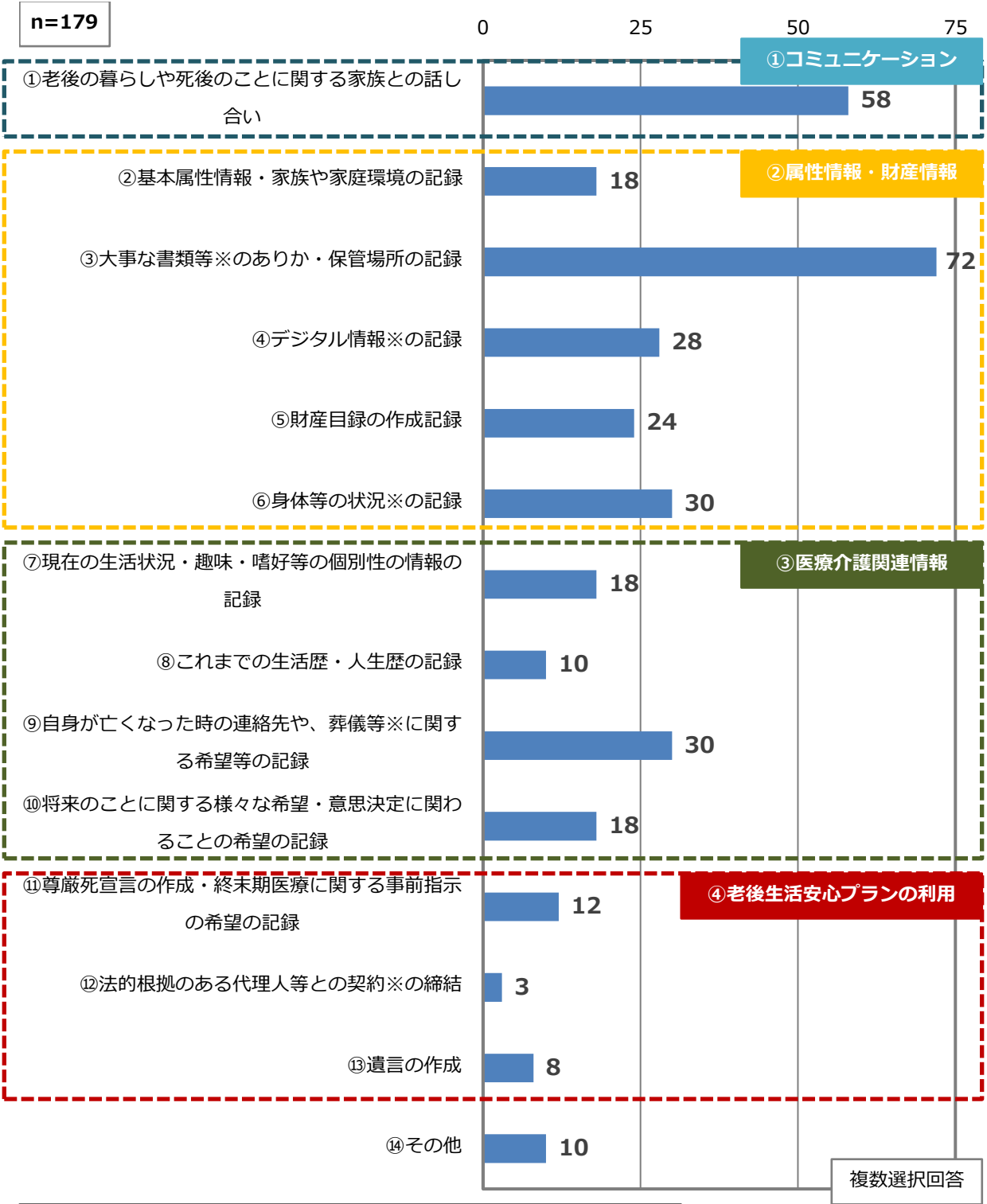
選択肢⑪⑫⑬の老後生活安心プランは想定通り少ない結果となった。提示した13の選択肢を①コミュニケーション、②属性情報・財産情報、③医療介護関連情報、④老後生活安心プランの利用の4つの分野に分類してみると、①から④の順で少なくなっていくことがわかる。

さらに、ア. 終活に取り組んでいる項目数の分布状況の確認や、イ. 回答者の属性によって結果がどう変化するかクロス集計分析を行った。さらに、ウ. 迷惑意識（問5）や扶養義務意識（問8）と終活の取組み（問9）の関係についてクロス集計分析を行った。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-1：具体的な終活の取組状況

単位：件



※選択肢の具体例

③：印鑑・通帳・キャッシュカード・保険証・パスポート・権利証等

④：インターネットサービスやSNS等のID・パスワード等

⑥：既往歴・現病歴・医療や介護等の状況

⑨：葬儀や埋葬・納骨・法要

⑫：身元保証や身元引受、生前事務や死後事務の委任、任意後見、信託

ア. 終活に取り組んでいる項目数の分布

■ 結果と考察（図表9-2、9-3参照）

本問では終活の取組み13項目の回答数がどのように分布しているか分析を行った。

結果は、平均値は2個、0個（無回答含む）が57件（32%）で最多となった。3個以内の合計で79%、5個以内で92%を占める。ほとんどの回答者は、選択肢③や①などの行動に留まっており、老後生活安心プランまで利用している人は一握りである。

既に老後生活安心プランの利用者（選択肢⑪⑫⑬いずれか選択）19件の回答状況を見てみると、他の項目も複数選択していた。回答数は平均で5.3個となり、1個しかない回答者も1件あったが、3個から7個の間に15件、9個・10個の回答も1件ずつ、13個すべてという回答も1件あった。但し、①家族の話し合いをしていない人（7件）や、③書類のありか・保管場所の記録をしていない人（4件）もいるなど、多くの人が挙げた終活の行動に取り組んでいないケースもある。

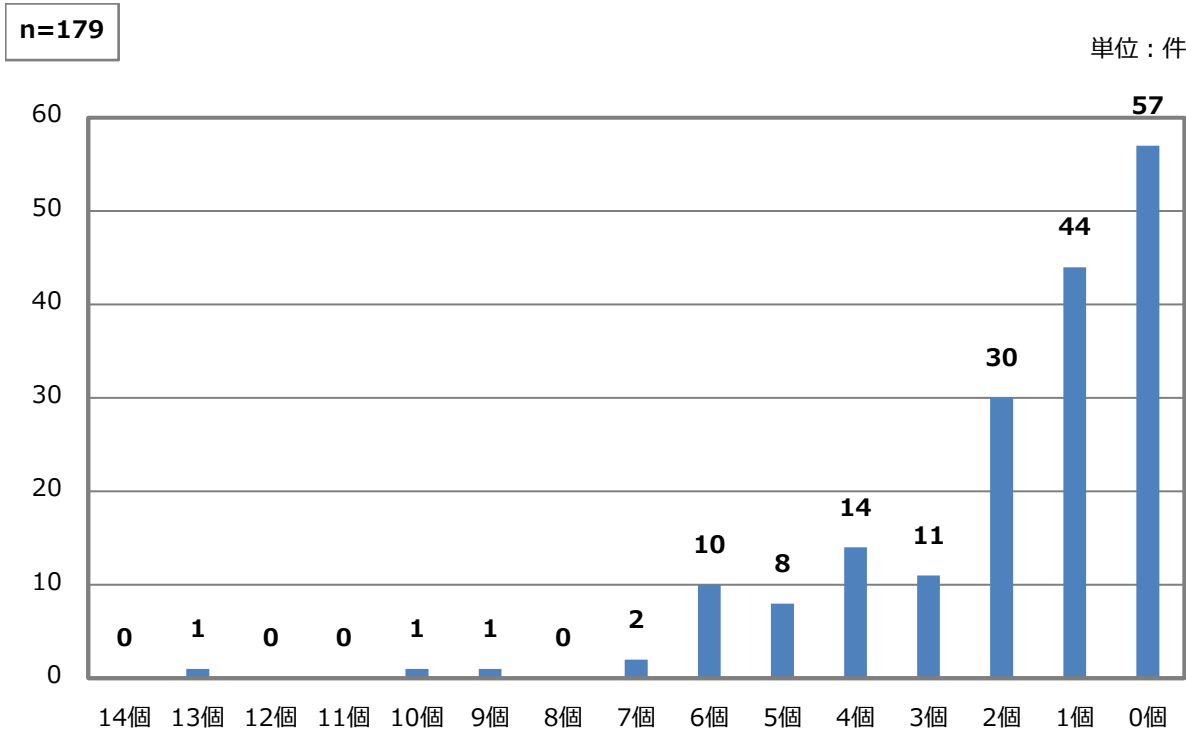
逆に老後生活安心プランの未利用者（選択肢⑪⑫⑬いずれも無選択）160件の取組状況を見てみると、回答数は平均で1.5個、最大でも7個1件であり、85%は3個までとなった。

このように、老後生活安心プランの利用者は、未利用者に比べ、様々な終活項目に取り組んでいることは明らかである。逆に言えば、様々な終活の行動を経たうえで老後生活安心プランの利用に進んでいると言ってよいだろう。そう考えると、いくつかの終活の行動を実践している人は、老後生活安心プランの利用に進む可能性が高いと言える。例えば、老後生活安心プラン未利用者の中には、終活の取組数が3個以上7個以下と回答した者は30件見られたが、これらの者は、老後生活安心プランの利用候補者群ということになる。

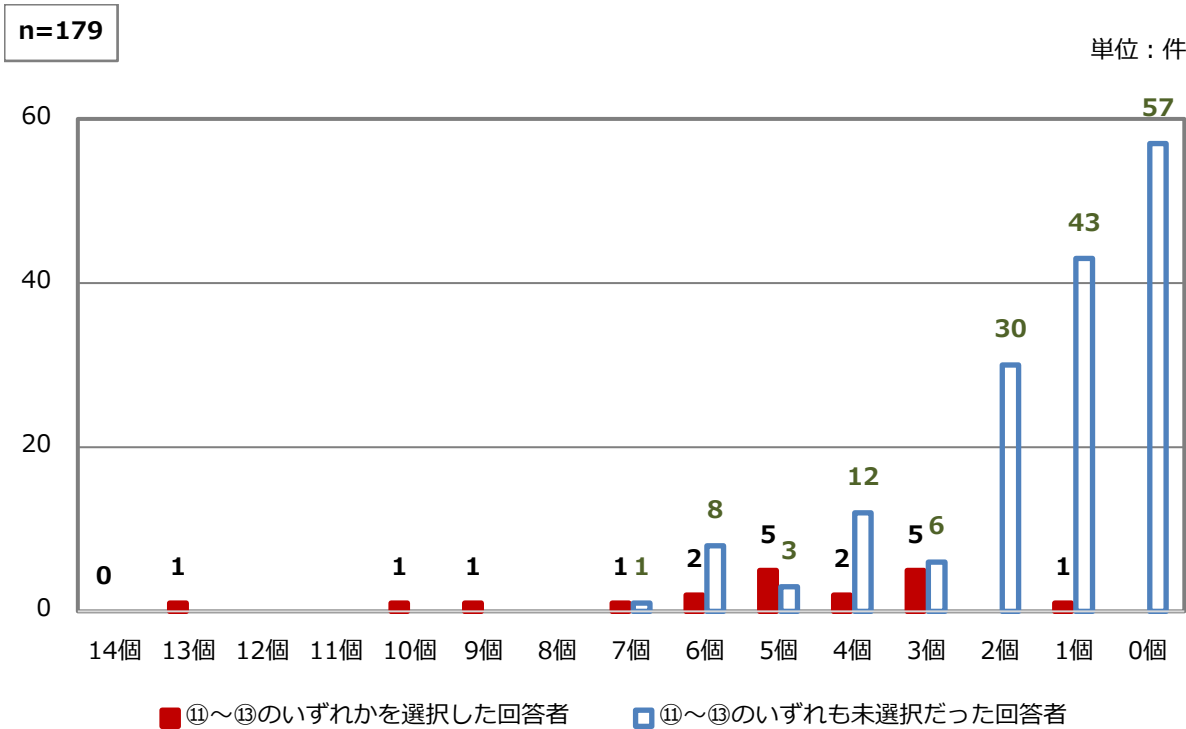
以上の結果から、任意後見契約を始めとする老後生活安心プランの利用に向けて、段階的なアプローチを踏む必要があるという私見の主張は概ね検証されたと言ってもよいのではないか。なお、老後生活安心プランの利用者が、いきなり意識に目覚めて行動に移すわけではなく、意識の醸成に一定期間を要しているであろうという点は留意すべきである。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-2：終活の取組みの数



図表9-3：終活の取組みの数（老後生活安心プランの利用の有無別）



3. 調査結果 （4）終活の取組み

イ. 回答者の属性による分析結果と考察

■ 年代別（図表9-4-1～9-4-5参照）

終活の取組みについて、年代によって差異が見られるか分析を行った。

年齢を重ねるごとに終活行動の割合が増加し、60代・70代がピークになることが確認できた。選択肢⑪⑫⑬の老後生活安心プランの利用は、早い人は40代から確認できる。80代になると、選択肢⑨の死後の希望等の記録が増加する。

複数のインターネット調査によれば、終活の開始時期の質問に対して、60代・70代という回答が多くなっており、概ね同様の結果が得られた。

■ 性別（図表9-5-1,9-5-2参照）

終活の取組みについて、性別によって差異が見られるか分析を行った。

項目によって男女差が見られたが、顕著な差異は見られなかった。選択肢③は女性の方が多くなり、選択肢⑨は男性の方が多くなった。

■ 子どもの有無・人数（図表9-6-1～9-6-5参照）

終活の取組みについて、子どもの有無・人数によって差異が見られるか分析を行った。

子どもがいる人は、子どもがいない人に比べて、全般的に終活行動が多い傾向が見られた。但し、選択肢⑫については、子どもがいない人しか選択していなかった。子どもの人数別では、目立った差異は見られなかったが、一人っ子が多くなった。

回答者群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、子どもがいるかいないかは、終活の行動に影響を与えてよいと思われる。特に選択肢⑫を選択した人はすべて子どもがいない人であったことは顕著な結果と言える。

■ 子どもの構成（図表9-7-1～9-7-4参照）

終活の取組みについて、子どもの構成によって差異が見られるか分析を行った。

子どもの有無の差異については、前述の結果と同様である。

娘だけがいる回答者群は、他の回答者群よりも全般的に終活の取組が多くなった。娘がいる回答者群は、日常的なやりとりを通じて娘の方から親に対してアドバイスなどを行っていることが考えられる。

■ 介護の知識・経験（図表9-8-1,9-8-2、図表9-9-1,9-9-2参照）

終活の取組みについて、介護サービスの利用の有無や家族の介護経験の有無によって差異が見られるか分析を行った。

介護サービス利用の有無では、対象数に違いがあることから、明確には判断できないものの、介護サービス利用ありの回答者群の方が、終活行動の割合が多くなった。自ら介護サービスを利用している回答者群は、終活行動を身近なものとして捉えていると思われる。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

家族の介護経験の有無では、家族の介護経験ありの回答者群の方が、終活行動の割合が多くなった。家族の介護経験がある回答者群は、終活行動を身近なものとして捉えていると思われる。

■ 日常会話の有無・頻度（図表9-10-1～9-10-4参照）

終活の取組みについて、日常会話の有無・頻度によって差異が見られるか分析を行った。

回答者群の数に違いがあることから、明確には判断できないものの、ほとんど話をしない回答者群を除くと、一月か二三か月に1回の回答者群や半年か1年に1回の回答者群の方が、毎日のように日常会話をしている回答者群よりも、終活行動の割合が多くなった。毎日のように会話をしていても、終活行動には別の要因が必要であることが確認できた。毎日のように会話をしているからこそ、子どもはわかってくれていると考え、かえって終活行動が少なくなるという可能性が考えられる。

■ 終活の話題の有無・頻度（図表9-11-1～9-11-4参照）

終活の取組みについて、終活の話題の有無・頻度によって差異が見られるか分析を行った。

定期的に話題にしている2つの回答者群とそうではない2つの回答者群を比較すると、定期的に話題にしている回答者群の方が、終活行動の割合は多くなった。

但し、項目によって差異は生じており、選択肢②については、定期的にかつ具体的に話をしている回答者群では回答が見られなかった。また話題がまったくない回答者群であっても、選択肢③については3割が終活行動を行うなど、終活の話題の有無や頻度と終活行動は、必ずしも比例するものではないことが見て取れる。

■ 分析結果のまとめ

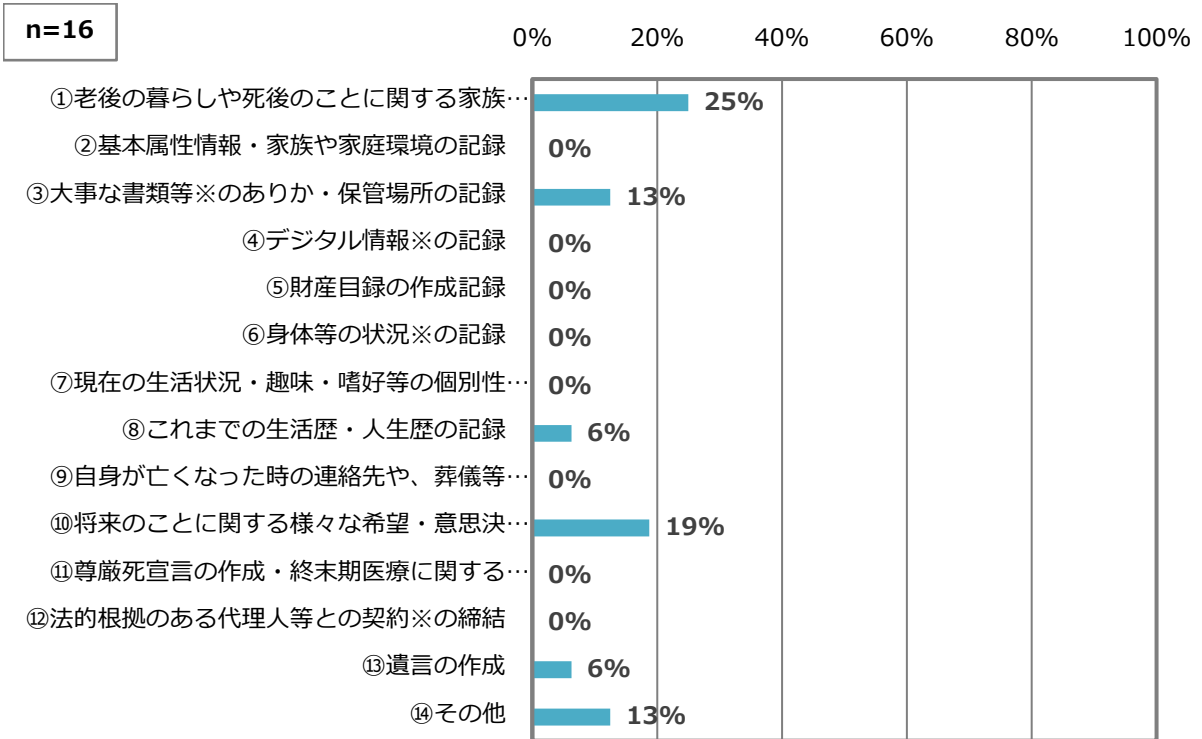
上記の結果から、各属性の中で、終活の取組みの割合が相対的に多いと言える回答者群は、以下の通りである。

- 60代以上。
- 一人っ子。
- 娘だけがいる。
- 介護サービスを利用している。
- 家族の介護経験がある。
- 一月か二三か月に1回又は半年・1年に1回は日常会話がある。
- 終活が定期的に話題になる。

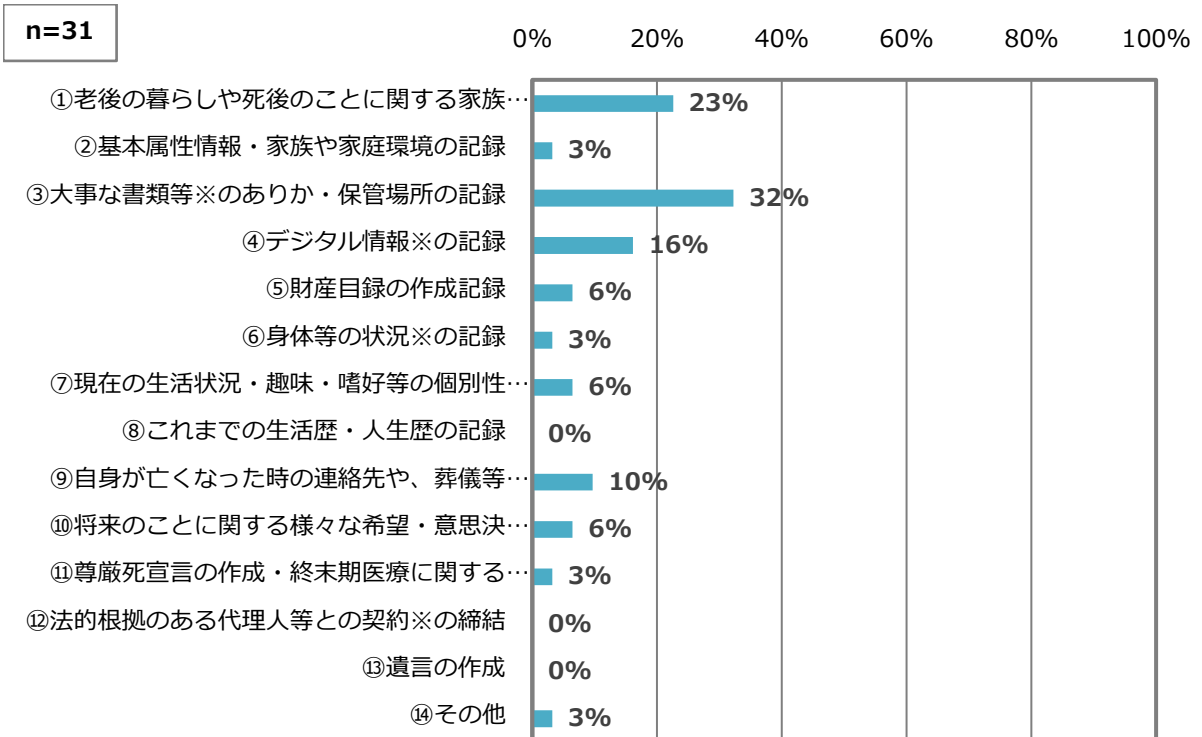
性別については、終活行動の項目によって差異が見られ、一方的に差異が見られる結果にはならなかった。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-4-1：具体的な終活の取組状況（年代別：40代以下）

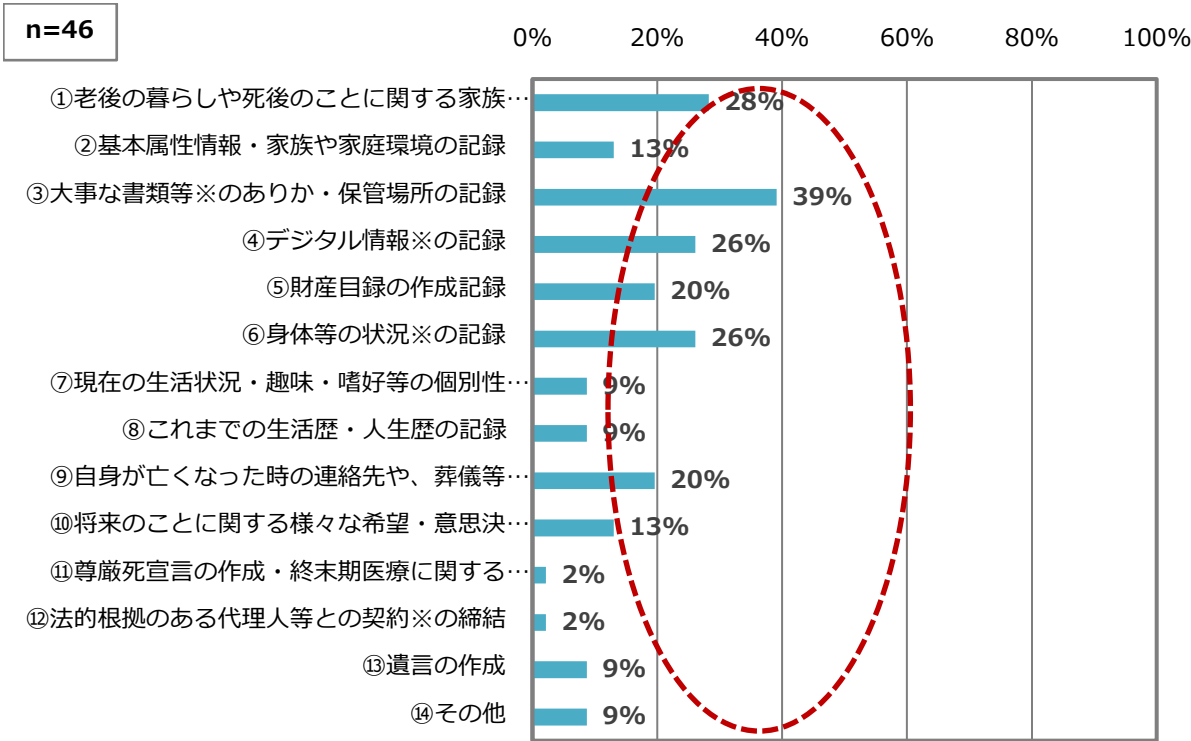


図表9-4-2：具体的な終活の取組状況（年代別：50代）

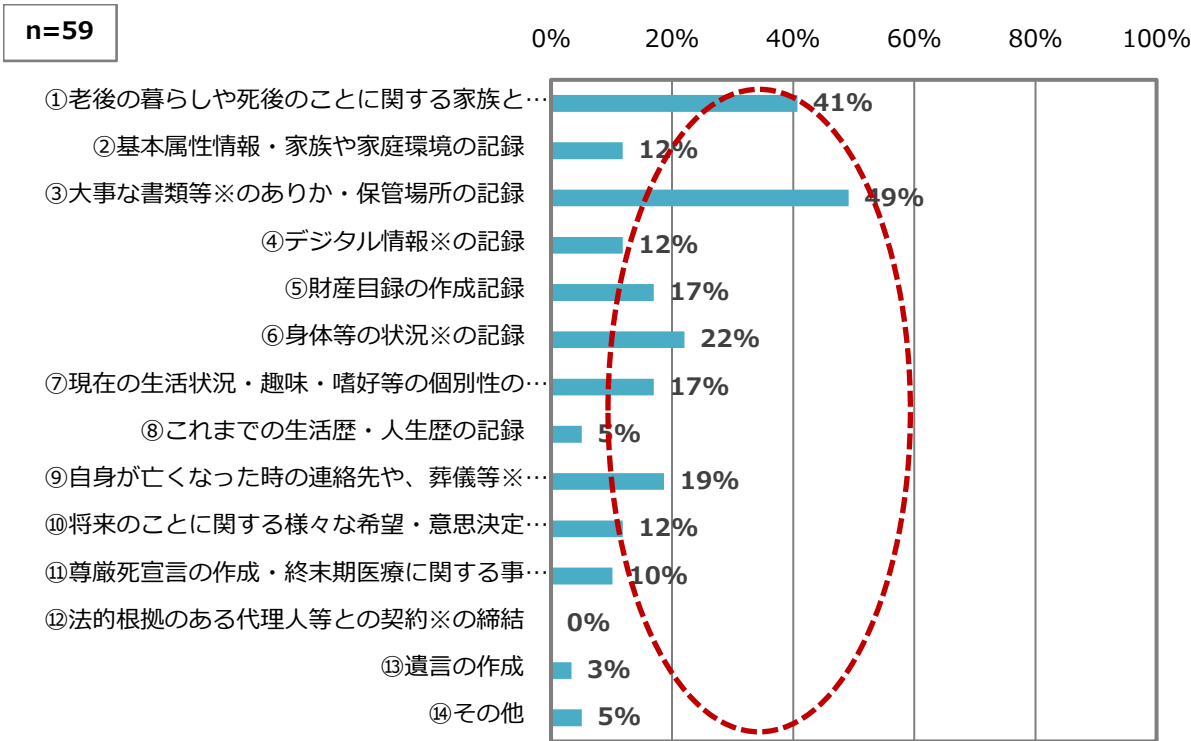


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-4-3：具体的な終活の取組状況（年代別：60代）

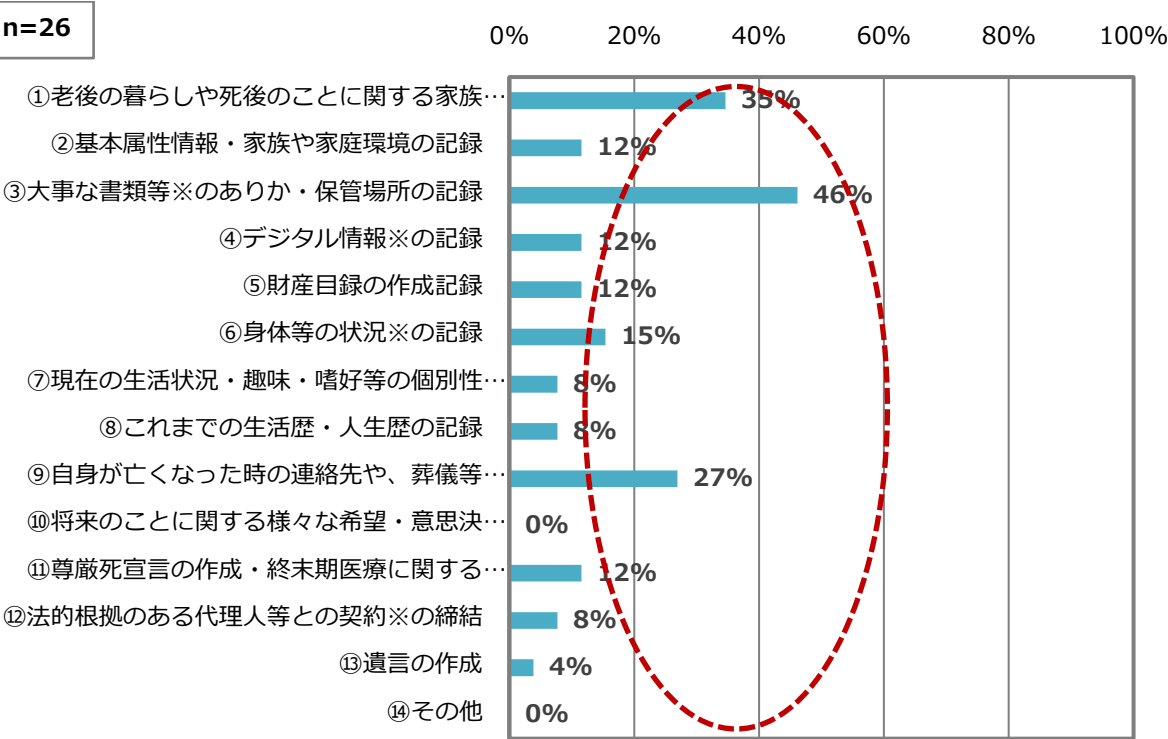


図表9-4-4：具体的な終活の取組状況（年代別：70代）



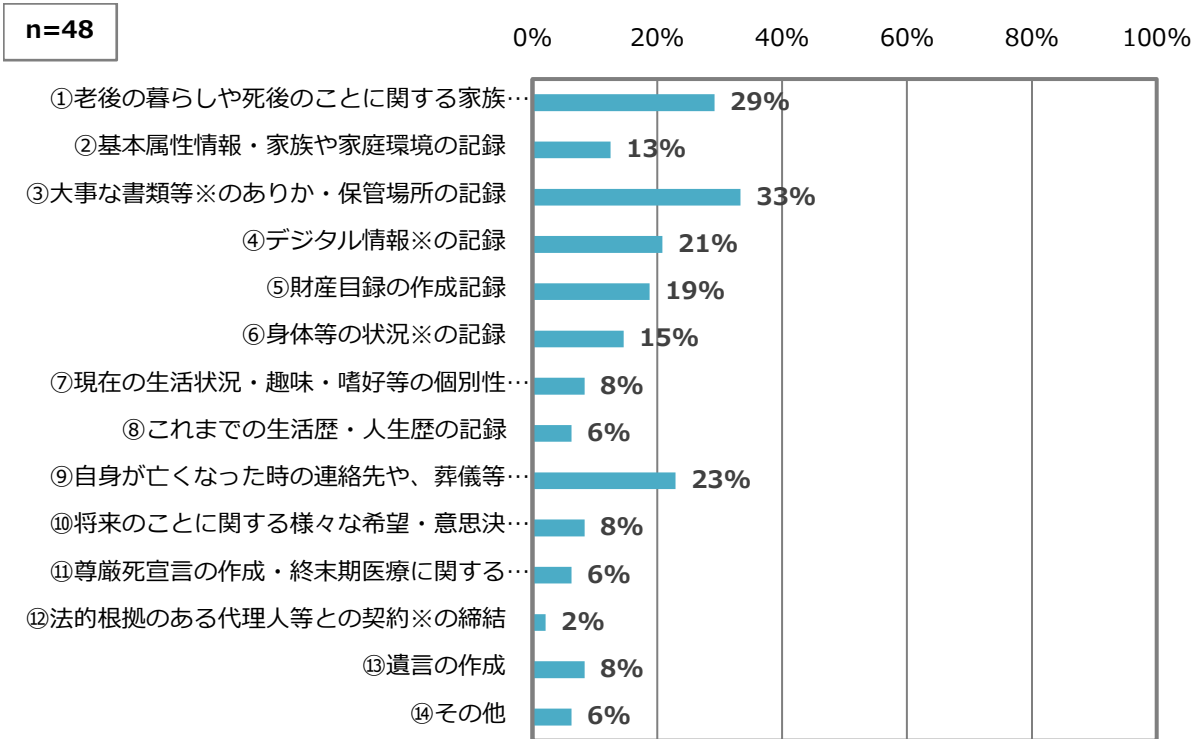
3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-4-5：具体的な終活の取組状況（年代別：80代以上）

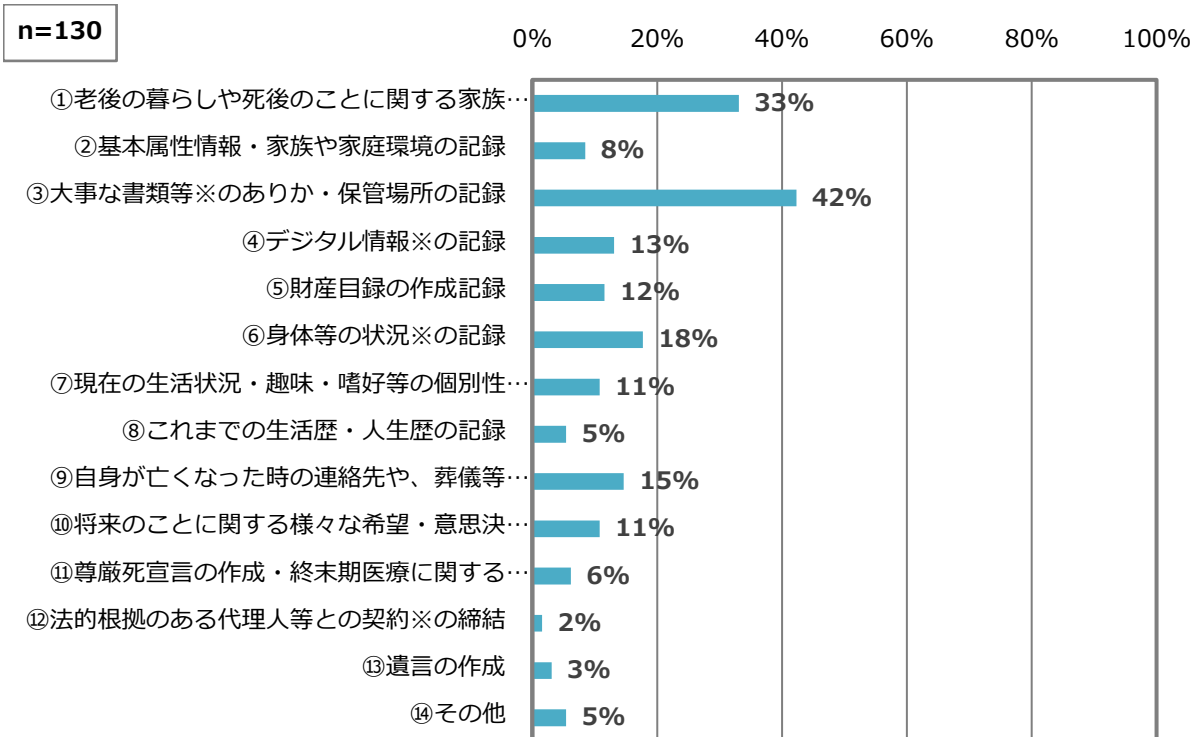


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-5-1：具体的な終活の取組状況（性別：男性）

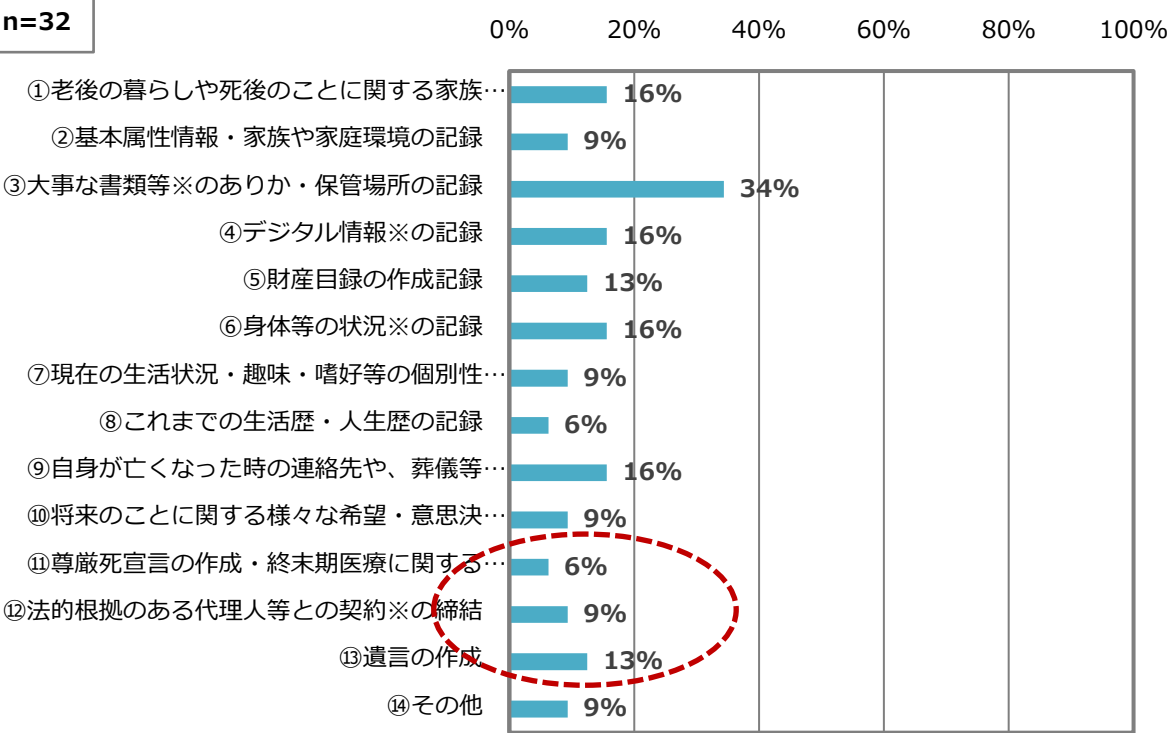


図表9-5-2：具体的な終活の取組状況（性別：女性）

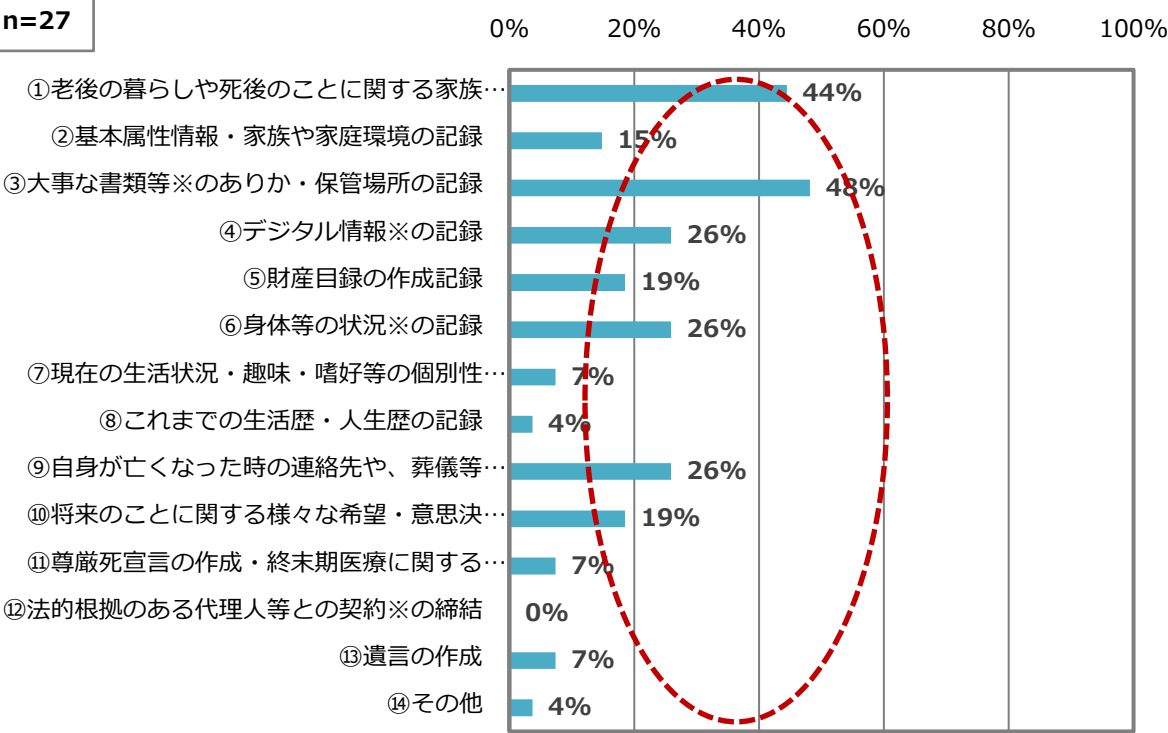


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-6-1：具体的な終活の取組状況（子どもの有無・人数：子どもなし）

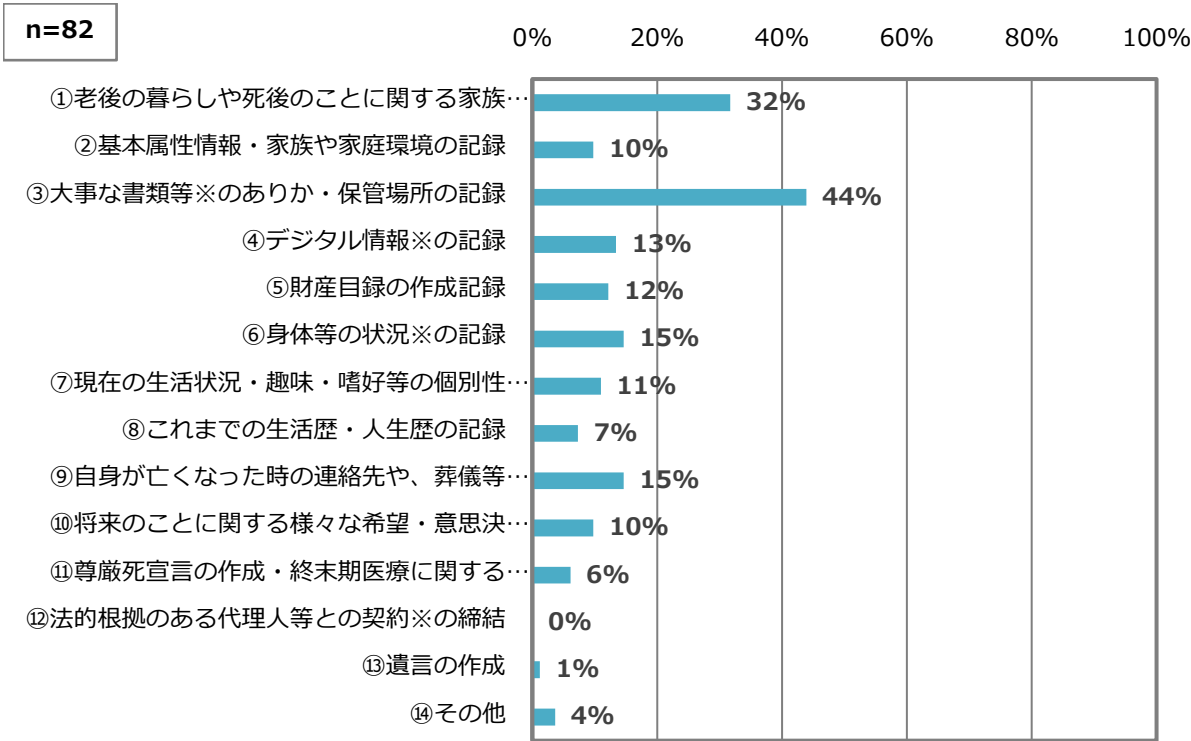


図表9-6-2：具体的な終活の取組状況（子どもの有無・人数：1人）

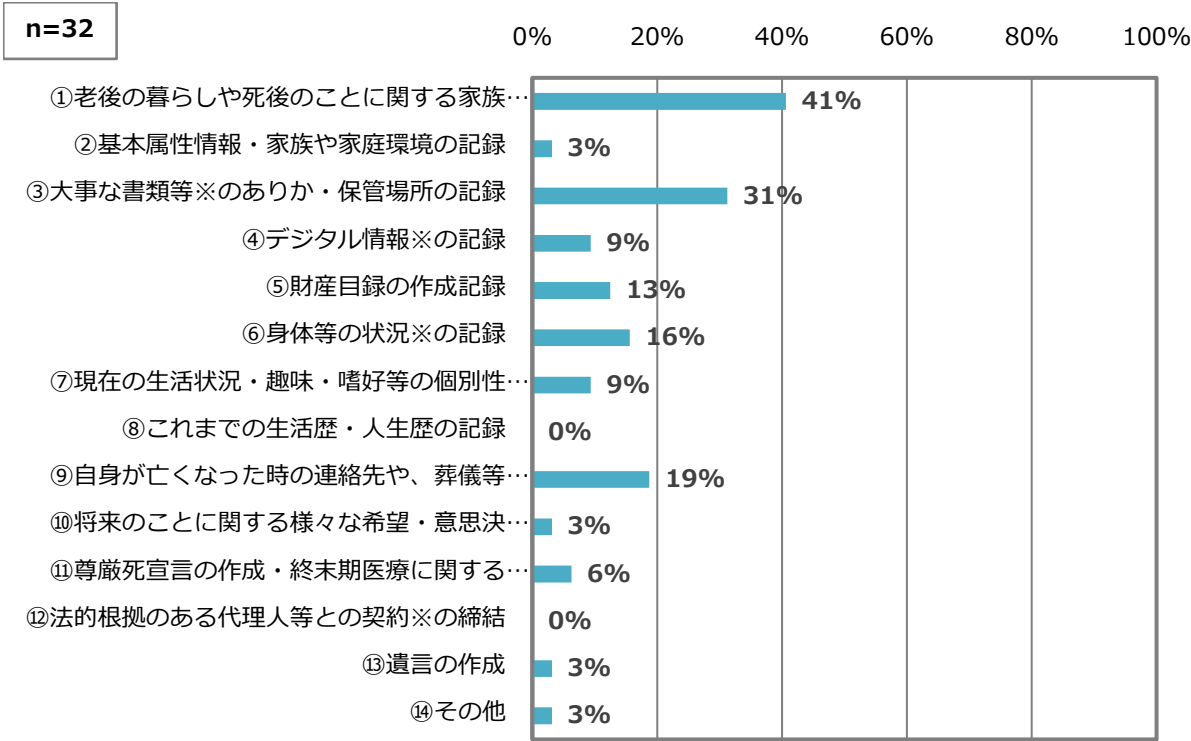


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-6-3：具体的な終活の取組状況（子どもの有無・人数：2人）

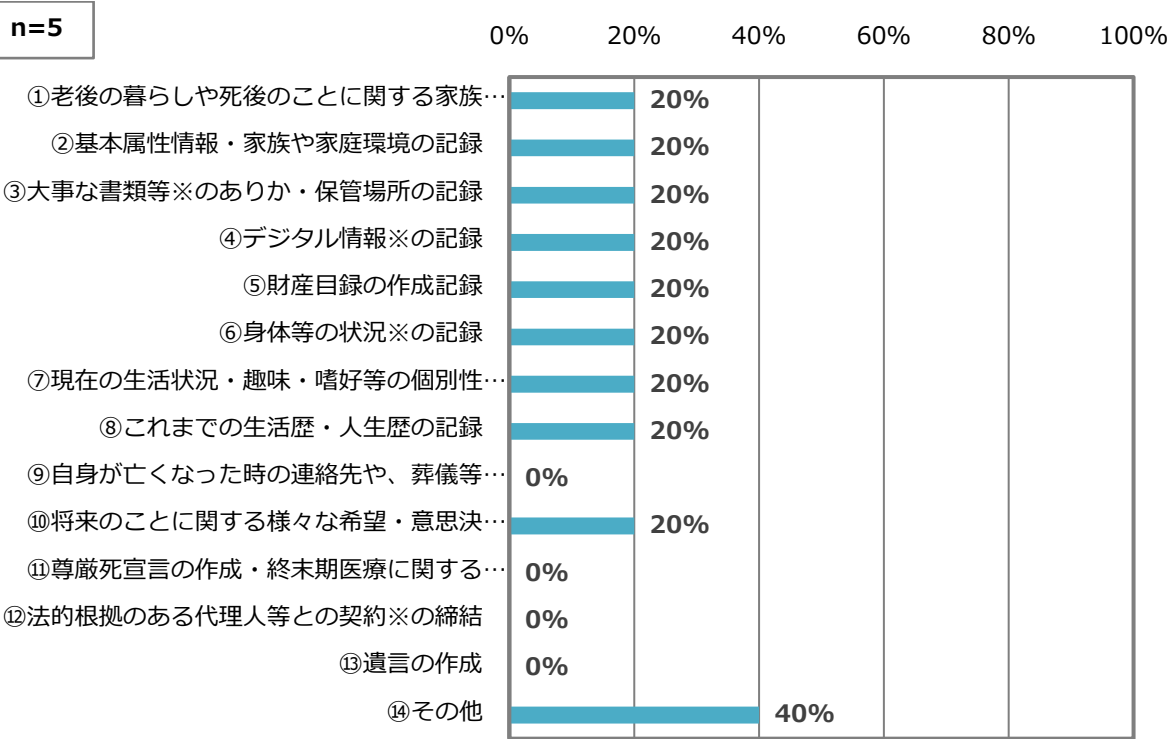


図表9-6-4：具体的な終活の取組状況（子どもの有無・人数：3人）



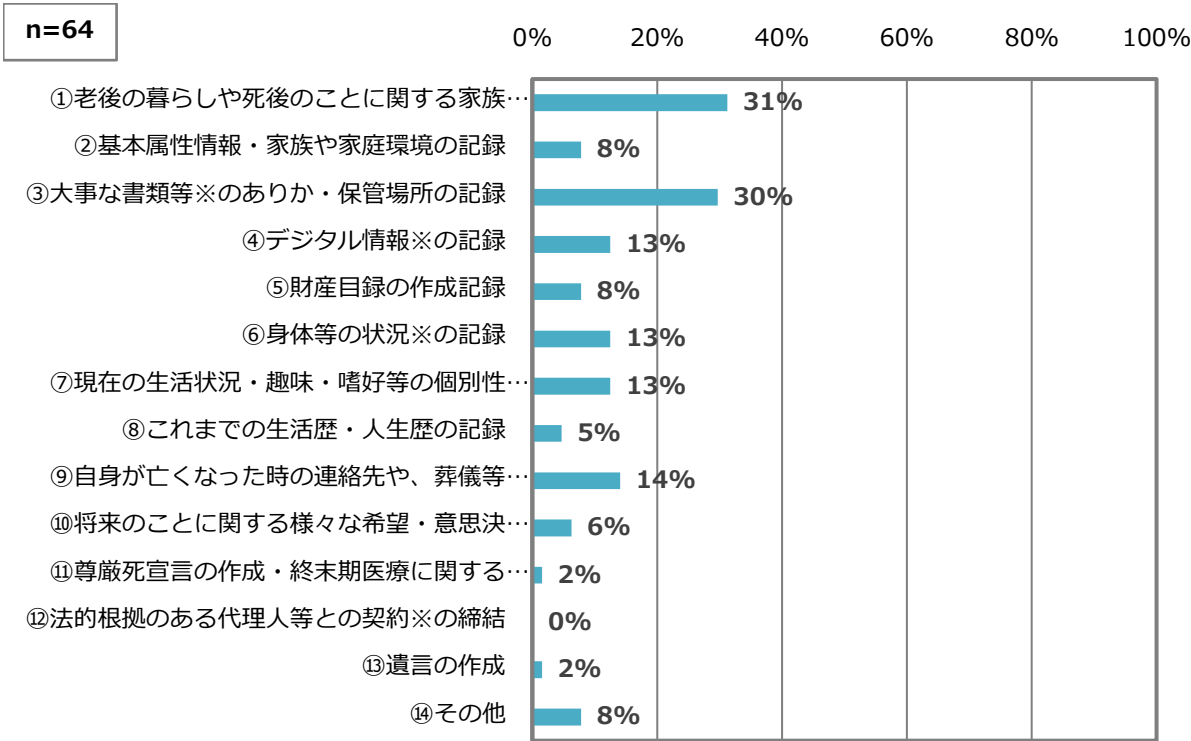
3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-6-5：具体的な終活の取組状況（子どもの有無・人数：4人）

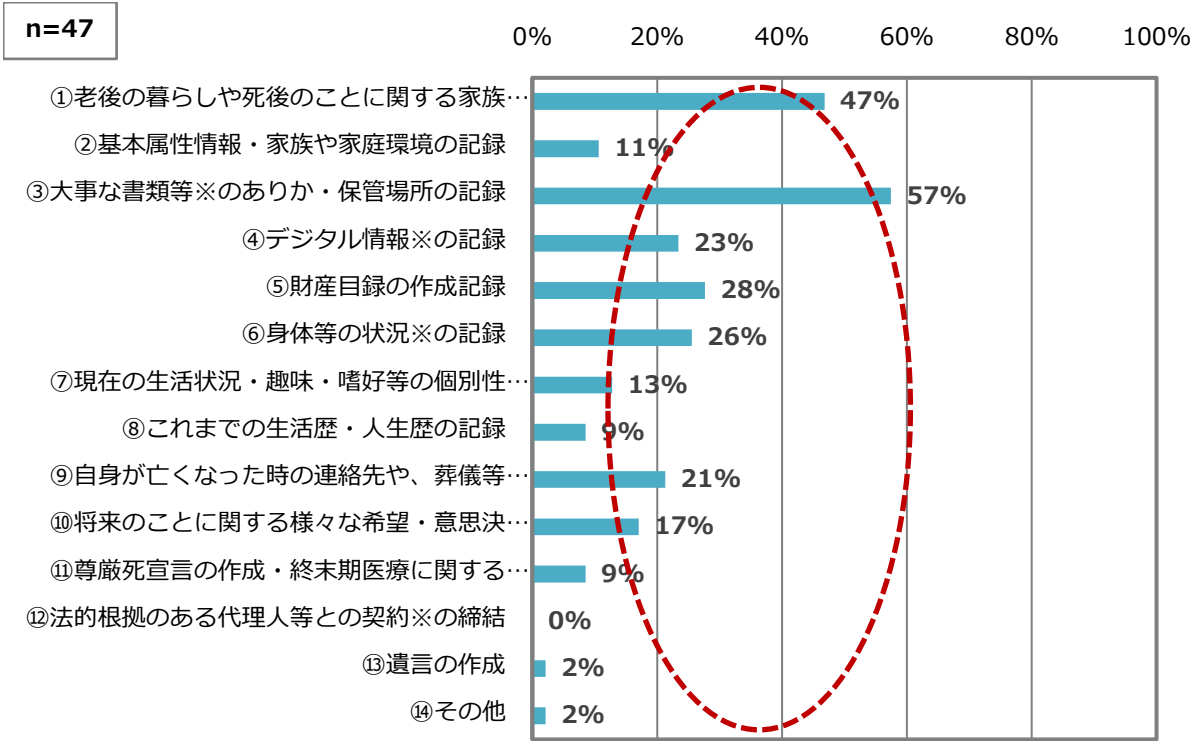


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-7-1：具体的な終活の取組状況（子どもの構成：息子も娘もいる）

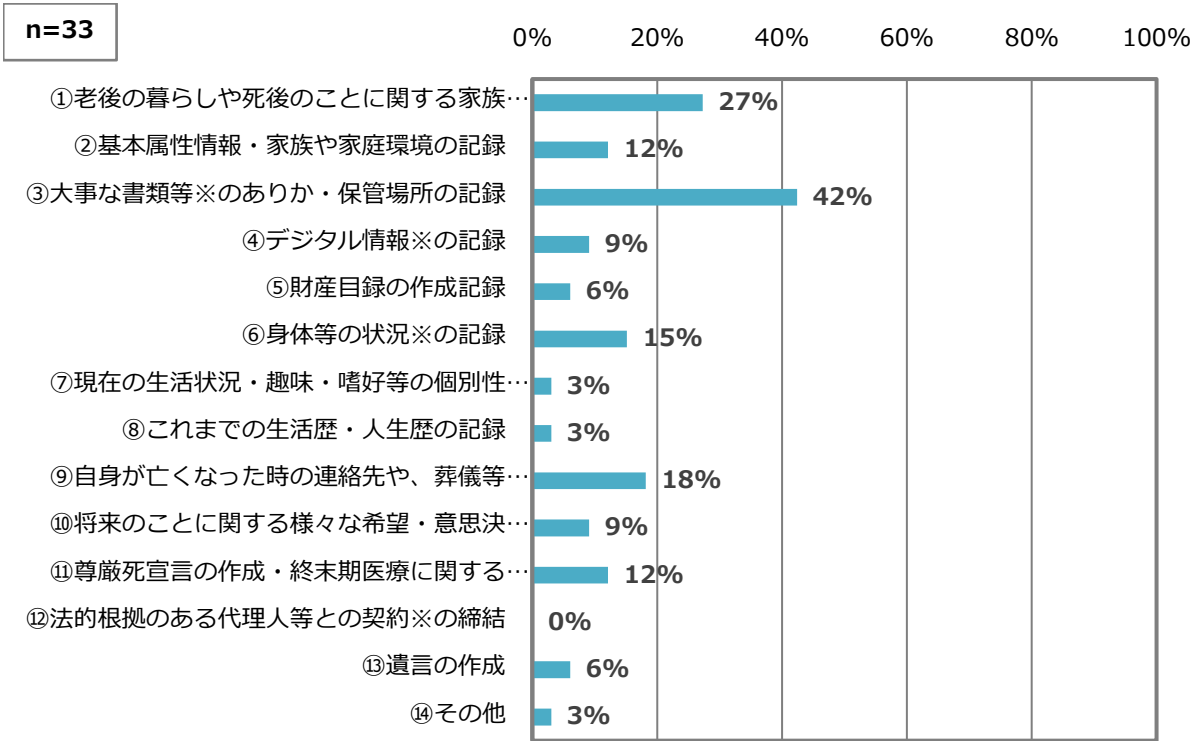


図表9-7-2：具体的な終活の取組状況（子どもの構成：息子はいるが娘はいる）

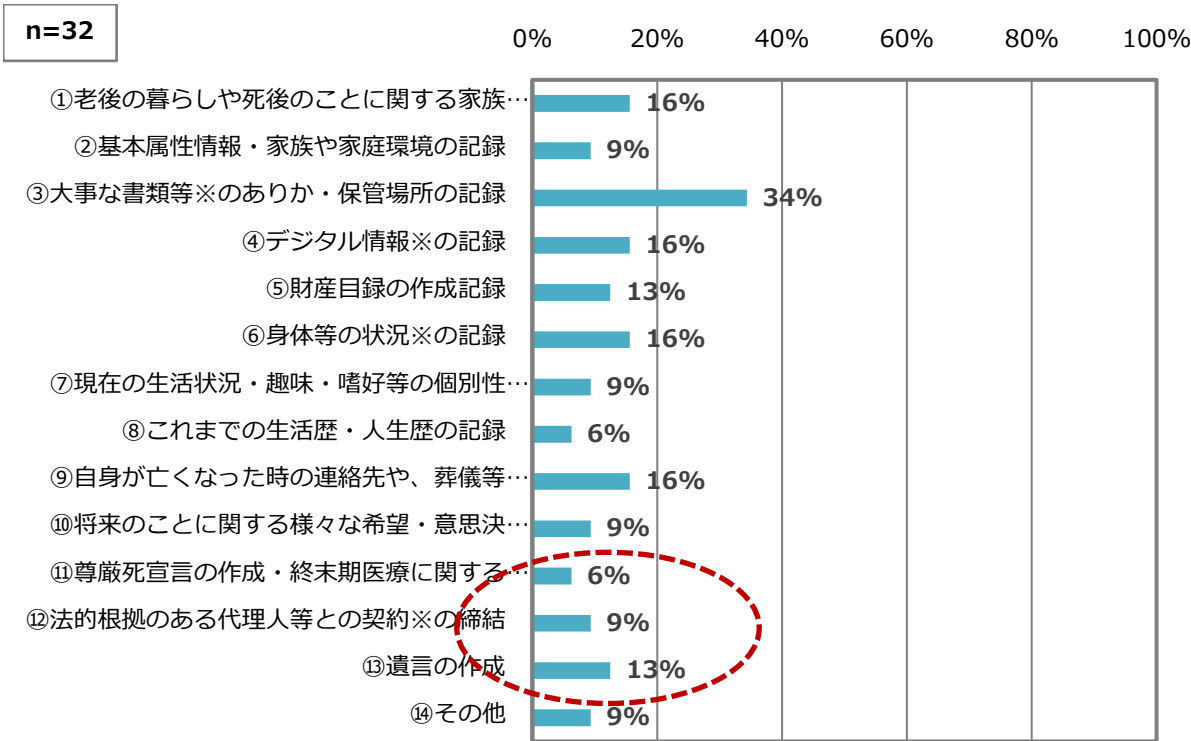


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-7-3：具体的な終活の取組状況（子どもの構成：息子はいるが娘はいない）

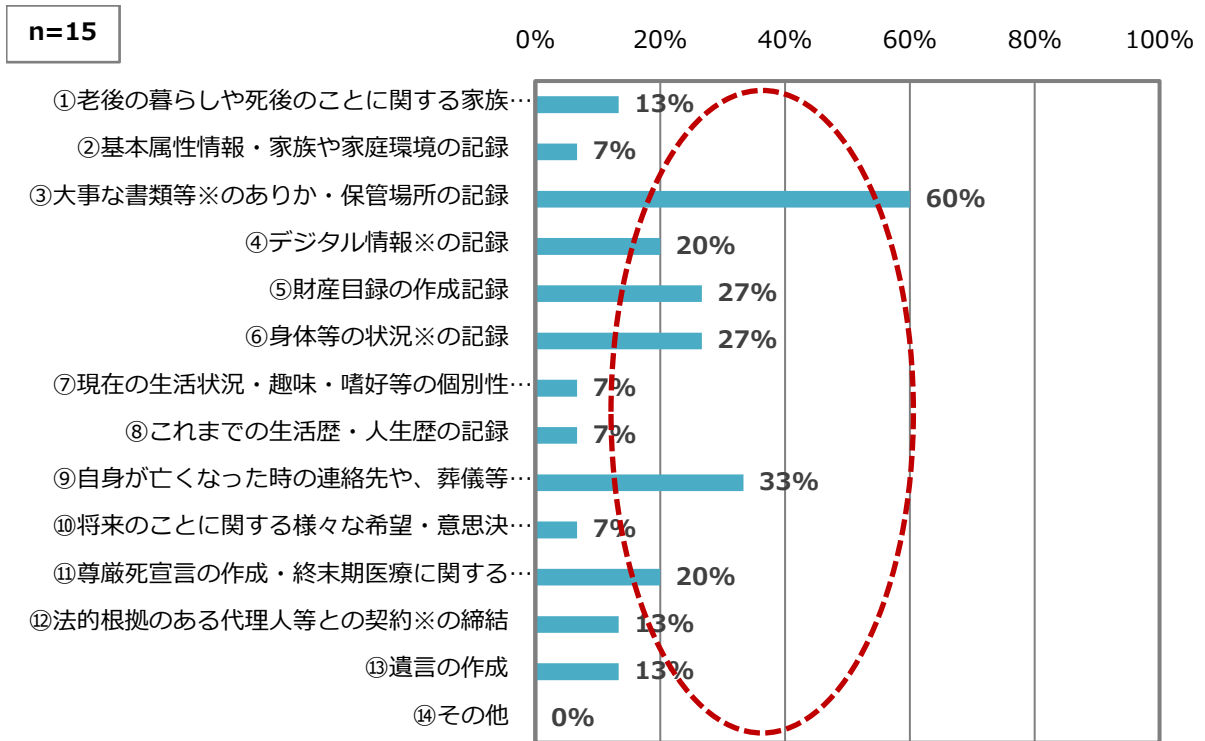


図表9-7-4：具体的な終活の取組状況（子どもの構成：息子も娘もいない）

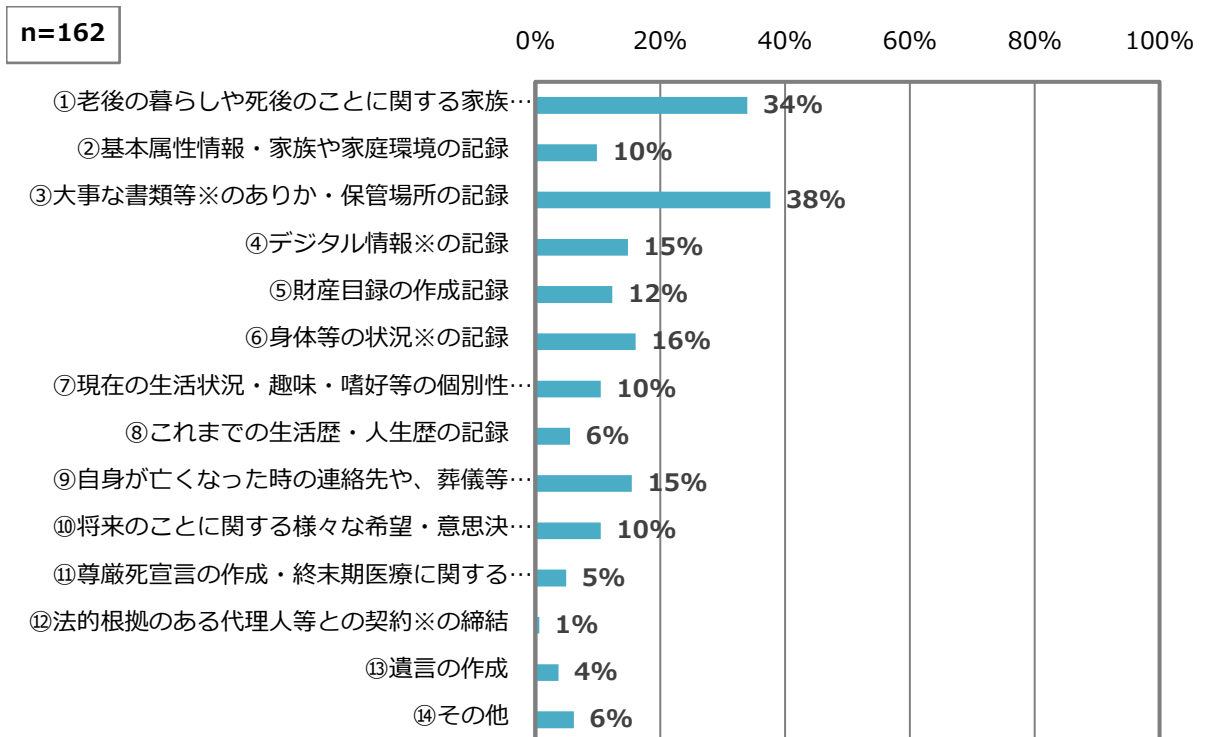


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-8-1：具体的な終活の取組状況（介護サービス利用：あり）

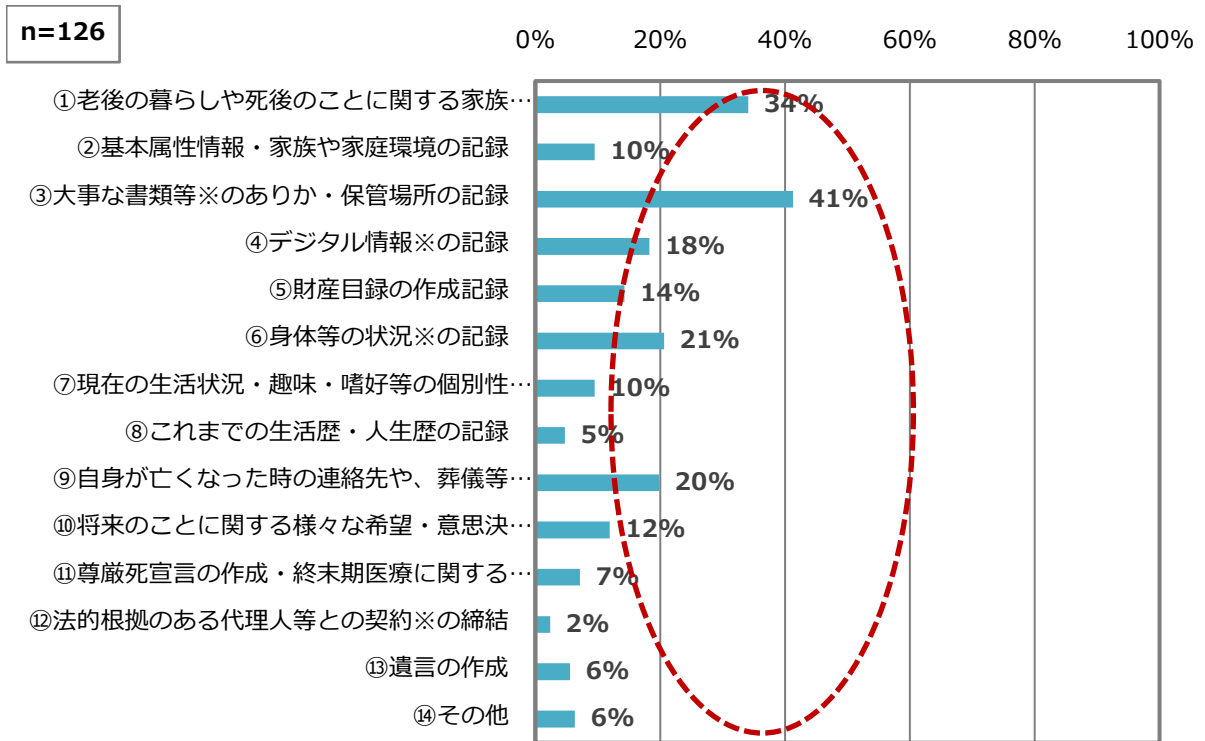


図表9-8-2：具体的な終活の取組状況（介護サービス利用：なし）

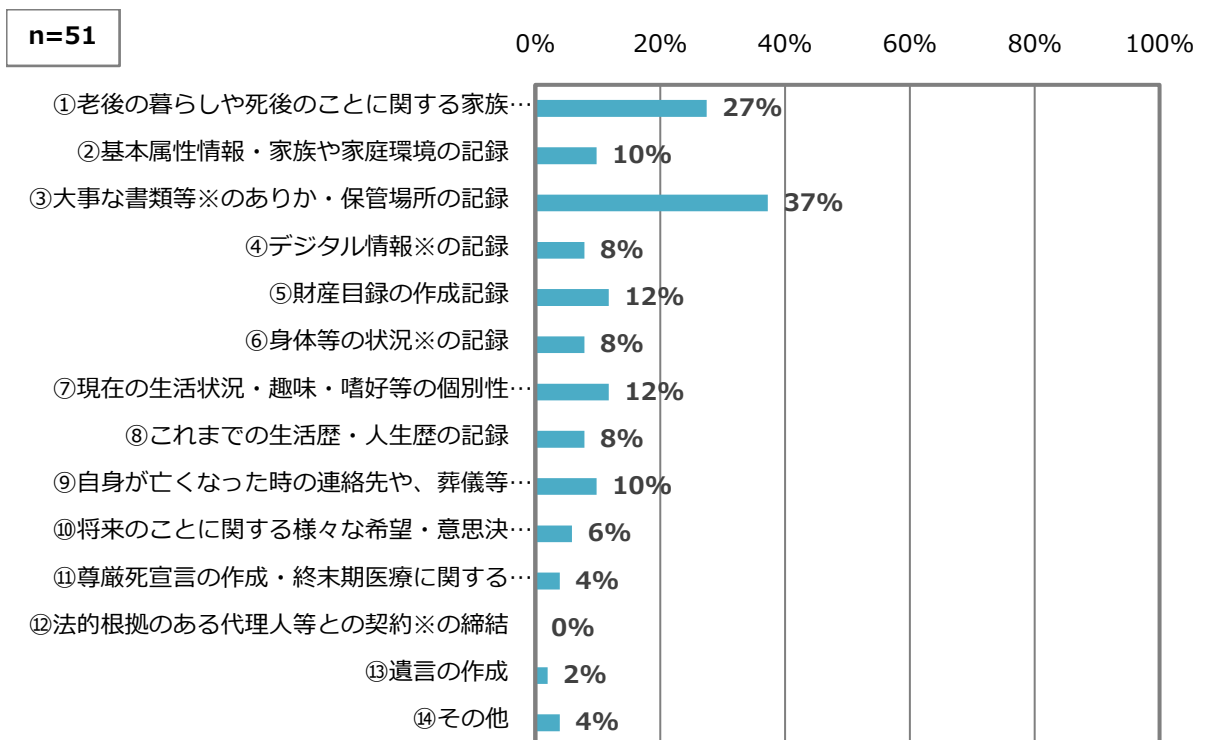


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-9-1：具体的な終活の取組状況（家族の介護経験：あり）

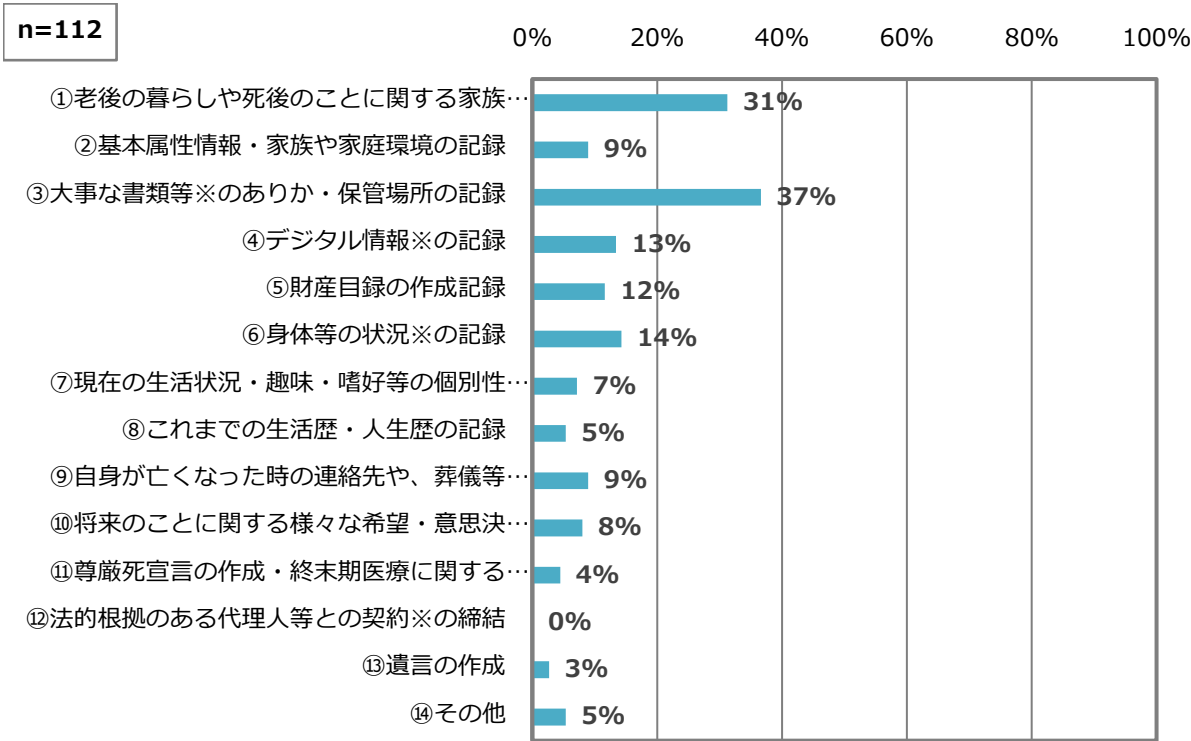


図表9-9-2：具体的な終活の取組状況（家族の介護経験：なし）

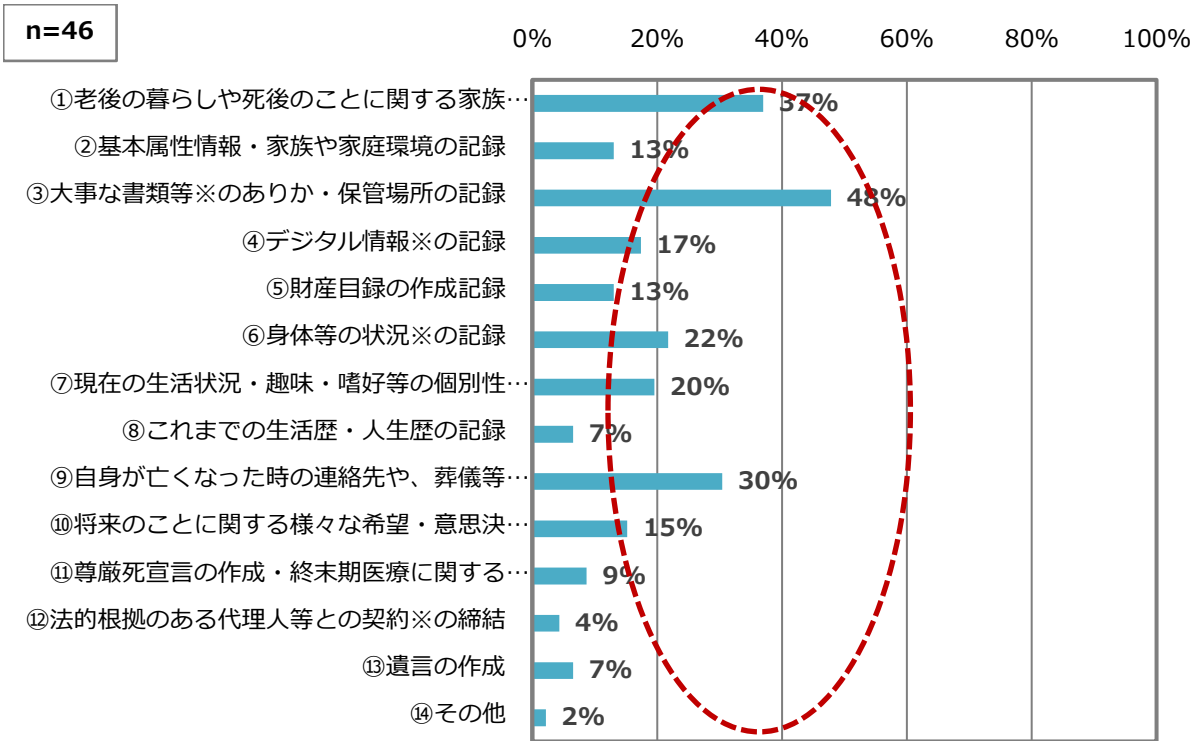


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-10-1：具体的な終活の取組状況（日常会話の有無・頻度：毎日～週に1回）

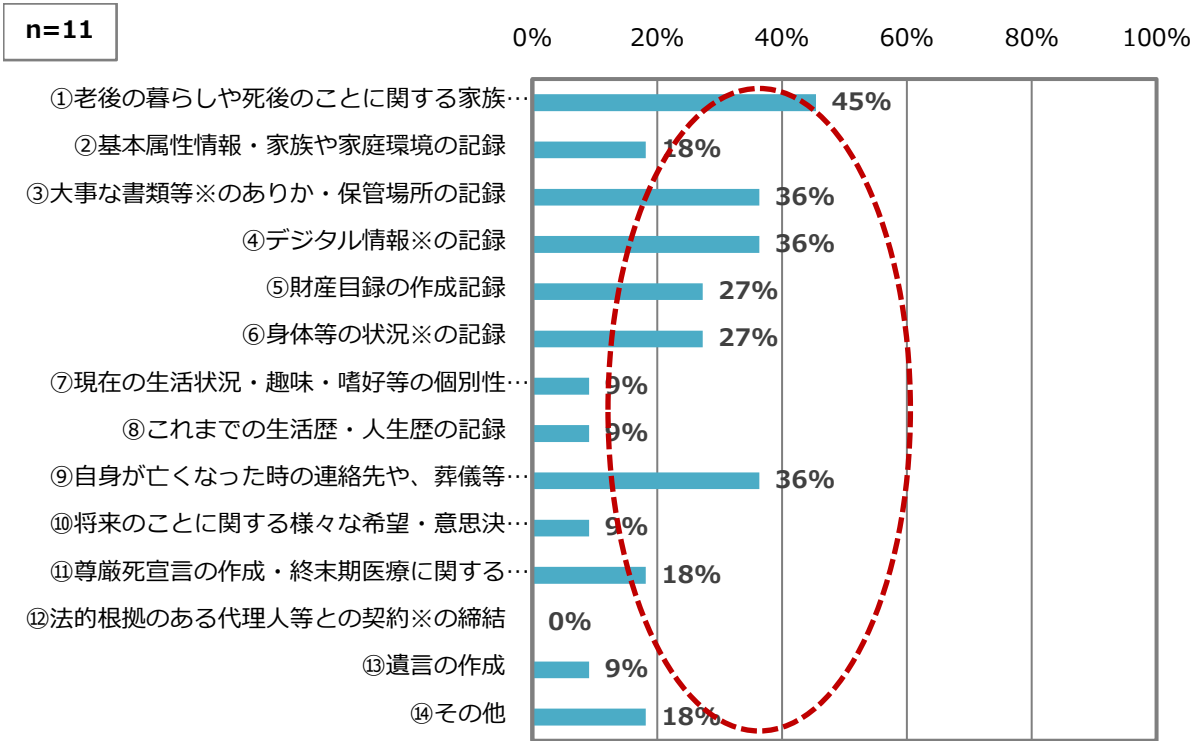


図表9-10-2：具体的な終活の取組状況（日常会話の有無・頻度：一月～二三月に1回）

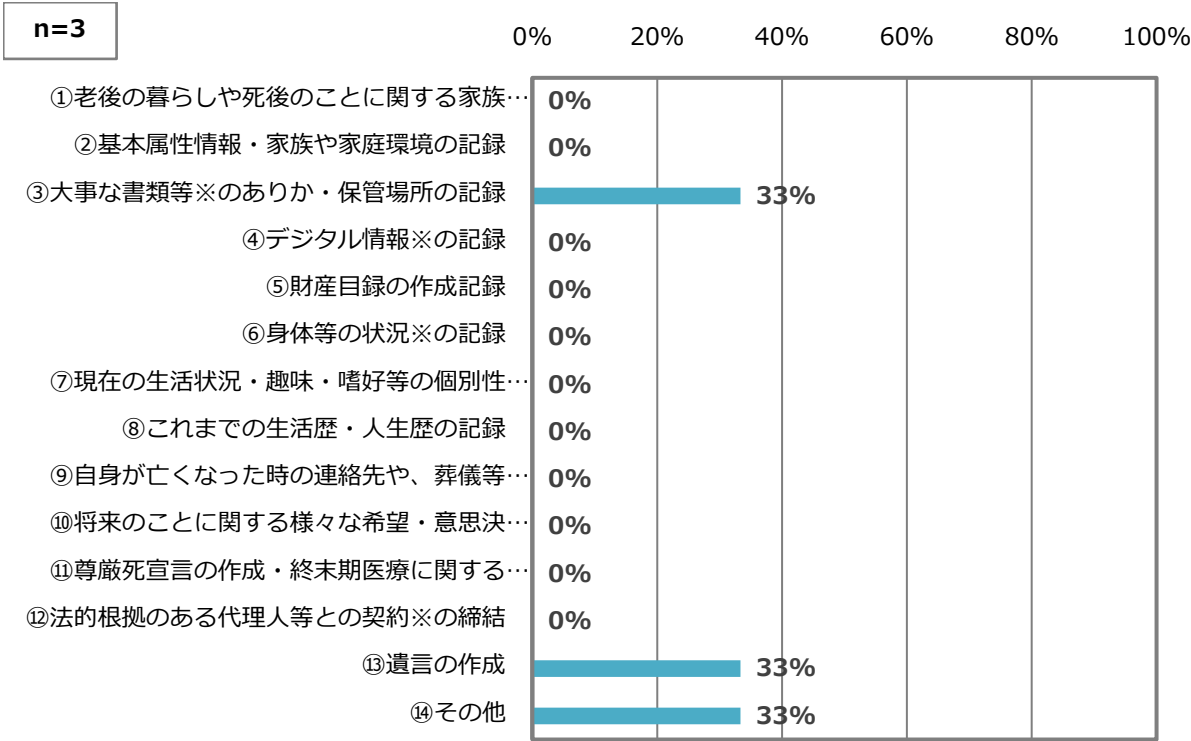


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-10-3：具体的な終活の取組状況（日常会話の有無・頻度：半年～1年に1回）

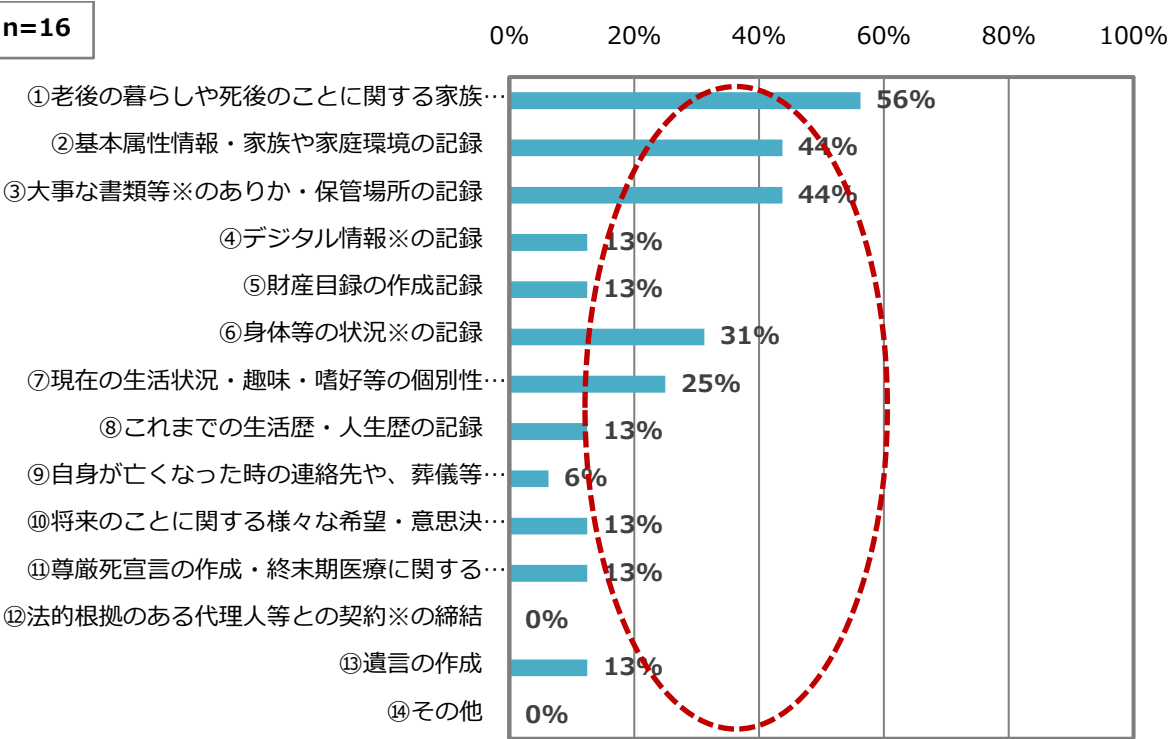


図表9-10-4：具体的な終活の取組状況（日常会話の有無・頻度：話をしない・音信不通）

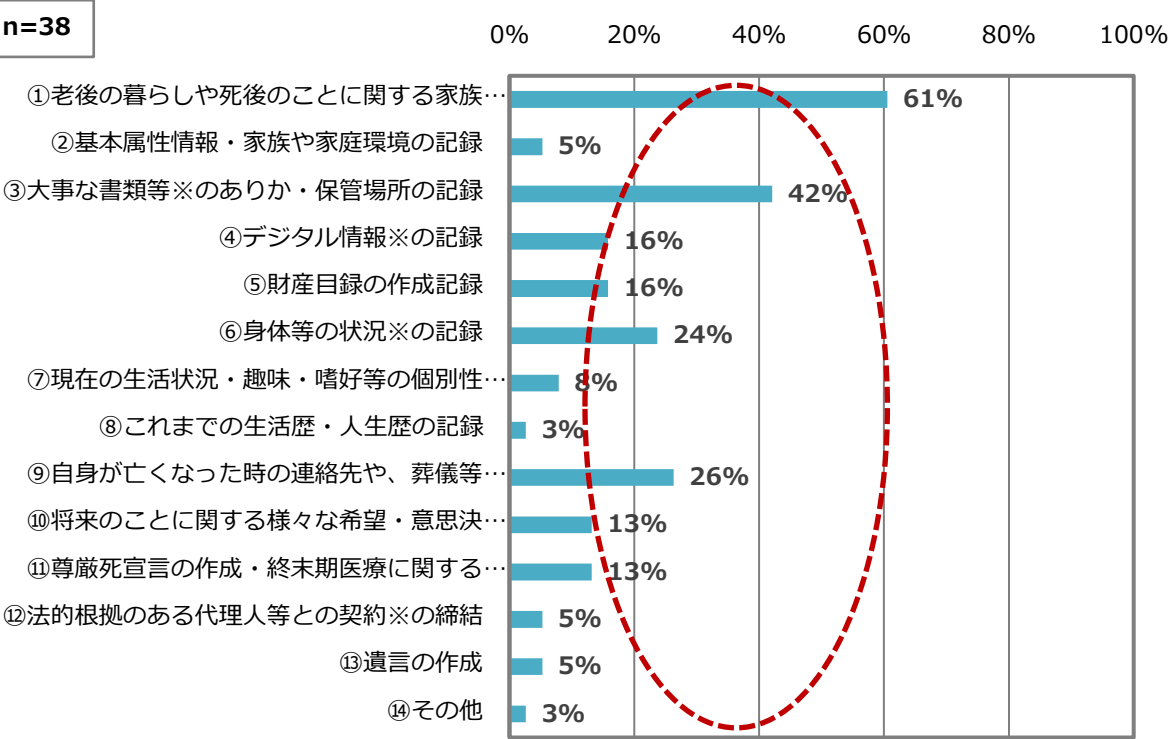


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-11-1：具体的な終活の取組状況（終活の話題の有無・頻度：定期的に具体的な話題）

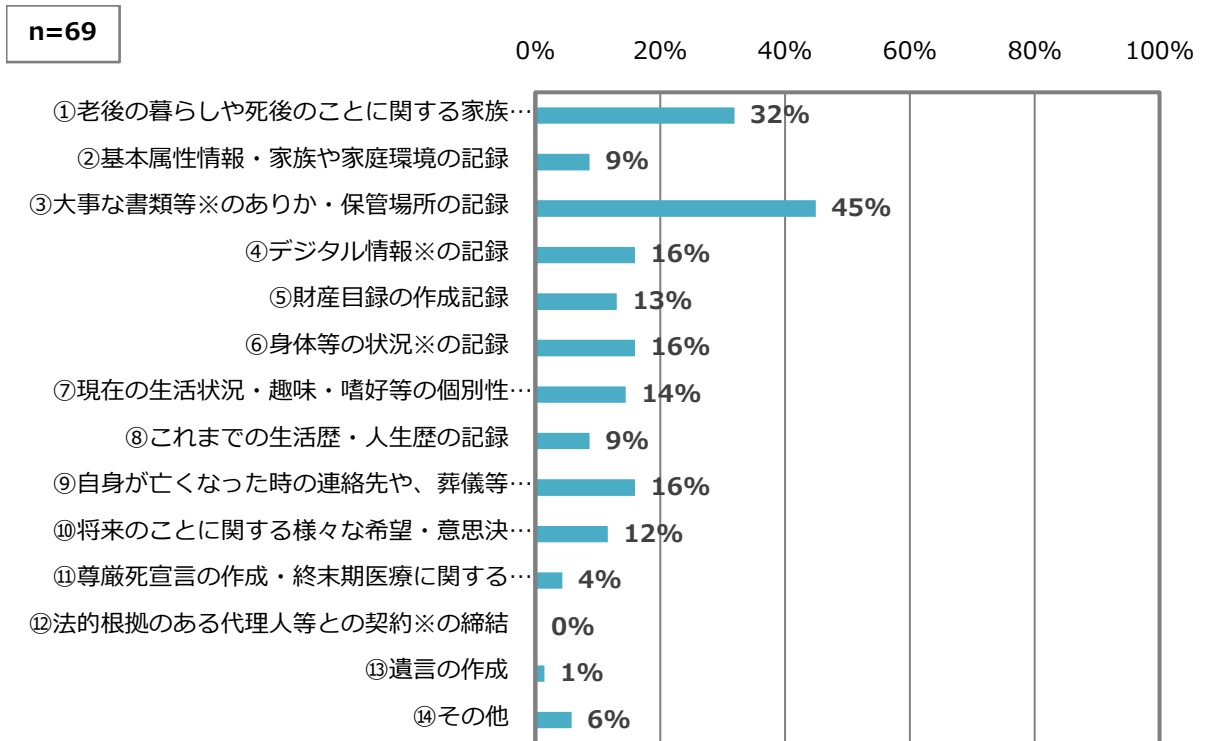


図表9-11-2：具体的な終活の取組状況（終活の話題の有無・頻度：定期的に話題）

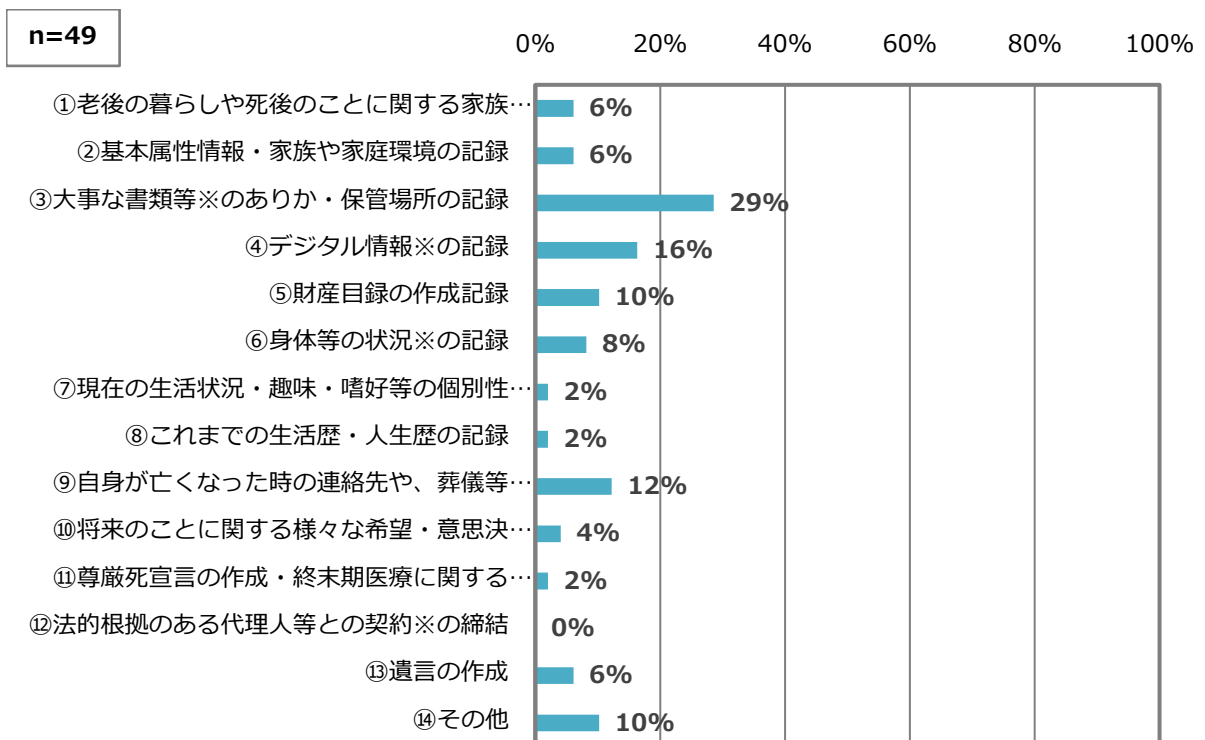


3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-11-3：具体的な終活の取組状況（終活の話題の有無・頻度：話題にはなる）



図表9-11-4：具体的な終活の取組状況（終活の話題の有無・頻度：話題にならない）

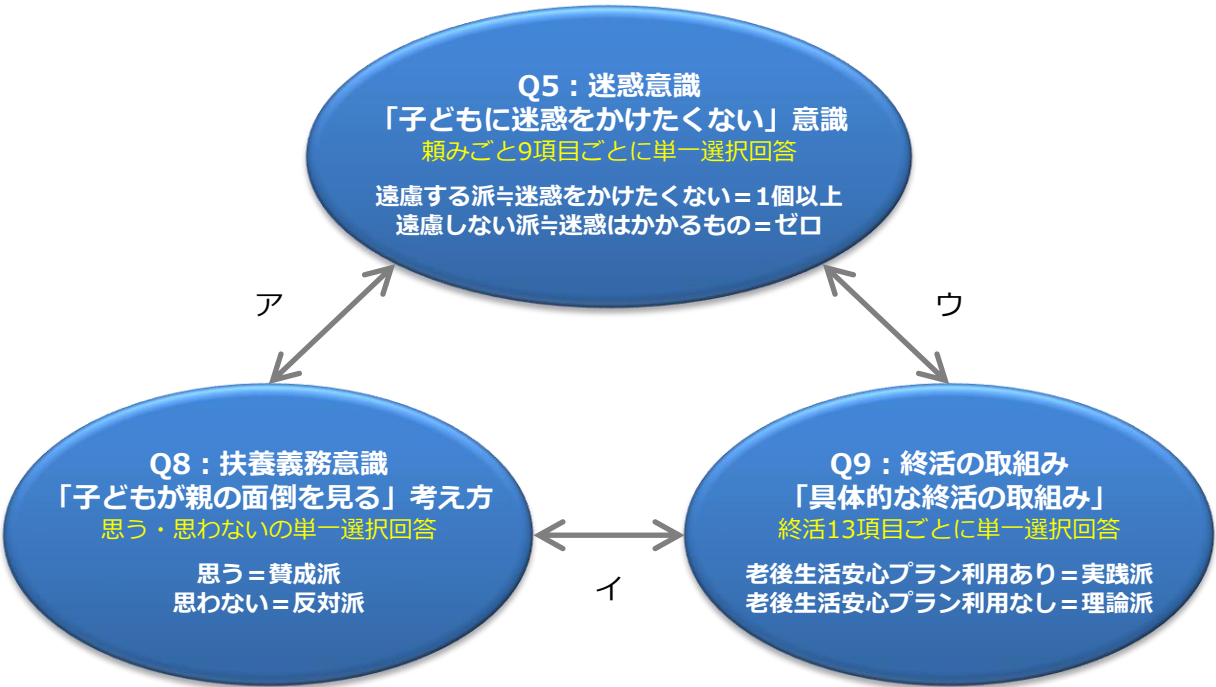


3. 調査結果 （4）終活の取組み

迷惑意識（問5）や扶養義務意識（問8）と終活の取組状況（問9）の関係

終活の意識と行動の乖離を分析するため、迷惑意識、扶養義務意識、終活の取組状況の3つの結果がどのような関係にあるのか検討を行うため、それぞれクロス集計を行った（図表9-12参照）。

図表9-12：迷惑意識（問5）・扶養義務意識（問8）・終活の取組状況（問9）の関係



3. 調査結果 （4）終活の取組み

ア. 迷惑意識（問5）と扶養義務意識（問8）の関係

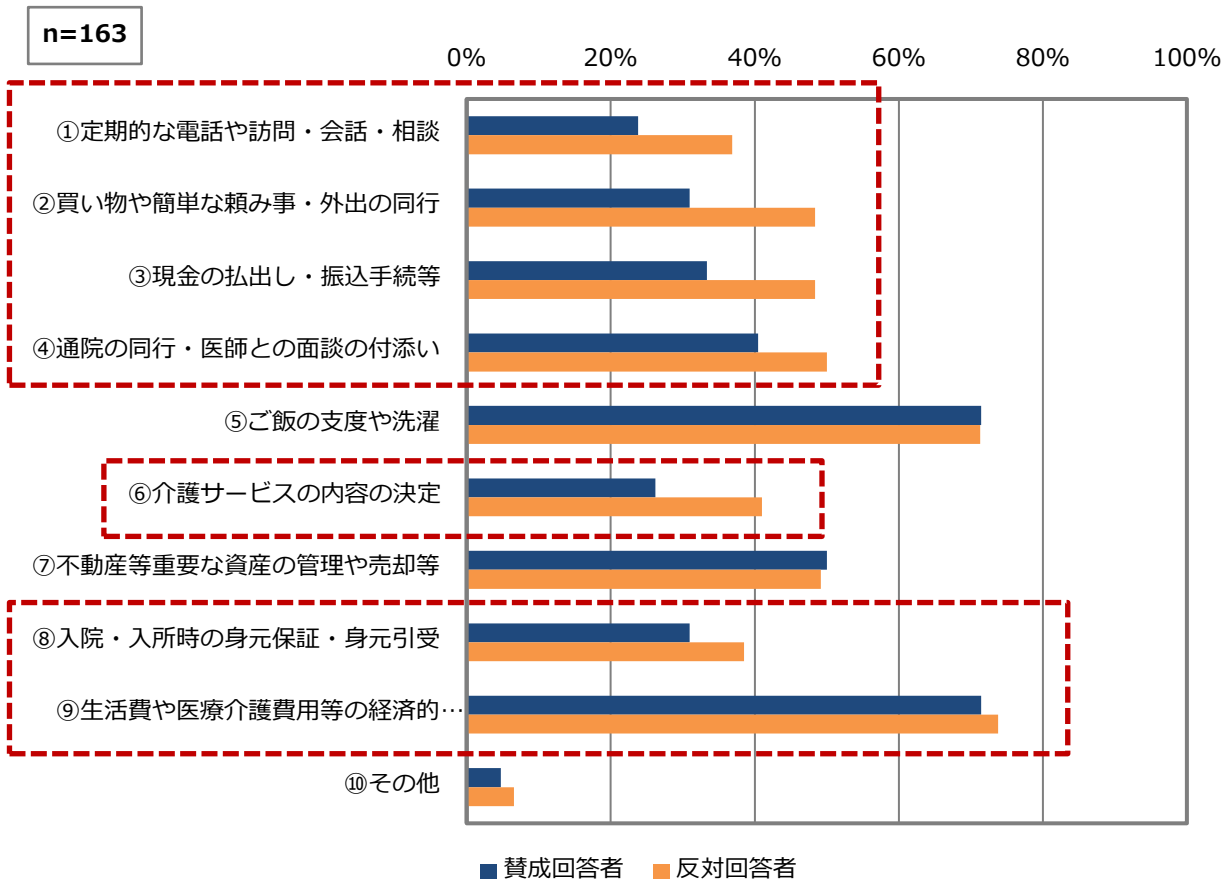
■ 仮説

「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前だと思う回答者群は、「子どもにとって迷惑」だと思う頼みごとの割合は少ない（子どもに遠慮せずに頼みごとをする）。つまり扶養義務意識に賛成する人は、反対する人よりも、迷惑意識が低いという仮説である。

■ 結果と考察（図表9-13参照）

問5で示した9つの選択肢のうち7つの選択肢で、賛成者の方が反対者よりも少なくなった。概ね仮説に沿った結果となった。しかし、選択肢⑤炊事洗濯、⑦重要な資産管理、及び⑨経済的援助の3つの項目は賛否が拮抗していた。この3項目については、扶養義務意識に関係なく子どもに対する配慮の気持ちが働いていることが見て取れる。

図表9-13：迷惑意識（問5）と扶養義務意識（問8）の関係



イ. 終活の取組状況（問9）と迷惑意識（問5）の関係

■ 仮説

「子どもにとって迷惑と思う」だと思ふ頼みごとが少ない回答者群は、終活の取組状況が少ない（いざとなったら子どもが何とかしてくれる）。つまり迷惑意識が低い人は、高い人よりも、終活行動に消極的であるという仮説である。先行研究では、迷惑意識が低い人は終活をポジティブに捉えていたことから、逆の仮説であるとも言える。

分析にあたり、回答者群を迷惑意識が高いか低いか線引きするため、問5の類型化の通り、遠慮する派を迷惑意識が高い回答者群とし、遠慮しない派を迷惑意識が低い回答者群とした。

■ 結果と考察（図表9-14参照）

問9で示した13の選択肢のうち8つの選択肢で、迷惑意識が低い群（遠慮しない派）の方が、迷惑意識が高い群（遠慮する派）よりも少なくなった。選択肢の数だけでいえば、迷惑意識が低い回答者群の方が、終活行動は少なくなっており、どちらかと言えば仮説に沿った結果となった。しかし③書類の保管場所の記録、⑤財産目録の作成、⑦個別性情報の記録、⑫代理人等との契約、⑬遺言作成の終活項目については、逆に多くなった点に対する検討は重要である。

選択肢の数だけでいえば、仮説は検証されたと考えることも可能である。しかし、逆の結果となった選択肢③⑤⑦⑫⑬の5項目は、任意後見の契約締結はもちろんのこと老後生活安心プランの利用にとってカギとなる重要項目である。そう考えると、迷惑意識が低い人の方が任意後見の利用に積極的なのではないかとの仮定も成り立ちうる。老後生活安心プランの利用は、本人が主体的に行動することが前提である。この点を重視すると、先行研究の指摘と同様、迷惑意識の低い回答者群は終活行動に積極的であると結論づけることも可能となる。

この調査結果からだけでは、仮説が検証されたかどうかは留保せざるを得ないと考えるのが妥当である。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-14：終活の取組状況（問9）と迷惑意識（問5）の関係



3. 調査結果 （4）終活の取組み

終活の取組状況（問9）と扶養義務意識（問8）の関係

■ 仮説

「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前だと思わない回答者群は、終活の取組状況が多い（いざとなったとき子どもに頼ることはできない）。つまり扶養義務意識に反対する人は、賛成する人よりも、終活行動に積極的であるという仮説である。

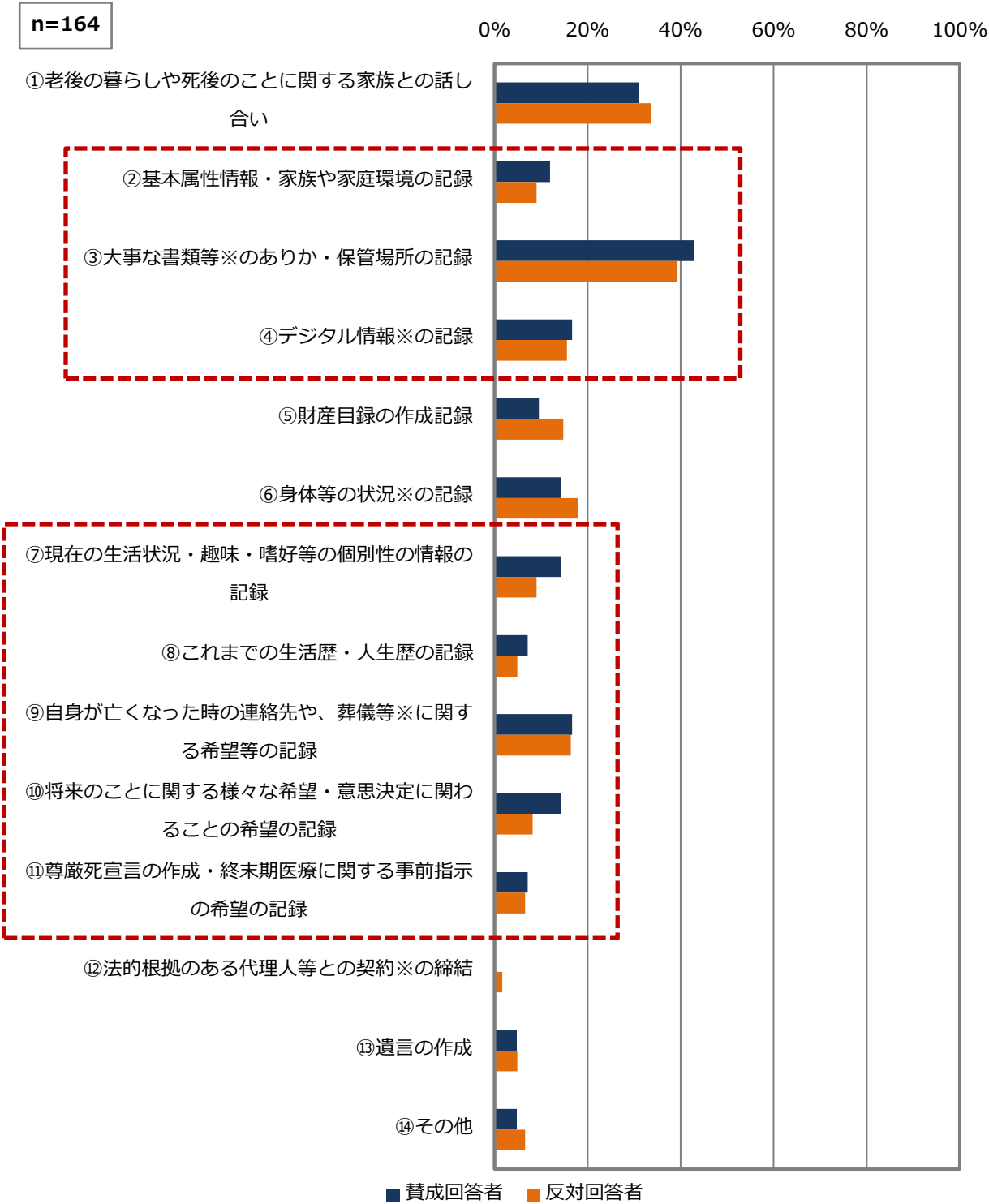
■ 結果と考察（図表9-15参照）

問9で示した13の選択肢のうち8つの選択肢で、賛成の方が反対者よりも多くなった。選択肢の数だけでいえば、扶養義務意識の賛成の方が、反対者よりも、終活の取組みが多くなっており、どちらかと言えば仮説とは逆の結果となった。

但し、逆の結果となった選択肢5つのうち⑤⑫⑬の3項目は、任意後見の契約締結に関連する項目である。特に任意後見が含まれる選択肢⑫は、扶養義務意識への反対者のみ回答していた。さらに、ほとんどの選択肢において賛成者と反対者の回答数に大差はなかった。この点に着目すれば、扶養義務意識と終活行動の関係は、相関関係はないと考えるのが妥当と考えられる。

3. 調査結果 （4）終活の取組み

図表9-15：終活の取組状況（問9）と扶養義務意識（問8）の関係



3. 調査結果 （4）終活の取組み

問10：終活の取組みが進まない理由

■ 質問と選択肢

問9で、取組みを行っていない項目がある場合、その理由は何ですか。（ ）内に自由にご記入ください。

理由（ ）

■ 質問の意図

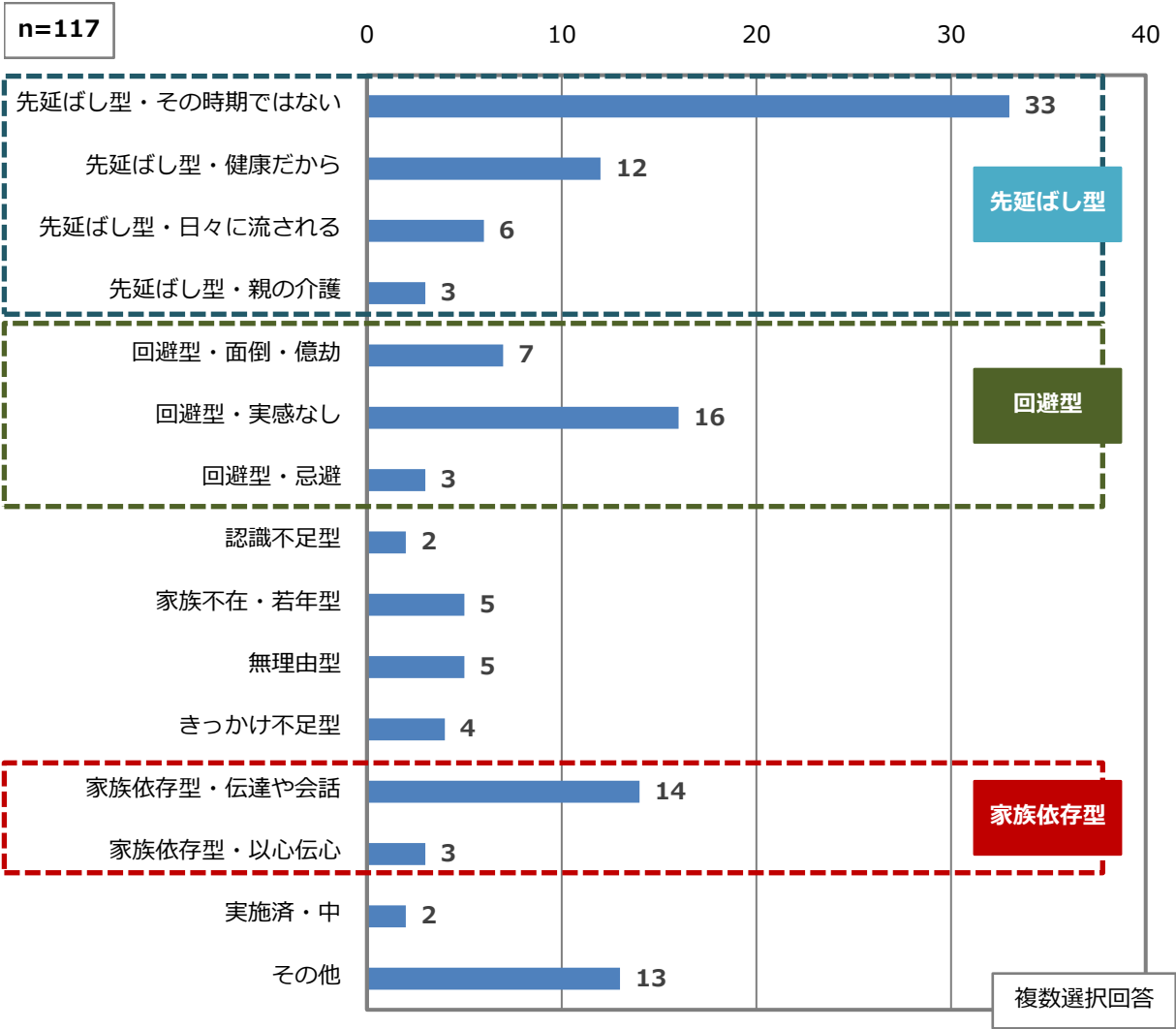
本問は、なぜ終活の取組みが進まないのか理由を記入回答で問うものである（自由記入回答）。

■ 回答結果（図表10-1参照）

回答者のうち、117件（65%）から記入回答を得た（回答結果は後述）。

図表10-1：終活の取組みが進まない理由（自由記入回答）

単位：件



3. 調査結果 (4) 終活の取組み

■ 理由（記入回答：文字が不明等の場合や固有名詞の場合は□で伏字とした）

終活が進まない理由についての回答内容は、以下の通りである。

なお、問5の迷惑意識について、▲遠慮しない派、●法制度利用者の場合に印をつけた。

【先延ばし型】

その時期ではない

- 面倒だから。突然ということがあることは重々承知していても、心の奥底ではまだ先の話と思っているからだと思います。時間のある時にやろうと思っているうちに…（60代女性）。NO.1
- 就活に関して、実際に、取り組んでいない事柄が多くあることに気づきました。まだ死は先のことと思っているようです。アンケートをして気づきました（70代女性）。NO.3
- まだ死ぬまでには時間があると思うから（50代女性）。NO.8
- 仕事が優先になり、じっくりと取り組む時間が作れていない。まだ大丈夫という甘えがあると思う。上記項目中の一部を口頭で伝えているものもあるが（チェックはしていない）、実行されないと思うので何らかの対応が必要（60代女性）。NO.9
- なかなか話し合わない（70代女性）。NO.20
- 考えなければと思いつつ、これからと言う状況（60代女性）。NO.26 ▲
- もう少し先でも大丈夫だと思うから（60代女性）。NO.62
- 主人とまだもう少しいられる為（70代女性）。NO.66
- まだ、そこまでの年齢ではないと思っている（60代女性）。NO.70
- 終活はもう少し先かな？と思う根拠のない考え（70代女性）。NO.72
- まだ、差し迫った課題と思っていないから（70代男性）。NO.73 ▲
- まだ早いかなと思っている（50代女性）。NO.86
- まだ先の事であると感じているから。いずれは具体的に考えていくつもり（50代女性）。NO.91
- 自分自身の死をまだ身近に感じていないから（40代女性）。NO.94
- 状況的に考えて先のことと思うから。きっかけがないため（50代男性）。NO.96
- ○がついていても、独り身なので、年老いた母と身体的に不安な兄への記録として、保険証やキャッシュカードなど持ち歩いているものも多いので進まない。もう少し年老いてからでもよい気がする（50代女性）。NO.99
- まだ早いと思うから。これから徐々に準備をしようと考えている（50代女性）。NO.105
- まだ50代で必要を感じていない（50代女性）。NO.106
- 緊急性があると思わないから（60代男性）。NO.108
- まだその時ではないと思うから（40代女性）。NO.110

3. 調査結果 (4) 終活の取組み

- まだまだ先と思っている部分があるから(60代女性)。NO.111
- まだ必要がない(早い)と思うから(60代男性)。NO.112
- まだ年齢的に、身体的に、まだ先の事だと捉えているから(60代女性)。NO.115
- まだ先があると思ひ考えてはいないが、子供にはたまに死後のことについて話はしている。今後は、少しずつでも考えなければならない問題だと思います(50代女性)。

NO.118

- 年齢的に何も考えていない(30代男性)。NO.120
- まだその時ではないと思うから(50代女性)。NO.127
- まだ先の事だと思っている(50代女性)。NO.133
- まだ大丈夫と思ってしまっている(70代女性)。NO.135
- まだ考えていない(70代女性)。NO.147
- 健康で仕事もしているので、まだ時期ではないと思っている(50代女性)。NO.148
- まだ高齢になって間もないので、リタイヤして取り組みたいと考えている(60代女性)。

NO.155

- 必要と思っているが、現状先送りになっている(70代女性)。NO.163
- 自分では今日、明日に終わりが来ると考えていない(80代男性)。NO.178

健康だから

- まだ元気だからと安心している。記録となると、、口では言っている(70代女性)。NO.36 ▲
- まだ健康で元気に暮らせてる為(60代女性)。NO.38
- 健康だからあまり気にしていない(80代女性)。NO.39
- 今まで元気だったのであまり考えてなかったが、そろそろ終活をしなければと考え始めたところです(70代女性)。NO.45 ▲
- 今現在、自分が病院には通っていますが、特別具合の悪い事はないので、取組みをしません(70代女性)。NO.116
- 年齢的にまだ自分自身の事が出来ていると思うが、いつ病気になったり、ケガをして頼まなければならない時が来ると思うが、80歳位までは自分自身でやっていきたいと考えている。子供達も今の年代になれば手伝ってもらえる時間が出来ると思うから(60代女性)。NO.124
- 現在健康のため(40代男性)。NO.131
- 自分はまだ元気だから、まだまだ先の事だと思っているから(60代女性)。NO.140
- 健康で仕事もしているので、まだ時期ではないと思っている(50代女性)。NO.148
- まだ大丈夫だと思うから(70代女性)。NO.160
- 私はまだまだ元気なので(70代男性)。NO.169
- 現在元気でいるため(60代男性)。NO.176

3. 調査結果 （4）終活の取組み

日々に流される

- まだ忙しくしているから。両方（80代女性）。NO.37 ▲
- そのうち細かいことを（具体的な取組みについて）伝えたいと思っはいるが、日々に流されている。そこには、触れたくないという気持ちがあるのも事実です（70代女性）。NO.74
- なかなか手が回らず、着手できてない（60代女性）。NO.75
- 仕事が継続しているため（50代女性）。NO.103
- 日々の生活が忙しい。今のところ、夫も私も病気していない（70代女性）。NO.142
- 育児・仕事で忙しいため（40代女性）。NO.157

親の介護

- まだ親を見送ったばかりで自身の老後はこれから（60代女性）。NO.48 ▲
- まだ、自分の終活までは手が回らない（40代女性）。NO.104
- 今は自分の親の介護中で時間がない（50代女性）。NO.123

回避型

面倒・億劫

- 面倒だから。突然ということがあることは重々承知していても、心の奥底ではまだ先の話と思っているからだと思います。時間のある時にやろうと思っているうちに…（60代女性）。NO.1
- 慣れない手続きは億劫に感じる（60代女性）。NO.2
- 難しいし、面倒なので、ちょっと先でも良いかなと思っているから。でも、基本的な考え方などは伝えているので、もしもの時は適切に対処してくれると思って、心配はしていない（70代女性）。NO.5
- エンディングノートに書き込むのが面倒（80代女性）。NO.21
- 面倒に感じてしまい先送りにしてしまっている（30代男性）。NO.92
- 話す内容が難しく、難儀であるため（70代男性）。NO.132
- 口頭では話しているのですが、まだ記録には残していません。終活ノートを作成しようと話はしているのですが、つつい億劫になってしまいます（60代女性）。NO.138

実感なし

- 何も考えた事が無かった。今からでも取り組まないといけなです（70代女性）。NO.27
- 今まで深く考えた事がなかったから（70代男性）。NO.46
- 自分自身にもまだ実感はなく、子どもにとってもまだ準備できていないと思うから（50代男性）。NO.54

3. 調査結果 (4) 終活の取組み

- まだ気分がのらないから (70代女性)。NO.77
- 年齢的に実感がわからない (50代男性)。NO.87
- 死を自分事として考えていないから (50代男性)。NO.90
- 終活に対する意識がまだ無い (50代女性)。NO.122
- まだ実感がなく具体的な話にならない (50代女性)。NO.125
- まだ実感がなく、話ずらさがあるため (60代女性)。NO.126
- そこまで考えてない (70代男性)。NO.130
- 終活を考えたことなかったなので、一つもしていない。死んだあとのことまで考えられないと思っていた (50代女性)。NO.137
- まだ具体的に老後の事を考えた事がなかった (60代女性)。NO.143
- まだ自身の中で固まっていないから、考えないといけないと思います (60代女性)。NO.153
- 子供がいないから。まだ終活について考えることが少ないから (20代女性)。NO.154
- まだ考えられないから (80代男性)。NO.159
- 今から考えるから (以前はあまり考えていなかったと言うのがほんとのところ) (60代男性)。NO.171

忌避

- そのうち細かいことを (具体的な取組みについて) 伝えたいと思ってはいるが、日々に流されている。そこには、触れたくないという気持ちがあるのも事実です (70代女性)。NO.74
- まだ考えたくない (60代男性)。NO.146
- 最近実母を失くした際、姉妹間でもめ事があり、後味が悪い、心が苦しかったので、子供たちには同じ思いをさせたくないで、人生の終わりは静かに (60代女性)。NO.168

認識不足型

- 就活に関して、実際に、取り組んでいない事柄が多くあることに気づきました。まだ死は先のことと思っているようです。アンケートをして気づきました (70代女性)。NO.3
- どこでどのような内容の契約をすればよいかわからなかった (身元保証人や委任後見・成年後見・遺言を託すところ等) (70代女性)。NO.44 ▲

3. 調査結果 (4) 終活の取組み

家族不在・若年型

- 子供いない(70代女性)。NO.50 ▲
- まだ、子どもに伝えて理解できる年齢ではない(40代女性)。NO.88
- 子どもがまだその年齢になっていないと思うから(30代女性)。NO.113
- 子供がまだ学生なので、又自分より親の方がこれらに関係してくると思われるので(50代女性)。NO.149
- 子供がいないから。まだ終活について考えることが少ないから(20代女性)。NO.154

無理由型

- なんとなく(70代男性)。NO.6
- 特になし(70代男性)。NO.65
- 特になし(意識していなかった)(50代男性)。NO.97
- なし(70代男性)。NO.119
- 全てやるべきだと思いますが、なかなか出来ない(80代男性)。NO.158

きっかけ不足型

- 頭では色々考えているが、紙媒体や関係者との話し合いには至っていない(50代女性)。NO.10
- その件は話し合っていない(70代女性)。NO.42
- 状況的に考えて先のことと思うから。きっかけがないため(50代男性)。NO.96
- 家族内で話すタイミングをつかめなかったため(60代女性)。NO.145

家族依存型

伝達や会話

- 難しいし、面倒なので、ちょっと先でも良いかなと思っているから。でも、基本的な考え方などは伝えているので、もしもの時は適切に対処してくれると思って、心配はしていない(70代女性)。NO.5
- 共通理解している(80代女性)。NO.7
- 仕事が優先になり、じっくりと取り組む時間が作れていない。まだ大丈夫という甘えがあると思う。上記項目中の一部を口頭で伝えているものもあるが(チェックはしていない)、実行されないと思うので何らかの対応が必要(60代女性)。NO.9
- 常々、日々の会話の中で、話しているので、特別に記録等とっていない(70代女性)。NO.12 ▲
- 今のところ、子供ではなく主人と話をしていますから(70代女性)。NO.22
- 大体子供が知っている(70代女性)。NO.25
- 終活についてはほとんど話し合い、記録もしていません(80代女性)。NO.30

3. 調査結果 (4) 終活の取組み

- 私の希望については話すことはあり、何かが起きた時には、三人の子供が協力し考えていくと信じている(60代女性)。NO.56
- 子供達は良く状況を知っているから(70代女性)。NO.64
- まだ先があると思ひ考へてはいいないが、子供にはたまに死後のことについて話はしている。今後は、少しずつでも考へなければならぬ問題だと思ひます(50代女性)。NO.118
- 口頭では話しているのですが、まだ記録には残していません。終活ノートを作成しようと話はしているのですが、ついつい億劫になってしまいます(60代女性)。NO.138
- 口頭では伝えていることもあります、具体的にまだまだ話し合う事もたくさんあるのだろうなと思ひています(70代女性)。NO.141
- 書面での記録はしていいなくても、何かの折に口頭で伝えている(70代女性) NO.144
- 妻がいるから(70代男性)。NO.167

以心伝心

- こちらの希望のあらかたはわかってきているという信頼があります(80代女性)。NO.17
- 子供といっしょに住んでいるので、いわなくてもわかってる(80代女性)。NO.41
- ふだん会話をする中で、それ以上はお互いに話をしない(80代女性) NO.164 ▲

実施済・中

- 特に大きな財産があるわけではない。葬式も教会でするし、墓地も決まっているから(80代男性)。NO.16
- 今、途中(未完成)(60代女性)。NO.51

その他

- 細かい事柄は何もしていいませんが、細かいことを言い出すと、死の前に何か不愉快なことが発生しないかと危惧するから、「死後のことは知ったことか!」という気持ちも少々あります(80代女性)。NO.11
- 特段に問題なし(70代女性)。NO.15 ▲
- 自身のことは出来るが主人の事が出来ない!!(70代女性)。NO.19
- これから少しずつ進めていきたいと考へている(60代男性)。NO.53
- 自分の年齢から考へて、今後、少しずつ対応していくつもり(60代男性)。NO.93
- 兄弟を想定して記載しており、年齢的にも話題に出ない(30代男性)。NO.100
- これから少しずつ検討していく項目があるため(60代男性)。NO.107
- 具体的なことはまだですが、これから娘と話し合っていきたいと思ひます(70代女性)。NO.117

3. 調査結果 （4）終活の取組み

- ⑥⑦⑧⑩は、これから記録していこうと思う（60代女性）。NO.136
- エンディングノートを書こうと思った（80代女性）。NO.161
- どこに大事な書類があるか分かっているので、あえて何かをする必要はない（80代女性）。NO.165 ▲
- 私がしない。心配かけたくないので、言わない（80代女性）。NO.166
- 今から考えるから（以前はあまり考えていなかったと言うのがほんとのところ）（60代男性）。NO.171

3. 調査結果 （4）終活の取組み

■ 考察

終活の取組みが進まない理由の回答を集計分析したところ、いくつかのグループに類型化することができた。重複していると思われる場合は複数回答として分類した。

- 先延ばし型（その時期ではない。今は健康だから。日々に流されてしまう。親の介護で多忙だった）
- 回避型（面倒で億劫。実感が湧かない。考えたくない）
- 家族依存型（日頃から伝えているし会話もしている。以心伝心）
- 認識不足型（制度を知らない）
- 家族不在・若年型（家族がいない。年齢が若い）
- 無理由型（特に理由はない）
- きっかけ不足型（きっかけがない）

特に、先延ばし型、回避型、家族依存型の3つが多数を占めた。終活意識調査という表題のせいもあってか、終活という言葉から連想される死後の問題にのみ目が行ってしまっているのではないかと回答が散見された。

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

（5）終活に対する気持ちや考え

■ 質問と選択肢

「子どもに迷惑をかけたくない」というお気持ちを含め、老後の暮らしや終活に対するあなたの考えをお聞かせください。（ ）内に自由にご記入ください。

記入欄（ ）

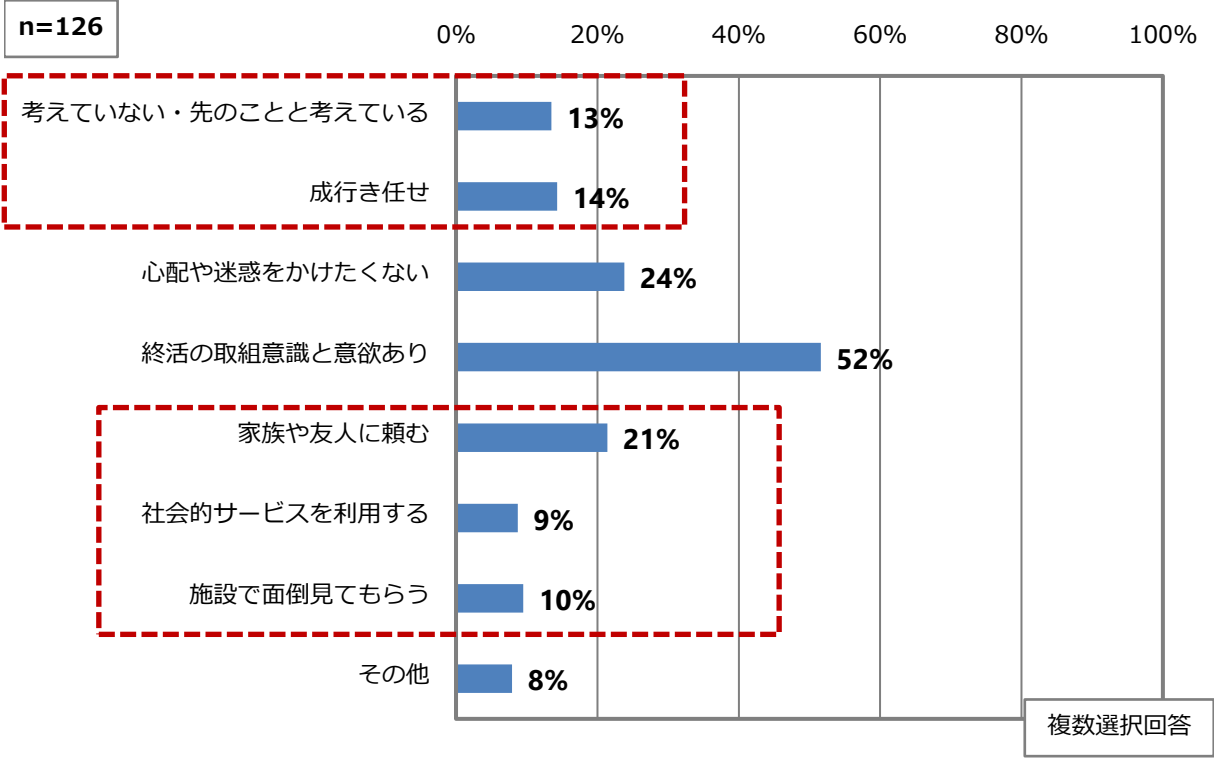
■ 質問の意図

本問は、終活全般に対する気持ちや考えを記入回答で問うものである（自由記入回答）。

■ 回答結果（図表11参照）

回答者のうち、126件（70%）から記入回答を得た（回答結果は後述）。

図表11：終活に対する気持ちや考え（自由記入回答）



3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

■ 記入回答 (文字が不明等の場合や固有名詞の場合は□で伏字とした)

終活に対する気持ちや考えについての回答内容は、以下の通りである。

なお、問5の迷惑意識について、▲遠慮しない派、●法制度利用者の場合に印をつけた。

考えていない・先のことと考えている

- まだ「その時」という実感に乏しく、あたまで考えているだけですが、「子どもだから〇〇せねばならない」という意識でかかわってはほしくないです。生き方や価値観は伝えているつもりなので、そういう対個人としてかかわってほしい。ただ、きちんとしないといけなのは財産のことだと思っています。残すというより、うまく使ってぴったりにくなるようにしたいものです(60代女性)。NO.1
- 年齢も年齢なので、しれなりに考えなくてはならないが、いかにも身近になったと自分を追い詰めるようになるだけで、今だけど、今は深く考えたいと、思いたいだけです(70代女性)。NO.12 ▲
- 終活について考えたことはない(80代男性) NO.16
- 自分が健康だから、あまり考えていない。気にはしている(80代女性)。NO.39
- ピンとこない。子供達の方がよく知っていると思う(80代女性)。NO.40
- ピンとこない(70代女性)。NO.43 ▲
- 現在、夫婦二人で暮らしてます。お互いにこの家で一日でも長く住み続けたいと思ってます。いつかは動けなくなる日が来ると思いますが、その時はその時で考えて参ります。2組の子供達との関係は良好に思います(70代女性)。NO.71
- 老後の事ましてや終活の事など考えてない(80代男性)。NO.85
- 自分がある程度の年齢もしくは病気になった時には、終活にいて、考えなければいけないと思っています。できるだけ在宅で暮らし、自分でできることは自分でやれるようにしたい。また利用できるサービスを使いながら生活していきたいと考えます(40代女性)。NO.88
- 「子供に迷惑をかけたくない」とは思います。ただ、子供の側からしたら本当に「迷惑」なのか？と思いました。私には親の介護を経験しましたが、「迷惑」とは感じなかったです。親に対しての感謝・愛情により、お世話し、介護しました。自分の終活については、まだ先と考えておりますが、このアンケートにより、色々考えるきっかけになったことは事実です(50代男性)。NO.96
- 今のところ具体的にはありませんが、最低限金銭的な負担だけはかけたくないと思っています(50代男性)。NO.97
- まだ考えた事がない(70代男性)。NO.119
- 特に今は考えていない(30代男性)。NO.120
- 今のところ何も考えた事はない(70代男性)。NO.129 ▲
- まだ考えてない(70代男性)。NO.130
- 今の所、考えていない(40代男性)。NO.131

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 財産に関すること、すべて私しか知らないのに、終活を考えたことなかった。調べればわかるだろうと思っていたが、いざとなったら残された人は大変だと思うので、一つずつノートに記すことにする(50代女性)。NO.137

成行き任せ

- 「ピンピンコロリ」と毎日祈るのみです(80代女性)。NO.11
- 自然消滅を希望(70代女性)。NO.15 ▲
- 子どもに迷惑をかけない為に少しでも健康でいる様に運動に取組み、寝たきりにならない努力をする(60代女性)。NO.26 ▲
- 家族に迷惑をかけないように健康に注意する。最後は老人ホームにはいる(70代女性)。NO.45 ▲
- 自分の最後を見える形にしておく事が大事であると思います(70代男性)。NO.46
- 自分自身が老後を楽しみたい(60代女性)。NO.48 ▲
- できるかぎり自立と自律ある生活をする(70代男性)。NO.69
- 健康寿命をできるだけ長く保ち、できるだけ自立した生活を送りたい。断捨離の必要性を強く感じている(母の遺品整理)。子供達にはその苦勞をさせたくないと思っているが、なかなか進まない(70代女性)。NO.72
- 一人きりで静かに死にたい(50代女性)。NO.86
- 好きな事をして最後まで元気に暮らしたい(50代女性)。NO.91
- できるだけ元気で長生きしてピンピンコロリとなるといいと思う(60代男性)。NO.93
- 出来る限り長く自立した生活を送りたいと思う。子どもは子どもの生活を営んでいくであろうと思うので。身体を大切にしたり、自分の死後の事を考え、準備したり、今できる事はあるかもしれない。できるだけ元気で長生きしてピンピンコロリとなるといいと思う(40代女性)。NO.94
- 生きがいを持って人生を終えたい(最後まで小さなことでも少しでも社会に役立つことをしていきたい)(60代男性)。NO.108
- 寿命が長くなってきているので。なるべく健康で過ごせるように出来たら一番だと思います。また老後の生活も余裕が持てるように蓄えておかないと思います。子供との同居はしたくないので、自分のことは自分でしていけるように頑張る。子供に迷惑をかけたり、頼ってまで長生きしたいと思わない。できればピンピンコロリで常々思っている(60代女性)。NO.115
- 日頃から気にはしていますが、後回しになっている現状です。出来る所から身の周りの不用品の処分等、大事なことは話し合い伝えていきたい。体調管理にも気をつけて行きたい(70代女性)。NO.141

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 子どもには自由に自分の進むべき道に進み、人生を謳歌して欲しい。そのためには改めて、自分の人生、できるだけ長く仕事ができるよう健康でありたいと感じた。子どもがまだ小さいため、終活について考える余裕がないが、長い人生設計の一つとして、重要書類の整理や財産管理をしていきたい（40代女性）。NO.157
- みんなに迷惑をかけないで、突然死がいいですね（80代男性）。NO.158
- 楽しく生きるため（70代男性）。NO.167
- 家族に過度な負担を残さないようにしたい。特に認知や病気にならないよう健康管理に注意したい（60代男性）。NO.176

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

心配や迷惑をかけたくない

- 親を見捨てる子どもたちではないとい信頼がありつつ、子どもの日常的暮らしに迷惑をかけたくないという思いもあります。老人施設に入居したことも大いにその思いと関係があります（80代女性）。NO.17
- 子どもにお金の心配はかけたくない!!（70代女性）。NO.19
- 主人の親が99.7ヶ月いたので、私はなりたくないから（80代女性）。NO.23
- 子どもに迷惑をかけない為に少しでも健康でいる様に運動に取組み、寝たきりにならない努力をする（60代女性）。NO.26 ▲
- 自分自身の経験から出来るだけ迷惑をかけたくない。元気なうちに整理できるものは捨てるようにする（70代女性）。NO.28
- お金に関する迷惑はかけたくないで、葬式代（お墓）は用意してある（60代女性）。NO.38
- 子どもはいないが、身内に迷惑をかけたくないで、自分で終活すべきだと思う（70代女性）。NO.44 ▲
- 家族に迷惑をかけないように健康に注意する。最後は老人ホームにはいる（70代女性）。NO.45 ▲
- 子どもはいません。できる限り提供可能なサービスを使って他の人に負担をかけないようにしたい（60代男性）。NO.53
- 認知症になったら施設に入り「子供に迷惑をかけない」と夫婦で決めていて、資金も準備しているが、実際に認知症になったら、その判断ができるか定かではないし、人手不足が加速したら、施設入居自体困難かもしれない。仮に施設入居しても、介護サービスの決定や通帳の管理等で子どもの手を煩わすことになる。子どもにとって迷惑かどうかは、子どもの住居が近所か遠方で大きく違ってくる。認知症の親が施設に入るまでに、高額な契約をしてしまったり、相続が発生したりで、大変苦労した経験から、任意後見をしておくことが子どもにかけける迷惑を減らすポイントだと思う。このアンケートによって、急に介護が必要になることもあるので、早いうちから終活に取組み、いざというときに、子どもに迷惑をかけないようにしようと気持ちを新たにした（60代女性）。NO.62
- 子ども・妻に迷惑をかけないように身体的・経済的に自立した状態で老後を過ごしたい。死後迷惑をかけないようにしっかりと準備しておきたい（30代男性）。NO.92
- 「子供に迷惑をかけたくない」とは思います。ただ、子供の側からしたら本当に「迷惑」なのか？と思いました。私には親の介護を経験しましたが、「迷惑」とは感じなかったです。親に対しての感謝・愛情により、お世話し、介護しました。自分の終活については、まだ先と考えておりますが、このアンケートにより、色々考えるきっかけになったことは事実です（50代男性）。NO.96
- 今のところ具体的にはありませんが、最低限金銭的な負担だけはかけたくないと思っています（50代男性）。NO.97

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 子どもは子どもの生活があるを第一に考え、本心は迷惑をかけたくない。子どもが親の面倒を見るのが当たり前でないと思うが、悔いのないよう出来る事をやってあげたいという子どもであってほしいと思うことは少なからずあり（40代男性）。NO.98
- 子どもに迷惑をかけたくないという気持ちは、親として持っているもので、それ自体が悪いとは思わず、どちらか一方の思い込みでいろいろ話ができないことは、なるべく避けられるように、日頃からよく話し合えると良いと思う（30代男性）。NO.100
- 寿命が長くなってきているので。なるべく健康で過ごせるように出来たら一番だと思います。また老後の生活も余裕が持てるように蓄えておかないと思いますが。子供との同居はしたくないので、自分のことは自分でしていけるように頑張る。子供に迷惑をかけたり、頼ってまで長生きしたいと思わない。できればピンピンコロリで常々思っている（60代女性）。NO.115
- 老後は子供には迷惑をかけたくないが、出来ない事は近くに住んでるのでしてほしいと思います。介護サービスを利用し、プロに任せます（70代女性）。NO.116
- 迷惑をかけたくはないが、安否確認はしてほしい。最後は見届けてもらいたい（50代女性）。NO.118
- 今、まさに親の介護中です。とても自分にとって辛い大変な事が多いです。それを子供達には、やらせたくないという気持ちでいっぱいです。ただ自分が老後どうなるかわからないのでお金は貯めていこうと思ってます（50代女性）。NO.123
- 出来る事なら迷惑をかけたくないが、全くかけないことは不可能。子どももある程度は親の面倒をみるのはしかたないと考えている（と自分は思っている）（60代女性）。NO.136
- 今後保険等利用しながら、出来る限り自分でやっていきたい。少なくとも金銭面で負担はかけたくない。これを機会に終活について家族と一度話ができればと思っています（60代女性）。NO.143
- 幸いにも子供達は面倒を見たいと言ってくれていますが、今の所は自分の家で介護保険やいろいろな制度を使い、出来る限り生活をしていきたいと思っていますが、身体や認知などの低下を自分自身が感じた時は、改めて自分自身の気持ちや子供達との気持ちを話し合いたいと思うが、自身の経済的な事は絶対迷惑はかけたくない（70代女性）。NO.144
- 扶養・介護を狭い考えでは、「子供に迷惑をかけたくない」が成立するが、年金制度、医療保険制度、介護保険制度、生活保護制度などは、若年層の税金から成り立っていることを考えると、すでに迷惑をかけているのが、現実であり、単に「これ以上の迷惑をかけたくない」という気持ちが強いものである（60代男性）。NO.146
- 迷惑をかけたくないが、何もしない子供でもないと思う。それなりに家族は助け合い補い合う事が幸せにつながる事を家族は感じて生きていると思う。チームワークのよい家族ができていないのではないかと考えます（60代女性）。NO.155
- みんなに迷惑をかけないで、突然死がいいですね（80代男性）。NO.158

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 私は子供に迷惑をかけたくないと若い頃思っていて、でも子供が後10歳年をとると85歳、面倒見る様かなと言っていました（70代女性）。NO.160
 - 子どもは子どもの生活。生きている間は迷惑をかけたくない（80代女性）。NO.165
- ▲
- 次の代へ残さないよう心掛けております（70代男性）。NO.169
 - なるべく迷惑をかけないで、自分なりにできる事からいろいろと（小さな事から）かたづけながら、残りの人生の時間を楽しみたいと思います。それが私なりの終活です（60代女性）。NO.172
 - 家族に過度な負担を残さないようにしたい。特に認知や病気にならないよう健康管理に注意したい（60代男性）。NO.176

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

終活の取組意識と意欲あり

- 人間は、死というものに逆らえません。必ず迎える死に対して、自分が用意できることをしていかなければと思います。在宅で日常生活を送ることが困難になった場合には、施設で生活することも考えています。少子・超高齢社会、介護人材の不足するなか、これからどうなるのか知れませんが、自分でできることは、きちんとしていかなければいけないと思っています。青年後見は、娘たちがしっかりとやってくれているので、他人に頼らず、きちんとしていけるものと安心しています(70代女性)。NO.3
- 介護が必要になっても、病気を発症しても、その状況の中で穏やかにごきげんよく暮らしていきたい、と願っている。介護してもらふ状況を子どもや孫たちの世代に見てもらうのも、先に逝く高齢者の役割だと思うので(70代女性)。NO.5
- 我が国の財政事情や人口構造を考えると、長生きリスクを知り、“自己防衛”に努める高齢者が増えることが、若者世代の負担軽減の唯一の方法だと思います(70代男性)。NO.6
- 要介護状況の実態、死後の手続き、費用についての現状を把握し、「当然、やるべきこと」として理解しているので、本人も子度も「迷惑」とは考えていない(80代女性)。NO.7
- ベッドにしばられる事なく、我が家で終わりを迎えたい(70代女性)。NO.22
- 子どもに迷惑をかけない為に少しでも健康でいる様に運動に取組み、寝たきりにならない努力をする(60代女性)。NO.26 ▲
- 自分自身の経験から出来るだけ迷惑をかけたくない。元気なうちに整理できるものは捨てるようにする(70代女性)。NO.28
- お金に関する迷惑はかけたくないので、葬式代(お墓)は用意してある(60代女性)。NO.38
- 子どもはいないが、身内に迷惑をかけたくないで、自分で終活すべきだと思う(70代女性)。NO.44 ▲
- 自分の最後を見える形にしておく事が大事であると思います(70代男性)。NO.46
- 上手な迷惑のかけ方を子に教えるつもりで終活をします(60代女性)。NO.51
- 私には子どもがいませんが、生前母が申してたことは、「子どもに迷惑をかけたくない」という言葉を聞かされてました。私は両親は死なないと思っていたので、聞かなかったふりをしてましたけど、亡くなってしまうと、私自身が責任をもって最後までやり通すという気持ちが強くなりました。子供とはそういうものだと思います(60代女性)。NO.52 ▲
- 生きていれば誰かしらに迷惑をかけてしまうものだと思うが、準備のできるものについては、できるだけ自分自身で進めておきたいと思う(50代男性)。NO.54
- 自分でできることは頼らず、お願いしたい問題については、相談したいと思います(60代女性)。NO.56

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 可能なことはすべて自分でやる前提でものごとをすすめていきたい（50代男性）NO.60
- 認知症になったら施設に入り「子供に迷惑をかけない」と夫婦で決めていて、資金も準備しているが、実際に認知症になったら、その判断ができるか定かではないし、人手不足が加速したら、施設入居自体困難かもしれない。仮に施設入居しても、介護サービスの決定や通帳の管理等で子どもの手を煩わすことになる。子どもにとって迷惑かどうかは、子どもの住居が近所か遠方で大きく違ってくる。認知症の親が施設に入るまでに、高額な契約をしてしまったり、相続が発生したりで、大変苦労した経験から、任意後見をしておくことが子どもにかけける迷惑を減らすポイントだと思う。このアンケートによって、急に介護が必要になることもあるので、早いうちから終活に取り組み、いざというときに、子どもに迷惑をかけないようにしようと気持ちを新たにしたい（60代女性）。NO.62
- 元気なうちに終活しておこうと思っている（70代男性）。NO.65
- 元気で過ごせる時は自分の意向で自由に生きたいが、身体や精神に問題が発生した時は“しかるべく施設”で人生の終末を迎える事を希望する（60代男性）。NO.67
- 出来る事は自分で行いたい。自分で出来なくなれば施設に入所させてもらう旨話をします（70代男性）。NO.68
- できるかぎり自立と自律ある生活をする（70代男性）。NO.69
- 健康寿命をできるだけ長く保ち、できるだけ自立した生活を送りたい。断捨離の必要性を強く感じている（母の遺品整理）。子供達にはその苦労をさせたくないと思っているが、なかなか進まない（70代女性）。NO.72
- できれば夫婦で終活を迎えたいと思う（70代男性）。NO.73 ▲
- このペースで間に合わないかもしれないが、自分の事は自分で始末付けたい（60代女性）。NO.75
- 自分がある程度の年齢もしくは病気になった時には、終活にいて、考えなければいけないと思っています。できるだけ在宅で暮らし、自分でできることは自分でやるようにしたい。また利用できるサービスを使いながら生活していきたいと考えます（40代女性）。NO.88
- 年金だけでは生活が成り立たないため、生涯現役で働き続けることになるのかと考えてしまう（50代男性）。NO.90
- 子ども・妻に迷惑をかけないように身体的・経済的に自立した状態で老後を過ごしたい。死後迷惑をかけないようにしっかりと準備しておきたい（30代男性）。NO.92
- 出来る限り長く自立した生活を送りたいと思う。子どもは子どもの生活を営んでいくであらうと思うので。身体を大切にしたり、自分の死後の事を考え、準備したり、今できる事はあるかもしれない。できるだけ元気で長生きしてピンピンコロリとなるといいと思う（40代女性）。NO.94

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 子であれ親であれ、本人の意志や価値観は違うものがあるので、普段からの終活の話や、自身の状態を把握していきたいと思う(50代女性)。NO.103
- 子どもがいないので、夫婦で早めに「終活」をすすめたいと思う(40代女性)。NO.104
- なるべく自分で事前に準備できることは準備しておきたいと思います。デジタル遺品も含め、ある程度(70歳後半くらい)までには整理して、遺言書の作成やエンディングノートの作成を行いたいと思います(50代女性)。NO.105
- 老後に限らず、若い頃も周囲にいろいろと迷惑をかけながら生きていくのが人間の宿命です。“迷惑をなるべくかけないように、出来るだけ準備しておこう”という程度で構わないのではないのでしょうか。一方で、子どものいない高齢者が今後増えていくと思いますが、子どものいない人に特に終活に対する意識をもってもらう必要があるのではないのでしょうか(60代男性)。NO.107
- 自分のことはなるべく自分でやりたいが、年をとってできなくなったら子どもに頼りたいと思う(60代男性)。NO.112
- 子どもにもその人生があり、すべてを頼むのは違うと思っています。自分で出来る事は自分で行い、介護保険、医療保険をうまく使い、子どもに負担にならないようにと考えています(30代女性)。NO.113
- 面倒を見る“子”が社会資源の活用方法を知ることができる環境作り(40代女性)。NO.114
- 両親の死後、名義変更は大変でした。娘が大変な思いをしないよう、これから元気なうちに進めたいと思います(70代女性)。NO.117
- 最終的には娘たちの手を借りないと生活できない老後になる可能性もあるとは思いますが。それまでは、少しでも老後の資金を貯め、働けるうちは働き、少しずつ身の周りの整理をしていく予定ではいます(50代女性)。NO.122
- 今、まさに親の介護中です。とても自分にとって辛い大変な事が多いです。それを子供達には、やらせたくないという気持ちでいっぱいです。ただ自分が老後どうなるかわからないのでお金は貯めていこうと思ってます(50代女性)。NO.123
- 出来れば経済的に自立した生活を送れるよう、しっかり今のうちから年金だけに頼らない程度の預金はつくりたいと考えている。出来れば介護保険関連の事業所に頼らずに同年代の同志の相互互助のしくみをしっかりした高齢者住宅に最後の生活の居をかまえれば楽しいかを考え中です。実現出来たらうれしいです(60代女性)。NO.124
- 出来れば子供たちの近くで生活したいが、それぞれの生活リズムは保ってきたい。年をとり、出来なくなる事が多くなってくるので、助けが必要な時のみ支援してもらいたい(50代女性)。NO.125

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 自分としては、介護サービスを受けながら、自宅で過ごしたいと思っている。それが、無理な状態になったら、やはり入院、入所については、子供に大まかなことはお願いしたいと思っている。その中で、子供に負担をかけないような選択を考えていきたい。もし、何もわからなくなってしまったら、全て子どもの判断で良いと思っている(60代女性)。NO.126
- 身のまわりのものや家など、死ぬ前まできちんと整理したい(50代女性)。NO.127
- 大切な書類の整理はしときたい。家の中の荷物整理(断捨離)(50代女性)。NO.128
- できるだけ自分たちだけで処理したい(70代男性)。NO.132
- 財産に関すること、すべて私しか知らないのに、終活を考えたことなかった。調べればわかるだろうと思っていたが、いざとなったら残された人は大変だと思うので、一つずつノートに記すことにする(50代女性)。NO.137
- 老後の暮らしについては、この頃考えるようになりました。まずは、身の周りの整理から始めようと思っています。子どもに迷惑をかけないためにも、貯蓄をし、病気になった時の対応など考えようと思います(60代女性)。NO.138
- 椅子に上がって高い所の物をとったりとか、重いものを運ぶのが大変になってきました。子供の手助けがないとこれからの生活は大変だと思います。両親が亡くなった時、いろいろと手続等があり、わからなくて困ったりしていたので、子供達には、そういう思いをかけないようにしたいとはと思っています(60代女性)。NO.140
- 日頃から気にはしていますが、後回しになっている現状です。出来る所から身の周りの不用品の処分等、大事なことは話し合い伝えていきたい。体調管理にも気をつけて行きたい(70代女性)。NO.141
- 葬儀社やお墓は用意してます。常日頃、万一の時は夫も私も、子供に延命治療は必要ないと話しています。夫は、家事ができますので、私が動けなくなったら夫が面倒を見てくれるでしょうし、夫が倒れたら私が面倒見ます。できるだけ自分たちのことは自分たちでやる、頼む時はお金を出すと考えています(70代女性)。NO.142
- 今後保険等利用しながら、出来る限り自分でやっていきたい。少なくとも金銭面で負担はかけたくない。これを機会に終活について家族と一度話ができればと思っています(60代女性)。NO.143
- 幸いにも子供達は面倒を見たいと言ってくれていますが、今の所は自分の家で介護保険やいろいろな制度を使い、出来る限り生活をしていきたいと思っていますが、身体や認知などの低下を自分自身が感じた時は、改めて自分自身の気持ちや子供達との気持ちを話し合いたいと思うが、自身の経済的な事は絶対迷惑はかけたくない(70代女性)。NO.144
- できるだけ自分の事は自分で出来るよう努力したい。出来なくなった時は、子供に病院なり施設を探してもらい、手配をお願いする(70代女性)。NO.147

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 「迷惑をかけない」ために「準備」をすることは、親の役目かと思います。どのくらいの時期に何をするか? 「親子」で「夫婦」で話し合いを持つことは必要だと思い、考えていきたいと思います。日々の生活に追われつつも、時間をかけることが必要と感じます(50代女性)。NO.148
- 前出の選択肢を一通り行っていれば、いざと言う時家族も手間取る事が無いと思うので、少しずつでも始められたら良いかなと(50代女性)。NO.149
- 物理的に荷物を整理(自分の体力のあるうちに)、自分の気持ち、介護になったら、認知症になったら、どうして欲しいのか、ノートなどに書きたいと思っている(まだノープランです)(60代女性)。NO.151
- 自分は結婚する予定も子どもを作る予定もないため、死後や老後のことは友人に頼っておこうと思う。具体的には戒名に「絵」や「漫」の字を入れて欲しい、少人数の葬儀でいい、などである(20代女性)。NO.154
- 子どもには自由に自分の進むべき道に進み、人生を謳歌して欲しい。そのためには改めて、自分の人生、できるだけ長く仕事ができるよう健康でありたいと感じた。子どもがまだ小さいため、終活について考える余裕がないが、長い人生設計の一つとして、重要書類の整理や財産管理をしていきたい(40代女性)。NO.157
- もう少し身体が自由がきかなくなったら、深刻に考えたい(80代男性)。NO.159
- 夫と二人で話をした上で少しでも安心して人生を終わることが出来るよう日々の生活を大切に楽しい時間を過ごしています(60代女性)。NO.168
- 次の代へ残さないよう心掛けております(70代男性)。NO.169
- 自分で出来る事は自分でやる(70代女性)。NO.170
- □□□で終活に対する制度を計画中との事なので。ぜひお願いします(60代男性)。NO.171
- なるべく迷惑をかけないで、自分なりにできる事からいろいろと(小さな事から)かたづけながら、残りの人生の時間を楽しみたいと思います。それが私なりの終活です(60代女性)。NO.172
- 墓じまいをし、両親と共に永代供養塔に登録済(関係書類の写しは子供に送付済)(80代男性)。NO.175
- 一人暮らしになったことで、3・4年前から使わなくなった家具や身の回り品の処分を少しずつ行っています。書類やきちんとしたエンディングノートまではいきませんが、必要な事を書き記し、保管場所も娘に伝えてあります。整理したことで自分自身の気持ちがとても楽になりました(60代女性)。NO.177
- 子どもには子の生活があり、それを大切に生きて欲しい。自分達のことは、自分達(親)で完結し、どうしても頼らなければならない時にだけお願いしたいと考えている(60代女性)。NO.179

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

家族や友人に頼む

- 必ず死はやってきますが、どうなるのかなという漠然とした不安はあります。夫の死を家族で経験しているので、困ったり面喰ったり初めてわかることがありました。その経験があるから家族とも抵抗なく終活を話題にできます。近い人の死を経験しているのと初めてでは心づもりは全く違うと思います。出来ればがんで死にたいなぁと思います。末期と言われてもしばらくは動けるし、残された時間から逆算できるので。これも自分で選ぶことはできないので、望みどおりには行きませんが、そんな気持ちだという事は子供に伝えています(60代女性)。NO.2
- 人間は、死というものに逆らえません。必ず迎える死に対して、自分が用意できることをしていかなければと思います。在宅で日常生活を送ることが困難になった場合には、施設で生活することも考えています。少子・超高齢社会、介護人材の不足するなか、これからどうなるのか知れませんが、自分でできることは、きちんとしていかなければいけないと思っています。青年後見は、娘たちがしっかりとやってくれているので、他人に頼らず、きちんとしていけるものと安心しています(70代女性)。NO.3
- 介護が必要になっても、病気を発症しても、その状況の中で穏やかにごきげんよく暮らしていきたい、と願っている。介護してもらう状況を子どもや孫たちの世代に見てもらうのも、先に逝く高齢者の役割だと思うので(70代女性)。NO.5
- 迷惑というより、重荷に感じてもらいたくない。一人一人にかかる負担を減らし、プロの力を借りながら(将来的にそれが可能かどうか不安だが)、認知症になっても気持ちの余裕をもって笑って過ごして、人生を締めくくりたい。子供たちにはそのチームの一員になってもらいたいと思う。そのための知識や情報を共有しておくことが重要だが、子どもたちは自分のことで精いっぱいのもので、まだその時間をとれていない(60代女性)。NO.9
- 入院や看取り期に医療に関わる際、身元保証人として身内の存在が必須な現状においては、子どもに依存せざるを得ない。子どもの立場に立つと、その時間を共有できないことは寂しいことだと思う。とは言え、金銭的な支援は難しいと感じるだろう。老後の暮らしや終活においては、介護保険その他、他者が出来ることは他者に、子どもには、「子供にしかできないこと」の部分でかわりをもてたらと考えている(50代女性)。NO.10
- 子どもの時、祖父母両親に世話してもらった。その後、両親とともに祖父母の世話をした。現在両親が私の子育てをしてくれている。子どもが世話するように育てたい(30代女性)。NO.18 ▲
- 自分でできることは頼らず、お願いしたい問題については、相談したいと思います(60代女性)。NO.56
- 主人と二人、今は健在ですが、一人になったら考え、子にしがうつもりです(70代女性)。NO.66

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 主人が退職してからゆくゆりと子供達にも相談しながら話を進めて行こうと思っています（60代女性）。NO.70
- 子どもは子どもの生活があるを第一に考え、本心は迷惑をかけたくない。子どもが親の面倒を見るのが当たり前でないと思うが、悔いのないよう出来る事をやってあげたいという子どもであってほしいと思うことは少なからずあり（40代男性）。NO.98
- 子どもに迷惑をかけたくないという気持ちは、親として持っているもので、それ自体が悪いとは思わず、どちらか一方の思い込みでいろいろ話ができないことは、なるべく避けられるように、日頃からよく話し合えると良いと思う（30代男性）。NO.100
- 財産管理（自分の土地処分を預金）については、任意後見人の手続を行い、身上保護の部分（特に医療・介護サービス利用の判断）は娘にお願いしたい。通院同行等は、娘の負担にならないようにサービス利用でできる部分は、サービス対応を願っています（60代女性）。NO.111
- 自分のことはなるべく自分でやりたいが、年をとってできなくなったら子どもに頼りたいと思う（60代男性）。NO.112
- 子どもにもその人生があり、すべてを頼むのは違うと思っています。自分で出来る事は自分で行い、介護保険、医療保険をうまく使い、子どもに負担にならないようにと考えています（30代女性）。NO.113
- 老後は子供には迷惑をかけたくないが、出来ない事は近くに住んでいるのでしてほしいと思います。介護サービスを利用し、プロに任せます（70代女性）。NO.116
- 迷惑をかけたくはないが、安否確認はしてほしい。最後は見届けてもらいたい（50代女性）。NO.118
- 最終的には娘たちの手を借りないと生活できない老後になる可能性もあるとは思いますが。それまでは、少しでも老後の資金を貯め、働けるうちは働き、少しずつ身の周りの整理をしていく予定ではいます（50代女性）。NO.122
- 出来れば子供たちの近くで生活したいが、それぞれの生活リズムは保っていたい。年をとり、出来なくなる事が多くなってくるので、助けが必要な時のみ支援してもらいたい（50代女性）。NO.125
- 自分としては、介護サービスを受けながら、自宅で過ごしたいと思っている。それが、無理な状態になったら、やはり入院、入所については、子供に大まかなことはお願いしたいと思っている。その中で、子供に負担をかけないような選択を考えていきたい。もし、何もわからなくなってしまったら、全て子どもの判断で良いと思っている（60代女性）。NO.126
- 本心では子供にお願いしたいとの気持ちはあります。しかし、仕事柄、いろんな家族をみて、子供さん達が大変な思いをしている状態があり、同じ思いをさせたくない。例えば、施設入所も前向きに考えて楽しむ等、気持ちの持ち方を変えれば良いこともありそうかな（70代女性）。NO.135

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 出来る事なら迷惑をかけたくないが、全くかけないことは不可能。子どももある程度は親の面倒をみるのはしかたないと考えている（と自分は思っている）（60代女性）。NO.136
- 今後保険等利用しながら、出来る限り自分でやっていきたい。少なくとも金銭面で負担はかけたくない。これを機会に終活について家族と一度話ができればと思っています（60代女性）。NO.143
- できるだけ自分の事は自分で出来るよう努力したい。出来なくなった時は、子供に病院なり施設を探してもらい、手配をお願いする（70代女性）。NO.147
- 老後には体の自由も徐々に効かなくなり、経済的にも自由になるお金は限られてくると思われます。与えられた条件の中で家族と協力し合ってやっていけたらと考えています（60代女性）。NO.150
- 自分は結婚する予定も子どもを作る予定もないため、死後や老後のことは友人に頼んでおこうと思う。具体的には戒名に「絵」や「漫」の字を入れて欲しい、少人数の葬儀でいい、などである（20代女性）。NO.154
- 迷惑をかけたくないが、何もしない子供でもないと思う。それなりに家族は助け合い補い合う事が幸せにつながる事を家族は感じて生きていると思う。チームワークのよい家族ができていないのではないかと考えます（60代女性）。NO.155
- 子どもには子の生活があり、それを大切に生きて欲しい。自分達のことは、自分達（親）で完結し、どうしても頼らなければならない時にだけお願いしたいと考えている（60代女性）。NO.179

社会的サービスを利用する

- 私はシングルなので、身辺整理をしておきたい気持ちは強い。ただ任意後見人を若い世代で探すのは今は難しい。若い人とは価値観の相違があり、自分の複雑な家族状況を話すのは、かなり信頼関係がないと難しいと思っているので。今から友人に話して、適当な若い人（後見人候補）を探したいと考えている（50代女性）。NO.8
- 迷惑というより、重荷に感じてもらいたくない。一人一人にかかる負担を減らし、プロの力を借りながら（将来的にそれが可能かどうか不安だが）、認知症になっても気持ちの余裕をもって笑って過ごして、人生を締めくくりたい。子供たちにはそのチームの一員になってもらいたいと思う。そのための知識や情報を共有しておくことが重要だが、子どもたちは自分のことで精いっぱいの時期で、まだその時間をとれていない（60代女性）。NO.9
- 子どもはいません。できる限り提供可能なサービスを使って他の人に負担をかけないようにしたい（60代男性）。NO.53

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

- 認知症になったら施設に入り「子供に迷惑をかけない」と夫婦で決めていて、資金も準備しているが、実際に認知症になったら、その判断ができるか定かではないし、人手不足が加速したら、施設入居自体困難かもしれない。仮に施設入居しても、介護サービスの決定や通帳の管理等で子どもの手を煩わすことになる。子どもにとって迷惑かどうかは、子どもの住居が近所か遠方で大きく違ってくる。認知症の親が施設に入るまでに、高額な契約をしてしまったり、相続が発生したりで、大変苦労した経験から、任意後見をしておくことが子どもにかけの迷惑を減らすポイントだと思う。このアンケートによって、急に介護が必要になることもあるので、早いうちから終活に取り組み、いざというときに、子どもに迷惑をかけないようにしようと気持ちを新たにした(60代女性)。NO.62
- 自分がある程度の年齢もしくは病気になった時には、終活にいて、考えなければいけないと思っています。できるだけ在宅で暮らし、自分でできることは自分でやるようにしたい。また利用できるサービスを使いながら生活していきたいと考えます(40代女性)。NO.88
- 財産管理(自分の土地処分を預金)については、任意後見人の手続を行い、身上保護の部分(特に医療・介護サービス利用の判断)は娘にお願いしたい。通院同行等は、娘の負担にならないようにサービス利用でできる部分は、サービス対応を願っています(60代女性)。NO.111
- 子どもにもその人生があり、すべてを頼むのは違うと思っています。自分で出来る事は自分で行い、介護保険、医療保険をうまく使い、子どもに負担にならないようにと考えています(30代女性)。NO.113
- 面倒を見る“子”が社会資源の活用方法を知ることができる環境作り(40代女性)。NO.114
- 老後は子供には迷惑をかけたくないが、出来ない事は近くに住んでいるのでしてほしいと思います。介護サービスを利用し、プロに任せます(70代女性)。NO.116
- 自分としては、介護サービスを受けながら、自宅で過ごしたいと思っている。それが、無理な状態になったら、やはり入院、入所については、子供に大まかなことはお願いしたいと思っている。その中で、子供に負担をかけないような選択を考えていきたい。もし、何もわからなくなってしまうたら、全て子どもの判断で良いと思っている(60代女性)。NO.126
- 今後保険等利用しながら、出来る限り自分でやっていきたい。少なくとも金銭面で負担はかけたくない。これを機会に終活について家族と一度話ができればと思っています(60代女性)。NO.143

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

施設で面倒見てもらおう

- 人間は、死というものに逆らえません。必ず迎える死に対して、自分が用意できることをしていかなければと思います。在宅で日常生活を送ることが困難になった場合には、施設で生活することも考えています。少子・超高齢社会、介護人材の不足するなか、これからどうなるのか知れませんが、自分でできることは、きちんとしていかなければいけないと思っています。青年後見は、娘たちがしっかりとやってくれているので、他人に頼らず、きちんとしていけるものと安心しています（70代女性）。NO.3
- 親を見捨てる子どもたちではないとい信頼がありつつ、子どもの日常的暮らしに迷惑をかけたくないという思いもあります。老人施設に入居したことも大いにその思いと関係があります（80代女性）。NO.17
- 自分で日常生活ができなくなった場合は施設に入る（80代女性）。NO.21
- 自分の妻が出来なくなった場合、老人ホームに入ろうと思っています（80代女性）。NO.30
- 家族に迷惑をかけないように健康に注意する。最後は老人ホームにはいる（70代女性）。NO.45 ▲
- 認知症になったら施設に入り「子供に迷惑をかけない」と夫婦で決めていて、資金も準備しているが、実際に認知症になったら、その判断ができるか定かではないし、人手不足が加速したら、施設入居自体困難かもしれない。仮に施設入居しても、介護サービスの決定や通帳の管理等で子どもの手を煩わすことになる。子どもにとって迷惑かどうかは、子どもの住居が近所か遠方で大きく違ってくる。認知症の親が施設に入るまでに、高額な契約をしてしまったり、相続が発生したりで、大変苦労した経験から、任意後見をしておくことが子どもにかける迷惑を減らすポイントだと思う。このアンケートによって、急に介護が必要になることもあるので、早いうちから終活に取り組み、いざというときに、子どもに迷惑をかけないようにしようと気持ちを新たにしたい（60代女性）。NO.62
- 元気で過ごせる時は自分の意向で自由に生きたいが、身体や精神に問題が発生した時は“しかるべく施設”で人生の終末を迎える事を希望する（60代男性）。NO.67
- 出来る事は自分で行いたい。自分で出来なくなれば施設に入所させてもらう旨話をします（70代男性）。NO.68
- 夫妻で老人ホームにと考えています（70代女性）。NO.84
- 自分としては、介護サービスを受けながら、自宅で過ごしたいと思っている。それが、無理な状態になったら、やはり入院、入所については、子供に大まかなことはお願いしたいと思っている。その中で、子供に負担をかけないような選択を考えていきたい。もし、何もわからなくなってしまったら、全て子どもの判断で良いと思っている（60代女性）。NO.126
- 将来は施設も考えたい。一人になったら自分がまだ動けるうちに（60代女性）。NO.153

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

- 認知症、体が自由にならなくなったら、施設へ入所。一つの箱に全情報を入れておく位の楽な終活でも（60代女性）。NO.178

その他

- このアンケートの質問事項は答えにくい。もっと考えて質問すべきである（80代女性）。NO.13 ▲
- ベッドにしばられる事なく、我が家で終わりを迎えたい（70代女性）。NO.22
- 主人の親が99.7ヶ月いたので、私はなりたくないから（80代女性）。NO.23
- 子供達家族があるので、その話はあまり聞こうとしません（70代女性）。NO.42
- 人生の最後はどうあるべきか。一度考えてみたいので（60代男性）。NO.49 ▲
- 「子供に迷惑をかけたくない」とは思います。ただ、子供の側からしたら本当に「迷惑」なのか？と思いました。私には親の介護を経験しましたが、「迷惑」とは感じなかったです。親に対しての感謝・愛情により、お世話し、介護しました。自分の終活については、まだ先と考えておりますが、このアンケートにより、色々考えるきっかけになったことは事実です（50代男性）。NO.96
- 老後に限らず、若い頃も周囲にいろいろと迷惑をかけながら生きていくのが人間の宿命です。“迷惑をなるべくかけないように、出来るだけ準備しておこう”という程度で構わないのではないのでしょうか。一方で、子どものいない高齢者が今後増えていくと思いますが、子どものいない人に特に終活に対する意識をもってもらう必要があるのではないのでしょうか（60代男性）。NO.107
- 親子関係が大切、今までどう築き上げてきたか、しかし、人生とは思いつもりにはいかないものですね（年齢・性別無回答）。NO.121
- 親に「エンディングノートを作ってくれ」とは言いづらいです。親が自分で整理しているとも思えません。亡くなった時に困るのだと思います。きっかけがあれば話し合ってみたいと思っています（50代女性）。NO.139
- 遠くから来てくれてHPに連れて行ってくれる。□□から□□まで大変だと思う。来年は生きてるかなあ？（80代女性）。NO.166

3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

■ 考察

終活全般に対する気持ちや考えの回答を集計分析し集約化を行った。

終活の取組意識や意欲がうかがえる回答を始め、家族等への委任予定などの回答も含めれば、終活への意識、意欲が感じられる回答は半数を超えた。一方で、将来のことは考えていない等の先延ばしの回答が見られる一方、子ども等に心配・迷惑をかけたくないなど回答の多様性は、高齢者の心理が複合的・重層的であると考えることが可能と考える。家族等や友人への委任、社会的サービスの利用、施設入居など具体的な考えを示す回答もあり、ポジティブな依存の萌芽が見て取れる。

3. 調査結果 (5) 終活に対する気持ちや考え

■ 迷惑意識の構造化と終活行動へのステップ (図表12参照)

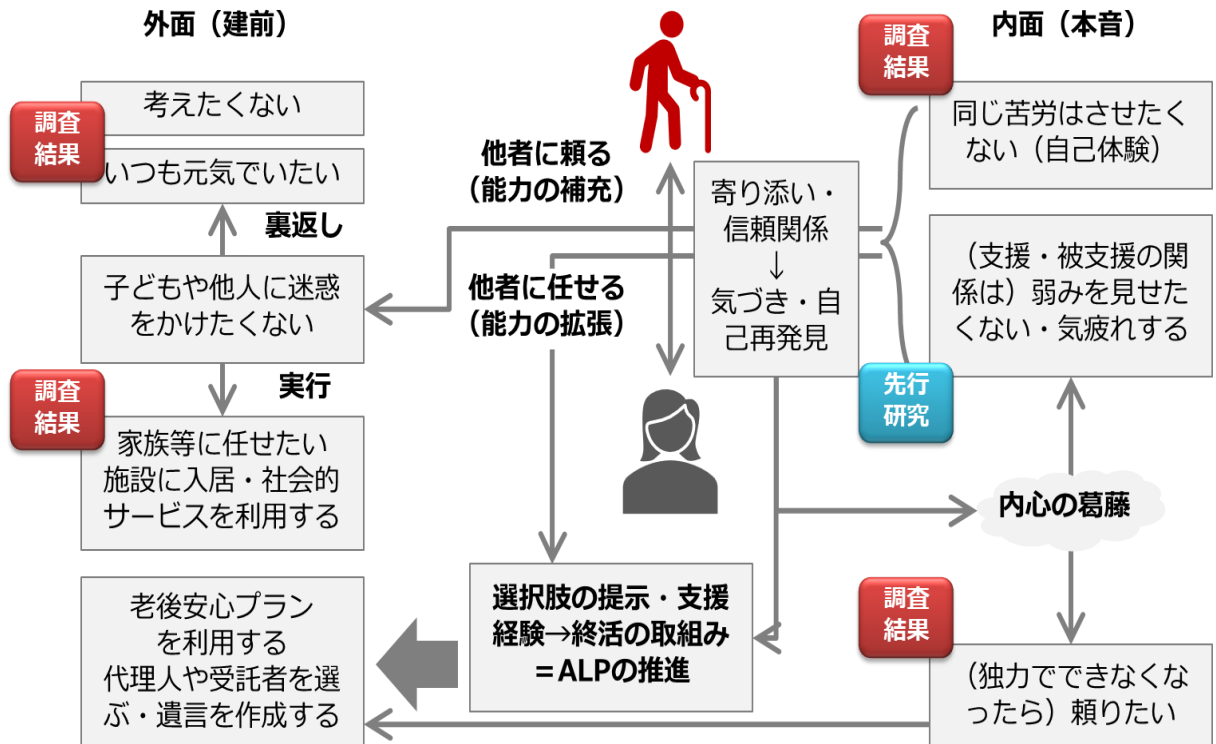
これまでの調査結果と分析から、迷惑意識の構造化を試みる。

「子どもに迷惑をかけたくない」という発言（外面）は、①自己の体験に基づく相手への気遣いや、②将来支援を受けることになった場合の支援者との関係に関する不安や恐れ、相手とのやり取りに伴って発生する気疲れ等の（内面）が発露したものとする。

まず内面について考えてみる。迷惑意識を持つ本人の真意が後者②のように、看病や介護等に伴う「支援をする・受ける関係」を、対等な関係ではなく上下の関係のように捉えているとすれば、それを忌避する気持ち、あるいは自立できない自分を否定する気持ちが強まっていると考えられる。一方で、出来る範囲のことはして欲しい、いざとなったら頼りたい、でも子どもが親の面倒を見ることは困難な時代であるといった発言から、内心の葛藤・心の揺らぎが強く感じ取れる。

次に外面に目を向けてみる。先のことは考えたくない、いつまでも元気でいたいという発言は、迷惑意識の裏返しであり、終活行動の障壁である先延ばし型、回避型の考え方そのものである。終活意識の高まりもあって具体的な行動に移す人も見られるが少数派である。具体的な行動に移る可能性を高めるためには、次のステップに進む必要がある。それが段階的なアプローチである。

図表12：迷惑意識の構造化と終活行動へのステップ



3. 調査結果 （5）終活に対する気持ちや考え

■ 段階的アプローチ

問9での結果の通り、任意後見を含む老後生活安心プランの利用と終活の取組みとの間には一定の相関関係が見られた。任意後見契約の利用には、まず終活の実践が有効であり、段階的アプローチの一つであると考えてよからう。

では、終活の意識はあってもなかなか行動に移さない高齢者に対して行動変容を促すにはどのような方法が考えられるか。例えば、マーケティングにおいては広告に対する消費者心理のプロセスをモデル化したAIDMA、行動科学の知見を応用したナッジ（nudge）など様々な方法が存在するが、ビジネス法務学的に考えるならば、「意識をどうルール化するか」が課題となる。ここでのルールは、義務を伴う制度というより市民に広く受け容れられる社会習慣のようなものとするのがよいだろう。

「意識のルール化」について、他者への援助行動と他者から援助を受ける行動に関するいくつかの調査研究に注目したい。例えば、「他者の幸福・安寧に資する行動を行った時の援助者自身の喜びの感じやすさ（援助成果志向性）」が高い人は、自分が必要なときには臆せず他者に支援を求め、他者からの好意を受容し、他者に恩恵を与える行動も進んで行うといった援助と被援助の好循環をもたらすとの研究がある。また「援助者に援助を求めるかどうかについての認知的枠組み（被援助志向性）」に関して、ボランティア活動者を対象とした、身近な他者からの「援助に対する欲求」と「援助に対する抵抗感」に関する性差を検証する研究もみられる。

上記の調査研究は、任意後見の利用意向と契約締結という「意識のルール化」に応用が可能である。被後見人のみならず高齢者や障害者の支援経験が増えるほど任意後見を利用する可能性が高まるとすれば、市民後見人など後見活動への参加を積極的に呼び掛けることには大きな意義がある。意思決定支援や身上保護を通じて、後見人と被後見人の関係は対等な立場であるということ、委任者は他者に「頼る（ネガティブな依存）」のではなく、「任せる（ポジティブな依存）」という考え方・意識への転換につながることが期待される。国も、そのような展望を持って市民後見人を養成するべきではないか。

そう考えると、もっぱら本人の単独行動が多い終活の取組みには手順があり、いきなり独力で行動を開始するのではなく、家族や友人がいれば話し合い、ボランティア活動など社会参加に取り組むことで、結果的に終活行動が促進され、老後生活安心プランの利用が進むという仮説が成り立つ。近時では、終活の前段階での活動に着目して、アドバンス・ケア・プランニングになぞらえたアドバンス・ライフ・プランニング（ALP）の取組みが始まっている。終活とは、晩年に人生の総括を行うことよりも、これまでの人生の棚卸しによって自分らしさとは何か、最も重要な価値観は何かに気づくためのプロセスにこそ本質があると考えられるべきであろう。

4. 調査結果のまとめ

4. 調査結果のまとめ

調査結果の要点は以下の通りである。

① 迷惑意識の意義

「子どもに迷惑をかけたくない」という発言は、主に①時間や金銭的な負担、②炊事・洗濯や生活費・医療介護費の経済的な援助を指す（問5・問8）。

② 迷惑意識と自立意識の共存

迷惑発言の裏側には、様々な負担をかけて申し訳ないという迷惑意識の他に、自分のことは自分でやりたいという自立意識が隠れている（問6）。

③ 迷惑意識と家族の関係

家族との関係が良好な人は、負担や援助等の気遣い以外は迷惑意識が低い。迷惑かどうかのメリハリがある（問7）。

④ 親子間の扶養義務意識

核家族化に起因する気遣いと時代の変化を理由に「子どもが親の面倒見る」考え方に反対する人が多数を占める。出来る範囲での支援の希望と、支援の限界の認識が広まっている（問8）。

⑤ 扶養義務意識と迷惑意識

親子間の扶養義務意識を持っている人は、基本的に迷惑意識が低い。但し、負担や援助等については扶養義務意識とは無関係である（問8×問5）。

⑥ 主な終活行動

主な終活行動は、①自らの属性情報や財産情報の記録、②家族とのコミュニケーションである。老後生活安心プラン利用の実践者は、相対的に様々な終活行動に取り組んでいる（問9）。

⑦ 迷惑意識と終活行動

迷惑意識が低い人は、どちらかと言えば終活行動に消極的に見えるが、任意後見など老後生活安心プランの利用にとって重要な終活項目の取り組みは相対的に上回った（問5×問9）。

⑧ 扶養義務意識と終活行動

扶養義務意識の賛否と終活行動の相関関係を見出すことは出来なかった（問8×問9）。

⑨ 終活行動の障壁

終活行動が進まない理由は、様々な分類できるが、①先延ばし型、②回避型、③家族依存型が多数を占める（問10）。

⑩ 終活意識

終活への取組意識は広く見られるが、頼りたいけど頼れないなど相反する気持ちや考え方の多様性が見られる（終活に対する気持ちや考え）。

2025年1月1日 初版

調査票等

「老後は子どもに迷惑をかけたくない」終活意識調査

ここからは、お子さんとの関係について伺います。お子さんの人数に応じて、以下のように想定してお答えください。

□ お子さんが1人の場合

そのお子さんを想定してお答えください。

□ お子さんが2人以上の場合

お子さん全体を想定したお答えでも構いませんし、特定のお子さんを想定したお答えでも構いません。

□ お子さんがいない場合

子どものように頼れる人を一人想定してお答えください。

3. お子さんとのコミュニケーションについて伺います。

（日常会話）

問3：あなたは、お子さんとどの程度「日常会話」をしていますか。当てはまるものいづれかに○をしてください（ひとつだけ）。

※「日常会話」とは、時候の挨拶などとりとめのない世間話のことです。対面や電話・メールなど方法は問いません。

- ① 毎日のように～最低でも週に1回
- ② 一月に1回～二三か月に1回くらい
- ③ 半年か一年に1回くらい（お盆・正月）
- ④ ほとんど話をしない・（ほぼ）音信不通

（終活の話題）

問4：あなたとお子さんとの間では、どの程度、「終活」に関することが話題になりますか。当てはまるものいづれかに○をしてください（ひとつだけ）。

※終活とは、自分の健康や医療介護のこと、家計の収支や重要な財産に関すること・相続に関することを言います。対面や電話・メールなど方法は問いません。

- ① 定期的に話題になっており、（自分が要介護になった場合の対応など）家族内の役割分担などについて具体的な話をしている
- ② 定期的に話題にはなるが、具体的な話はしたことがない
- ③ 話題になることはあるという程度
- ④ 話題になったことはまったくない

4. 「子どもに迷惑をかけたくない」意識について伺います。

（「迷惑」とは何か）

問5：あなたが要介護や認知症になった場合、以下のことを子どもに頼むことは「子どもにとって迷惑」だと思いますか。①～⑩それぞれの質問に対して、どちらかに○をつけてください。

※ 頼みごとの「頻度」はあまり深く考えずにお答えください（継続的に発生することは、月に1回程度頼む場合のこととお考え下さい）。

- ① 定期的な電話や訪問・会話・相談 （ 思う ・ 思わない ）
- ② 買い物や簡単な頼み事・外出の同行 （ 思う ・ 思わない ）
- ③ 現金の払出し・振込手続等 （ 思う ・ 思わない ）
- ④ 通院の同行・医師との面談の付添い （ 思う ・ 思わない ）
- ⑤ ご飯の支度や洗濯 （ 思う ・ 思わない ）
- ⑥ 介護サービスの内容の決定 （ 思う ・ 思わない ）
- ⑦ 不動産等重要な資産の管理や売却等 （ 思う ・ 思わない ）
- ⑧ 入院・入所時の身元保証・身元引受 （ 思う ・ 思わない ）
- ⑨ 生活費や医療介護費用等の経済的援助 （ 思う ・ 思わない ）
- ⑩ その他 （ ） （ 思う ・ 思わない ）

（「迷惑」だと思う理由）

問6：問5で「子どもにとって迷惑だと思う」と回答した項目がある場合、その理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をしてください（いくつでも）。

※ 「思う」と回答した項目まとめて理由をお答えください。項目一つ一つについて理由をお答えいただく必要はありません。

- ① 時間や金銭的な負担をかけるから（子どもに申し訳ない・遠慮したい）
- ② 子どもには難しいと思うから（知識がない・能力がない）
- ③ 子供に叱られたくない・怖いから
- ④ 自分のことは自分でやるべきだと思うから（子どもに頼るのはよくない）
- ⑤ 独力でできると思うから・自分でやりたいから（独力でできると嬉しい）
- ⑥ 自尊心・プライドがあるから（弱さを認めたくない・断られたら寂しい・悲しい）
- ⑦ その他 （ ）

「老後は子どもに迷惑をかけたくない」 終活意識調査

（「迷惑」だと思わない理由）

問7：問5で「子どもにとって迷惑だと思わない」と回答した項目がある場合、その理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をしてください（いくつでも）。

※ 「思わない」と回答した項目まとめて理由をお答えください。項目一つ一つについて理由をお答えいただく必要はありません。

- ① 子どもにとって、大きな負担にはならないと思うから
- ② 親子・家族だからから（協力し合うのが親子・家族である）
- ③ 日頃から、子どもが手伝うと言ってくれているから（甘えたい）
- ④ 自分がやるより、子どもに任せた方がよいと思うから（子どもの方が知識・経験・能力がある）
- ⑤ その他（ ）

（子どもが親の面倒を見るという考え方）

問 8 : 「子どもが親の面倒を見る」のは当たり前だと思いますか。 どちらかに○をしてください。また、その理由は何ですか。()
内に自由にご記入ください。

- ① はい
② いいえ

理由

--

5. 終活に関する具体的な取組みについて伺います。

（具体的な終活の取組み）

問9：あなたは、終活に関してどのような取組みを行っていますか。当てはまるものすべてに○をしてください（いくつでも）。

※ 選択肢の「記録等」には、エンディングノートや手帳等への記入だけでなく、口頭で伝えているなど方法や手段は問いません。

- ① 老後の暮らしや死後のことに関する家族との話し合い
- ② 基本属性情報・家族や家庭環境の記録
- ③ 大事な書類等（印鑑・通帳・キャッシュカード・保険証・パスポート・権利証など）のありか・保管場所の記録
- ④ デジタル情報（インターネットサービスや SNS 等の ID・パスワード等）の記録
- ⑤ 財産目録の作成記録
- ⑥ 身体等の状況（既往歴・現病歴・医療や介護等の状況）の記録
- ⑦ 現在の生活状況・趣味・嗜好等の個別性の情報の記録
- ⑧ これまでの生活歴・人生歴の記録
- ⑨ 自身が亡くなった時の連絡先や、葬儀や埋葬・納骨・法要に関する希望等の記録
- ⑩ 将来のことに関する様々な希望・意思決定に関わることの希望の記録
- ⑪ 尊厳死宣言の作成・終末期医療に関する事前指示の希望の記録
- ⑫ 法的根拠のある代理人等との契約（身元保証や身元引受、生前事務や死後事務の委任、任意後見、信託）の締結
- ⑬ 遺言の作成
- ⑭ その他（ ）

(取組みが進まない理由)

問 10：問 9 で、取組みを行っていない項目がある場合、その理由は何ですか。（ ）内に自由にご記入ください。

理由

--

6. さいごに

（終活に対する気持ちや考え）

「子どもに迷惑をかけたくない」というお気持ちを含め、老後の暮らしや終活に対するあなたの考えをお聞かせください。（ ）内に自由にご記入ください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

「『老後は子供に迷惑をかけたくない』終活意識調査」 －アンケートご協力のお願－

拝啓 梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、私は、認知症高齢者など精神上的の障害により、判断能力が低下した方の生活支援・権利擁護の仕組みである成年後見制度・任意後見制度の調査研究活動を行っています。老後の準備において、「子どもに迷惑をかけたくない」と口にする高齢者は多く見られ、終活への関心は高いと考えられるものの、実際に、エンディングノートの作成など具体的な準備・行動を起こされる方は多数派ではないと認識しています。本アンケートは、そのような意識と行動の乖離について、高齢層のご意見や考えを伺うものです。

アンケートの目的

このアンケートは、多くの高齢者が口にする「子どもに迷惑をかけたくない」という真意を探ることによって、終活の意識と行動の関係を検証することを目的とした調査です。本調査結果は、研究論文や博士論文の執筆など学術研究目的にて使用するものです。

アンケート結果の取り扱い

アンケートのご回答にあたっては、氏名や住所は記入せず、年齢・性別のみご記入ください。お答えいただいた内容は、個々の統計処理を行い、個別のご回答を公表することは致しません。また、上記研究論文や博士論文の公表を含む学術研究目的以外で使用することはございませんのでご安心ください。ご多用の中、貴重なお時間を賜り大変恐縮ではございますが、調査の趣旨をお汲み取りいただき、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

調査主体

武蔵野大学大学院法学研究科博士後期課程 1 年

尾川宏豪

Tel : <略> E-mail : <略>

(責任教員) 武蔵野大学大学院法学研究科教授

池田眞朗

Tel : <略> E-mail : <略>

ご回答にあたっての留意点

アンケート項目数は、正味 10 問です。あまり考えこまずに、直感で感じたままでお答えください。アンケートの回答時間は 15 分程度を想定しています。

ご回答方法

アンケートのご回答方法は、以下の通りです。

添付の WORD ファイルにご入力、または PDF の用紙にご記入の上、下記メールまたは Fax にてご返送ください。ご不明の点がございましたら、問い合わせ先の携帯の電話までご連絡ください。

E-mail：＜略＞

Fax：＜略＞

アンケートご回答期日

ご多用中のところ大変恐縮ですが、下記の日までにご回答をお願い申し上げます。

2023 年〇月〇日（〇）まで

アンケート内容についてのお問い合わせ先

尾川 宏豪（おがわ ひろひで）

Tel・Fax：＜略＞

携帯：＜略＞

E-mail：＜略＞